R165-N77ウ
1200500766272

6

R165
N77

日出新聞社編

日本社寺大觀

寺院篇

京都日出新聞社藏版

638-67

序

我が國文化の發達が、如何に神社寺院に負ふ所の多きかは敢てこゝに贅言するまでもない。しかもそれは、啻に我が國民生活の指導原理たる神道や佛敎の有形的表象として、常に精神生活の依據であつたばかりでなく、建築構造に於ても、寶物莊嚴に於ても夫々工藝美術の規範であり、同時に又その最もよき保管者でもあつたのである。

現に存する神社寺院に就いて見ても、其の多くは殿堂伽藍寶物什具古文書等相俟つて何物にも替へ難き一大記念塔を形成し、我が尊嚴なる萬邦無比の歷史を背景として世界文化の上に燦然たる光輝を放つて居るのである。茲に於てか、かゝる神社寺院の保存並に紹介は、一面國民精神の根幹を保維せんとする道德的宗敎的理由にも依ることながら、又一面文化發達の由來を探究せんとする純學術的意圖に於ても、當に爲さるべき重要な仕事と謂はねばならぬ。

今や物質文明偏重の餘弊は、動搖常なき思想の推移と共に、歐米文物に對する無定見なる模倣追隨を生み、我等の以て矜持とすべき神社寺院に對しても、世人敬重愛護の念、動もすれば冷却せられ、傳統の淳風美俗を破り、尊貴なる文化の淵叢を損ふに至るものも尠くない

のである。此の秋に當り本大觀の刊行を迎ふることは、其處に甚深の意義と價値とを看出して他人事ならぬ喜びに堪へぬ所である。

本書收載するところ、神社寺院各二千、由緒、沿革、祭儀、行事其の他細大を洩らさず、圖錄に解說に、拮據よろしきを得て、よく全貌を窺ふに足り、誠に絕好の集成と謂ふべきである。

刊行の喜びを述べ、敢て江湖に之を推薦する所以である。

昭和八年二月

文部省宗教局長　下村壽一

序

建國三千年の歷史を回顧するとき、吾人の最も愉快に感ずるは、我等の祖先が東漸し來れる幾多の思潮を巧みに自家藥籠中のものとして、金甌無缺の聖なる國體を護持しつゝ、然もその新思潮を抱擁し、果てはそれを全く同化し來つた經過である。時に些かの波瀾曲折の生起するを免れなかつたとは云へ、その波瀾曲折に自らの存在を忘れることがなかつた。曾て儒敎の渡來に際し、佛敎の輸入に當り、將又基督敎の傳來するに及んで、我等の祖先が斯の如く淸く明い國體を奉じて、微動だもしなかつた所以のものは何であらうか。自分はこれを、畏くも神武天皇より連綿と彌榮えます我が皇統が、常に國民思想の根幹となり、國民一般の尊信の的となつて、四六時中億兆の民を照し給うた御稜威によるものと確信する。さて飜つて現下の我が國狀を見よ。歐西諸國の種々なる思想が澎湃として襲來し、その渾沌たる狀は國民の或者をしてその歸趨を謬たしむるに至り、外患また交々襲ひ來つて我が帝國將來の繁榮を阻止せんとする。即ち吾人は、曾て祖先の直面し然も巧みに打開せる數度の精神的物質的危機に優るとも劣らざる時局に遭遇してゐるのである。この危機を打破し我が大日本帝國の礎をして益々鞏固たらしめんには如何すべきであらうか。斯は吾人が精神を一層作興し緊張し、我が國人の傳統的信念たる君臣一體、忠孝無二の敎訓に生きるより他はないのである。

この秋に當り古き歴史と信念に生きる日出新聞社が、我が國民思想を培ふ上に重大なる役割を果しつゝある全國有數の神社と佛閣と各々二千を輯錄し、殊に神社にあつては、祭神社格は言ふに及ばず、例祭、寶物、攝末社等各項に亘つて詳細に解說し、就中その沿革と祭儀とを叙するに最も力を傾注された「日本社寺大觀」二卷を出版されることゝなつたのは、時節柄洵に歡喜惜く能はざるところである。由來我が國は神國と稱せられ、神社は寺院とともに驚くべき多數に上つてゐるといふものゝ「大觀」とも名付くべき種類の概觀的記述に乏しく、その今日までに發兌されたもの纔か三四に止まつてゐる爲、吾れ人ともに常に憾肉の歎に堪へなかつたのであるが、茲に此の擧を見るに至つたのは、その間の缺を補つて餘りあると共に世道人心を指導する上に於て、裨益尠少でないと信ずる。これ敢て本書に序する所以である。

昭和八年二月

内務省神社局考證課長
文學博士　宮地直一

序

佛敎が現代の我が國に於ける最も有力な敎化團體として、我が國民生活の一面を力强く指導してゐることは今更云ふまでもない。しかもそれは既に久しい以前からであつて、佛敎が我が國文化の發展に著しい貢獻をなし來つたことは、これ亦何人も認むるところである。斯くの如き佛敎と我が國民生活との密接な關係を最も如實に指示するものは實に各地に存在する寺院に外ならぬ。

寺院は神社と共に、曾てわれ〳〵の先祖が非常な努力を拂つて建設したところであり、過去に於ける我が國民生活の基調をなしたところである。試みに、寺院の過去に於ける活動の諸相をたづねるならば、われ〳〵の先祖が、單に思想信仰の上ばかりでなく、政治、經濟、藝術其他諸方面の精神的物質的生活の基調をこゝに置いてゐたことは容易に推察することが出來る。この意味に於て、寺院は過去に於ける我が國民文化の象徴であり、寺院について理解を深めることはわれ〳〵の先祖の生活を回顧することに外ならぬ。されば各地に於ける寺院の種々相を理解することは、單に現代の一宗敎としての佛敎の一面を認識することにとゞまるものではない。それは我が國文化の由來をたづね、我が國民生活の傳統を顧みることであると共に、それを體認することによつて、更にそこに暗示されたわれ〳〵現代人の當に進

展すべき道についての示唆を見出すことであらねばならぬ。

近時一般思想界は混亂し、動もすればその歸趨に迷ふものなしとしない。この秋に當り各自が誕生した鄕里には、斯く力强い傳統と示唆に富んだ文化が、既にわれ〳〵の先祖によつて、寺院を中心として築かれてゐたことを反省することは、洵に意義深いことゝ云ふべきである。既に成さるべくして未だ成されなかつた各地に於ける數多い寺院の研究調査が、本書に於て大成され、神社篇と共に刊行されるに至つたことを喜び、需めらるゝまゝに卷頭に一言を叙する所以である。

昭和八年二月

高島米峰

寺院史總說

寺院史總說　目次

第一章　佛教の渡來より奈良朝まで　……（一）
佛教の渡來（一）……聖德太子の寺塔建立（二）……官寺の造營（三）
國分寺と東大寺（五）

第二章　平安朝時代　……（七）
平安京と新興の兩宗（七）……皇室攝家の寺院修造（一一）

第三章　鎌倉時代より室町時代まで　……（一三）
鎌倉時代の新宗派（一三）……戰亂と寺院の自衛（一七）

第四章　江戸時代より現代まで　……（一九）
江戸幕府と寺院政策（一九）……明治維新と神佛分離（二二）

第一章　佛教の渡來より奈良朝まで

佛教の渡來　印度に起りし佛教は支那、朝鮮を經て我國に渡來す。これ欽明天皇の御代にして今より千四百年前の事なり。我國にては祖先その他の威靈を尊み、神祇として禮拜せしが、その社殿の如きも構造單純にして庶民の住屋と擇ぶ所なかりき。神功皇后の三韓征伐ありて後、國威海外に及び、應神天皇の御代に儒教その他の工藝傳はり、今また佛教の傳來するありて、三韓並に隋唐の文物は次第に我國に風靡する事となりぬ。我國にては當時最も親しき關係ありし百濟國の聖明王より佛像、經卷、供養具の奉獻ありし際、これを從來の神祇と共に奉祀すべきや否やに就て群臣の間に異說ありし爲め、これを蘇我稻目に附して私に禮拜せしむ。依つて蘇我氏はこれを小墾田の邸に安置したりと云ふ。これは大和高市郡飛鳥村豐浦の向原寺にして、豐浦寺、櫻井寺の別名あれど、最初はたゞ住宅に多少の改造を施して佛堂とせるに過ぎざれば、その建造物は後世の寺院とは大いに趣を異にせしなるべし。敏達天皇十三年には百濟より彌勒菩薩の石像渡來せしより、稻目の後を繼げる馬子は高市郡白橿村に石川精舍を建て、又その東に當れる大野丘に塔を興し、佛舍利を納めたり。是より先、同天皇六年に百濟王は經論、律師その他造佛工、造寺工等を獻じたれば、馬子の發願に成れる佛殿の類は從來のものに比して大いに面目を改めしなるべし。卽ち我國古來の建築に比して異る所はその結構壯大にして、また必ずこれを基礎の上に建て屋上に瓦を載せ、雨濕の浸透を防ぐ點に在り。崇峻天皇元年にも寺工、瓦工、露盤工の渡來せり。露盤は層塔の屋蓋上に裝置するものにして、かくて寺院建築は次第に完備の域に向へり。敏達天皇に次で卽位せられし用明天皇は佛教に心を寄せ給ひしが、天皇の崩御ありし際、司馬達等の子多須那は天皇の爲めに出家し、高市郡高市村坂田に金剛寺を建つ。世にこれを南淵の坂田寺と稱したり。司馬氏は蘇我氏と共に佛教の興隆に努めしが、坂田寺の如きまた內外の工匠をして壯麗なる佛堂を造らしめたるものと推察せらる。佛教渡來の當初よりこれに反感を抱きてこれを掃蕩せんと計畫し、數次迫害を加へし物部氏、中臣氏の一派は、用明天皇の崩御と共に事を起し、目的を貫徹せんと計りしが、これに對抗しつゝありし蘇我馬子は諸皇子の援助を受けて物部氏討伐の軍を起し遂にこれを亡ぼせり。この事蹟は佛教傳播の史上に一區劃をなすものにしてこの機會に乘じ、蘇我氏は法興寺を、聖德太子は難波の地に四天王寺を建立す。この兩寺は權勢ありし人々が多額の資財と幾

多の時日とを費して造營せし事なれば、諸堂完備し、支那朝鮮の本國に於ける寺院建築に比して遜色なかりしならん。當時の寺院は金堂を中心に、講堂、層塔、中門、廻廊、鐘樓、鼓樓、僧坊、寶庫等を備へ、これ等の諸堂宇は南面して一定の樣式に配置せらるゝものにして、これを俗に七堂伽藍と稱す。法興寺は後の元興寺にして、當時法興と云へる私年號まで行はれしより考ふれば、本寺の造營が如何に重要視されしかを知るに足らん。

聖德太子の寺塔建立　崇峻天皇に次で皇位に卽き給ひし推古天皇は、敏達天皇の皇后にして蘇我氏の出なり。卽位の初め、厩戸皇子を擧げて皇太子とし攝政に當らしむ。聖德太子これなり。天皇の二年詔して皇太子及び群臣をして三寶を興隆せしめ給ひしより寺塔の造營は次第に盛運に向ひ、四年十一月には法興寺成るを告ぐ。十三年には天皇の發願にて銅繡丈六の佛像各一軀を作らしめ、翌年これを法興寺に安置し給ふ。司馬達等の孫鞍作止利は佛工として拔群の譽ありて、上記の佛像また彼の造立する所たり。十三年十月聖德太子斑鳩の地に居を移せしが、是より先、用明天皇の爲めに造營の工事を起せし法隆寺に於ても、鞍作止利をして藥師三尊の金銅像を作らしめ、十五年鑄造成り、これを金堂に安置す。難波の四天王寺は是より前に落成せしものなるべし。この四天王寺と云ひ、法興寺と云ひ、共に當初の建造物は今日これを見るを得ずと雖も、法隆寺のみは當時の建造物並に佛像等を傳へたれば、これに依て古代文化の面影を彷彿せしむべし。また山城太秦の地に蜂丘寺卽ち廣隆寺を造營す。これ秦河勝、聖德太子の命を奉じて建つる所なり。その外、中宮寺、橘寺(菩提寺)、池後寺(法起寺)、葛木寺等何れも太子の造立する所なりと云ふ。また法輪寺、片岡王寺、山田寺もこの時代に成れり。天皇の三十二年僧綱の制度を設け、僧正、法頭の職を置き、以て寺院僧尼の名籍を司らしめしが、時に寺院四十六所、僧八百十六人、尼五百六十九人ありしと傳へらる。四十六所の寺院が悉く法隆寺の如き諸堂宇を有せしものと推斷するを得ずと雖も、從來見ざりし高莊の建造物たりし事明かなれば、都鄙に建てられしこれ等の寺塔は頗る異彩を放ちしならん。その建築樣式は六朝時代に發達せしものにして、百濟を經由して傳來せしより百濟式と稱せらる。先づ平地に方形の一區劃を設け、廻廊を以てこれを繞らし、南方の正面に中門を開き、內庭の中央に金堂、後方に講堂を建つるを例とし、僧坊はこれを廻廊外の左右または後方に設けたり。これを東室、西室、北室と稱し、之を合して三面僧坊と呼べり。金堂は四方に入口を設け、內部は中央に方形の土壇ありて、丈六像、四天王像、梵天、帝釋天像等を安置す。柱は何れも上下兩端にて稍々細くせり。これ後代の建築に於て見るを得ざる所なり。法隆寺にありては內庭の東に金堂、西に五重塔を配置せしが、塔を金堂の背後に置く事あり、法隆寺の金堂に於ける壁畫は後に至りて加へし所にして、最初はこの種の壁畫ありしや否やこれを知るを得ずと雖も、この百濟式の建築に裝飾的の壁畫を加へし事全くなきに非ざれば、法隆寺の塲合も最初の壁畫が見るに足らざりしより七、八十年の後に更に改作せしものならん。

因に云ふ、寺は印度にては住所の義、僧園の義、空閑所の義を有する諸語を以て呼びしが、支那にては官廳の義を有する寺の文字を用ひたり。これ蕃客を司る鴻臚寺に倣へるものなるべく、またその建築の樣式も最初はこの種の廳舍に範を採りし爲めならん。基督敎の初めて羅馬に傳はりし際法廷の建築に基きて會堂を設けたる事實より考へて、上記の如く推定せらるゝなり。テラの訓はテリカヾヤクの義に由ると云ひ、或は朝鮮語の Chiol (禮拜) または Chyol (禮拜所) に基くとの說あり。

官寺の造營　推古天皇の御代卽ち飛鳥時代に造營せられし諸寺中には純然たる官寺と見るべきものなしと雖も、その大部分は王臣の建つる所にして皇室に關聯せるものなきに非ざればこの種のものは私寺と雖もまた官寺の性質をも具有する事明かなり。舒明天皇十一年七月百濟川を挾んで大宮と大寺を造營せしめらる。これ卽ち百濟大寺にして、後の大官大寺、大安寺なり。茲に於て初めて官寺の設置を見たるなり。聖德太子曾て熊凝に大寺を造營し、皇室の繁榮と加護とを求めんと欲し工事を起し給ひしが、推古天皇三十年二月半途にして薨去せしより、その遺業を完成せるもの卽ちこれ百濟大寺の造營なり。皇居とこの百濟大寺とは書直縣を大匠として同時に工を起さしめ、且つ九重の塔をも設けたり。大安寺資財帳に依るに最初設置に際して食封三百戶、水田二百町を寄せ、天武天皇二年更に封戶七百、墾田九百町を納めたり。天武天皇これを高市郡小山村に移し、紀臣訶多麻呂を造高市大寺司に任じ、造營に從事せしめたれば特に寺領を增加したるなり。寺院の設立に際し封戶、水田を寄せて維持費に充つるは、官寺に限れる事に非ずして四天王寺と法興寺とに對しては物部氏の滅亡に依りて得たる資財を寄せ、鞍作止利に賜はりし近江國坂田郡の水田二十町はこれを坂田寺に寄せ、聖德太子の講經を賞して賜はりし播磨國の水田百町は更にこれを法隆寺に施入せし等の例少からず。官寺はもと一箇所に限定せらるべきものに非ざれば、後に至り次の諸大寺を造營せられたり。

弘福寺　大和高市郡高市村川原に在り、一に川原寺と云ふ。齊明天皇の御願に依つて成る。
崇福寺　近江滋賀郡滋賀村に在り、一に志賀山寺と云ふ、天智天皇の御願に依りて成る。
觀世音寺　筑前筑紫郡水城村に在り、天智天皇の御願に基き元明天皇の和銅二年に工を起す。
藥師寺　大和高市郡高市村に在り、天武天皇の御願に依つて成る。
その外、重臣の建てし次の諸大寺あり、また官寺に準せらる。
山階寺　山城宇治郡山科村(今の京都市)に在り、齊明天皇三年藤原鎌足造立す。後に興福寺と改む。
淨土寺　大和磯城郡安部村山田に在り、一に山田寺と云ふ。舒明天皇十三年蘇我臣日向造立す。
般若寺　大和添上郡佐保村に在り、白雉五年蘇我臣日向造立す。

天武天皇の御代には官寺を整理する必要ありとし、九年四月詔して國の大寺たるもの二三を除いて以外は、官司これを治むる事を禁じ、たゞ飛鳥寺卽ち法興寺は除外さるべきものなるも特に官寺に準すべき事を示せり。前年四月に諸寺の食封を調査せし如き、官寺、私寺の區別を明かならしめ、その待遇に差等を附するの準備たりしなり。かくて官寺の範圍を嚴守せしむる結果、寺院の一部に打擊を與ふべき事を考へ、從來食封を受けしは三十年間を限りてこれを許容せり。大寶三年正月太上天皇の奉爲に大安、藥師、元興(法興)、弘福の四大寺に齋會を設け、同三月四大寺に於て大般若經を讀ましめ、一百人を度せり。崇福寺は官寺なるも遠隔なる爲めこれを除き、藥師寺を加へたるならん。是より先、朱鳥元年十二月天皇の奉爲に大安、元興、弘福、豐浦、坂田の五寺にて齋會を行へる事あり。豐浦、坂田の二寺を加へて崇福寺を除けるもまた同樣の理由に基くものなり。聖武天皇の御代には山階寺を奈良に移して興福寺と改めたるより、元興寺の例に從ひこれを加へ、弘福寺を除きて同じく四大寺とせり。後に至り東大寺を加へて五大寺と稱し、天平勝寶八年聖武天皇崩御の際、初七、二七の齋會を七大寺に於て行へり。七大寺とは大安、藥師、元興、興福、東大の五大寺に新藥師、法隆の二寺を加へしものなり。天平神護元年天皇の御願に依りて西大寺の造立せらるゝや、五大寺にこの西大寺と法隆寺とを加へて七大寺とせり。南都七大寺として知らるゝものこれなり。法隆寺は用明天皇の御願に依りて建てられし寺なるも、工を起せるは聖德太子なれば、遂に聖德太子の本願に依りて成りしものとせられたり。

文武天皇の大寶元年律令の實施せらるゝや、同年六月大安寺に僧尼を集めて、僧尼令を講說し新令の實施に遺漏なからん事を期せり。古は僧綱の職務ありて寺院僧尼に關する事務を司らしめしが、大化年間以來の制度に依ればこの種の事務は治部省玄蕃寮の所管となり、爾來僧綱はこの官廳と諸大寺との中間に在りて事務の進行を計る機關たるに過ぎず。僧尼令は二十七條より成り、第五條に於て僧尼は定まれる寺院に住すべく、別に道場を構へて敎化を行ふを禁じ、第十三條には寺院を出でゝ山中に住し禪行修道を行はんと欲する者あれば、屆出に依り期間を定めて許すとせり。各寺に上座、寺主、都維那の三綱ありて大衆を統理するを例とし、また僧寺、尼寺の區別をなし、各寺に住する僧尼の數は少きは三十、四十より多きは數百に達す。大安寺には天平十九年の頃僧と沙彌と合せて八百八十七口住すとし、法隆寺には同じく二百六十三口住せし事を傳へたり。

國分寺と東大寺　寺院の數は次第に增加して持統天皇六年には五百四十五箇ありしと云ふ。その大部分は大和國內、然も主として皇城附近に存せしが、同天皇の御代に大隅及び阿多に僧を遣して敎を弘むるあり。また越の蝦夷人にて出家せる道信に佛像等を賜はりし事、近江野洲郡に存せし靈泉の附近に益須寺を設けて療病者の宿所に充てし事ありしを傳へたり。僧尼にして非法の行爲あればこれを遠隔の國に移したる事も佛敎を諸國に普及せしむる一助となりしならん。大化年代の新制度は地方行政の改善を促し、地方に於ける三寶興隆に就ても系統的の施設を必要とするに至れり。天武天皇五年十一月使を四方の諸國に遣はし金光明經、仁王般若經を講せしめしは、この趣意に基くものなり。この兩經は鎭護國家の法を說きしものにして、以て行政機關の運用を助けしめんとせるなり。同天皇の八年五月諸國に金光明經を配付し、講說の布施には官物を以てせしめ、また十四年三月に諸國の國司に佛堂を設けしはこれ金光明經講說の道場として使用せん爲めなるべし。持統天皇八年五月金光明經一百部を諸國に送り每年正月上玄にこれを讀ましめ、布施には當國の官物を充つ。大寶二年二月諸國に國師を置きたるは一定の資格ある者をしてこの種の讀誦講說に當らしむる用意なり。神龜五年十二月金光明最勝王經六十四帖を寫して諸國に頒つ。これ新譯の經傳來せしより舊經に代へたるなり。かくて國分寺の設置となり、政敎相資の計畫は益々充實せらる。

聖武天皇は天平十三年三月詔して天下諸國をして國每に僧寺尼寺各一箇所を造立せしめ、僧寺は金光明四天王護國之寺、

尼寺は法華滅罪之寺と稱す。世に之を國分寺、國分尼寺と呼び、また島に建てられしを島分寺と名けたり。國分寺には封五十戸、水田十町、國分尼寺には水田十町を施入してその維持法を講せしめ、前者には僧二十口、後者には尼十口を置く事とせり。而して金光明最勝王經、妙法蓮華經各十部を備へ、毎月八日には必ず最勝王經を轉讀し、月半には布薩會を催して戒羯磨を誦し、六齋日には公私共に漁獵殺生を禁じ、國司をして檢校を加へしめたり。推古天皇十四年には爾後毎年諸寺に於て四月八日の佛生日、七月十五日に盂蘭盆の齋會を行はしむべしとの詔ありし事なれば、國分寺に在りてまたこの二回の佛事を修せしものと考へらる。國分寺の設置は京畿に於ける官寺設立の趣意を擴充して之を地方に及ぼせしものなるも、一面に於て支那の制度に範を採れる形跡なきに非ず。卽ち隋の仁壽年間佛舍利を諸州に分置して塔を建て、唐の天授元年天下諸州に大雲寺を置き、開元二十六年同じく開元寺を建てし事實あれば、この盛事に倣へるものと云はざるべからず。開元二十六年は我天平十年に相當せり。天平十六年十月國師をして國分寺の早成を計らしめ、同十九年十一月石川年足等を遣して寺地を檢定し、その工程を視察せしめ、三年間に工を畢へし塲合に之を賞するなど奬勵法を設けし事より考ふれば、全國に亘り悉く完成せしは遙かに後代の事なるべし。その位置は國府より近距離の地を選定せること云ふまでもなし。中央政府の所在地たる大和には特に東大寺と法華寺とを造營して之を國分寺に充つ。

東大寺は天平十七年八月之を計畫し、天平勝寶元年十月本尊たる毘盧遮那佛の金銅像先づ成り、同三年堂宇完成し翌年四月を以て供養會を行へり。他の國分寺と異り天皇勅願の官寺たり。是より先、和銅二年都を奈良に遷すや諸大寺を奈良に移し、或は新に寺を建つるなり、養老四年には都下の寺院四十八箇所に達したりと云ふ。天武天皇九年四月藤原京には二十四箇寺ありしに過ぎざれば、都下の寺院は集中その他の原因に由りて次第に增加せし事を知るべし。僧綱は一般の寺院僧尼に關する事務を處理する爲めに設けしものなるが、遠隔の地方に在るものに之を及ぼす事困難なれば、主として諸大寺並に都下の諸寺に關する事項を取扱ふ事となり、また最初は僧綱の上首たる僧正の止住せる寺院を綱所とせしも、養老六年七月よりは藥師寺にこれを置く事とし、後に至り興福寺に之を移せり。

律令の制定する所に依れば土地の私有を許さゞりしも寺領に加へたる水田は例外とせり。而して耕地の缺乏に依りて荒蕪地を開墾するの必要を感ずるや、養老七年より開墾せる土地は三世一身の法に依り年限を定めて領有する事を許し、天平十五年にはその年限を撤廢し、官位ある者はその高下に應じて五十町以上五百町まで、郡司は三十町以下、庶人は十町までを限りて之を許せり。天平勝寶元年七月上記に準じて諸寺の墾田地にも制限を設けたり。卽ち次の如し。

四　千　町　東大寺
二　千　町　元興寺
一　千　町　大安寺、藥師寺、興福寺、法華寺、諸國國分寺
五　百　町　弘福寺、法隆寺、四天王寺、崇福寺、新藥師寺、建興寺(豐浦寺)、下野藥師寺、筑紫觀世音寺
四　百　町　諸國國分尼寺
百　　町　定額寺

律令に定めたる班田課戸の制は一般の人々之を好まざりしと寺院が進んで資財の獲得を計りしと兩者相俟つて寺領の增加を來せり。依て天平十八年五月官符を下して寺家の水田園地を買得するを禁じ、延曆十四年四月更にこの禁を嚴にする所ありしが、何れも計を巡らし事に託して水田を寺領とし私利を營む者多く、從て弊害亦少からざりき。天平勝寶六年鑑眞渡來するや受戒の儀大いに整ひ、京畿並に近國に住する者は出家の際東大寺の戒壇に於て受戒せしめ、遠隔の地に住する者の爲めに筑前の觀世音寺と下野の藥師寺に何れも戒壇を設けたり。この時代に行はれし宗派は三論、法相、成實、倶舍、華嚴、律の六宗なるが、これたゞ經論の奥義を講究するに際し自らこの區別を生せしに過ぎざれば、後世の如く各寺院を六宗に分屬せしに非ず。たゞ華嚴宗を學ぶ者が主として東大寺に住し、法相宗に心を寄する者が多く興福寺に止住せしが如き事實ありしに過ぎざるなり。佛敎の興隆と共に經論の講說また行はれ、從て天武天皇の御代より寫經に力を用ひ、天平年間には朝旨に依りて設けられし寫經所もありて寫經生以下の係員を置きて一切經の書寫に從事せしめたり。持統天皇五年二月に下し給ひし詔に佛殿經藏の語あれば、その頃既に寺院の境內に經藏を設けし事あるを知るべし。

第二章　平安朝時代

平安京と新興の兩宗

延曆十三年都を山城の平野に造營せしは國力の發展に應せしものにして、桓武天皇は從來の慣例

たる寺院の都會集中を行はず、新に東寺西寺を都城の南端に設立せしに過ぎざりき。遷都に先ちて山城並に隣接せる近江に存せし寺院はその數多からず、太秦の廣隆寺、乙訓の乙訓寺、高雄山の神護寺、滋賀の崇福寺、梵釋寺、石山寺、比叡山の延暦寺など數箇所を指摘し得るに過ぎず。延暦二十三年七月最澄、空海の兩人遣唐使に附して入唐求法し、最澄は翌年六月歸朝するや比叡山に在りて天台宗を弘め、兼て密教を傳へたり。大同元年正月上表して法相三論の兩宗に年分度者各三人、華嚴、律、天台の三宗に各二人を賜はらん事を請ひ、許されて天台宗また公認せられたり。年分度者の二人の内にては一は止觀業、他は遮那業を學ばしめ、圓密二教を興隆し、また兼ねて禪戒の二宗を學ばしめたれば我國の天台宗は台密禪戒の四家相承と稱す。最澄は初め山上に根本中堂を建てゝ藥師如來を安置し、延暦十三年には初度の供養を行ひ、後ち之を一乘止觀院と稱す。空海は遠く長安に遊び、當時隆盛を極めし眞言密教を學び最澄に後れて大同元年十月歸朝す。翌年初秋京師に入り越えて四年二月比叡山に登りて最澄を訪ふ。卽ち勅して高雄山寺に住し眞言宗を弘めしむ。東大寺の別當に補せられ、寺務を執ること四年、弘仁二年十一月乙訓寺の別當となり、翌年十一月高雄山に於て最澄以下の二百人に灌頂を授く。七年紀伊の高野山に登りて金剛峯寺を建て、十三年東大寺に眞言院を設けたり。十四年正月東寺を賜りて之を眞言宗の根本道場とし、境内に灌頂院を建て、唐の青龍寺に倣ひ、彼地より將來する所の經卷、法具等を安置し、敎王護國寺と稱す。天長元年神泉苑に雨を祈りて驗あり、功に依りて少僧都に任せられ、神護寺また定額寺に列せらる。五年綜藝種智院を設けて年少者の教育に努めたり。奈良に於ける諸大寺は遷都に依りて多少の打擊を蒙りしとは云へ、多くの寺領を擁して勢力の維持に意を用ひたれば寺院都市として尙ほ平安京と對立せり。空海は奈良の諸寺と永く往來を續けしが、最澄はこれに對抗し、戒壇の別立を計畫する等從來の僧綱制度をも無視せんとせしより次第に兩者の間に反感を增せり。また天台宗の年分度者として出家せし者は學生式に從ひて十二年間山上に止りて法門を學び、且つ坊舍を造りてこの俗緣を斷てる山上に住せしより最澄の示寂して後は義眞これに次で大乘を領し、代々これを繼承せる者を天台座主と名けたり。從來は僧正、三綱、別當の如き職位なきに非ざるも一宗に屬する大乘を統領する職位としては天台座主を初めとす。平安時代に入りてより寺院の建築に一大變化を生じ、諸堂宇の配列には一定の標準なく、敷地は必ずしも平坦なるを要せざりし事、堂内には修法を行ふべき場所を設け、殊に密教の行法は他人の參入するを許さゞりしより採光の方法に注意せざりし事の如きこの時代に造營せられし寺院の特色たり。故に山上または溪間等に於ける幽邃の地域を求めて寺院を造營するを常とす。前代には佛像彫刻の技術大いに發達し金銅像、木像、塑像、乾漆像等はその作風輕快にして圓滿の相好を備へしが、天台、眞言の兩宗にて密教の諸像を安置せしよりこれ等の形像を作るに際し儀軌を遵守する必要より技術の上にも制限を受け、彫刻の術は次第に衰頽す。また複雜なる像容と云ひ、曼荼羅と云ひ、これを造顯するには彫刻よりも繪畫に依るを便とせる點より畫像に於ては大いに勝れたるものを作れり。

最澄の法孫は圓仁の門弟たる慈覺大師門徒(山門)と圓珍門弟の智證大師門徒(寺門)との對立となり、正暦四年後者は追はれて三井の園城寺に移り、天台宗の寺院は二分せられたり。茲に於て我國の寺院は延暦寺、園城寺を中心とする天台宗の二分派、東寺を中心とする眞言宗の諸寺、七大寺を中心とする奈良の諸寺と四大分派の對立を見たり。眞言宗にては東寺の長者法務を執り、智證大師門徒にては園城寺の長吏、奈良の諸寺にては僧綱所たる興福寺の別當を以て之に充てたり。桓武天皇の御代より後も奈良の七大寺以下は從來の如く官寺として優遇せられ、東寺西寺もまたこれに準せられたり。延喜式に於て十五大寺並に國分寺にありて毎年四月十五日以降九十日間安居を行ひ講經を繼續すべき事を揭げたり。所謂十五大寺とは次の如し。

東大寺　興福寺　元興寺　大安寺　藥師寺　西大寺　法隆寺　新藥師寺　本元興寺　唐招提寺
四天王寺　崇福寺　弘福寺　東寺　西寺

諸國の國分寺國分尼寺は地方官吏を督勵して之を完備せしむるに努めしも容易に之を全國に普及する能はず。大同四年正月諸國に命じて大般若經一部を寫さしむるに方り、未だ國分寺の設置なき國にては之を定額寺に安置せしめたり。かくて承和十年十月官符を下して定額寺を國分寺に充つる事を許したれば、國分寺國分尼寺の燒亡せる時、之を再建せずして定額寺を國分寺とせし事少からず。定額寺は私寺を官寺に準せしものにして時々官符を下して既設の寺院を指定するなり。國史に散見せる定額寺を揭ぐれば次の如し。

天長十年　近江大菩提寺
承和二年　紀伊金剛峯寺

承和九年　但馬壽永寺
承和十四年　大和長谷寺　壺坂寺
齊衡二年　山城安祥寺
齊衡三年　出羽法隆寺
天安元年　陸奥極樂寺
天安二年　山城法金剛院（官寺）
貞觀五年　山城禪林寺　遠江頭陀寺　駿河法照寺
貞觀七年　出羽觀音寺
貞觀八年　信濃寂光寺　錦織寺　安養寺　屋代寺　妙樂寺
貞觀九年　出羽靈山寺　長安寺
貞觀十二年　出羽安隆寺
貞觀十四年　尾張清林寺
貞觀十六年　攝津悉檀寺（官寺）
元慶元年　山城元慶寺
元慶二年　山城嘉祥寺　近江護國寺
元慶五年　山城圓覺寺（官寺）
仁和元年　加賀彌勒寺

以上の定額寺は何れの宗派たるを問はずこれを指定したれば天台宗眞言宗に屬するものをも含めり。諸大寺の別當三綱にして闕くるあれば大衆の推擧に依りて之を補任し、定額寺の別當は檀越等の推擧を俟つてこれ亦官より補任す。これ定額寺はもとこれ私寺にして檀越ありしを以てなり。延曆寺は別に戒壇を設け、奈良の諸大寺との交渉を避けたれば十大寺十五大寺等に加へざりしも官物の施入等に際しては諸大寺と同樣の優遇を受けたり。

皇室攝家の寺院修造　我國にては佛教の興隆に依りて國家の安泰を求め、三寶の供養は神祇に對する祭祀と共に政治の一部分と考へられしかば歷代の天皇を初めとし王公群臣擧りて佛事を重んじたり。桓武天皇以後は大安寺、東大寺の如き天皇の御願に依りて造營せられし寺院多からざるも皇室關係の寺院またなきに非ず。嵯峨の檀林寺は嵯峨天皇の皇后これを創建し唐僧義空を之に居らしめたりと云ふ。承和九年太上天皇の崩御ありし際七七齋を本寺にて修す。同じく大覺寺は嵯峨天皇の別宮なりしを貞觀十八年改めて寺院とせるものなるが、元慶五年檀林寺、淳和院と共に公卿別當を置きて撿校せしむる事となれり。仁和寺は光孝天皇宇多天皇兩代の御願に依りて造營せられ、仁和四年八月供養を行ひ、延喜元年十二月天皇落飾し益信に就て灌頂を受け、仁和寺に院室を構へて之に移り給ふに及び、法皇の院室を御室と稱し、後世これを御室門跡と呼べり。これより後は眞言宗に在りて仁和寺の位置頗る高く、東寺の長者またその下風に立つに至り、所謂門跡制度の起源をなせり。醍醐寺は貞觀十六年聖寶の創建する所なるが醍醐天皇の歸仰を得、延喜四年特に行幸ありて山下に釋迦堂を造營せられ、同十三年定額寺に加へ給ふ。延長八年天皇崩御せらるゝや、本寺の北畔に山陵を設け、爾來皇室との關係深く、仁和寺と對立せり。眞言宗の事相法門に於ても益信の系統たる廣澤流と聖寶の系統たる小野流とに分れしが、互に仁和寺と醍醐寺とを背景として勢力を振へり。爾來皇族の佛門に歸入し法親王となり給ふ事少からずして、先皇の遺跡たる仁和寺又は大覺寺に住せらる。延曆寺にても亦これに對抗する必要ありて相家の外護を受け、以て勢力を張れり。天曆八年右大臣藤原師輔比叡山に登り横川に法華三昧堂を造營し、豫て歸依する所の良源に之を附す。その子兼家また外護に努む。師輔の第十子出家して良源の弟子となり、これを一身阿闍梨とし、權少僧都に直任せらる。これ尋禪僧正にして大臣の子の僧綱に任せらるゝの始なり。良源飯室谷に妙香院を建てしが、半途にして示寂せしより尋禪をしてこれを成就せしむ。推古天皇の御代に僧綱を置ける趣意は寺院僧尼の名籍を撿校し、且つ弊風を匡正するに在りしが、律令の制定と共にその事務の大部分は治部省玄蕃寮にて處理する事となり、また天台宗の別立するありて僧綱の職は次第にその實を失ひたゝ稱號として學業の勝れし者に授けらるゝ事とはなりぬ。奈良の諸大寺にては興福寺の維摩會、宮中の御齋會並に藥師寺の最勝會に於て講師を歷任せる者を以て律師に任じ、後次第を追うて昇任せらるゝ規定を設けたり。この事延喜式にも見えたり。天台宗眞言宗にても定まれる慣例ありて是に準じ僧綱の補任を行はれしなり。然るに尋禪の如き名門の人々は例外の方法に依りしより補任の方

法も次第に變化し、相當の門地を有するに非ざれば顯要の地位に進むを得ざる事となり、或者は名門に因緣を求めて卿相家の猶子となりて以て目的を達し、或者は隱遁して世上との交渉を避けたり。奈良の諸大寺中にありて興福寺は藤原氏の建てし所なれば春日社と共に之を重んじけるより、寺家に關し利害ある毎に相家に迫りて目的の貫徹を計りたり。延曆寺が相家との關係を結びし事は一面より考ふれば奈良の諸大寺に對する牽制策と見るを得べし。

文德天皇崩御ありて後、藤原良房外戚たるの故を以て權勢を振ひ、幼主を奉じて自ら太政大臣となりし以來藤原氏一門の勢力次第に加はり基經、忠平以下歷代に亘りて攝政關白の職を自家の手中に收めたり。これより以後は藤原氏を中心とする貴族は榮華を極め、文學藝またこれが爲めに發展し寺院の建築に於ても華麗を重んじたる事これ自然の勢なりとす。平安京に於て創建せられし藤原氏關係の寺院としては圓覺寺を最初とす。これもと粟田院と稱し右大臣藤原良相の山莊なりしが、清和上皇御不例にて元慶四年十一月これに移り給ひ、遂に此地にて崩御ましませしより更に修造を加へ官寺とせるものなり。天曆年間太政大臣忠平並に師輔に依つて造營せられし法性寺、正曆年間に右大臣爲光に依りて造られし法住寺の如きあり。されど最も大計畫の下に造營せられしは寬仁二年關白道長に依りて創建せられ治安二年七月供養會を行ひし法成寺にして、方二町の地を占め中央に金堂を置き、左に五大堂、右に阿彌陀堂を配し、其他藥師堂、釋迦堂、觀音堂、三昧堂、五層塔、經藏等の堂宇を具備せり。而して金堂には三丈二尺の大日如來、二丈の釋迦、藥師、文殊、彌勒の四尊を安置す。何れも金色にして之に配するに彩色の梵天、帝釋、四天王像を以てせり。他の諸堂また當時名工の手になれる諸尊を安置し尊嚴にして且つ壯麗なること七大寺十五大寺の如き之に及ばざりしと云ふ。かくて世人道長を稱して御堂關白といへり。洛南の淨妙寺また寬弘二年道長の建つる所にしてこの附近に祖先の墓地ありしより追福の爲めに設けし所なり。道長の後を承けて攝政となりし賴通は永承七年洛南の宇治に存せし別業を以て寺院とし平等院と稱したり。堂宇と廻廊との配合頗る巧妙にして附近を流るゝ宇治川に臨み、其外觀は輕快優麗の趣を備へたり。その形狀より一にこれを鳳凰堂と呼べり。年代の久しき荒廢を免れずと雖も堂宇の一部分は今尙ほ存し當時の面影を傳へたり。堂の內外には極めて華麗なる裝飾を加へ壁上と云はず扉と云はず、天井、柱梁、床上に至るまで彫刻又は彩色を以て圖樣を施せり。日野の法界寺は藤原氏の支流たる藤原家宗これを創設し、永承六年資業の再興せしものにしてその一部たる阿彌陀堂のみ現存し壁畫の如きまた保存せられたり。法成寺の造營ありてより後ち六十年を經て承曆元年白河天皇の御願にて法勝寺の創建あり。永保三年九層塔成り、康和五年には金堂また竣工し、鳥羽僧正覺猷は扉に繪を描きたりと云ふ。承德二年皇子覺行を檢校に補し、俊寬を執行とせり。また堀河天皇御願の尊勝寺、鳥羽天皇御願の最勝寺、同天皇中宮待賢門院御願の圓勝寺、崇德天皇御願の成勝寺、近衛天皇御願の延勝寺等相次で造立せられ、これを合せて六勝寺と稱し、覺行法親王の後を繼がれし覺法法親王は承安二年六勝寺の長吏とならせらる。尙ほ洛北大原の三千院にも一宇の阿彌陀堂保存せられ、これ等の建築は規模大ならずと雖も、幸ひ市塵を離れし爲め燒失の厄を免れ、平安時代の中期に行はれし寺院建築の一端を示せり。かゝる華麗なる建築は京洛の地にのみ行はれしに非ずして遠隔の地にも波及せし事は陸中平泉の中尊寺、豐後田染の富貴寺等の諸堂宇を見て知るべきなり。

佛敎渡來して後、最初は神祇の祭祀との間に何等の交涉を有せず兩者互に別立して行はれしが奈良時代の末期より兩者は互に背反するもの非ずとの思想を生じ平安時代に入りてこの傾向次第に著しく、社頭に佛堂を營みてこれを神宮寺と稱し、神祇に菩薩號を附する等の事あり。文武天皇の御代に伊勢の多氣郡にありし大神宮寺を度會郡に移せし事を傳へ、越前の氣比神宮、筑前の宇佐八幡宮にこれを作りし事も奈良時代にして、平安時代の初には鹿島神社、熱田神宮、賀茂神社等にもこれを設け、神前に誦經しこれを法樂と名けたり。また一方には寺院の境內にも神祇を勸請し、佛法の守護を祈願せり。卽ち延曆寺に於ける日吉明神、園城寺に於ける新羅明神、金剛峯寺に於ける丹生明神、醍醐寺に於ける淸瀧權現の如きこれなり。降りて平安時代の末葉に及びては神佛調和の思想益々發達し、神祇は人々に接して緣を結ぶ爲めに現はれしものなればその本地は佛菩薩なりとせられ、所謂本地垂迹の說を完成せり。

第三章　鎌倉時代より室町時代まで

鎌倉時代の新宗派　源賴朝東國に兵を起し、鎌倉に幕府を創立するや從來皇室並に藤原氏等に由りて勢力を振へる天台眞言等諸宗の寺院は大いに打擊を受けたり。卽ち寺院としては武家との間に連絡を結び、且つ一般民衆の間に重んせらるべき方法を講ずるの必要を生せり。この時に方り榮西並に道元に依りて傳へられし禪宗次第に行はれ、新に淨土宗、眞宗、日蓮宗起りて從來の八宗に對立す。天台宗の延曆寺大衆は先づ禪宗淨土宗に對して排斥手段を講せしが、建仁寺の榮西は興禪護

國論を作りて禪宗は最澄また之を傳へし事なれば天台宗と南立すべきものなりとて、台密を併修して其攻擊を免れ、東福寺の辨圓また之に倣ひ專ら勢力を扶殖する所あり。また鎌倉の地には寺院少く八宗の勢力尙ほ未だ振ふに至らざりしより幕府の外護を受けて此地に禪刹を設け、支那大陸より渡來せる禪匠はこの京師鎌倉の兩地に止りて不立文字の宗風を張れり。源空の弘めし淨土の法門は出家を本位とせず、在俗の人々も容易に修するを得るものなれば貴賤男女を問はずその門下に列れり。その敎ふる所は餘の諸宗は解し難く修し難きより之を廢すべく、淨土の敎法たる念佛は之に反して修し易く、惡業を作れる者と雖も必ず如來の救濟に浴すべしと云ふにあり。源空の門に入れる人々は諸宗を誹謗して益々反感を招き、元久元年には延曆寺大衆よりの求めに應じて門人と共に七箇條の起請文を認めて之を緩和せんと試みしがその効果なく、奈良諸大寺にても雷同し、十箇條に分ちて淨土宗の過失を追及せし奏狀を朝廷に奉呈せしかば遂に源空の唱ふる專修念佛を以て世の風敎を亂すものとして之を停止せり。これ承元元年三月の事にして源空並に親鸞は流罪に住蓮安樂の兩人は死罪に行はれたり。五年の後源空の罪を赦し再び洛東吉水の坊舍に入りしも幾何もなくして示寂せり。親鸞は流罪に處せられしを却て幸なりとし北國關東に在りて專修念佛の法門を弘むる事二十五年に及び、他の門弟が異說を唱へしより之に區別して淨土眞宗又は單に眞宗と稱せり。源空門下の人々も多くは分散し、各地に念佛の法門を傳へしが、これを淨土宗と稱したり。源空並に親鸞は出家持戒を重んぜざりし結果、强ひて佛堂を構へ寺院に止住するの必要なしと主張せしが、源空門下には出家して後、尙ほ戒行を守る者多かりしよりそれ〴〵寺院に住し、親鸞の門下は在俗の生活を續け、戒行を受持せず、從つて寺院として知られしものなかりき。源空示寂の後ち影堂を作りてその像を安置せしより知恩院として次第に修造を加へしかば遂に寺院として重きをなせり。親鸞の爲めに設けられし大谷の影堂は最初は單に宗祖の廟所たるに過ぎざりしも次第に寺院としての形式を具備するに至り、鎌倉時代の末には佛光寺錦織寺の設立あり、關東地方の門弟中には道場を設けて集會所に充てたり。道場は寺院の代用として設けられしものなるも後にはこれに寺號を設け簡略なる形式の寺院とせられたり。律令の定むる所に依れば道場を設け寺院に類する事を行ふを禁じたるも平安時代の中期以後は次第にこの種の制度も弛廢し、空也念佛を弘めし一類の徒は別に寺院を設けず簡略なる佛堂または道場を造りしに過ぎず。卽ち民衆に接して實際の活動を行ふにはこの種の道場を以てするもの却つて効果多かりしより鎌倉時代には一般にこの種のものを歡迎せしが如し。日蓮宗は鎌倉を中心として之を始め、法華經の受持を勸むると共に他の諸宗を排斥せしのみならず、文應元年立正安國論を作りて幕府に上り國家の安危を說きしかば之を伊豆の伊東に流せり。然るに更に改むる事なく、文永年間に至り外夷の襲來を說きて人心を煽動せしより再び之を捕へて佐渡に流す。敎ふる所頗る直截簡明にして粗樸なる東國人に適せしより之に歸投する者多く、門人中にも幾多の英傑を出せり。弘安五年十月武藏の池上にて示寂せしも甲斐の身延山に廟所を設け、久遠寺を造營して本宗の根本道場とす。以上の外に律宗復興ありて、泉涌寺の俊芿、唐招提寺の叡尊、西大寺の覺盛等都鄙を巡りて貴賤に對し授戒を行ひ高山寺の高辨は華嚴、眞言の兩宗と共に戒律を重んじたり。幕府にては從來の慣例を重んじ、神佛を崇め、貞永元年に定めし御成敗式條にも第一條に神社、第二條に寺院の事を揭げ、寺院に就て次の如く記せり。

一、修二造寺塔一勤二行佛事等一事

右寺社雖レ異崇敬是同、仍二修造之功一恒例之勤、宜二准二先條一、莫二招二後勘一　但恣貪二寺用一於レ不レ勤二其役一之輩者、早可令レ改二易彼職一矣、

幕府にありては初め、文治二年六月朝命を奉じて神社佛閣の修造に力を注ぎ、建久五年五月梶原季時をして寺社の訟を聽かしめ、また幕府祈願の寺社には奉行を定めて修造等の事に當らしむ。建治、弘安の頃には京都の六波羅使廳にも奉行を置きて近畿諸國の寺社に關する雜事を沙汰せしめ、永仁年間よりは評定衆より寺社奉行に補せらるゝ事となり、社寺に關する行政次第に完備せり。日蓮の記せる諫曉八幡鈔にはその頃の寺院數を揭げて一萬三千三十七寺とせり。蓋しこれ幕府の記錄に依りしものなるべし。

平安時代にありて天台宗に山門寺門の對立を見るに至りし事は既に述べし所なるが、保延六年大傳法院の覺鏗その門人と共に高野山を追放せられ、根來に移るに及び、眞言宗にも分派を生じ、覺鏗の門流を指して新義と稱し、他を古義と呼べり。皇族並に攝家の子孫にして出家し院室を構へられし際は朝廷に代りて雜務を處理せらるゝ塲合少からざるより宗派內の法務は次第に所謂門跡の所管となり、門跡に隨侍せる坊官なるもの之を掌れり。鎌倉時代に入りてこの門跡制度大いに完備せしが、その主要なるものを揭ぐれば次の如し。

一、東　寺――仁和寺、醍醐寺、大覺寺、

二、東大寺――東南院、
三、興福寺――一乘院、大乘院、
四、延暦寺――青蓮院、妙法院、
五、園城寺――聖護院、實相院、圓滿院、

門跡は皇族又は攝家の子孫の入道ありし際止住せらるゝ院室にして何れも平安時代の諸宗に限られしより禪宗にてはこの門跡に相當する機關を設くる必要ありとし僧錄所を設けたり。初め康暦二年正月將軍足利義滿朝旨を奉じて相國寺の妙葩を僧錄に任じて禪刹に關する事項を進止せしめしが、至德三年更に五山十刹の制を充實すると共にまた鹿苑寺を僧錄所とし、禪刹に屬する事務の外に歷代將軍の記室簡牘に至るまで之を掌らしめたれば禪宗の勢力大いに加はれり。五山十刹の制は支那の禪刹に範を採りしものにして、建長三年鎌倉に建設せられし建長寺を以て五山に指定せしを始とし、圓覺寺、淨智寺次に五山に加へられたり。京都に在りては德治二年初めて南禪寺を以て鎌倉の五山に準せしが、鎌倉幕府の衰頽と共に京都の禪刹之に代りて榮え、建武元年勅して南禪寺、大德寺を五山の上とし、建仁寺、東福寺、萬壽寺、建長寺、圓覺寺の次第とせり。五山の次第に關しては屢次爭論を生じ、暦應年中に之を改めて第一建長寺、南禪寺、第二圓覺寺、天龍寺、第三壽福寺、第四建仁寺、第五東福寺と次第し、淨智寺、淨妙寺、萬壽寺をも之に準じたり。至德三年には南禪寺を五山の上とし、鎌倉五山と京都五山とを分ちて次の如くせり。

第一、建長寺　天龍寺
第二、圓覺寺　相國寺
第三、壽福寺　建仁寺
第四、淨智寺　東福寺
第五、淨妙寺　萬壽寺

五山の諸寺は京都、鎌倉の兩地に存せしに異り十刹は遠隔の地にも之を及ぼし、時代に依りて變遷あり。されど後には京都鎌倉の兩地に各十刹を指定せり。卽ち次の如し。

京都十刹――等持院、臨川寺、眞如寺、安國寺、寶幢寺、普門寺、廣覺寺、妙光寺、大德寺、龍翔寺
鎌倉十刹――禪興寺、瑞泉寺、東勝寺、萬壽寺、東漸寺、萬福寺、大慶寺、興聖寺、法泉寺、長樂寺

榮西の傳へし臨濟宗は主として京都鎌倉兩地を中心として行はれしも、道元の傳へし曹洞宗は越前の永平寺を本所として汎く各地方に普及せり。禪宗の傳來に依りて宋元の文化を我國に播布する事となり、禪宗寺院に在りても堂宇の配置並に其建築樣式に於て從來のものと趣を異にせり。卽ち金堂、講堂、多寶塔、食堂、僧房等を主要建造物とせし從來の樣式を一變し法堂、佛殿、僧堂、方丈、浴堂、庫裡等を以て之に代ゆる事となり、寺院以外の建築にも著しき影響を與へ、書院、玄關、茶室の如き何れも禪刹に存せしものを應用せり。

戰亂と寺院の自衛　平安時代の末に武士の勢力次第に增加し、遂に關東に幕府を開き武門政治を行ふに至りしが、文永弘安の頃西海に所謂元寇の難ありて、擧國一致これが掃蕩に力を竭す事となり、上下鏡ふて神社佛閣に敵國降伏の祈願を捧げたり。國內の叛徒は直に之を討伐し得たる幕府も外夷の襲來に對しては爲す所を知らざりしより幕府の威信も漸く衰へ、後醍醐天皇は幕府の覆滅するの御計畫ありて建武中興の世となれり。然るに足利尊氏は皇統の二流に分れしを利用して對策を講せし爲め右より我國に類例なき南北兩朝の對立を見たり。尊氏は戰歿せし將士の爲め全國六十六箇國二島に一寺一塔の分置を發願し、直義之を援けてその實現に努めたり。暦應元年に發願し貞和二年光嚴上皇の勅裁を經て通號を定め安國寺利生塔と名く。されど國事多端の際なれば既に存せし寺を之に充當し、寺號を改めしもの大部分を占めたり。蓋し國分寺の故事に倣へるなり。これより後は兩朝對立に由りて戰亂絶へざりしが、社寺にありても戰亂の禍中に投ぜらるゝの止むなきに至る。

平安時代の中期より山法師奈良法師として知られし僧兵ありて、寺門に關する利害の事あれば蜂起して橫暴を行へり。山法師とは延暦寺の大衆にして日吉社の神輿を奉じて朝廷に訴願を行ふを例とし興福寺大衆を中心とせる奈良法師は春日明神の神木を奉じて入洛し望を達したり。而して延暦寺、園城寺、興福寺等の相互間にも衝突起り何れも武器を執りて戰鬪を續け流血を見し事少からず。この種の僧兵は武士階級に準ずべきものにして武士の活動を牽制し左右せる事實少からず。卽ち武士が大兵を率ひ上洛するに際し延暦寺大衆が之に好意を寄するか反感を有するかは大にその實現性に關係ありしなり。この僧兵は次第に各地に普及し、南北朝の頃には殊に各寺院の向背に就て重きを置かれたり。幕府との間に深き因緣を結べる

禪宗の寺院は北朝を奉戴せしも、他寺院は兩者に分れ活動せしもの少からざりき。僧兵を生せし原因として注意すべきは寺領を維持するに武家の力を借るか或は自衛手段を講じて他の押領侵略に備ふる必要ありし事是れなり。幕府は諸國に守護を置きしが寺領に對しては賦課を行ふ事なく、竹木等の徴發を禁じ守護不入の保障をなせしより寺領に對する行政もまた寺院自ら之を行はざるべからず。かくて動もすれば暴惡の徒は追はれて寺領内に侵入し、住民を苦しむる事となりしより寺院自ら之に對する方法を講せしもの止むを得ざりしなり。南北朝の頃既に寺内に城廓を構へしこと曆應二年に記せる伊賀樂音寺關係の文書に見えたり。而北兩朝の對立は全國を擧げて混亂狀態にあらしめたるものなれば勢力ある寺院の如きも武家に誘はれて活動を續けたり。兩朝統一の後は室町幕府に依りて治安の維持行はれ、小康を得しが、七十餘年を經て應仁の亂起り、これより幕府の威力振はず、各地の守護職にあるもの互に討伐を行ひしより寺領にして侵略を蒙り、或は兵火にて堂宇を燒亡せらるゝ等至る所この種の損害を受けたり。天文元年八月には近江六角氏の軍勢日蓮宗徒を誘ひて山科の本願寺を燒亡し天文五年七月京都の日蓮宗諸寺また武家と事を構へ多數の寺院一炬に附せらる。之より先き本願寺の中興蓮如越前の吉崎に止住して北國の門徒を教化せしより之に歸依する者多かりしが、加賀の領主富樫氏本願寺門徒の反感を招き、襲撃を受けて終に滅亡し、加賀四郡の守護職は門徒の手中に歸せり。世にこれを一向一揆と稱し、越前の朝倉氏と攻撃を交へたる事少からず。織田氏起るに及び伊勢長島の門徒と事を構へ、また元龜天正に亘りて大阪の本願寺と戰鬪を續けし事は世に廣く知られし所なり。天正元年には比叡山延曆寺また織田氏の兵火を受け、豐臣氏の世となりて高野山金剛峯寺をも燒かんとせしが應其(木食上人)の斡旋に依りて事なきを得たり。かくて天正の末年には諸寺の僧兵並に宗門一揆の類は悉く終熄す。

鎌倉時代に起れる新宗派は民衆との交渉深く、寺院は寺領の外に一般民衆より受くる財物少からず、寺院に參詣者群集せる結果として寺院の門前には人家軒を列ね、店舗を構ふるありて所謂門前町の發生を促し、寺院を主とせる小都市を實現せる事あり。靈地として知られし信濃の善光寺、紀伊の高野山、熊野山の如きは云ふまでもなく、また各地の名刹を廻りてその加護を受けんとする巡禮なるもの盛んに行はれたり。巡禮としては七大寺巡禮、觀音靈場三十三箇所巡禮、四國靈場八十八箇所巡禮、關東二十四輩巡拜、廻國納經等幾多の種類あり。七大寺巡禮とは奈良の七大寺に報賽するものにして、既に平安時代の中頃より行はれ、奈良に赴く事能はざりし都人士は洛中洛外の六地藏、七所觀音、または百塔等を巡りたり。三十三所巡禮は一に西國巡りとも稱し應保元年正月園城寺の覺忠これを行ひたりと云へば平安時代の末より行はれしを知るなり。廻國納經とは六十六箇國を巡りて靈場に經卷を奉納するを云ふ。四國靈場は眞言宗、二十四輩は眞宗に限りて行はる。戰國時代は諸國の交通不便なりしが、異樣の行裝をなせる巡禮者、時宗の遊行僧及び靈場より派出せらるゝ勸進聖の類は道中の障害は割合に少からざりしが如し。

第四章　江戸時代より現代まで

江戸幕府と寺院政策　德川氏に依りて江戸幕府の創立せらるゝや金地院崇傳をして諸宗寺院に關する雜務を處理せしめたり。これ禪刹に關する僧錄司の職務を他の諸宗寺院にも及ぼせしものなり。かくて崇傳は諸宗寺院に於ける慣習を調査し慶長十三年比叡山延曆寺に下せし法度七箇條を始めとし、元和元年に至る間に諸宗の法度を制定す。卽ち職制、座次、住持たるべき資格、紫衣の勅許、授戒、出世の事、末寺本寺の區別等を揭げたり。主として從來行はれし慣習に依りしものなれば諸寺各別に定めしもかくては不便の點多かりしより寛文五年七月これを統一せる諸宗寺院法度を作る。卽ち次の如し。

一、諸宗法式不レ可二相亂一若不行儀之輩於レ有之者急度可レ及二沙汰一事
一、不レ存二一宗法式一之僧侶不レ可レ爲二寺院住職一事、附、立二新義一不レ可レ說二奇怪之法一事
一、本末之規式不レ可レ亂レ之、縱雖レ爲二本寺一對二末寺一不レ可レ有二理不盡之沙汰一事
一、檀紙之輩雖レ爲二何寺一可レ任二其心得一僧侶方不レ可二相爭一事
一、結二徒黨一企二鬪爭一不似合之業不レ可レ仕事
一、背二國法一輩到來之節於レ有二其屆一者、無二異議一可レ返レ之事
一、寺院佛閣修復之時、不レ可レ及二美麗一事、
　附、佛閣無二懈怠一掃除可二申付一事
一、寺領一切不レ可レ賣二買之一並不レ可レ入二質物一事、
一、無二由緒一者雖レ有二弟子之望一猥不レ可レ令二出家一若無レ據仔細於レ有レ之者、其所之領主代官相斷可レ任二其意一事

また元和元年に制定せる公家法度の中にも門跡寺院に關する規定ありて、親王門跡、攝家門跡、准門跡の三類を通じて二十五箇寺並に之に準ずべき比丘尼御所に就て示す所あり。紫衣といひ僧正以下の僧官といひ、何れも勅許を受くべきものなるも、之を奏請するには公家の專斷に依らず、必ず幕府の意向を徵すべきものとせり。江戸時代に入りて戰雲漸く收まり、寺領に對しては朱印狀を與へて之を證せしより不安定の感も一掃せられ、諸宗の寺院爭ふて寺運の隆盛を劃策する所あり。幕府に於ても天文年間以來我國に浸潤し次第に勢力を增加せし天主教に弊害多きを見て、豐臣氏並に德川氏共に之を禁止するの必要を感じたり。されど既に勢力ある諸侯中にも之を信ずる者ありて、之を終熄せしむるには單に外國貿易の制限の如き姑息手段にて目的を達すべきに非ず。判明せる教徒は改宗を命じ、應せざる者は或は重刑を加へ、或は之を國外に追放せしも、尙ほ密かに之を奉ずる者あらん事を懼れ、諸宗寺院をして之を監視せしむる政策を樹てたり。織田豐臣の兩氏も既に寺院の勢力に依りて行動を妨げられし事ありしのみならず、德川家康の三河に起りし際も寺院の勢力を無視する能はざりし經驗あれば深く此點に留意して江戸開府の當初より寺院に保護を加へ、以て幕府の基礎を固からしめんと企てたり。而して天主教の流行を禁遏するに際しても各宗寺院の協力を必要としたれば寺院の位置は益々重きを加へたり。

天主教の各地に蔓延するや神社佛閣等これが爲めに破壞せらるゝもの少からず。豐臣秀吉九州の叛將を討伐して彼地に於ける天主教徒の勢力侮るべからざるを知り天正十五年天主教の流行を禁止するの命令を發す。德川氏またこの策を踏襲し慶長十六年更に禁教の勵行に着手せしが容易に之を根絕する能はず、寛永十四年には島原の亂起りしより幕府も終に意を決して最後の彈壓を加ふると共に寺院の勢力を借りて禁教の目的を達する事となれり。かくて江戸時代三百年間に亘りて宗門改めの制度を實施するに至る。天主教を信ぜし爲めに刑罰に行はれし者また一度これを信ぜしもその非なる事を悟りて轉宗せし者の子孫緣者は切支丹類族と稱しその動靜に對し注意を加へ、一般の人民は手次寺に就て切支丹宗門に關係なき事證明せしめたり。緣組、旅行、死亡等の際には必ず手次寺の證明を求めざるべからず。これを寺請證文と稱す。一定の時期に調査し宗旨人別帳を作成する事また寺院の責任たりしなり。この宗旨人別帳は戶籍帳の代用をなせしものなれば寺院は行政事務の一部を分擔せし結果となり檀家たるものは悉く寺院の維持に就て義務を負ふ事となり、神官の如きもまた之を拒む能はざりき。

寛永十二年には寺社奉行を置き、鎌倉幕府に倣ひて社寺に關する事項を掌らしめしが、江戸時代に入りて本寺末寺の關係漸く確定し、宗派としての體系益々明瞭となりしより箇々の寺院としてよりも宗派としての事項に關するもの少からざれば寺社奉行に屬する事務また繁雜となれり。幕府は別に眞宗にありて敎如の爲めに本願寺を建てゝ末寺を二分し、天台宗にあつては江戸に寛永寺を建てゝ延曆寺に對立せしめ、淨土宗の知恩院に對しては增上寺を以てし、德川氏の廟所たる下野の日光山には輪王寺を造營して後水尾天皇の皇子尊敬法親王を迎へて門跡地とし、京畿地方の門跡寺院御由緒寺院を率制する等の策を講じたり。また諸侯の邸宅を江戸に設けて常に旗本の士並に家族を滯在せしめしが如く、大宗派に在りても錄所若くは觸頭を江戸に置き、幕府よりの命令を傳達し本山より幕府に對する請願等の事を行はしめたり。幕府は漫に寺院を創立するを禁じ、且つ堂宇の再建に際しても專ら質朴を旨とし華麗壯大のものを造營するを許さゞりしが草庵、道場として存せしものが寺號を設け、他の寺院と伍するに至りし場合は頗る多く、日蓮宗眞宗曹洞宗等に屬せし小堂宇の如き大に面目を改めたれば事實に於て寺院數は著しく增加し、全國を通じて十餘萬箇寺に及びたりと云ふ。寺院中には附近の兒童を集めて敎育を施すものあり、かくて寺院以外にて行ふものも一般に之を寺子屋と稱し、江戸時代に於ける初等敎育の充實は寺院の努力に依るもの頗る多し。

明治維新と神佛分離　江戸時代は幕府の寺院に對する保護厚かりしより何れも檀家並に寺領を有し、祖先尊び家系を重んずる風習と相待つて何人も葬儀年回佛事等を勵行し之を寺院に依賴せしが、文敎興隆の結果として儒敎、神道の學者現はれ、佛敎に對して反感を抱く者を生じたり。この種の人々は領主に嘆願して佛敎の葬儀を拒み、儒葬又は神葬を行ふ者あり本居宣長、平田篤胤の神道家は本地垂迹の說を排斥し、神道を以て佛敎渡來以前の舊態に復歸せしむべき事を主張せしが、明治維新に際し舊制打破の大勢は明治元年三月の布告に依りて神佛分離の實行となれり。從來著名の神社には別當寺、神宮寺ありて、社僧その實權を有せしが、この時に當り神社の境內に存する堂塔を除去し、佛像、法具の類は他に移され、社僧は還俗を命ぜられて神官となる等短時日の間に一大變化を蒙れり。寺院の勢力の振へるを見て不快の念を抱きし一類の人々はこの神佛分離の實施を好機會とし、佛敎を排斥するの計畫を樹て、地方官吏と結託して廢寺合院を行ふこと少なからず。甚だしかりしは日向、大隅、薩摩、越中等の諸國にして古來の名刹にして廢墟となりしものまた多し。廢寺合院の暴擧は一

時的の事件たりしのみならず、その爲めに損害を受けし範圍も地方的のものなりしが、之に勝れる打擊は寺領の沒收なりとす。明治政府は幕府を廢し王政復古の實を擧ぐるに當り諸侯に命じて藩籍を奉還せしめたれば寺領の沒收せられしもの亦止むを得ざるなり。明治三年閏十月民部省内にありし社寺掛を改めて寺院寮を置き、更に布令を出して寺院合併は本寺法類檀家等の意志に反して行ふを得ざる事とせり。寺院に對する上地處分もまた本年十二月の太政官布告を以てし、諸國寺院の由緒の有無に拘らず、朱印地、除地等の寺領の中、現存使用の境内地を除く外は總て上地せしめ、短期を限りて遞減祿を支給する事とせり。

次で四年六月從來寺院中に於て特權を有せる門跡、院家等の稱號を廢し、翌年二月僧位僧官を廢止す。三月政府は神祇省並に寺院寮を廢して教部省を置く。六月更に各宗に管長を置きて、末寺を支配せしめ、神官及び僧侶は教導職とし明治維新聖旨を廣く說かしめたり。不法なる手段に依りて廢寺合院を行へるものは後に至り復舊せるものありて、一般の寺院も次第に平靜に歸せしが、本年十一月には單に堂宇寺號のみ存しこれを維持する能はざる寺院は之を廢すべき事を命じ、各寺院をして資財帳を作製せしめらる。この時修驗道の如き一宗派たるの價値なきものとし、天台、眞言の兩宗にこれを分屬せしめたり。寺院に對する上地處分は元來寺領を有せざる眞宗寺院の如きは影響する所なかりしも天台眞言等の諸名刹は打擊を受くる事甚だしく、上地還附の運動を行ひ政府に請願せし事少からず。時としては行政裁判所に訴へてその理由を明瞭ならしめ、遂に目的を達せし事あるもこれを全國に亘れる寺領に比すれば一小部分に過ぎざるなり。寺領中には國家安泰の祈願を行ふを理由として施入せられしもの、寺院自ら買得せるもの等その性質區々にして前者は爲政者と寺院との關係斷絶せる際之を公收するを得べきも後者は明かに寺院の私有たれば之を沒收するは所有權の侵害たる事を知るべし。然るに寺領の大部分は數百年來の歲月を經過せるものにして、一々その所有關係を明かにすべき徵證を示し難く、上地還附の問題は幾度繰返さるゝも目的を貫徹する能はざるなり。上地處分に依りて古來の名刹も適當の修理を施す事能はず、時として破壞に委せんとせしより政府に於ても大に見る所あり、明治三十六年古社寺保存法を發布して堂宇の優秀なるものは特別保護建造物に指定し、佛像、法具等も亦之に準じて國寶に指定し、修繕費、保存費を支給する事とせり。近時これを改正して國寶保存法とし、特別保護建造物もまた之を國寶と呼ぶ事となれり。

凡例

一、本書に收錄せる寺院の總數約四千にして、全國に亘り各宗本山、門跡寺院、由緒寺院、別格寺、國寶所藏寺院の全部を網羅し、其他著名の佛寺、草庵に至る迄、凡そ異彩あり、由緒深きものは努めて之を收載することゝせり。

一、記述の體裁は次の四項目に分ち、其個々の記述に於ては終始簡潔を旨とし、平明に叙述する事に努め㊂㊃項の不詳なるは必ずしも之を擧げず。

㊀宗派㊁沿革㊂堂宇寶物並に境内の狀況及び其面積㊃法會

一、寺號は、其特殊なるものを除くの外悉く公稱に從ひ、別稱、俗稱は是を其下に記して括弧内に收めたり。

一、寺號振假名に就きて、本文にありては舊來の假名遣法に依れるも、總索引にありては改正假名遣(發音通り)に從ひ、以て檢索に便せり。

一、所在地の記入に當りては、努めて正確ならむ事を期し、新たに市町域に編入せられたるもの及び區劃改正の行はれたるものに就きては、直接當該諸官廳はもとより各寺院個々に就きて照會を發し、現在の地名を傳ふるに腐心せり。

一、寺院の由緒沿革は、原則として寺傳及び各寺誌を根本資料とし、是に關する最近學界各方面の勞作は悉く是を參照し、飽く迄記述の正鵠を期し、寺傳と雖も信憑し難きば省略に從ひ、且つ主として明治初期神佛分離に至る迄も詳說し、以後の記述は簡略を旨とせり。尙ほ一般寺院史に關するもの、並に寺院特有建築に就きては卷頭の寺院史總說に述べたり。就きて參照せらるべし。

一、第三項に於て、當該寺院所藏什寶中、先づ國寶指定のものに就きて概說し、後、主なる寺寶を列記す。境内面積中、飛地の明確なるものは是を擧げ、舊時上地處分を受けたるものに就きては一切是を省略す。

一、第四項は、原則として特有なるものゝみを擧げ、各寺を通じて恒例たるもの、例へば灌佛會、春秋彼岸會、盂蘭盆會等の如きものは、大畧是を除外せり。

一、各項を通じて人名を記すに當りては、必ずしも是に尊稱、敬語を附せず、專ら慣畧に從ふ事とせり。

一、寺院配列の順序は、一に帝國行政區劃の定むる市町村順次を以てし、更に所在地同じき場合は五十音順に配列せり。

一、一寺の堂塔、支院及び境外獨立佛堂にして著名なるもの、又は國寶所藏せるものは別に一項目を設くる事とし、然らざるものは其本寺若しくは其所管寺の項に收めたり。

一、本書に記述する所は、大畧昭和八年一月末日迄の現況にして、其以後に於て國寶を所藏するに至れるもの等其他一切の異動に就きては他日再版の機を俟ちて補訂する所あるべし。

一、卷頭、寺院史總說は龍谷大學教授禿氏祐祥氏の執筆にして、本篇扉は大本山大覺寺前執事長谷内清巖氏の揮毫に係る。本篇圖版の一部は岩井武俊氏輯古建築菁華より、附錄中、各宗派寺院僧侶及教會所數並に各宗派檀信徒員數表は文部省宗教局内宗教行政研究會編神佛基三教一覽表より各轉載を許されたり。以上特に記して深謝の意を表す。

昭和八年九月

編者識

日本社寺大觀寺院篇目次

關東地方 …… 一
東京府 …… 一
神奈川縣 …… 二八
埼玉縣 …… 五一
群馬縣 …… 五九
千葉縣 …… 六四
茨城縣 …… 七九
栃木縣 …… 九八
東北地方 …… 一〇八
宮城縣 …… 一〇八
福島縣 …… 一一四
岩手縣 …… 一二三
青森縣 …… 一三〇
山形縣 …… 一三四
秋田縣 …… 一四〇
中部地方 …… 一四三
愛知縣 …… 一四三
靜岡縣 …… 一六七
山梨縣 …… 一八二
岐阜縣 …… 一九七
長野縣 …… 二一三
北陸地方 …… 二三四
新潟縣 …… 二三四
富山縣 …… 二五三
石川縣 …… 二六五
福井縣 …… 二七五
近畿地方 …… 二九五
京都府 …… 二九五
大阪府 …… 四八五
兵庫縣 …… 五二二
滋賀縣 …… 五五六
奈良縣 …… 六三二
三重縣 …… 六九一
和歌山縣 …… 七一四

中國地方……七四六
岡山縣……七四六
廣島縣……七五八
山口縣……七七一
鳥取縣……七八三
島根縣……七九一
四國地方……八〇三
德島縣……八〇三
香川縣……八一二
愛媛縣……八二七
高知縣……八三九
九州地方……八四七
福岡縣……八四七
大分縣……八六二
佐賀縣……八七二
長崎縣……八七八
熊本縣……八八三
宮崎縣……八九一
鹿兒島縣……八九三
沖繩縣……八九六
北海道・樺太……九〇〇
朝鮮・臺灣……九〇九
關東州・滿洲國・海外……九二三
附錄
一、佛教聯合會規則……一
一、國寶保存法及國寶保存法施行規則並國寶保存會官制……四
一、各宗本山並宗務所々在地一覽表……一〇
一、門跡寺院一覽表……一三
一、由緒寺院一覽表……一四
一、諸國巡禮便覽……一五
一、各宗高僧諡號宣下並入滅年代一覽表……三三
一、各宗派寺院僧侶及教會所數一覽表……四二
一、各宗派檀信徒員數一覽表……四四
一、國寶所藏寺院一覽表……四六
一、音訓索引……七七
一、頭字畫索引……一三一

關東地方

東京府

築地別院（本願寺）東京市京橋區築地三丁目。

㊀東本願寺派。

㊁西本願寺別院、築地御坊等と稱す。本願寺第十二世准如の開創する所なり。元和年中、准如、淺草濱町（現在日本橋區濱町二丁目）に一寺を建立し、關東教線の本據となし、江戸海邊坊舍と云ひ、又俗に濱町御坊とも稱す。これ當院の創始なり。既に正保の頃には、關東十三州の門末を管す。明暦三年正月の大火に堂宇類燒し、本願寺第十三世良如、幕府より八丁堀海濱の洲渚を得、輪番乘以、信徒等を督して新築工事に着手す。翌萬治元年假本堂成り、卽ち入佛慶讃の法會を修す。當時境域一萬二千七百二十二坪に達し、末寺五十八寺に及べり。延寶二年第十四世寂如再修を志し特許を得て、屋根紫雲殿に模す。書院、大厨、經藏、太子堂等順次設成して輪奐壯麗を極めたり。後ち、天明三年、同四年、文政十二年、天保五年の四度に亘り祝融の災に罹りて堂宇悉く空し。時に本願寺第二十世廣如東下の事あり、卽ち輪番、加番等信徒と協力して、諸堂を再興す。安政三年、暴風雨に遭ひて、本堂倒壞し、萬延元年復舊す。其後明治五年の大火に五度類上す。同十五年改築成り、慶讃法會を修す。甚だ盛儀なりき。同二十四年蓮華殿竣工、翌二十五年有栖川宮熾仁親王御染筆の扁額を本堂向拜に揭ぐ。二十六年又も回祿の厄に罹り、本堂其他灰燼に歸したるを以て、蓮華殿を假本堂に充つ。然れども、三十年に假本堂も燒亡せるにより、翌三十一年十一月起工し、同三十四年五月本堂落成す。大正十二年關東大震火災の際又も堂宇壞滅し、暫く十一間四面の假本堂なりしも、昭和六年五月古代印度佛教建築に模せる大規模の再建に着手し、現に工事進行中なり。尙本寺は古來寬永、增上二寺及び淺草別院と共に兩山兩寺と呼ばれ、幕府の崇敬自ら異れり。現在に於ても東京教區三百寺、奥羽教區五百寺を管し、其信徒を崇敬門末とす。

（築地別院）

㊂境内六千四百餘坪。寺寶に銅鐘一口・開重兵衛所持と稱する長檜等を藏す。

天德寺　東京市芝區西久保巴町。

㊀淨土宗。

㊁光明山和合院と號す。天文二年、福金（開祖）の宮城の地に創建す。同二十三年、第二世念譽の時、後奈良天皇、光明山天德寺の額輪及び紫衣の綸旨を賜ふ。天正十三年、第九世了碩、新たに堂舍を淺ケ關の地に遷營して、これに移る。慶長十六年第十世行阿の代に更に現地に移轉す。元祿十一年第二十一世誓巻、東山天皇より常紫衣の綸旨を賜はる。慶應三年常陸國瓜連常福寺の檀林號を移して、檀林に列せらる。もと十有餘の子院ありしも今廢合す。舊寺領五十石なり。

㊂子院榮閑院に杉田玄白の墓あり。

金地院　東京市芝區芝公園地。

㊀臨濟宗南禪寺派。

㊁山號を林勝山と云ひ、慶長年中、當時德川家康の知遇を得し京都南禪寺金地院の僧崇傳（本光國師）駿府城下に創建せるを本寺の濫觴とす。元和元年、院領千九百石の直判を受く。翌二年家康の薨後、一時當寺を江戸城内紅葉山に移す、寬永十五年崇傳歿し、弟子最岳五百石の朱印を受け、今の地に新たに堂宇を造營す。元祿七年、二百石を加封せられ、臨濟五山の附錄所たりき。

㊂寺寶に崇傳の木像一軀・舊記錄・古文書等多數を藏す。境内に相馬大作等の墓あり。

增上寺　東京市芝區芝公園地。

㊀淨土宗。

㊁三緣山廣度院と號す。淨土宗四箇本山の隨一たると共に、同宗關東十八檀林の冠首にあり。舊幕時代を通じ德川氏の菩提寺として、寺運隆盛を極めしは周知

の事實なり。空海の法弟宗叡、武蔵貝塚（現麹町區平河町附近）の地に一寺を草せしなり以て本寺の濫觴となす。當時光明寺と號し、眞言宗に屬せしも、後小松天皇明德四年、住職西雲聖慈、傳通院開山了譽聖聞に就て淨土宗に轉ず。故に又聖聞を以て開山となす者あり。明應二年堂宇改築の事あり。德川家康江戸入府の際、當寺を以て其菩提寺となす。蓋し德川氏は歴世淨土宗を奉じ、其菩提所たる三河國大樹寺感譽存貞は當寺住職源譽存歴の師たりし因緣によると。慶長三年八月、德川家康現寺地二十萬坪を寄せて寺基なゝに移さしむ。同四年九月、第十二世存應に紫衣及び永代常紫衣の綸旨を賜ひたり。尚存應は家康と圍り、一宗の制度を定めて之を宗内に公布し、爾來本宗の總録所として宗務を執行し、且つ傳燈付法の道場たりき。同十年、幕府甲眞宗廣を技樂として三門、方丈、經藏等を造營す。同十三年當寺を以て勅願所に定められる。同十五年更に特旨を以て存應に善光觀智國師の號を賜はれり。同十七年幕府寺領千石を寄進す。寛永九年德川秀忠薨じ、本寺に埋葬す。以後歴代の將軍及び德川氏一門のこゝに葬らるゝもの多く、永く其香華院として、諸堂宇の建設はもとより其他德川幕府に於て特別の保護を致せり。從つて寺運の隆盛見るべきものあり、其繁榮寛永寺と並稱せられたり。寺領初め千石なりしも、後ち加增して一萬五百四十五石外に藏米三千七百俵門前十五箇町を有せりと云ふ。維新の際寺領を返上し、境内又公園地となる。明治二年二月重れて勅願所の綸旨を賜ふ。六年本堂を大教院の神殿に充てしが、同年末放火により本堂鐘樓表上す。同八年本山號を官許せらる。同四十二年再び護國殿と共に火災に罹り、山門、經藏を除き、悉く烏有に歸したり。現今の堂宇は其後の建造に係る。尚ほ本寺にありては第三十二代了也及び第四十代靈隅より代々の住職大僧正に任ぜらるゝを例とせり。

（增上寺山門）（國寶）

（增上寺本堂）

㊁堂宇中、三解脱門は俗に山門と云ひ、五間三戸樓門、屋根入母屋造、本瓦葺にして、慶長十年の造營に係り、寛永元年修補せられ現に國寶建造物に指定せらる。其他本堂・鐘樓・經藏・開山堂・德川秀忠・家宣・家繼・家重・家慶・家茂の廟所・鄰社東照宮（神社篇參照）等あり、中にも秀忠の廟は夙にその壯麗を稱せらる。寺寶中、法然上人繪傳二卷（紙本着色）・並に大藏經（宋版五千三百五十六册五千八百四十七卷・元版五千三百八十六册五千九百三十一卷・高麗版千二百五十九册六千五百三十一卷）は何れも國寶に指定せらる。前者は知恩院の四十八卷本、常福寺の九卷本と別種のものにして、現在僅に二卷を傳ふるのみなるも、一説に畫は土佐吉光、詞は後二條院の宮廷なりと云ひ、四十八卷傳と同じく鎌倉末期の作品と推定さる。其畫風、自由奔逸にして筆を以て描かれ、賦彩殊に優れ、殘缺本とは云へ恐らく上人行狀繪卷中、其藝術的價値に於て第一位を占むるものなるべし。尚ほ大藏經の内、宋版は近江菅山寺、元版は伊豆修善寺、高麗版は大和圓成寺の各舊藏なりしを德川家康當寺に寄進せるものなり。この外、朝廷及び幕府の寄進に係る諸寶物、各天皇の綸旨・古文書、什寶等數十點に上れり。尚ほ境内に阿部正次、青山忠茂、岡李成、土井利勝、水井尚長等の墓を存す。

青松寺（せいしょうじ）

東京市芝區愛宕町一丁目。

㊀曹洞宗。

㊁萬年山と號す。後土御門天皇文明八年、太田道灌、雲岡霊德を開山として創建す。初め武藏國貝塚（現今麹町區平河町附近）に在り、大永四年堂宇兵燹に罹りしが、天文年中德陽再興す。德川氏入府の後は曹洞宗江戸三箇寺の一たり。德川家康の歸依殊に深く、自ら地を相して慶長五年現在の地に移す。當時は藝州、長州、土州等の諸侯の菩提寺とし境内に學寮數棟ありて隆盛を極めしが、大正十二年關東の大震火災に山門、僧堂烏有に歸し、目下再興計畫中なり。

㊂境内に亀井玆矩、井上金峨、鎗持勘助等の墓あり。勘助は松平越後守の奴僕たりしが、故ありて自刄す。仍りて後人これを憐みて石像を立つ。俗に祈願すれば腰部以下の病に霊驗ありと稱す。

泉岳寺（せんがくじ）

東京市芝區車町。

㊀曹洞宗。

㊁萬松山と號す。古の關府六箇寺、江戸三箇寺の一なり。慶長十七年德川氏、宗關（門塲）に命じて、外櫻田に創建せるものなり。第四世門屏廣關を中興開山となす。寛永十八年現在の地に移る。舊播州赤穂城主淺野氏の菩提所にして、元禄十四年淺野長矩を此處に葬る。次で復仇のことありて四十七士の墓を置く。爾來當寺の名著はれ賽者常に接踵す。

㊂堂宇は本堂・庫裡・書院・山門・總門・鐘樓・開山堂・位牌堂・義士遺物館・木像堂等あり。赤穂四十七士の墓は淺野長矩のそれと共に史蹟に指定せられ、日夜香華絶えず。墓門はもと霞ケ關淺野氏邸宅の小門にして明治三十三年此地に移せるものなり。其他吉良頼央の首洗井大石頼雄の銅像等あり。樓門の南に鍵崎三郎、藤崎秀、山崎羔三郎三士の墓あり。寺寶には釋迦如來羅の外、四十七士に關するもの多く、寺内の義士遺物館に陳列す。

㊃義士祭典（四月一日より同月三十日迄）、義士祭（義士計入忌十二月十四日、義士切腹忌二月四日）。

（泉岳寺山門）

東禪寺（とうぜんじ）

東京市芝區高輪。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁佛日山と號し、本宗別格寺なり。慶長十五年赤阪溜池近傍に、嶺南和尚を開山として日向飫肥領主伊東祐慶之を開基す。寛永十三年現地に移る。その後仙臺、岡山、宇和島、吉田等二十二藩主の菩提所となり、堂宇壯麗を極めたり。安政及び萬延の頃德川氏本寺を以て外人の宿所となし、又英國公使館を寺内に設置す。文久元年水戸藩浪士、有賀半彌以下十八名、英國公使アルコータを討たんとして寺内に亂入し、堂宇を燒く。所謂東禪寺の變之なり。維新後再び火災に遭ひ、加之、檀徒四散して寺運衰頽す。其子院も現在僅に宗法、心源の二院を存すのみなり。

㊂寺中に仙臺及び宇和島の兩伊達氏、佐伯の毛利氏、岡山の池田氏、白杵の稲葉氏等の歴代及び原田甲斐の墓所あり。

天眞寺（てんしんじ）

東京市麻布區本村町。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁佛陀山と號す。寛永元年仙溪和尚を開山として、黒田忠之、之を開基す、爾來九州黒田家の香華寺たり。

㊂堂宇は本堂・庫裡・寶藏等を具ふ。寺寶中、十六羅漢像十六幅は絹本着色にして、所謂李龍眠風の室町時代の邦畫なり。現に國寶に指定せらる。

㊃開山忌（十一月二十五日）。

長谷寺（ちょうこくじ）

東京市麻布區笄町。

㊀曹洞宗。

㊁善陀山と號す。下野大中寺末寺にして、開山は宗關和尚なりと云ふ。もと赤阪溜池に在りて龍雲院と稱せしが、天正十二年現地移轉の際、今の寺號に改む。古來駒込吉祥寺、三田功運寺と共に江戸檀林の一たり。本尊は長二丈六尺の十一面觀世音にして、養老年中、德道の彫刻せる三體の一と稱せられ、他の二體は大和

長谷寺、鎌倉長谷寺に各奉安せらると云ふ。

㊁境内の石衛門樓は黒田忠之の栽植なりと傳ふ。

善福寺　東京市麻布區山元町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁麻布山と號す。眞宗關東七箇寺の一なり。初め空海、金剛峯寺建立の後ち東國を巡錫し、淳和天皇天長九年當寺を開創して新高野山と稱せりといふ。其後藤原信實の子出家して了海と稱し、當寺に住せしが、後堀河天皇貞永元年、親鸞東國巡歴の際、其教化に歸し、爾來現宗に改む。後ち龜山天皇勅願寺の綸旨を下し給ふ。第二世眞海の時、本堂奏上す。正親町天皇永禄十二年第五世天海、開基堂を建つ。第十四世霊海、德川家康の求めにより、錢十貫文を捧ぐ。爾後毎年正月六日に本寺より將軍家に十貫を納め、將軍十貫文に時服を添へて本寺に賜はるを其例とせりと云ふ。

（善福寺本堂）

又家康命じて當寺の山號を龜子山と改めしめ、寺領として、當町及び其附近に於て一萬坪要に荏原郡女塚村（蒲田區女塚町）を寄せたり。舊寺領十石、塔頭十院を有せり。安政六年、ハルリス來朝の際當寺に宿泊す。

㊂本堂・開基堂・太子堂其他を具へ、寺寶に刷毛書六字名號一軸・五大力明王像一幅（善惡筆）・三尊名號一幅（傳空海筆）・善導法然二師像一幅（善惡筆）・蓮如上人所持の觀形眞像等あり。境内の遠銀杏樹は天然記念物に指定せられ、枝幹遠まに垂下して一奇觀たり。

愛染院　東京市四谷區寺町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁十股山と號し、一に光明寺とも云ふ。弘法大師、麻布善福寺を開創するに當り、その奥ノ院に愛染佛を安置し、又獨鈷を納む。これ當寺の草創なりと云ふ。後ち慶長十六年麹町甲斐坂に移して、大いに堂宇を起し、爾來今の寺名に改む。寛永十一年更に現地に遷る。中興開山は正清上人にして、もと護國寺（小石川區大塚坂下町）に屬せり。

㊂寶物に愛染明王木像及び般若心經（傳弘法大師作）金銅獨鈷（傳弘法大師唐將來品）・愛染明王圖五大尊畫像（興教大師筆）・弘法大師畫像（傳宇多法皇御筆）・四天王木像四軀（傳湛慶作）等あり。境内に大師堂あり、府内八十八箇所第十八番の札所とす。尚ほ別に塔保己一、同忠寶の墓あり。

自證院（稲寺）　東京市牛込區市谷富久町。

㊀天台宗寺門派。

㊁鶴巣山圓融寺と號す。堂宇の用材、能目多きを以て俗に稲寺とも稱せらる。開基は日順にして、寛永十七年、尾張藩主德川光友の夫人千代姫の母自證院の爲に創建せるものなり。もと牛込榎町にありて、法常寺といひ日蓮宗に屬せしが、萬治年中天台宗に轉じ、寺號を圓融寺と改む。現地に移りたるは寛文年間のことなりといふ。自證院は榎町濟松寺の開基祖心尼の孫女にして、俗名をふりと云ひ、德川家光の寵愛殊に深くその没後、幕府は供料二百石を寄進す。舊寺領二百五十石ありき。

㊂境内に蜘蛛井あり。

濟松寺　東京市牛込區榎町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁薩涼山と號す。正保三年の創建なり。開山は永南和尚、開基は祖心尼なり。祖心尼は美濃國稲葉氏の一族牧村某の女にして、德川家光その外孫女ふり女（自證院）を寵愛せるにより、祖心尼赤誉中に出仕し牛込の田三百石を賜はる。家光の薨後祖心尼その剃を牛込の大友義乗館址に建て、且つ一寺を設く、これ當寺の開創なり。寺成るや幕府寺領三百五十石を寄進す。

㊂本堂・經堂等を具ふ。墓域に岸和田藩主岡部奏世を葬る。

南藏院　東京市牛込區箪笥町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁天谷山と號す。元和元年正胤法印早稲田の地に創建す。初め正編院と稱せしが、明暦元年現地に移り、且つ寺號を現稱に改む。もと音羽護國寺末なりしが、正德二年京都智積院末となる。享保年中堂宇炎上せしを

十一世祐範再興し、本堂・太子堂・聖天堂等を造營す。依つて祐範を中興開山となす。文政十二年當法譲林に定まり、仁和寺宮より院室の宣下を蒙る。明治二十七年市區改正ありて境内大いに縮小され、聖天辨天二堂以外は悉く改造せらる。同三十八年護國寺末に復す。

㊂堂宇中、大師堂は阿波國平等寺を模せるものにして、府内八十八箇所の一たり。境内地二百五十坪あり。

㊃緣日（毎月十三日）其他。

護國寺　東京市小石川區大塚坂下町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁神齢山柔地院と號す。初め、德川綱吉の母桂昌院、上野國碓氷八幡宮の別當大聖護國寺の僧亮賢に歸依せしが、延寶八年綱吉入りて將軍たるに及び聖天和元年二月七日亮賢を招請して大塚要園の地に伽藍造構のことを命ず。これ當寺の開創なり。次で大悲殿竣成し、護國寺と號し、桂昌院所持の如意輪觀音像を本尊として安置す。五月二十八日幕府寺領三百石を寄せ、命じて京都仁和寺末とし、且つ院家とし、關東眞言宗の大檀林となす。元禄七年十月十八日綱吉、桂昌院と共に當寺に參詣し更に寺領三百石を加へ、後ち、增して千二百石とす。同十年七月綱吉更に觀音堂を建つ。享保二年二月神田の護持院火災に罹りて烏有に歸せしが、幕府其再建を停め之を護國寺に合併し、護國寺を護持院と改め三月十四日護國寺の隆殿を僧正として護持院の住職たらしめ、其中の觀音堂を特に護國寺と稱し、護持院の僧をして奉掌せしむ。護持院は初め湯島切通にありて知足院と稱し、將軍綱吉の信望を繫めし大和長谷寺の僧隆光之に止住せしが、元禄元年之を神田門外に移して新たに寺基を營み、元禄山護持院と改稱し、其壯麗寛永寺に越へりと云ふ。かくて兩寺合併の後は從來幕府に於て堂宇の修理等を行ひしを、爾後兩寺の領地二千七百石の中を以て修繕の用に充てしめ、赤禁陸筑波の分院なも總管せしむ。享保九年十一月七日幕府命じて當院の住職は長谷寺の小池坊一派のものたるべき事を令す。明治維新の後ち、護持院の僧侶復飾して二寺のために磨絶せんとせしが、根生院の貞樹俊海官許を得て護國寺の舊稱に依りて之を再興し以て現在に及ぶ。

（護國寺本堂）（寶鬘）

㊂本堂は桁行樓間各七間單層、屋根入母屋造銅板本瓦葺なり。堂内に猿柱あり木理猿の面の形なすによる。月光殿は桁行七間、樓間六間、單層、屋根入母屋造、桟瓦葺にして、本堂と共に昭和六年一月國寶建築物に指定せらる。其他に藥師堂、歓喜天堂等あり。本尊如意輪觀音は元禄年中前川道壽が外國より將來せるものにして、始め上野黒縄山の潮音に奥へ、潮音より將軍家の大奥に奉り、桂昌院の持佛たりしものなり。寺寶中、尊勝曼荼羅一幅（紺本著色）は尊勝修法の本尊にして鎌倉初期の作と推考さる。また五鈷鈴一口（銅造）は此種の遺品中、形狀の整齊と製作の優秀を以て著聞し、其唐草文樓等より大略藤原時代の作と推せらる。以上二點は何れも國寶なり。其他に出山釋迦如來像一軀（伽羅木、丈長四尺）・琥珀石造觀音像一軀（明國傳來、丈長六寸五分）・同像讃歎頌文一軸（福州黄檗山隆琦外十六人筆）・福州壽山石子島觀音像一軀（丈長一尺九寸）・開浮檀金地藏立像一軀（德川家康持佛、丈長二寸七分）・大涅槃像一幅（狩野種信筆、幅五間三尺、竪十三間）・五百羅漢像四十幅（兆溪筆、幅四尺三寸、竪九尺四寸）、普門品三十三身應現圖畫八枚折屏風一雙（經文跋如法說王御染筆、讃岐禪師鵜州筆）・菊慈童一幅（有栖川宮御染筆）・諸寺緣起集一册（三十二章、撰者各別、康永四年清水清藏輯並書）等あり。境内面積は四萬七千坪に達し、櫻樹多く、地勢京都仁和寺に髣髴たり。本寺附近を音羽町と稱するは京都清水寺を模せしによると云ふ。背後の墓域を厩島と云ひ、室鳩巣、柴栗山、古賀精里、尾藤二州、三條實美、山縣有朋、大隈重信等を葬る。其南隣に豐島力圓墓所あり、舊護持院址と傳へ、維新後宮内省管轄の墓地と定められ小松、有栖川、北白川各宮家の御墓あり。

傳通院　東京市小石川區表町

㊀淨土宗。

㊁無量山壽經寺と號し、稱光天皇應永二十二年了譽聖冏の開創する所なり。初め聖冏の弟子にして增上寺に主たる酉譽聖聰、草庵を小石川窪に結び下總横曽根に在りし師を請じて無量寺と號す。之れ即ち當寺の濫

鶴なり。慶長七年、徳川家康の母傳通院（阿大の方）伏見城に歿せしが、遺骸を江戸に迎へて小石川に葬る。増上寺存應、將軍に請ひて聖閣の遺蹟無量寺を此地に再興し、傳通院と以て寺號となし、弟子廓山を以て中興第一祖と定めたり。同十八年關東十八檀林の一に加はる。同十九年、傳通院殿十三回忌の際本寺に三百石を寄進し、千部の法會を修す。元和九年三月二十九日朝廷、當時の住職隨波に永代紫衣の風諭あり更に明治二年勅願所の綸旨を賜はる。舊寺領六百石なり。

（傳通院本堂）

㊁本堂・庫裡・經藏其他整備す。塔頭編纂院の大黒天堂及び澤藏稲荷社には賽者多し。墓地に阿大の方、豐臣秀頼の室千姫の墓あり。又享保無縁塚には、享保六年の大火に燒死せる者三百八十餘人を葬る。

大乘寺 東京市小石川區白山前町。

㊀日蓮宗。

㊁十行山と號す。開山は日向上人にしてもと相州竹ケ鼻に在りしが、天正十八年德川家康の命により江戸谷中に移る。元祿三年七世日了の時より水戸德川氏の菩提寺となり、年々米七十俵を寄進せらる。從來京都本圓寺末寺たりしが（同十三年德川光圀の請により久本寺と云ふ。寺寶に後陽成天皇宸翰・德川光圀の書等あり。

安閑寺 東京市小石川區戸崎町。

㊀眞宗大谷派。

㊁天皇山と號す。安閑天皇屑御せらるゝや（皇紀千百九十五年）、帝の寵臣大伴金枝其子金慶と共に河内國石川郷に閑居して高屋の山陵を守護し奉る。推古天皇二年金枝出家して玲龍といひ、己が邸宅を寺院に改めて天皇の冥福を祈る。聖武天皇の御宇これを高屋に移し、天皇山安閑寺と稱す。これ本寺の草創なりと寺傳す。中世眞言宗を奉じたり。建武年中兵火に罹りて堂宇什寶等悉く灰燼に歸し、三河國寶飯郡に移轉す。天正年中住持善歓、本願寺教如に歸依し、これより眞宗に屬する事となれり。慶長の頃江戸市ケ谷に移り、正保二年更に轉じて現在の地に到る。元祿年中第三十八世利支、濟世利民の目的を以て灸術の施行をはじめ、幣來安閑寺灸の名四方に喧傳せられ、今に盛なり。

本法寺 東京市小石川區小日向水道町。

㊀眞宗大谷派。

㊁高源山と號す。文明年中、蓮如一寺を近江國堅田に建立し、己が像を彫みて其子蓮淳に與へ、且つ此の寺に住せしめたるを以て、當寺の草創となすと傳ふ。元亀年中兵燹に罹り、堂宇燒亡す。寛永四年、住僧教映、大谷派本願寺第十三世宣如の命により、寺基を三河國大塚村に移す。延寶三年教映の子眞秀（中興開山）同所に支院を殘し、新たに一字を江戸牛込に遺營し、幕府より獨禮乘輿の格を與へらる。寶永二年現在の地に移轉す。

㊂寺寶に蓮如木像一軀・傳顯如筆石山役消息二通・堅田御坊建立條目等あり。

新長谷寺（目白不動） 東京市小石川區關口駒井町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁東豐山と號す。元和四年大和長谷寺小池坊秀算、將軍秀忠の命により堂宇を中興せりと云ふ。寛永年中將軍家光鷹狩を此地に行へる時、目黒不動（瀧泉寺）に對して目白と稱せしむ。元祿年間桂昌院により諸堂宇修造され、輪奐の美を極めたり。然るに享保十六年回祿の災ありて諸堂宇炎上し、元文四年再建さる。府内八十八箇所第五十四番札所なり。

㊂寺域は關口の高丘千餘坪の地を占めて眺望に富み本堂・庫裡・講堂・客殿等の諸堂宇は懸崖上に並立す。寺寶に不動明王像・五大明王像・地藏菩薩像等あり。

瑞祥院（積殺寺） 東京市本郷區龍岡町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁天澤山と號す。寛永元年春日局（瑞祥院殿）、將軍家光より境内除地一萬坪及び秀忠の明御殿を得て當寺を創建し、智川周鎮を招きて開山となす。幕府朱印三百石を寄せたり。慶安二年、局の七回忌に際し、稲葉正則並に堀田正盛の請に依り、只後兩家なして、本寺の修理を掌らしむ。寺名もと報恩山天澤寺と稱せしが家光の命により、現號に改めしめたり。

㊂境内千六百坪、堂宇は本堂・庫裡・書院・春日局靈屋等を具ふ。所藏の寶物には、德川家康の感狀・同秀忠の文書・明兆筆十六羅漢像十六幅・牧溪筆寒山拾得畫一幅・探幽筆春日局像一幅等あり。

㊃春日局法要（九月十四日）、開山忌（二月二十六日）其他。

靈雲寺 東京市本郷區湯島新花町。

㊀古義眞言宗。

㊁寶林山佛日院（一に大悲心院）と號し、高野山金剛峯寺に屬す。元祿四年新安流開祖淨嚴（覺彦比丘）柳澤保明の歸依を受け、幕命によりて本寺を創建す。幕府本寺を以て關東眞言律宗の本寺とし、寺領百石を附す。淨嚴の後ち、惠光、惠藏等の名僧輩出し、寺運大いに揚る。現に新安流の根本道場なり。

㊂本尊大元明王像は德川綱吉の筆なりと云ふ。鐘樓の鐘は本寺開創の際鑄造せしものにして淨嚴の記銘あり。寶物中、諸尊集會圖一幅（絹本著色）は諸々の佛菩薩天部明王の像を五段に描くものにして、巨勢金岡筆と傳ふるも、鎌倉時代の作と推定せらる。もと酒井抱一の所藏なりしを寄進せるものなり。吉野曼荼羅一幅（絹本著色）は土佐吉光作と傳へ、大和吉野山を背景にして諸尊合計二十一體を描ける垂迹畫の一種なり。描法色彩優美にして畫趣掬すべし。十六羅漢圖十六幅（絹本著色）は顔輝筆と傳ふれど、日本畫にして室町時代の作たるべし。尚は箱の表面に明和七年修理の文字あり。彌勒曼荼羅一幅（絹本著色）は主として藤原時代の樣式を存し、金箔微金泥に彩色彩染を用ひたる鎌倉時代の作にして描風優雅なり畫面に損傷補筆多きは惜しむべし。天帝圖一幅（絹本著色）は明代道教畫の傑作にして、寶暦四年の箱書によればもと狩野探幽の所藏なりしが、後ち、將軍吉宗に獻じ、吉宗より本寺に寄せしものなりと云ふ。以上五點何れも國寶に指定せらる。

（靈雲寺本堂）

吉祥寺 東京市本郷區駒込吉祥寺町。

㊀曹洞宗。

㊁諏訪山と號し、上野國御厨永源寺末寺なり。後花園天皇長祿元年、太田持資江戸城を築くに當り、和田倉近傍にて吉祥、增上の剡銘ある銅印を得、青岩周陽を請じて其地に一字を建て吉祥院と稱せしを以て當寺の開創となす。山號諏訪山は此地、諏訪神社の社地なるによると云ふ。天正十九年第五世用山元照の代に德川家康より寺領五十石を寄せられ、時に神田駿河臺に移轉す。現地に移れるは明暦の大火後の事なり。往昔は栢禮林なる學寮あり、江戸四箇寺の一にして堂宇壯麗を極めしも、後ち漸く衰へたり。

㊂本堂・方丈・經藏等を具ふ。寺寶に毘沙門天像・觀世音木像・蝦石文殊菩薩・傳道元筆蹟二幅等あり。

圓通寺 東京市本郷區駒込宮士前町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁金剛山と號す。寛永八年海州玄壽、其緣有衛門より御茶水千四百坪の地を寄せられしを以て、即ち寺基を此處に定め、三住妙心佛海慈雲禪師を請じて開山となす。明暦三年の江戸大火に堂宇炎上す。仍つて三世島外禪察、現在寺域の内五百六十四坪を購ひて再築に着手し、寛文十二年五世鏡外知圓の代に工事落成す。明治十一年八世養心祖獻東堂、寛文年中よりの借地三百六十二坪を買得す。同二十九年九世清岳義泰、堂宇の改築を始め、十世光宗知傳の代に工成る。

㊂堂宇中、文殊堂には俗に火防文殊と稱する文殊菩薩を安置す。此堂は本寺の鎮守として元祿元年遺營せ

られしものにして本寺の屢次戒融の災禍を免れ得たるは本佛の靈驗に依るとて崇敬者少なからず。寺寶に狩野和央筆楊柳觀音像一幅・永谷法橋筆虎哉禪師像一幅・金屏風一雙（壽狩野洞春）等あり。

㊁大般若理趣分會（毎月二十五日）、火防文殊祭敬者の組織せる文殊講によりて修行せらる。

廣德寺（クワウトク）　東京市下谷區北稲荷町。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁圓滿山と號す。天正十八年、小田原廣德寺の希叟和尚江戸に來りて、現在の昌平橋附近の沼地を拓きて本寺を創建す。後ち、神田に移り、更に寛永十二年現在の地に移轉す。古く塔頭十一院を有し、乘爽獨禮の寺格にあり、加賀、富山、大聖寺、會津、柳川、秋月等諸藩主の菩提所として寺運隆盛を極めたり。現在尚ほ德雲、桂德、宋雲、觀照等の舊塔頭を有す。

㊂墓域に御生宗旭、岡三廣、岡宗冬、其他諸藩主及び其室の墓あり。

寛永寺（クワンエイ）　東京市下谷區上野公園地。

㊀天台宗。

㊁東叡山圓頓院と號す。延曆年間傳教大師比叡山に延曆寺を建てゝ皇城の鬼門鎮護とし、皇胤の長久、國土の安穩を祈れるに擬し、天海僧正（慈眼大師）、德川家光に請ひ江戸城の鬼門、忍ヶ岡精舍を構へてその鎮護とし、併せて國家の安寧と武運の長久を祷らんとす。寛永二年十一月藤堂高虎、其別業なる上野一帶の地を獻じて寺地となすや、幕府即ち前將軍秀忠の舊館及び銀五萬兩を下附して着工せしめ、また諸侯に課役して其建立を援助せしむ。即ち尾州家德川義直は常行三昧堂、紀州家德川頼宣は法華三昧堂、水戸家德川頼房は大經藏堂、藤堂高虎は東照宮、酒井忠世は其大石華表、土井利勝は五重塔と鐘樓、酒井忠勝は本地堂、堀直寄は紙園堂と大佛、永井尚政は仁王門と吉祥閣、水谷勝隆は辨財天堂等を造營す。而して釋迦堂、多寶塔、三十番神社、清水觀音堂、求聞持堂、金堂、慈恵大師堂等は天海自ら營造する所なり。數年にして工なる。十六年、藥師堂より火を發し五重塔等に類燒す。同二十年天海示寂し公海嗣ぐ。正保二年黒門を修理す。同四年後水尾天皇第三皇子守澄法親王を迎へ奉りて座主となし、輪王寺宮の號を賜はる。爾來輪王寺門跡と稱し、歴世法親王其法統を繼がれ、天台二宗を管領し、比叡、東叡、日光の三山を兼管し給ふ。依つて世に天台管領の宮と稱し奉る。同年東叡山寛永寺圓頓院の勅號を賜はり、比叡山、日光山と相並び三山と稱せられ、天台宗關東の總本寺となる。慶安元年四月天海に慈眼大師の諡を賜はり、同四年四月東照宮の遷宮を行ふ。天和二年、山城黄檗の了翁道覺、當寺域内に勸學講院を設け、經藏、講堂、學寮等の諸棟を造營す。これより一山の義學大いに振ふ。元禄十年柳澤保明等幕命により根本中堂建立に着手し、翌十一年八月落成す。九月三日中堂勅會供養を修す。次で六日東山天皇より瑠璃殿の勅額を賜はる。然るに此日偶々大火ありて東叡山に及び本坊其他燒失せしが、中堂のみ幸にその災を免る。世に是を勅額火事と云ふ。翌十二年二月本坊の再建成る。又諸大名なして交代して火番を掌らしむ。寛永六年三月下谷車坂大久寺より火發して吉祥、寶勝、楞伽、東漸の諸子院罹災す。寶暦四年十一月十二日根本中堂の修理成りて其供養會を執行す。同六年四月仁王門再興せられしも、明和九年二月二十九日行人坂の大火に仁王門、山王社等類燒す。更に同年十一月本坊より出火して靈牌所等に及びしが後ち、久しからずして仁王門を除くの外再築せらる。かくて幕末の頃には寺域上野全山三十三萬餘坪を算へ朱印一萬二千石を領し全山神嗣堂舍三十二宇、支院三十六坊、將軍霊廟七所等營を連れて輪奐壯麗を極め芝増上寺と共に江戸兩山と並稱せらる。明治元年彰義隊の據る所となり、域内の靈廟、清水堂、東照宮、大師堂、辨天堂を除く外根本中堂を始め諸堂宇悉く燒失して一山の荒廢その極に達せり。維新後、輪王寺門跡の稱を廢し、寺域一萬八千餘坪を公園とし、學校、博物館等設置せらる。明治八年政府より再興の許可を得て大慈院の舊地に根本中堂を建立し、同十八年更に大師堂の北に輪王寺門跡を建つ。同三十三年永世繼下賜の命を受け、同三十八年大師堂附近一帶の地を割して其寺域と定めらる。

㊂境内地現在四千二百七十餘坪あり、堂宇中、國寶建造物たる五重塔（三間五層塔婆、屋根第五層銅板葺

（寛永寺本堂）

他本瓦葺）はもと東照宮に屬せしも、神佛分離の際、本寺の所管となる。寛永十一年土井利勝、甲良宗廣及び次子宗久をして造營せしめたるものにして、外部總丹朱塗、全體の均衡よく、日光東照宮の塔と共に德川初期塔婆建築の代表的遺構なり。尚ほ博物館裏に靈廟あり。四代將軍家綱の廟を第一靈屋最有院廟と稱す。延寶八年造營のものは元禄十一年罹災し、現在のものは同十二年の再建に係る。權現造にして、本殿は桁行五間、梁間三間あり。屋根は銅板を以てす。第二靈屋常憲院廟は第一靈屋に隣し、五代將軍綱吉の廟所にして、寶永六年に竣成す。權現造にして、樓式極造等第一靈屋と同樣なり。共に國寶建造物に指定せらる。其他に根本中堂（藥師の像を本尊とせるより瑠璃殿と號す。もと川越市喜多院の本地堂なり）、鐘樓・釋迦堂・兩大師堂・清水堂（觀音堂）等を具ふ。寶物中、國寶の兩界曼荼羅二幅は絹本着色にして剥落補筆甚しきも、鎌倉時代の作と推定され、切箔を用ひし痕跡を存す。墳墓には歴代輪王寺門跡、歴代幕府重臣並に諸侯等のもの數多く存す。

㊃法會の主なるものは四月十四日の山王講、四月十七日の東照講、五月十五日の戊辰殉難會、十月二日の開山會等なり。尚ほ例月法華八講あり。

輪王寺（リンワウ）　東京市下谷區上野公園地。

㊀天台宗。

㊁東叡山寛永寺の本坊たり。寛永二十年寛永寺開山天海死し、弟子公海第二世となり、下野日光山輪王寺貫主を兼ぬ。德川氏公海を以て九條幸家の猶子となし、攝家門跡に列す。正保四年、後水尾天皇第三皇子守澄法親王、幕府の請により東下せられ、承應三年日光山門主となり、東叡山に住して、比叡、日光、東叡の三山を管領し給ふ。即ち幕府門室料一千石を奉る。翌明暦元年後水尾上皇、院宣を以て輪王寺の稱號を賜ひ、爾後東叡山御住職の宮を輪王寺宮と稱し、又日光御門主と稱し奉る。即ち輪王寺とは御處務の山號にして正しき親王の御稱號に非ず、東叡、日光兩山兼任の住持の門室號なり。御住居は即ち當山本院にして、勅號以來御殿又は御本坊と稱す。後ち、幕府御隠居料若干を獻じ、總祿二千五百石を領す。天海以來歴代比叡、日光を兼ね天台一宗を管領すること二百五十餘年に及びし、次で第十三世公現法親王復飾して、北白川宮能久親王となり給ひ、翌二年輪王寺の稱號、東叡及び日光兩山の本山號と共に廢せられ、比叡山延暦寺、天台宗總本山となりて一宗を管轄するに及びて一山漸く衰頽す。同十六年、兩山に輪王寺の稱號復活の官許あり、又十八年門跡號公稱許可せらる。依りて東叡山に於ては、寛永寺の外に、本寺輪王寺門跡を立つ。爾來輪王寺門跡は二寺に分れ、東叡、日光兩山相對立す。二十七年十二月上野公園開山堂南側に今の本堂、庫裡、書院等の堂宇を新築す。更に同三十九年三月屏風坂上の今の地に移轉落成し、開山堂の境地及び建造物を管理する事となれり。

（輪王寺本堂）

㊁千八百餘坪の境内に、本堂（奥ノ院）・拜殿・佛殿・經藏・唐鋼多寶塔等並立す。寶物に光格天皇御宸筆慈慧大師略號一幅・天台大師臨終畫像（住吉具慶筆）一幅等あり。歴代法親王の陵墓及び髮爪塔は當寺の西側にあり。周圍百八十間餘にして今宮内省の所管に屬す。

護國院（ゴコクイン）　東京市下谷區上野櫻木町。

㊀天台宗。

㊁東叡山寛永寺三十六坊の一にして、天海の創建に係ると云ひ、或は寛永寺創建以前より存せしを再興して三十六坊の内に加へたりとも云ふ。本尊は大黒天像にして土佐信實筆と傳へ、谷中七福神の一なり。

㊂本堂・釋迦堂其他を具ふ。釋迦堂は朱塗瓦葺二重檜木勾欄付の巨堂にして現今寛永寺關係建造物中の最古のものなり。天海僧正前代以來の戰殁者の菩提を弔はんため建立せしが、後ち、寛永寺造營の爲め當院内に移せしものなりと傳ふ。寺寶中愛染明王像一幅は絹本着色にして、鎌倉末期の作品と推定され現に國寶に指定せらる。其肉身は朱を以て彩かし、太き墨線にて輪廓を作り、金泥を盛上式に用ふ。蓮瓣に施したる微金殊に纖細精巧なり。

天王寺（テンワウ）　東京市下谷區谷中天王寺町。

㊀天台宗。

㊀護國山護法院と號し、延暦寺末寺なり。初め、日蓮東國往來の間、當地の國長耀に自像を刻して與ふ。依つて草庵を結び、像を安置せしが之れ卽ち本寺の濫觴なりといふ。應永年中、日源本寺を再興し長耀の二字を山號となして、長耀山尊重院慈應寺と稱す。後ち日長之れを中興す。寛永年中將軍家光寺地を與へ、寺領三十石を寄せしが、當時塔頭十院ありて寺運殊に盛大なりき。元祿年中、寺僧事に觸れて罪せられ、宗派を天台宗に改め、慶運入りて住す。而して寛永寺の延暦寺に模せるに倣ひ、當寺は鞍馬寺に擬し、比叡山横川圓乗院より毘沙門天像（傳最澄作）を迎へて本尊とす。東山天皇勅して護國山の扁額を賜ひ、寺中十二箇坊を置き、當寺々運益々榮え、一山堂宇の宏壯なる事寛永寺を凌げりと云ふ。明和九年回祿の災ありて日長の造營せる五重塔烏有に歸す。現在の塔は寛政三年の建立なり。天保四年現寺號に改む。明治元年戊辰の役起るや、其兵燹に罹り、本坊・五重塔の外悉く灰上す。寺域もと三萬坪に餘れるも、屢次上地して往時の盛觀を止めず。

㊁境内に鶴谷宕陰、卷蔓洞、波邊小華、蒟地寄窩等の名あり。

大圓寺　東京市下谷區谷中三崎町。

㊀日蓮宗。

㊁高光山と號す。本所法恩寺末寺なり。初め、日授上人により加賀原に創建せられ、後ち、上野清水門傍に移りしが、後ち又現地に轉じたり。正德元年幕臣大前孫兵衛重織なる者、吉田流神道の白井庄中の勸めにより攝津より瘞守藥王菩薩を勸請祭祀せしが、享保五年本寺住職日芳の代に寺内に安置す。俗にこれを瘞守（笠森）稲荷と云ふ。明和五年以後回祿に遭ふ事兩度にして、古記錄の大半を失ひ、沿革不詳なり。

㊂堂宇には本堂、稲荷堂等あり、稲荷堂には瘞守稲荷を安置し、瘡毒の者は土の團子を供へて願するに効驗著しと云ふ。

東京別院　東京市下谷區龍泉寺町。

㊀眞宗佛光寺派

㊁元照山西德寺と稱す。開基は善如にして、もと京都五條坊門に在りて、同派の一末寺たりしが、後ち今の本郷區金助町に移して別院とす。天和三年、現在の地に移轉す。

㊂本堂・太子堂・庫裡・鐘樓等整備し、寶物として傳運慶作聖德太子木像一軀・後西院天皇宮筆六字名號・法然及び親鸞筆の六字名號各一軸等を藏す。墓域に歌人苔沼斐雄の墳墓あり。

海禪寺　東京市淺草區松葉町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁大雄山と號す。もと妙心寺派の觸頭にして、江戸四箇寺の一たりき。慶長年中曾我土屋の兩侯本寺を湯島妻戀坂（本郷妻戀町）の地に創建す。明暦三年の所謂振袖火事に堂宇燒亡す。依つて圓滿方廣禪師、蜂須賀侯の援助を得て現在の地に再建す。爾來、小笠原、加藤、秋田、建部等諸侯の菩提寺たり。

㊂境内三千二百坪。墓域に梅田雲濱の墓あり。寺寶に上野天台版四千卷（德川家康五十回忌記念の印刷木版を寛永寺より品川東海寺に分本せられしものなり）。兎殿司筆羅漢圖・谷文晁筆八大龍王圖・曾我氏寄進曾我兄弟木像・賴山陽筆細註八大家文集三十卷・潤筆類百二十册・佩文韻譜二箱等あり。

報恩寺　東京市淺草區北清島町。

㊀眞宗大谷派。

㊁高龍山謝德院と稱す。二十四輩所の第一番たり。建保二年、親鸞の高弟所謂二十四輩の隨一飯沼性信、下總國結城郡横曽根に在り、大高山龍宮寺を開創し、同地附近の道場として念佛を弘む。其後、飯沼の一部を埋めて佛閣を建立し報恩寺と號す。卽ち本寺の濫觴にして正元年中に至り、自像を刻みて其女證智尼に附し、寺門彌々榮えたり。然るに天正年間に至り結城晴朝の臣田ケ谷（一に多賀谷に作る）修理大夫、本寺々領を收めてより寺運漸く退轉せり。

慶長七年江戸櫻田に移り、更に開府と共に八丁堀三丁目に轉す。明暦三年

（報恩寺本堂並に親鸞聖人笑人）

の江戸大火に遭ふや、堂宇悉く灰燼に歸し、文化三年今の地に移轉す。もと寺領三百十一石一斗なりしも、明暦大火の際朱印狀焼失せるにより、三十一石一斗に減ぜらる。嘉永年中又も戚融の厄を蒙りしが、元治元年本堂再建さる。更に明治年間に庫裡等新築せられしも、大正十二年大震災に類燒せり。もと塔頭十五寺あり、現在尙は十一寺を存す。

㊂寺寶に所謂坂東本親鸞筆教行信證一部六册・同自作木像一軀更に親鸞所持と稱する笈・珠數・蛇返しの劍等を傳へたり。尙は教行信證は具さには顯淨土眞實教行證文類と稱す。眞說元仁元年親鸞五十二歲より六十五歲の間に撰する所といひ淨土眞宗教義の綱格を決定せし立教開宗の第一書なり。本書親鸞自筆の草稿本と信じらるゝものに三あり。卽ち本派本願寺本、高田專修寺本と當寺に藏する所謂坂東報恩寺本（坂東本）是れなり。坂東本は六册にして、每半葉八行、每行十四字、弘安六年性信より明性に讓れる奥書及び明性の子性海の署名を存す。親鸞歸落に際し、箱根山中にて性信に附屬する所なりといふ。眞宗に於ける重寶たるのみならず、稀少なる親鸞眞蹟として殊に珍重すべきものなり。尙に本書は近年京都大谷派本願寺に納寄さる。

㊃每年正月十二日に性信の影前に鯉魚を獻じ、坐諸群集の中にてこれを調理する儀式あり。俗に俎開きの式といふ。これ往昔横曽根に於て、性信に歸依せる飯沼の大生天滿宮神官の鯉魚を獻じたるに由來すと稱せらる。七月十五日より三日間性信忌を修す。尙は例年八月七日寶物の虫干を行ふ。

淺草別院　東京市淺草區松清町。

㊀眞宗大谷派。

（淺草別院假本堂）

㊁信淨山と號し、俗に淺草門跡と稱す。天正十九年東本願寺十二世敎如、德川家康より神田西編寺前の地方五十間の地を得て、一宇を建立し、光瑞寺と號す。これ當院の濫觴たり。慶長十四年幕府改めて神田明神下方百間の地を寄せ、此地に移轉せしむ。寛永年中、次代宣如の時光瑞寺の號を廢し、本願寺末刹となし、輪番所となる。明暦三年正月江戸の大火に類燒し、堂宇悉く烏有に歸す。依りて德川氏より同年六月淺草北寺町に東西百二間、南北百九間の寺域を受けて堂宇を再建す。大正十二年の大震災の厄これ現在の地なり其後享保三年明和九年の兩度火災に罹りしも、信徒の淨財により、文化七年上棟式を執行せり。舊幕時代、招聘緇人の旅館に充てらる。明治年間天皇兩度御臨幸ありき。舊末院三十五寺を數へしが現在二十四寺を存す。大正十二年の大震災の厄を蒙り、現に復興計畫中なり。大谷派東京事務出張所は當院内に存す。

㊂もと、本堂・食堂・大廣間・書院・經藏・鐘樓・鼓樓・講中詰所二十四箇所等を具備せしが、大正十二年大震災に倒壞せり。寺域約一萬二千餘坪。澤東江、同東里、田邊石庵其他諸名士の墳墓あり。

㊃立花會（七月七日）。開山忌（十一月二十一日より二十八日迄）報恩講にして信者群集す。

德本寺　東京市淺草區松清町。

㊀眞宗大谷派。

㊁淺草別院の寺中末院なり。

㊂寶物中、本多正信像一幅（絹本着色、附、同夫人像一幅）は共に國寶に指定せらる。正信像は衣冠束帶の坐像にして夫人の像は法體の坐像なり。墓域に佐野善左衛門、書家五松鶴林、畫家宋紫石、同紫山等の墳墓あり。

誓願寺　東京市淺草區田島町。

㊀淨土宗。

㊁田島山快樂院と號す。淨土宗江戸四箇寺の一なり。開基は東譽上人にして、天正十八年相模小田原に創建す。後ち江戸に移り、神田白銀町（須田町）を經て、寛文元年現在の地に至るといふ。元祿十一年十六世龍譽の代に紫衣の綸旨を賜ふ。舊時は檜林の隨一にして寺領四百石を有し、塔頭十七院ありき。現存別院二宇中、安養院は元祿年中用譽の草創にかゝり、寺領百石を領したり。

㊂本堂・鐘樓・櫓門等總て舊觀を存す。尙は本尊阿彌陀如來は、安阿彌作と傳へ、尙吹如來と俗稱して著聞せり。寺寶に大黑天像一軀・開山中興上人像・阿彌陀如來像三軀・惠心僧都筆來迎圖一幅・德川綱吉筆鶴鶴

圖一幅・谷文晁筆十四幅あり。寺内墓域には諸名家の墳墓頗る多し。

幡隨院　東京市淺草區神吉町。

㊀浮土宗。
㊁神田山新知恩寺と號し京都知恩院末寺なり當宗關東十八檀林の一に列す。開山は顯蓮智薩社智聖轍隨意白道なり。慶長九年徳川家康、上人を京都知恩院より迎へ、神田の駿河臺の地八町歩並に金三百枚を寄せて、一寺を建立せしめ、神田山轍隨院新知恩寺と號す。後ち院號を以て常稱とす。元和年中湯島天神坂下に移り、同五年本堂の營成なる見たり。明暦三年正月の大火に堂宇焚上せるを以て、萬治二年更に現在の地に移轉、元祿年中寂仙の代に本堂其他改築さる。更に明和年中、關道の援助を得て、伽藍を重興す。享保年中の記錄には、境内八千餘坪とあるも、現在寺域減少し、數箇の子院また撤廢せられて、舊觀を止めず。舊寺領五十石なり。

㊂境内九百坪。寺内に開山白道の塔墓あり。
㊃開山忌（十月五日）。

（幡隨院御堂殿）

日輪寺（淺草遊行寺）　東京市淺草區芝崎町。

㊀時宗。
㊁神田山と號し、當宗々祖一遍の弟子眞教を以て開基となすも後二條天皇嘉元三年、眞教諸國を巡りて當地に至り、豐島郡芝崎村（今の神田橋近傍）の一廟（神田明神）の傍に草庵を設けて、芝崎道場と云ふ。これ卽ち當寺の濫觴なり。慶長年中徳川氏開府に際し、本寺を柳原に移す。明暦三年の大火に罹し、更に今の地に移轉す。舊幕時代には毎年正月十一日幕府進獻に當寺住職參列するを例とせり。下總佐倉、江州宮川兩堀田氏の香華寺なりき。明治十九年又も回祿の災に遭ひ、翌年再建せられしも、規模往昔の如くならず。現今當宗三檀林の一に列す。

㊂本尊は安阿彌作と傳ふる阿彌陀如來にして、外に薬師觀音、日限地藏尊等を安置す。寺内に堀田正利の墓あり。

幸龍寺　東京市淺草區新谷町。

㊀日蓮宗。
㊁妙甫山と號し、京都本圓寺末寺たり。慶長年中日幸の開創に係る。一說に天正十九年日寛、湯島に當寺を建て、寛永年中現在の寺地に移るとも云ふ。舊寺領百五十石なり。三代將軍徳川家光はその乳母大塙の所願報賽として五十石を寄せ、又天和三年甲府殿綱重の母藤枝なつを當寺に葬るや、佛供料二十石を賜はり、更に寶永年間百石の追福料を寄進せしといふ。

㊂正面に祖師堂あり、子坊十院は今に往昔當寺の盛觀を傳へて餘りあり。墓域に藤枝なつの墓あり。

總泉寺　東京市淺草區橋場。

㊀曹洞宗。
㊁妙亀山と號す。開府六箇寺、府内三箇寺の一たり。本尊は千葉守胤の念持佛にして千葉聖觀音と稱せらる。開山は慶叟宗俊禪師にして千葉氏の香華所たり。中興開基を千葉介守胤とす。一說に此地は往昔淺茅原と云ひ、圓融天皇貞元年間梅若丸の母此地に於て剃髮し、妙喜と稱し草庵を結びたる遺址なりと云ひ、以て當寺の開創に擬するものあり。近世寺祿二十石を領し、又四庵六寮を有したり。

㊂境内に守胤の石塔、宇都宮頼綱の碑、平貞源内の墓あり。又寺域西南方に鏡ヶ池の古址あり、妙喜尼此池中に梅若の姿を見て己も投身せりとぞ。

法源寺　東京市淺草區橋場。

㊀浮土宗。
㊁歸命山無量壽院と號す。寶龜元年智海の開創に係ると傳ふ。往昔は砂尾天濱道場と稱せしが、保元年中保元寺と改めたり。寶德元年增上寺西譽の弟子西仰堂宇を修理す。爾來浮土宗に屬し、現寺名に改めたり。また增上寺の出世寺と稱せられ、當寺の高足入つて增上寺に住持するを例とせり。而して府内二十五箇寺の觸頭たりき。後ち圓譽之を中興す。

㊂本堂は瓦葺にして覺王殿の金字額を掲ぐ。寺内に齊藤實盛の石塔あり、銘に壽永二癸卯五月とあり。また梶原景道の五輪の石塔は延文二庚戌十月の日附見ゆ。此外板碑少なからずして、文永九年のもの（幅一尺餘、上部缺失）及び嘉元三年のもの（長二尺幅八寸側面少損せり）は有名なり。

淺草寺（淺草觀音堂）　東京市淺草區淺草公園地。

㊀天台宗。
㊁金龍山と號す。坂東三十三所第十三番札所たり。淺草の寺號は地名に據り金龍の山號は、白雲深處金龍躍の句に基くといふ。本尊は長さ一寸八分の聖觀音黃金佛にして、古來秘佛として寶龕を啓くを許さず。維新後當局の檢閲ありしも、外緘は徳川家光の封なりと云ふ。本傳は古傳に推古天皇三十六年、土師臣中知なるもの、其臣檜前濱成、同武成と共に宮戸川に於て、漁網にかゝれるものなりと傳へ、因つて主從一宇を營みてこれを安置す。これ當寺の開創なりと云ひ、現在馬道六丁目の俗稱翠堂を以て其舊跡となす。大化元年海鵬上人當地に來遊し、寶塔を建立す。因つて是を本寺の開山とす。此時上人本尊より奇異の靈告を受け、以後秘佛として拜する事なしといふ。文徳天皇天安元年中興開山悲覺大師（圓仁）堂宇を增建し、亦本尊の御前立（開帳佛）として一尺八寸の觀音像を刻みて、これを安置す。朱雀天皇天慶年中、平將門の亂に、兵燹に罹りて堂宇悉く灰上す。依りて同五年平國香の弟公雅現在地に於て再興し、本堂、寶塔、經堂、鐘樓、樓門、法華行堂の六所社壇を建立し、又田園數百町歩を寄進す。これより靈名遠近に振ふ。後朱雀天皇長久二年關東の大震に遭ひて堂宇崩壞せしが、後冷泉天皇永承六年寂圓阿闍梨來つて再興の功を遂ぐ。自河天皇嘉祥三年疱瘡の災に遭ひて堂塔再び烏有に歸せしも、堀河天皇承徳二年源成實新に堂宇を營む。源義朝また厚く當寺を尊崇し堂塔の修理を加ふ。文治年中源頼朝、平氏討滅の所願成就報賽として、寺地三十六町歩を寄し、居利尊氏又五十町歩の寺地を加增す。後亀山天皇天授四年又も回祿の災に罹り、應永三年定濟上人再興せしも天文四年堂塔十度灰燼に歸し、同八年北條氏康造建す、徳川氏江戸入城の際、寺領五百石の朱印を受く。寛永寺建立後は同寺輪王寺宮の兼帶所となる。其後寛永十九年、慶安二年の兩度本堂火災に遭ひしも、徳川氏より新築され、享保六年、寛政元年及び其後數回の修築を經て今日に至る。維新後、寛永寺と分離し、總本山延暦寺の直轄となり、一山の事務は傳法院に於て取扱ふ事となせり。明治六年寺域全部を淺草公園となす。近年政府に請ひ、公園の中を寺地に復す。各種の娯樂機關四圍に設けられ、賽者日夜雲集す。大正十二年關東大震火災に、回祿倒壞の災を免れ、近時愈々信徒の尊崇更に厚きを加へり。古來當寺の別當寺として聞ゆる傳法院は大化元年海鵬上人を以て開基となし、慶長元年天海僧正中興して觀音院といひしが、後年知樂院、

（淺草寺五重塔（重要國寶））

又傳法院と改稱す。

㊂本堂は一に觀音堂と云ひ慶安三年起工し、元祿五年に竣成せしもの、桁行七間、梁間七間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺にして、正面に向拜を附す。外部は總丹漆、内部は總拭板敷にして、天井、欄間、長押、蟇股、虹梁、斗栱等總て華麗なる極彩色を施せり。其壯大なる結構堅固堅實なる手法は徳川時代建築の一傑作たる名を恥かしめず。五重塔は本堂の東南方にあり三間五層塔婆、屋根銅板葺にして慶安二年の建造に係る。二者共に國寶建造物に指定せらる。其他山門（仁王門）・輪蔵（經堂）・傳法院・藥師堂・閻羅殿・二天門・念佛堂・淡島堂・淺草神社（神社鶯塗照）等の建造物あり。寺寶中、紺本墨書法華經（開結共）十卷は大藏經（元版、五千四百二十八卷）と共に現に國寶に指定せらる。其他唐書紫檀北極圖一幅・奏道子筆觀世音像一軀・栗田口國吉作短刀一口等あり。

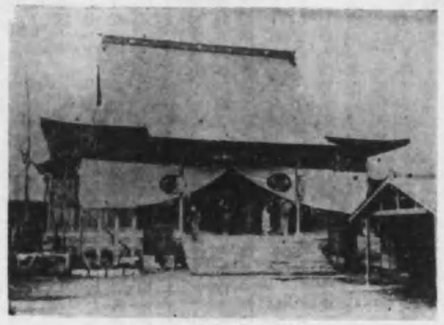
㊃御茶湯日（毎月一回）、湯立（一月十七日）、亡者送り（一月十八日）・三社祭禮（五月十七日、十八日）、十日參（七月十日）俗に四萬六千日謂といふ。菊供養（九月九日）、年の市（十二月十七日、十八日）當日堂前にて福茶の袋として麻布の茶袋に一文錢を入れたるもの及び豆逢磨を賣ぐ。福茶の袋に茶を入れて呑み、又家族の數より一箇多く豆逢磨を購ひて神棚に置けば家内に幸福ありといふ。

回向院　東京市本所區東兩國二丁目。

㊀浮土宗。
㊁國豐山無緣寺と號し、芝增上寺末寺なり。明暦三年正月江戸に大火（俗に振袖火事と云ふ）あり。延燒する事六百餘町、死者十萬八千人に及ぶ。幕府、增上

寺二十三世道榮貴屋なして、其屍骸を一坑に埋葬して供養せしめ、本所牛島新田に方二町の寺地を與へて一寺を建立し、諸宗山無緣寺と號す。これ本寺の草創なり。遵學の次に小石川智香寺の自心第二世となり、爾來不斷念佛を修して、横死者の冥福を祈る。萬治年中奉行所、牢死、刑死の亡者追善の爲に境内に三佛堂を建立す。其後諸國の靈佛多くは本院に於て開扉す。又寛政以後年々寺域内に於て勸進相撲を興行せしは周知の事實なり。

創建以來本堂は天和元禄、天明、安政の數度爲上せり。安政二年江戸市中大震あり。その死者二萬五千人の精靈を寺内の供養大佛（明暦大火の死者の冥福を祈る爲め設けられたる萬靈供養靈塔を云ふ）に合葬す。大正十二年九月の關東大震火災に大佛を除き、堂宇悉く烏有に歸す。此時の殉難者十餘萬の靈骨をも大佛に合葬す。其後、假建築の堂宇を營み、また繪樽を大震記念として再建す。



（回向院假本堂）

㊁境内一千百五十八坪餘ありて、本堂・庫裏・鐘樓・萬靈供養靈塔等を具ふ。寺寶に菊池容齋筆の五百羅漢畫像を藏す。もと十五幅ありしも大正十二年震災の際十二幅を失ひ、現存せるは釋迦三佛像、十六羅漢、十大弟子の三幅なり。境内に明暦大火供養碑、加藤千蔭、山東京傳、鼠小僧次郎吉等の墓あり。

彌勒寺　東京市本所區林町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁萬德山金剛院と號す。本尊藥師如來は俗に川上藥師と云ひ、當寺開山宥鏤の持佛なりと傳ふ。德川家康深く宥鏤に歸依し、日本橋馬喰町に一町四方の地を與へて、當寺を創建せしむ。次いで秀忠、本所三ノ橋の南方一町の地を寄せて移轉せしむ。當時は當宗四箇役寺の一として、一派の事務を督せり。天和二年更に今の地に轉ず。元禄四年、英岳住するや、將軍綱吉の崇敬厚く、同六年寺領百石を寄進す。爾後、快意、亮眞等住持となり、寺運の擴大に努む。維新後多少の變改ありしも尙ほ當宗の一名刹たるを失はず。

㊂觀光・法樹・德上の三子院あり。

最敎寺　東京市本所區向島押上町。

㊀日蓮宗。

㊁天松山慧判院と稱す。身延山久遠寺末寺なり。慶長年中久遠寺第二十七世日境を開山として、日崇の開基する所なり。初め上野池の端にあり、寛永年中現地に移る。

㊂所藏の寶物中に日蓮筆靈古退治旗曼荼羅あり。傳へて曰く、弘安の役に、將軍惟康親王、防禦の爲に自ら九州に向はんとし、日蓮に命じて日月の旗の圓中に大曼荼羅を書せしめ、先鋒の將字都宮貞綱をして、先づこれを奉じて進發せしむ。貞綱九州に到り、此旗を立つるや、颯風忽ち起り、賊船悉く漂蕩す。凱旋後貞綱此旗を賜はり、其事由を記して久遠寺に納む。其後日境甲斐より日の曼荼羅の旗を當寺に持來りて什寶とし、月の曼荼羅の旗は久遠寺に傳ふと。

弘福寺　東京市本所區向島須崎町。

㊀黄檗宗。

㊁牛頭山と號す。もと香積山と稱する小庵にして隅田村（現、向島區隅田町四丁目か）に在りしが、延寶元年（一説に二年）黄檗木庵の弟子鐵牛これを現在の地に移し、稻葉美濃守正則の援助により堂宇を造營す。且つ此時より現在の寺號を唱へたり。爾來上下の歸依浅からざるものありきと云ふ。

㊂堂宇には佛殿・客殿・庫裏等あり。門前に府内七福神の内なる布袋尊像あり。墓域には稻葉正則、池田治政、俳人建部凌岱等の墳墓存す。尙ほ山門内左方に菊盆二人の石像を安置せる小堂あり。小兒の咳病に靈驗著しと稱せらる。

長命寺　東京市本所區向島須崎町。

㊀天台宗。

㊁高野山靈照院と號す。初め圓仁の開創に係り、寺號を慈恵山寂光院と稱せしが、德川家光、現稱に改めしめ、寺地三八百餘坪を賜へり。且つ事跡の靈驗少なからず、毎年金二百兩を寄せたりと傳ふ。安政二年の震災に堂宇崩壞し、明治初年、假本堂造營せられたり。

㊂堂宇は大正十二年の關東震災に悉く烏有に歸し、其後改築せられ、長命水のみ往昔の面影を止む。

㊃大正十二年の震災後、法要は總て中止の狀態にあり。但し正月七草迄は府内七福神の一なる辯財天を祭れるにより參者多し。

法恩寺　東京市本所區太平町。

㊀日蓮宗。

㊁平向山と號す。初め江戸城主太田道灌、亡子源六の爲に、江戸城中平川口に一宇を創し、日住を請じて開山となせしを以て本寺の濫觴となす。もと本住寺（一説に本住院）と稱せしが、大永五年太田資高（道灌の孫）、父資康十三回忌を本寺に於て營みし時、資康の法號法恩寺日恩に因みて法恩寺と稱せしむ。永禄二年の頃、寺領十八貫文を有せりと云ふ。慶長年中、谷中に移り、元禄元年現在の地に到る。現今本所區横川橋の龍勢妙見堂を管理す。

㊂疱師堂には日法作と稱する日蓮の木像を安置す。法泉・陽運・千榮等の舊子院あり。寺内に太田道灌、日住の古塔あり。

靈山寺　東京市本所區横川橋一丁目。

㊀淨土宗。

㊁常在山二尊院と號す。慶長六年德川家康、江戸駿河臺梅坂に於いて二萬坪の地及び白銀七十貫を專學大超に寄せて一寺を建立せしめたるに由來す。而して朱印五十石を附し、關東十八檀林の一に列せしむ。寛永十二年幕府より本郷老蟲坂の地二萬坪を得て移轉す。明暦三年正月の江戸大火に堂宇類燒し、檀林の稱號は一時大澤の圓通寺に移りしが、眞享年間諸學の代に舊に復せり。元禄元年現在の寺地一萬坪を相して之に移る。明治二年勅願所の綸旨を賜はれり。大正十二年九月の關東大震火災に堂宇悉く烏有に歸せり。大正十二年九月の關東大震火災に堂宇悉く烏有に歸せしが、直ちに四方の淨財を募りて再建に着手し、昭和七年五月本堂以下の諸宇竣成す。

㊂堂宇は大門・鐘樓・本堂・庫裏・書院等を具ふ。

常泉寺　東京市本所區小梅。

㊀日蓮正宗。

㊁久遠山と號す。駿河國富士郡大石寺末寺にして、もと天台宗に屬せしが、慶長元年日是の時、今の宗派に改む。第七世日顯の時、德川氏寺領三十四石の朱印地を寄進す。日顯は京都の產にして德川家宣の夫人天英院關東入輿の際これに從ひて東下し本寺に住す。

㊂本堂・客殿・庫裏等を具へ、舊子院本行、本種の二坊は表門より本堂に到る間にあり。寺寶に釋迦坐像一軀、德川家宣持佛毘沙門立像一軀、曼荼羅一幅等あり。寺内に家宣の養女政姫、天英院所出の兒女、家宣の侍妾齊宮局等の墓あり。

淨心寺　東京市深川區海邊町。

㊀日蓮宗。

㊁法死山と號す。甲斐身延山久遠寺末寺にして淨心院日求尼を開基とす。日求は德川家の老女にして、俗名を三澤といひ、もと小堀遠州政一の妾たりしが、寛永年中德川家綱の乳母となり、後ち大奥に仕へて重用せられ、明暦二年殁す。翌年深川の地一萬坪を賜りて當寺を建立し、日義を招じて開山とす。幕府供養料朱印高百石を寄進す。天和二年戚城の厄に罹りしが、三世日成、眞享三年再建し、十五世日霜に至りて諸堂略ぼ完成す。各本山靈塔の開帳供養並に布教は當寺に於て擧行せらるゝ事多く、都下の一名刹たるを失はず。

㊂本堂・祖師堂・朝師堂・鬼子母神堂・七面堂・妙見帝釋堂・客殿・庫裏・塔頭八院等を具備し、境内地一萬六千坪あり。寺域に阿部豐後守、間宮林藏、手柄岡持等の墓あり。

本誓寺　東京市深川區海邊町。

㊀淨土宗。

㊁當知山重願院と號す。文龜元年西關の開創と云ふ。もと相模小田原にありしが、文禄四年第六世文賀、德川家康より寺地五千餘坪を得て、江戸八重洲河岸に移る。後ち更に寺領三十石を與へらる。慶長十年馬喰町に移り、明暦三年江戸大火の後ち、更に現地に移轉す。其後、享保、寛政の兩度表上せしが、文政年間再建さる。これ現在の堂宇なり。明治六年常陸江戸崎の大念寺より檀林號を本寺に移す。近世細田行誠及び同循誘住持して、寺運大いに振ふ。

㊂境内地四千二百餘坪あり。表門の樣式は他に類例を見ざる特異のものにして瘞鶴又は支那樣式のものに類似す。稱名、江月、常照の三子院あり。寺域に村田春海の墓あり。

靈巖寺　東京市深川區海邊町。

㊀淨土宗。

㊁道本山東海院と號す。淨土宗關東十八檀林の一にして檀蓮社雄譽松風靈巖の開創に係る。寛永元年、靈

廉安房に在り。江戸に一寺を建立せんとして出府し、後ち茅場町邊に草庵を結びて布教に専念せしが、當時日本橋の下十町餘の地に向井忠勝の屋敷地あり、之を請ひて以て寺境となさんとす。霊巌、寺地を相するや、貴賤男女相海へて群集し各土砂を運搬す。霊巌又一々これに十念の血脈を授けて其工を督す。半歳ならずして重積の土砂海潮を防止し、蘆草茂生し、海潮潤潤なる窟地化して自ら一島をなすに至る。霊巌島の名此處に起る、

因て諸堂宇を建立して道本山霊巌寺と號す。霊巌に別時念佛會等を修し常に貴賤男女歸依群集す。

（霊巌寺新本堂）

寛永四年六月將軍秀忠の請によりて幕府に法門を說く。翌五年幕府の隣地寄進せらるゝに及びて寺境四方六町に及ぶ。同時に本堂・庫裡・總門・中門・鐘樓・子院・學寮等を增築し景觀大に整ふ。明暦三年正月十八日祝融の災に罹りて堂塔烏有に歸す。萬治二年三月十八日第三代大樂阿山の時幕命により今の地に移して再興の工を竣ふ。依つて大樂阿山を以て當山の中興となす。寛文五年七月十一日幕府葛西大島付の内五十石を寄進す。後ち再び燒失し、享保年間再建せしも明和八年八月十一日重れて燒失の厄に遭ふ。安永年間再建せしも寛政九年十一月二十二日麻布の大火に延燒して僅に講法堂等を殘すのみとなる。文化年間再建、文政元年正月二日又灰燼に歸す。後ち漸次修建の事ありしも明治十四年一月二十六日神田の大火に類燒す。同二十一年三月再建の工を竣へ本堂、庫裡、子育呑龍堂、經藏、表門等の景觀成る。近く大正十二年關東大震火災の厄に遭ひて堂塔再び烏有に歸す。

㊁舊子院に雄心院、正覺院、長專院、成等院、華嚴院、開善院、松林院、蔡華院、雙樹寺、安禪寺、不動寺、濟生院、攝心院、安民寺、本應寺、光明寺、弘蓮寺、圓通寺、勢至院、法性寺、清澄院あり。墓域に本多忠統、松平定信、松平外記等の墓塋あり。正覺院に並木五瓶の墓、成等院に紀伊國屋文左衛門の墓、攝心院に小山田與清の墓、安禪寺に御下亭稱眞の墓、本應寺に崩瀧榮齊の墓あり。

東海寺　東京市品川區北品川二丁目。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁萬松山と號し、本宗別格寺たり。寛永十五年の創建にして、開基は德川家光、開山は澤庵宗彭なり。澤庵初め京都大德寺にありしが、事に座して出羽國に流さる。後ち、赦されて江戸麻布に居る。三代將軍德川家光深くこれに歸依し、此地に在りし長德寺等を他に移して本寺を建立す。同十七年堀田正盛境内に臨川院を建つ。翌十八年酒井忠勝長松院を、二十年細川光尙妙解院を、正保元年小出吉親雲龍院を建て、赤穗年石記、嗣堂記を作る。翌二年澤庵遷化す。依つて爾後寺務は塔頭輪堂之を掌ることゝせり。元祿七年奏上せるを以て將軍綱吉殿中の一殿を與へて本坊となす。明治四年堂宇再び祝融の災に罹り、加之飯道路繁數設され、寺域著しく舊觀を害ふ。もと寺領五百石、境内五萬餘坪、塔頭十七院を有して堂塔輪奐の美を誇りしも、今は纔かに舊塔頭春雨庵に本尊釋迦像を安置して本寺に代用せり。

㊂寺域に澤庵の墓ありて、墳上に天然の儘なる一巨石を置けり。賞蔑眞淵の墓亦本寺にあり。寺寶に傳運慶作十六羅漢像十六軀・由良氏傳來の佛舍利等を藏す。

妙國寺　東京市品川區南品川二丁目。

㊀顯本法華宗。

㊁鳳凰山妙國寺と號す。創建は弘安八年にして、日蓮の弟子天目を開山とす。天目は嶋年品川に居住せしが弟子日眼其舊草庵を改めて鳳凰山妙國寺と號し天目を以て其開基となす。長禄年中領主鈴木充純七堂伽藍を建立し上杉持氏また本寺を以て其祈願所に充つ。德川氏江戸入府の際、當寺に宿泊し、朱印十石を寄進し、且つ寺域二萬二千餘坪を免役地となす。鈴木充純の建立せる高十三間の五重塔は慶長十九年暴風の爲め倒壞す。三代將軍家光の崇信厚く、癈詣四十度に及び寛永十一年には堂宇を再建修造せりと云ふ。後ち幾何もなくして再び祝融の災に罹りて堂塔悉く失上す。

㊂仁王門に奉安せらるゝ仁王尊は、もと江戸城内に在りしを德川家光當寺に寄進せしものなりと云ふ。

海雲寺　東京市品川區南品川三丁目。

㊀曹洞宗。

㊁龍吟山海雲寺と號す。本尊は十一面觀世音なり。海晏寺末寺にして、建長三年不山の開基に係る。もと瑞林院と稱し、海晏寺境内にありて臨濟宗を奉ぜしが慶長元年海晏寺と共に現宗に改め、寛文元年海雲寺と改稱す。後ち、現地に移る。大正十二年の關東震災に堂宇悉く倒壞せしも第二十一世横川得諜信徒の淨財を募りて再興す。

㊂寺域八百二十八坪あり。諸堂中荒神堂に安置せる千體三寶荒神は毘首羯磨作と傳へ、寛永十五年島原の亂に鍋島直澄、肥後國天草郡の荒神嗣に安置せし本像に祈りて大いに戰功を博せるものにして後ち寛永二十年、故ありて當山に奉安せらるゝに至ると云ふ。脇士の飢渴神、障碍神は明和七年鍋島氏の寄進に係る。土俗これを開運出世及び道の神として、賽者頗る多し。寺寶に永平寺臥雲の扁額等あり。

㊃大祭（三月二十七日、二十八日、十一月二十七日、二十八日）、緣日（毎月一日、十五日、二十八日）。

海晏寺　東京市品川區南品川五丁目。

㊀曹洞宗。

㊁補陀落山と號し、三田功運寺末寺なり。後深草天皇建長三年當地附近の漁朝に大鮫入る。其夜中に聖觀音の木像ありしを、北條時頼一宇を建てゝ奉安し建長寺の道隆を開山とす。これ當寺の草創にして、鮫の死後海上安穩となりたれば、海晏寺と稱すと傳ふ。もと百八十貫を領せしが、後ち寛頼すと傳ふ。慶長元年に至り、廢存により再興され且つ此際臨濟宗より現宗派に改めらる。

㊂古來楓樹を以て其名著はる。城内に松平春嶽、同茂昭、岩倉具視等の墓塋あり、又門前に北條時頼寄進の古塔あり。宝物に傳弘法大師作辯財天像・岩倉具視守本尊大日如來像・德川家康駿斗目を以て作れる七條袈裟等あり。

（海晏寺本堂）

長泉院　東京市目黒區中目黒一丁目。

㊀淨土宗。

㊁高峰山大玄寺と號す。初め增上寺四十五世成譽大玄、陸奥無能寺の不能を招ぜんとして果さず。寛暦十二年其弟子千如、先師の遺志を繼ぎ、蓮馨寺の敬意と共に一宇を建立して不能を招ぜ。これ當寺の開創なり。時に清泉俄に湧出せるを以て長泉院と號す云ふ。偶々不能入寂せしにより、翌十三年京都より世寂を請じて住せしむ。而して大玄を開山第一世とし、今に至る迄十一世累代相承す。大正十二年の大震火災に本堂倒壞し、現在は庫裡を以てこれに代用し、別に庫裡を新築す。

㊂本堂・庫裡・鐘樓等を具へ、涅槃像・開山、二世、三世の像を所藏す。

㊃大悲講法會（毎月十五日）、羽照講法會（毎月二十五日）。

祐天寺　東京市目黒區中目黒三丁目。

㊀淨土宗。

㊁明顯山善久院と號し祐天の遺跡なり。祐天名は愚心、顯學と號す。幼名を三之助と云ひ、西村善内の子なり。陸奥國岩城郡新倉村に生る。十二歳にして伯父僧休波に從ひて江戸に來り增上寺内なる池德院に從學し後ち袋谷の檀頭に投じて制度す。間遂學を求むるの意なく年五十にして念に增上寺を去りて四方に雲遊す。後ち歸來して江戸牛島に閑居せしが、元祿元年十二月增上寺大僧正了也、祐天を具して登營し、將軍德川綱吉に謁す。母公桂昌院尼深く其高德を仰ぎ、歸崇頗る厚し。次で同公の推擧により生實の大岩寺を兼す。慶長元和の際、宗制を定められて以來、衝門より直に檀林に住すること之を以て嚆矢となす。翌年飯沼の弘經寺に移り後ち又幾許なくして江戸小石川傳通院に移る。將軍綱吉の信任特に厚く寶永年間富士山降灰の際、綱吉が諷諫して却つて物を賜ひて之を賞せられしこと汎く人口に膾炙せり。正德元年補せられて增上寺の貫主

となり即日大僧正に任ず。同四年寂老によりて職を辭し、麻布に隱栖し、享保三年七月十五日寂す。年八十二。遺骨を舊迹に藏め、一宇を創立して其骨像を安置す。將軍吉宗殊命あり て其弟子祐海を住持となし、號を祐天寺と稱ふ。これ當寺の開創なり。

（祐天寺本堂）

㊁寺域六千六百餘坪を有し、本堂、阿彌陀堂、地藏堂等を具ふ。阿彌陀堂に安阿彌作と傳ふる阿彌陀像を安置す、西方六阿彌陀第六番の靈場なり。尚ほ當域に祐天の墓碑あり。

五百羅漢寺（ごひやくらかんじ）　東京市目黒區下目黒三丁目。

㊀黃檗宗。
㊁天皇山と號す。初め鐵眼の弟子松雲、五百羅漢造立の事を立願し、貞享以降、江戸市中を托鉢する事十餘年、鐵牛性機、慧極道明及び將軍綱吉母公桂昌院、淺野長矩等の支援を得て元祿八年に至りて丈六の本尊釋迦如來以下五百三十六軀の羅漢像等悉く成る。同年將軍綱吉より府下大島町に寺地の寄進を受けて假堂を營み、これらの像を安置す。これ本寺の開創なり。而して松雲は其師鐵眼を開山第一世に擬し、自らは第二世となり、大伽藍の造立を計りて四方に奔走せしも、其事成らざる程に寶永七年示寂す。因りて第三世巢先其遺志を繼ぎ、華嚴經八十卷を血書して大願を起し、遂に壯麗なる堂宇を建立す。時に享保十二年にして將軍吉宗より三千餘坪の地を寄せらる。安政年中震災、暴風相續きて堂宇大破す。明治二十年本所緣町四丁目に移轉し、同四十二年現在の地に轉予。大正十二年關東大震火災の厄に遭ひて堂塔著しく損傷せられ、近時之に修理を加へしも尚ほ舊觀に及ばず。

㊂堂宇は本堂・庫裏・鐘樓等を具へ、寺寶として松雲作の丈六釋迦像及び五百羅漢像、巢先筆血書華嚴經等を藏す。境内五百五十坪あり。

㊃羅漢法會（毎月二十八日）。

瀧泉寺（ろうせんじ）（目黒不動）　東京市目黒區下目黒三丁目。

㊀天台宗。
㊁泰叡山と號す。大同年間慈覺大師の草創に係り、本尊不動明王は大師東國巡錫の御、土人の請を容れて日本武尊の尊像を造りて內陣に安置せられしものと云ふ。然るに此像の左手に切縄を持ち、右に草薙劍を提げて火災の中に立たる形相、不動に類似せるを以て、後世誤りて不動と呼べるものなりと稱せらる。又一說に本像は品川常行寺護摩堂の本尊を移せるものなりとも云ふ。貞觀二年清和天皇より泰叡山の勅額を賜ふ。然れども元和元年不幸燒失せるにより、今は後水尾天皇宸筆の額を山門に揭ぐ。德川家光、放鷹の本陣を本寺に置きてより以來、目黒不動の名況く人口に膾炙するに至る。寛永十一年堂宇の修理改築完成し、其壯麗偖に目黒御殿と稱せられたり。

㊄境内五千八百九十二坪、獨鈷の瀧、青木尾陽の記念碑（甘藷塚）等あり。堂宇は本堂・柴燈堂・前不動堂・勢至堂・鐘樓・奥ノ院等を具ふ。寺寶に聖德太子像・大日如來像等あり。

（瀧泉寺本堂）

㊅節分會（二月節分の日）、煙取開帳（十二月十二日、十三日）。

圓融寺（えんゆうじ）　東京市目黒區碑文谷一丁目。

㊀天台宗。
㊁古くは法華寺と云ひ、もと日蓮宗にして弘安六年僧日源の開基に係る。元祿十一年十八世日付、罪ありて八丈島に配流の際、本尊日蓮像を堀ノ內妙法寺に移す。爾來當寺天台宗に歸して上野寛永寺末寺となり、慶尊之が中興第一世となる。後ち延壽寺に屬して法王山圓融寺と改む。

㊂堂宇中、本堂（釋迦堂、桁行三間梁間四間、單層屋根入母屋造、茅葺）は現に國寶建造物に指定せらる。樣式手法等總て唐樣にしてよく禪宗建築の特色を表し、其細部の手法より觀て慈ちくは室町初期の遺構なるべし。俗に之を釘無しの象堂と云ふ。境内面積は約三千坪なり。

（圓融寺本堂）（國寶）

照榮院（しやうえいいん）　東京市大森區池上本町。

㊀日蓮宗。
㊁訓慶山立善講寺と號し、本門寺塔頭の一にして同寺三院家の一たり。正應四年、日朗の開創に係る。日朗寂後六十餘年にして廢絕せしが、元中年間に至り日義之を再興す。爾來寺運漸く盛んなり。後ち、元祿二年四月、本門寺二十二世日玄、相州鎌倉比企谷宮崎檀林を此處に移して南谷檀林と稱し、代々住職を以て檀林能化の事を兼ねしむ。明治維新後、學制改革ありて檀林廢絕し、當寺、院家職のみを勤む。後ち、寺內に大中教院を設けて學徒教育に從ふ。

本門寺（ほんもんじ）　東京市大森區池上本町。

㊀日蓮宗。
㊁日蓮宗四大本山の一にして、長榮山大國院と號す。建長年中幕府の工匠池上宗仲、日蓮に歸依し、その采邑を捨て、一寺を建立す。文永十一年開堂し、日蓮開名して、長榮山本門寺と稱す。弘安五年日蓮病みて甲斐身延山を下り、宗仲の邸に入りて寂す。弟子日朗遺命により、當寺及び鎌倉妙本寺を兼帶し、文保元年堂宇の造營成りて、東國有數の巨刹となる。後世日朗を推して開基となす。第十二世日慢は二條昭實の猶子にして天正年中上洛して、紫衣の勅許あり。德川氏累代深く之を尊信し、家康は寺領百石の朱印を寄せ、歷代將軍之に從ひ、且つ特旨を以て江戸に於て末寺五箇寺の新設を許可す。また秀忠は其乳母正心院追善の爲に仁王門及び五重塔を建造す。加藤清正の崇信又厚く、私財を投じて四十間四面の祖師堂を造營す、結構壯麗を極め、金剛峯寺、圓城寺と共に日本三大堂の一に數へらる。寶永七年不幸回祿の厄を蒙り、山門、五重塔等悉くの外悉く烏有に歸す。因りて第二十三世日潤、第二十四世日等、第二十五世日顯、將軍吉宗の寄進を得て釋迦堂、祖師堂等を再建す。これ現存の諸堂宇なり。日等は伏見親王の猶子にして、特に參內を命ぜられ、永代紫衣の勅許を受け、爾來住持江戸登城の際は乘輿獨禮、白書院闕內二疊目の禮序に列し、住職更代の時は代々伏見親王猶子と云ひ老中列座の前にて拜命する恒例とす。

又吉宗の母深德院を當山に埋葬してより後は、毎年幕府より米六百俵を寄進する例となり、此事維新に至る迄繼續せらる。明治元年征東大總督有栖川宮熾仁親王御宿泊あらせらる。其後同十八年迄歲旦毎に年賀拜禮の爲に參內の事聽許せらる。同三十四年失火して客殿、方丈、書院等

（本門寺仁王門）（國寶）

美上せしが、後ち、再建され大略舊觀に復せり。

㊁寺域七萬坪、地高燥にして古松老杉に富む。堂宇中、五重塔（三間五層塔婆、屋根第一層第二層本瓦葺他銅板葺）はもと祖師堂前に在りしが、元禄十年境域外に移されて今日に及ぶ。また仁王門（五間三戸楼門、屋根入母屋造、銅板葺）は手法純唐様に成り、規模頗る宏大なり。其様式は桃山風と云ひんよりは寧ろそれ以後に現はる、檀門の先驅と見做すを得べし。以上は何れも慶長十三年徳川秀忠、乳母の菩提を弔はんが爲に造營せるものにして、今ま共に國寶建造物に指定せらる。又祖師堂（十三間四面）釋迦堂（桁行十一間、梁間十間）は徳川吉宗の造營に係り、其他、經藏・多寶塔、六足門・清正公堂・長桀堂・常唱堂・大客殿・大小書院・大方丈等を具ふ。もと塔頭子院三十六坊を有せしが、今は本行寺大坊、照榮院、理鏡院、南之院、永壽院（牡丹花多く、俗に牡丹寺と云ふ）、中道院等の十八院を殘すのみなり。寶物又多く、就中、祖師堂に安置せる木造日蓮坐像一驅は現に國寶に指定せらる。因みに本像の胎裏に正慶元年六月八日大願主日持、日淨の銘あり。其他日蓮筆の曼荼羅及び禅息類・日蓮親撰の註法華經四卷・日蓮遺物目録等あり。堂域には日朗、日輪、池上宗仲夫妻、徳川頼宣母堂、同室瑞林院、徳川吉宗母深徳院、同室寛徳院、狩野探幽、同元信等の墓碑あり。又日蓮入滅の部室、同茶毘所等あり。

（本門寺五重塔）（國寶）

㊂祖宗千部會（四月二十二日より七日間）、日蓮涅槃會式（十月十一日より三日（七月二十五日）、日蓮涅槃會式（十月十一日より三日間）此日賓客雲集し、萬燈全山に輝き、古來東都の一大名物として著はる。

豪徳寺 東京市世田谷區世田谷三丁目。

㊀曹洞宗。

㊁大慈山洞春院と號し、高輪泉岳寺末寺なり。寺傳に據れば文明十二年吉眞左京大夫政忠、其伯母弘徳院殿に馬堂昌巖を請じて一字を開創せるに由る。徳寺と稱し臨濟宗に屬せりと云ふ。天正來し、初め、弘徳寺と稱し臨濟宗に屬せりと云ふ。天正十二年門庵宗圓入りて住するに及びて曹洞宗に改む。寛永十五年井伊直孝本寺の檀越となりて大いに堂宇を修理す。これより寺門大いに振ふ。直孝の萬治二年歿するや、其法號久昌院殿豪徳天英居士の豪徳をとりて寺號に代ふ。

㊂堂宇は佛殿・客殿・東裡等を具ふ。

淨眞寺（奥澤九品佛） 東京市世田谷區玉川奥澤町三丁目。

㊀淨土宗。

㊁九品山と號し、増上寺別院なり。珂碩上人六十一歳の時、當地の人々其來化を願ふ。依りて延寶六年大平出羽守の館址に草庵を設け、其深川靈巖寺在住の折弟子珂愷の援助により影刻せる九品の丈六彌陀像九驅及び釋迦佛を此處に移し、九品山念佛院淨眞寺と稱す。これ當寺の開創なり。

㊃寺域三萬六千坪、本堂は十一間四面、屋根草葺、四方勾欄の大堂にして、其後に茅葺寶形造の上品、中品、下品の三堂あり、内に上生、中生、下生三體の丈六の阿彌陀像を安置す。よりて九品佛の名あり。寺寶に芝枯の名號あり、幅九尺長さ十三間の紙に書せる六字の名號にして第二世珂愷の筆なり。

㊄千部會（五月七日、八日、九日）、施餓鬼會（八月十六日、十七日、十八日）又虫干法會とも云ふ。尚、この四年目毎のものを特に來迎會（俗稱お面かぶり）と呼び、賽者殊に多し。

妙法寺 東京市杉並區堀ノ内一丁目。

㊀日蓮宗。

㊁日圓山と號す。もと眞言宗を奉ぜしが元和年中日遜の時、現宗に改む。而して日遜其母の法號妙仙院日圓の字により、現在の如く稱ふ。元禄十一年碑文谷の法華寺、天台宗に改めし時、當寺第五世日性、法華寺の日蓮像及び妙符を本寺に移す。此の日蓮像は俗に厄除祖師と云ひ、弘長年中日朗の刻せるものにして、靈驗顯著を稱せられ、賽者群し。

㊂境内五千坪。祖師堂は桁行九間四尺、梁間十四間四尺、向拝五間に三間、總銅板葺三方破風造にして、明和八年の再建なり。内に上遠の厄除祖師を安置す。本堂は文政二年の造營にして、桁行八間半、梁間九間四尺、素木造、屋根瓦葺なり。寺寶に音樂太鼓・蒔繪文庫及び硯箱・池上本門寺知識文等あり。

㊄會式（十月十二日、十三日）。

高圓寺 東京市杉並區高圓寺五丁目。

㊀曹洞宗

㊁宿鳳山と號す。市内中野區成願寺末寺にして、後奈良天皇弘治年中建室和尚の開く所なり。本尊聖觀世音は惠心僧都の作と傳ふ。當寺を御殿山と俗稱するは、城内に徳川將軍鷹狩の節、立寄りし假御殿の設けありしによる。又桃樹多かりしを以て、桃園觀音或は桃堂と云ひしも、享保年中堂宇火災に罹り、住僧四方に勸進して寶暦十三年より再興に着手し、明和二年成就す。明治二十年本堂烏有に歸し、同三十五年再建さる。

本妙寺 東京市豐島區西巢鴨四丁目。

㊀法華宗。

㊁德榮山總持院と號す。創建は元亀二年にして、開基は日慶なり。もと局澤或は平川村に在りしが如し。後ち、神田、小石川等の地を經て、寛永十三年本郷丸山菊坂に移轉す。明暦三年正月十八日當寺より出火し延燒實に江戸市中三分の二に及び、燒死する者十萬を越ゆ。俗に之を本妙寺火事又は振袖火事と云ふ。維新に至る迄、勝劣派の中本寺にして、本立、正本、本行等七支院を有し、同派の碩頭たり。現地に移れるは近年の事なり。

根生院 東京市豐島區高田南町一丁目。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁金剛寶山延壽寺と號す。もと本郷湯島切通に在りて、眞言宗江戸四箇寺の一たりき。萬治年間東神田の知足院を此處に移し、隆光住せしが、護持院成るや隆光之を薦し榮來りて開山となる。寶永十三年春日局の外護により、現在の院號に改む。後ち、寺域岩崎氏の邸内に入るに及び現在の地に移る。

法明寺 東京市豐島區雑司ヶ谷町。

㊀日蓮宗。

㊁威光山と號す。創建は弘仁年中と傳へ、初め眞言宗を奉ず。一に又天台宗に屬せりといふ。古くは威光寺と稱す。正嘉年中、住職戒雲、駿河國岩本にて日蓮に會ひ、その教に歸して、日源と改名す。而して本寺を又法華の道場となし、現在の寺號を稱す。寛永年中三代將軍德川家光放鷹の途次、當寺に休憩せしが以後將軍の休息所に定まる。現存子院に眞乘院、觀靜院、玄靜院等あり。

㊂堂宇には本堂・釋迦堂・鬼子母神堂・番神堂・威光堂等あり。鬼子母神堂安置の鬼子母神は俗に雑司ヶ谷鬼子母神と稱し、一般の尊崇甚だ篤し。永禄四年當地住人某畑中より得奉り、寺中東陽坊に安置せしが後ち、堂廻にかゝる。然れども靈夢に依りて再び本坊に遷付せられたり。これより後ち衆庶の信仰盛んとなり天正六年一字を造營して此像を安置すと傳ふ。尚ほ境内に大公孫樹ありて天然記念物に指定せられ、子育子授の公孫樹として信仰せらる。

㊃毎年十月十二日より十八日迄會式を行ふ。十七日の夜は殊に參拜者多く、萬燈の光、唱題の聲滿山を埋め、東都名物の一たり。又毎月八ノ日は緣日、一月十六日は歩射祭あり。

延命院 東京市荒川區日暮里九丁目。

㊀日蓮宗。

㊁寶珠山と號し、京都妙顯寺末寺たり。もと此地に淨土宗寶珠寺ありしが慶安元年、妙顯寺日遜の徒弟本圓寺日隆の法弟なる日長來りて其廢址に當院を創建す。山號寶珠山卽ち是に由來すと云ふ。現今寺内に奉安する七面天女像は江戸名所圖會にも載錄せらるゝものにして、もと甲斐國身延山七面山に在りしを萬治三年正月、日長其寶藏より此處に遷せるものと傳ふ。德川家光の側室三澤局（淨心院妙秀日悉）之に祈願して一男を擧ぐ、四代將軍家綱卽ち、これなり。仍りて其報賽として、堂宇を修理改築し、永く祈願所と定む。又貞享年中德川光圀崇敬篤く、其祈願所とし、屢々參詣せりと云ふ。享和年中、從一位日野資枝の猶子日道入りて住し、第十六世となる。日道は學德共に勝れ、一世の師表たりしが、讒せられて寃罪を蒙る。汎く巷間に傳へらるゝ延命院騒動、蓮華往生等と稱せらるゝものは、種々に附會せるものにして、演劇、講談、落語等に見ゆる日道はすべて事實を歪曲せるものなりと云ふ。

㊂境内墓域に日道の墓あり。

三寶寺 東京市板橋區下石神井二丁目。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁龜頂山密乘院と號す。智山關東十一檀林の一なりもと鎌倉大樂寺末寺たりき。本尊は不動明王にして、應永元年幸尊の創建する所なり。文明九年太田道灌、豊島氏を滅せし後、其城址に當寺を移せりといふ。天文十六年、後奈良天皇より勅願所の綸旨を賜ひ、永禄十年住職尊海大僧正に任ぜらる。北條氏又寺田若干を寄進し、割札を與ふる等其歸依淺からず。天正十九年には朱印十石を有したりといふ。

㊂當寺西方に、三寶寺池あり、周圍三百餘間ありて石神井川の水源なり。

木母寺

東京市向島區隅田町二丁目。

㊀天台宗。

㊁梅柳山隅田院と號す。もと梅若山梅若寺と云ひ、貞元元年の創建と傳ふ。貞元元年延暦寺童子梅若丸、奸惡の者に欺かれて東下し、隅田川の邊にて死す。梅若時に十二歳なりきといふ。出羽羽黒の忠圓、里人の請ひにより、一塚を築きてその菩提を弔ひ、梅若寺と名付く。長禄二年太田道灌其堂宇を修理す。慶長八年德川氏開府の際、當寺に梅柳山の號を與へ、寺領五石を附與す。同十二年近衛信尹東下し、梅若の梅字を分ちて木母となし、木母寺の額を書してこれを贈る。因つて以後木母寺と改むといふ。寛文十年幕府二十石を加增す。維新の際、本寺を廢して村社梅若社となし、梅若丸を祭神とす。明治二十一年、もと木母寺末寺たりし深川大泉寺の光圓、官許を得て再興す。

㊂境内一千百餘坪あり、寺寶としては古緣起繪卷物三卷・近衛信尹筆扁額等を藏す。

㊃梅若大念佛法要（四月十五日）。

淨光寺（木下川樂師）

東京市葛飾區本田水根川町。

㊀天台宗。

㊁青龍山藥王院と號す。淺草寺末寺なり。本寺緣起に、本尊藥師如來を下野國大覺寺の廣智、最澄より受けて東國に來り、行者唱新の草庵に安置す。後ち、圓仁此地に巡錫し、此草庵を寺院となして弟子慶寛に附す。貞觀二年に至りて堂宇完成すると見へたり。其後惠心僧都、二脇士及び十二神將の像を刻して安置すと云ふ。應永年中兵燹の爲に田園を失ふ。此頃鎌倉八幡宮供僧承院の僧本寺別當職を兼れしが、本寺の衰頽甚しきにより、別當讃圓領主奥津家定に請ひ、堂宇修補料の寄進を得て再興す。寛永年中堂宇を修理し、且つ境内に東照宮を祀る。

㊂堂宇には本堂・庫裡・鐘楼・觀音堂等あり。寺寶として德川家康筆蹟及び同像・甲冑一具・德川秀忠像・同家光筆蹟等を藏す。

㊃大施餓鬼會（四月八日）大護摩を修す。

總持寺（西新井大師）

東京市足立區西新井町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁五智山遍照院と號す。山城醍醐報恩院末寺なり。弘法大師の創建と傳へ、川崎大師と併稱さるゝ北郊第一の大伽藍たり。もと千住五丁目に在りしが、後ち今の地に移る。慶安元年、幕府より寺領二十石の朱印を受く。元文二年、將軍吉宗放鷹の途次本寺に立寄り、以後將軍遊獵の際は膳所に充てらる。

㊂大師堂・樂蟲堂・不動堂・女人堂等完備し、何れも宏壯を極む。大師堂内の弘法大師像は一に厄除大師と稱し、衆庶の尊信厚く一年間の參者百五六十萬人に及ぶといふ。樂蟲堂は天保五年伊勢屋彦兵衛の建立せるものにして八十八體の空海の小像を安置す。

（總持寺本堂）

境内廣濶にして、老樹鬱蒼林泉の美殊に見るべし。

㊃毎年三月の彼岸には參詣者殊に夥し。緣日は毎月二十一日なり。

寶仙寺

東京市中野區宮前町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁明王山無動院と號す。天平年中眞鉢の開創する所なりと傳へ、往昔は大寺にして、現在の地より二十町北方に在りしとぞ。後ち寺運傾きしが、永享年中高野山の聖永、堂宇を今の地に營みて中興す。大永年間兵火に罹り伽藍衰上す。其後賢秀住職の頃、德川家康の崇敬甚だ厚かりきと云ふ。後ち、將軍家御膳所に列せらる。寛永以後秀雄、武定、祐農等の名僧を出せり。

現在末寺三十二箇寺を統ぶ。

㊂境内一萬五千餘坪、堂宇は本堂・大師堂・位牌堂・客殿等其他を具ふ。

梅照院（新井藥師）

東京市中野區新井藥師町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁松高山藥王寺と號す。中野寶仙寺末寺なり。天正十四年梅原將監（法名行春）の開創と傳ふ。中興開山は第六世弱雲にして此頃より本尊藥師の靈驗、四方に喧傳せられ子育藥師と稱せらる。寛永元年德川秀忠女和子（東福門院）眼病平癒の効驗ありとて、田地千二百坪及び松高山梅照院藥王寺の號を賜ふ。元禄元年本尊を修理す。明治五年藥師堂美上し、翌六年再建さる。

㊂藥師堂は八間四面、瓦葺素木造なり。大師堂は弘法大師像を安置し、背後は遊園地たり。寺域近傍に文學博士井上哲學堂あり、井上圓了の經營せる井上哲學堂あり、指定の名勝地なり。

（梅照院本堂）

寶泉寺

東京市淺谷區氷川町。

㊀天台宗。

㊁慈覺大師の創建なりと傳ふ。爾後の沿革は不詳なり。

㊂寺寶中、國寶指定の興正菩薩像一幅（絹本着色）は黄染色の袴衣を着、左手に麈尾を持ちて椅子に坐せる像にして、椅子には茶色の綾地文樣ある法被を掛く。圖上に興正菩薩の自筆と稱する願文を張り、裏背には聖尋僧正法務自筆の書付貼付しありて、正安二年大和の形式なりと、其筆致甚だ流麗なる純大和繪の手法に よれる點に於て注目に値す。尚ほ法被の綾地に花唐草文樣を胡粉にて巧みに描けゝ技巧又看過すべからず。其他藥師如來像（附、十二神將像）・甲冑一領等を藏す。

大善寺

八王子市大横町。

㊀浄土宗。

㊁觀池山往生院と號す。浄土宗關東十八檀林の一なり。永禄年中、武蔵國淵山城主北條氏照、證誉手秀を請じて之を開創し、寺田若干を寄せて其菩提所となせり。當時寺基南多摩郡香住村大字淵山に在りしが、即ち悉眼寺村に移る。今に其故地を唱へて淵山大善寺と云ふ。天正十八年悉眼寺城の陷落に際し、當山亦兵燹に罹りて堂宇美上し、更に現地に移轉す。翌十九年德川家康寺領十石の朱印を寄進す。慶長年中檀林に定まり、明治二年勅願所の綸旨を賜はる。これより先き慶應三年及び明治十八年の兩度回祿の厄を蒙りしも、同十八年より二十年にかけて大半再建されたり。現に京都知恩院末寺なり。

㊂寺域は四千一百餘坪の地を占め、本堂・書院・庫裡・護念殿（呑龍堂）・經藏・藥師堂・白淵觀音堂・梵鐘堂等を具ふ。寺寶はその大半を火災の爲に失ひ、現在存するものは華頂宮尊光、尊超法親王御染筆の名號各一幅・同尊秀法親王御染筆の額面・呑龍眞筆等なり。

㊃呑龍上人緣日（毎月八日）、御花供養會（四月八日）。

（大善寺護念殿）

金剛寺

西多摩郡青梅町青梅。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁青梅山無量壽院と號し、中本寺檀林所たり。朱雀天皇承平年中平將門、山城蓮臺寺寛空僧正を招じて開山たらしめしが、寛空弘法大師の木像を開山に擬し、自ら二世と稱す。往昔は寺領二十石を有し、末寺二十

五院を統べ、又代々の住職多くは大僧正の祭位を受けたりと傳ふ。

㊁千六百餘坪の境内に本堂・書院・庫裡等並立す。寺寶中、國寶の如意輪觀音像一幅（絹本着色）は大和繪風の山水を背景に金色の觀音を描けるものにして。軸木の内部に乾元元年七月二十日祐範之本尊の銘記あり。圓樓畫風上より大略此年代を以て製作期に比定し得べし。尚ほ德川時代修理書付三通並に版本兩界曼荼羅圖一通を軸の空洞中に收めたり。堂前の梅樹は將門梅と云ひ、其實小にして苦味あり。常に青色にして熟せず、冬至の頃雷を若くるや實初めて落つ。當地々名これに起因すといふ。

大悲願寺　西多摩郡増戸村大字横澤。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁金色山吉祥院と稱す。もと山城醍醐三寶院に屬せり。開基は源頼朝、開山は澄秀吉寺領二千五石を寄進す。本尊は丈五尺の大日如來なり。

㊂本堂・鐘楼・庫裡・客殿等を具備す。寺寶中の國寶に鎌倉時代の作に係る木造傳阿彌陀如來（脇侍千手觀音菩薩、勢至菩薩）坐像一軀あり。他に大般若經一部・豐臣秀吉制札等を藏す。

安樂寺（成木不動）　西多摩郡成木村。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁成木山愛染院と號す。創建年代は鐘銘によれば、野應年中にして足利尊氏の開創に係ると云ふ。當初寺運頗る盛大なりしも、後年屢々兵燹に罹り、堂宇什寶等其大半を失へり。天正十九年德川氏より寺領七石の朱印を附せらる。

㊂境内八千七百餘坪あり。本堂の西方なる寶塔印塔に愛染明王を、軍荼利明王堂に軍荼利明王を安置す。仁王門の二王像は一は黑く、他は赤くして何れも丈長七尺餘なり。尚ほ小田原北條氏の制札及び古文書等を藏す。境内に五段の繞ありて夏季訪づる者多し。

海禪寺　西多摩郡三田村大字二俣尾。

㊀曹洞宗。

㊁瑞龍山と號し、群馬縣群馬郡白郷井村雙林寺に屬す。寛正年中益芝和尚の創建に係り、益芝、其師一州長蹲寺と稱せしが、五世太古の時、當地領主三田綱秀堂宇を改築し、以後現寺號を唱ふるに至れり。永祿六年三田氏、北條氏康に滅ぼさるや、本寺又その兵燹に罹りて堂舍什寶燒亡し、爾後寺運大いに退轉して磨滅に瀕す。天正十七年七世天江東岳（德光禪師）銳意再興に努め、漸次舊に復す。同十九年德川家康より十五石の朱印を附せらる。寶永五年寺格隨意會地に定まり、末寺四十餘寺を統ぶるに至る。

㊂境内廣濶にして堂宇に禪堂・開山堂・庫裡・方丈・客殿等を具ふ。本堂には寛永四年平將門の臣野口氏後裔秀房の奉納せる將門の位牌及び三田綱秀の霊牌を安置す。尚寺寶として古文書數通を所藏す。

藥王院（高尾山）　南多摩郡淺川町上椚田。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁有喜寺と號す。俗稱高尾山は、寺地高尾山上に位置するを以てなり。本尊は藥師如來にして、天平十六年行基の創建と傳ふ。永和元年中興開山俊源、不動明王の權神を勸請し、これを飯綱權現と云ひ、本寺の守護神とす。永祿三年北條氏康、四圍の山林五百四十三町歩を寄せ、同氏照は青銅の五重塔を建立す。又慶安年中德川氏朱印七十五石を寄進す。延寶年間堂宇衰上せしも、元祿年中常法講所となり、又安永年中秀興住持となりてより寺運大いに振ふ。明治二十八年當派別格大本山に定まり、川崎大師、成田山と共に關東三山の一と稱せらる。

（藥王院本堂）

㊂堂宇には藥師堂・大日堂・護摩堂・權現堂等を具へ、寺寶に地藏菩薩畫像・兩界曼荼羅・上杉虎輝制札・銅製釣燈籠等あり。奥ノ院より三町餘にして、屈望臺あり、十二州を望見し得べしと十二州臺と云ふ。境内面積は二萬七千餘坪に達し、杉、檜、松等の大木繁茂し

亦紅楓を以て知らる。

㊃年中行事、祭會中特殊のものを擧ぐれば次の如し。初甲子大黑祭、尚當日信徒來つて年中所用の護摩木を運搬す。繼開き祭典（四月一日行者の繼を開く祭典）、後源忌（十月四日）、繼じまい祭典（十月三十一日行者の繼を是れ以後は閉鎖するに就ての祭典）、本尊藥師如來緣日（毎月十二日）、飯綱大權現緣日（毎月二十一日）、洞窟辨財天緣日（毎月巳ノ日）

金剛寺（高幡不動堂）　南多摩郡七生村大字高幡。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁高幡山明王院と號す。大寶以前の創建にして、行基大日如來を空海不動明王像を各安置すと傳ふ其後圓仁留錫し、清和天皇の勅願所となりまた平圓再興して陽成天皇の勅願所となると云ふ。（源頼義八幡宮を勸請して本寺の鎮守とし、爾後新齋明神、高野明神、丹生明神、清澄權現を合祀して五部權現と稱す。後年これらの神體及び本地の佛像、何れも朽廢せるを以て、暦應三年住僧儀海五基の位牌を造り、表裏に神號、佛名を刻して厨に安置す。維新の際、神佛分離せしも、本體は尚ほ本寺に藏せり）寺基はもと山上にありしが建武二年風害を受けて堂宇破損し、康永元年現在の地に移轉新築す。應永二十二年、沙門乘海堂宇を修理す。足利基氏、氏滿、滿兼の崇敬深く、殊に滿兼よりは莊園三百町を寄せられたりと云ふ。明治二十九年、また堂宇を修理し、應永年中造營の際は、草葺なりしを此時銅葺となす。

（金剛寺全景）

㊂寺域三萬坪、鵬望師住なり。堂宇には本堂・不動堂・大日堂等を具へ、寺域内に上杉憲顯の墓・近藤勇及び土方歳三の碑あり。寺寶には長刀（傳宗近作）・太刀各一口・地藏像（傳源信筆）等あり。

㊃不動明王緣日（毎月二十八日）諸病厄除の効驗著しとて賽者多し。大祭（一月、五月、九月二十八日）大般若會練供養執行。

高安寺　北多摩郡府中町。

㊀曹洞宗。

㊁龍門山等持院と號す。古くは市川山見性寺と稱せしが、真和年中心悟中興し、足利尊氏之を援く。依つて其法諡に因みし寺號を龍門山高安護國禪寺と改む。當時は塔頭十院、末寺七十五寺ありて、寺運隆盛なりしも、其後寺地屢々兵馬煙燹の巷と化し、漸次退轉せり慶長年中西多摩郡三田村海禪寺七世住職天江東岳、本寺に住して堂宇を再建す。爾來臨濟宗なり、現宗派に改めたり。

㊂境内一萬四千坪、四方に小堀を穿て堤防を繞らせり。本堂は十二間三尺に九間の堂にして篆持院の大額を掲ぐ。堂前に銅造彌勒佛像（高さ臺共一丈餘）露座す。

善明寺　北多摩郡府中町。

㊀天台宗。

㊁往昔は當地安養寺の末寺たり。草創以來屢々回祿に罹り、其間の消息は詳細を知り難きも、延享元年住持證海の時、檀徒依田伊織發願して、所有の檀徒百六十餘戸を安養寺に委附し安樂院末寺となす。又本寺を己が邸内に移し、家財の總てを寄與す。よりて證海を中興の開祖とす。

㊂寺域千二百八十八坪、本堂・庫裡・客殿等を具備す。國寶に指定せらる、阿彌陀如來坐像一軀（附、胎内佛阿彌陀如來立像一軀）は五尺餘の鑄鐵の巨像にして左肩に建長五年二月鑄造の銘あり。其手法は優秀なりとは言ひ難きも、他に類例少き鐵造の巨像なる點に於て注目せらる。製作としては寧ろ胎内佛優秀なり。是には銘あるも年代を刻せず。製作年代大略本尊と同時代なるべし。この胎内佛の螺髮に非ずして、京都清涼寺の釋迦像と同樣の寶髮なるは注意すべし。

㊃修正會（一月一日より七日迄）、天台大修會（十一月二十四日）、佛名會（十二月八日）其他。

西光寺　北多摩郡調布町上石原。

㊀天台宗。

㊁長谷山聖天院と號し、郡内深大寺の末寺なり。開山は聖天坊法印（應永三十四年十月二十日寂）、もと眞

言宗に屬せしが、寛文年中、辨盛上人現宗に改む。慶安年中、徳川家光寺領十四石二斗の朱印を寄す。

㊂境内九百八十餘坪、本堂・庫裡・觀音堂・藥師堂・樓門・表門・稲荷祠等を具ふ。本堂は九間に七間、本尊には彌陀三尊を安置す。樓門上に享保二年改鑄の梵鐘を懸けたり。

普濟寺　北多摩郡立川町。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁玄武山と號す。正平八年、立川宗恒其の壘城の北角に本寺を建立し、鎌倉建長寺の物外可什を招じて開山とす。之れ卽ち本寺の濫觴なりと傳ふ。爾後立川氏の香華所として榮えたり。天正十九年徳川氏寺領二十石を寄進す。其後回祿の災を蒙りしが、享保年中再建さる。これ現在の堂宇なり。

（普濟寺六面石幢（國寶））

㊂堂宇には本堂・閻魔堂等を具ふ。塔頭もと十數院存せしが、現に心源庵を存するのみ。境内の西方に六面の石幢一基あり。高さ五尺五寸、上に笠石を載せ、各面に四天王及び金剛力士を一體宛陽刻線彫す。其中、廣目天像の面に延文六年辛丑七月六日施財性了立道圓刊の刻銘あり。關東地方に見らるゝ板碑に用ふる青石（板狀の緑泥片岩、秩父地方に產す）を六面組合せたるものなり。又寺寶として物外和尚坐像一軀（木造）を藏す。脇内に應安三年十一月の銘ありて石幢と共に國寶に指定せらる。尙ほ、この外寺内に板碑多數を存す。當寺々域は多摩川に臨み、南武藏野の平原を隔てゝ遙に富士山を望み、風光甚だ佳なり。故に明治三十年以來皇族台臨あらせらる、事屢々なり。

㊃大般若法會（三月十五日）、開山忌（十一月八日）其他。

深大寺　北多摩郡神代村大字深大寺。

㊀天台宗。

㊁浮岳山昌樂院と云ふ。慶安三年第五十七世辨盛の記せる緣起には、天平五年、此地柏野の里の長者某、水神深沙大王を祈り、滿功を請じて開創すとあり。往昔は法相宗なりしが、貞觀年中惠亮住職の時、現在の宗派に改むといふ。尙ほ此頃武軍調伏の効驗著しかりしにより、朝廷より近郷七邑を賜はると傳ふ。其後世田谷殿（吉良氏）再興し、深大寺村（現在神代村）を以て供料に充て、波平行安作の太刀を奉納す。天正十八年小田原の北條氏沒落の際、吉良氏これと運命を共にし當寺又危ふかりしも徳川家康守護不入の判物及び寺領五十石を附與す。正保三年及び其他數回奏上せしも、よく再興して今日に至る。

㊂堂宇には本堂・太子堂・幾香堂等を具へ、林泉の雅趣掬すべし。寶物中、釋迦如來佛像一軀（銅造）は國寶に指定せらる。所謂坐像尊の一種にして、御物四十八體佛又は押出佛等に見らるゝ珍奇なる形相を具ふ。加之、四十八體佛と異りて高さ二尺七寸餘あり、奈良朝初期の作品中優秀なるものとして注目さる。其他緣起卷物二卷・融通念佛緣起卷物二卷等を所藏す。

大盛寺　北多摩郡三鷹村大字牟禮。

㊀天台宗。

㊁明靜山圓光院と號し、深大寺の末寺にして、舊井之頭辯天祠の別當寺たり。建久八年、源頼朝の創建なりと傳ふ。

㊂境内二千二百坪、本堂・庫裡等あり。辨天祠は其北井之頭の池中に在りて草葺朱塗なり。辨財天像は延暦年中傳教大師の作にして、六孫王經基此地に安置すと傳ふ。後ち建久八年、源頼朝、安達盛長に命じ堂宇を改造し、別當所を設け之を守護せしむ。元弘年中、新田義貞の兵火に罹りて燒亡せしを、寛永十三年、徳川家光、郡代伊奈半左衛門に命じて社殿を再建せしむと云ふ。池の面積一萬三千八百餘坪。此地清泉七所に噴出して四字の池をなし、水は恒に潤るゝことなく、東方に流れて小石川に至り、江戸川となる。慶長年中、徳川家康、霸府を江戸に開くや、此池水を引きて士民の飲料水に供し、是を神田上水と稱す。池もと神龍之井と稱せしが、家光命じて井之頭の池と呼ばしむと云ふ。寺寶として徳川家康水試の茶臼・家光の影りし井之頭の鏡・惡獸大師水加持の五鈷等を所藏す。又本堂に中興開基島田半左衛門（承應二年歿）鎖とせられたる一碑あり。

國分寺　北多摩郡國分寺村大字國分寺。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁醫王山最勝院と號す。聖武天皇の勅願により諸國に遣營せられたる國分寺の一にして、藥師如來を本尊とす。承和年中雷火の爲め七重塔燒失す。延喜年中武藏國正稅公廨四十萬束の内五百束を付せらる。元弘三年新田義貞、北條氏と此地に於て戰ふや、本寺その兵火に罹りて堂宇悉く烏有に歸す。義貞恐懼して建武二年黃金三百兩、伽羅二百目を寄進して再建す。應永初年本坊造營さる、現在のものこれなり。其後寺運傾きしが、寶曆年中賢盛再興し、且つ現在の本堂を建立す。よりて賢盛を中興開山とす。大正十一年舊寺址一圓史蹟に指定せらる。

（國分寺藥師如來）

㊂寺域は二千三百餘坪ありて、北方に高丘あり風光賞すべし。本堂・藥師堂・本坊・仁王門等を具ふ。本尊の藥師如來坐像一軀（木造）は國寶に指定せらる。半丈六の像にて藤原末期の作と思はる。精巧となすに非らざれど簡素なる手法の中に堅實なる趣きあり。本堂前方に國分寺碑あり、高さ六尺四寸、幅二尺一寸、寶曆六年賢盛の建立に係る。附近に古瓦散亂し、殆に布目瓦と云ひ、もとの御堂瓦なり。武藏二十一郡より寄進せるものにして、諸所の郡名記してあるもの發見さるゝこと屢々なりと稱せらる。

㊃大般若經轉讀法會（三月八日）大施餓鬼會（八月三日）、大緣日護摩供會（九月十八日）。

正福寺　北多摩郡東村山村大字野口。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁金剛山と號す。開山は心月禪師、開基は北條時頼なり。徳川氏より朱印十石を寄與せらる。本尊は聖觀世音なり。

㊂堂宇中、地藏堂（桁行五間、肇間五間、重層、屋根入母屋造、上層茅葺、下層壓板葺）は國寶建造物なり。北條時宗建立と寺傳にあれど、それより幾々後のものならん。鎌倉時代の唐樣建築は圓覺寺舍利殿以外には此堂あるのみにして、建築史上甚だ貴重なる遺構なり。その平面並に構造は圓覺寺の舍利殿に酷似すれど、繪樓、割形の曲線、舍利殿に比して稍々弱し。

徳藏寺　北多摩郡東村山村大字野口。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁福壽山と號す。東京市赤坂區種徳寺の末寺にして寛永年中寺僧壁英及び方充、もとの寶檀寺並に無量寺の遺址を再興して、本寺及び永春庵を建つと傳へらる。本尊は高さ一尺五寸の白衣觀音像（木造）なり。

㊂境内に石造の板碑一基あり。その形は通常の卒都婆狀をなす。元弘三年北條氏と戰ひて戰死せる新田義貞の臣齋藤盛貞及び能間定長の供養碑にして現に國寶に列せらる。關東地方に殘存する板碑中最も歷史的興味あるものとして集古十種にも採錄せらる。もと八國山永春庵内にありしが、同庵、當寺境内に移りて合併せられし際、此碑亦本寺に移る。其他板碑數十基、寶篋印塔（石五重塔）、古代土器等を藏す。附近に久米川の古戰場、笹田院遺蹟等あり。

淨牧院　北多摩郡久留米村大字門前。

㊀曹洞宗。

㊁神護山と號し、遠州高尾山石雲院末にして、近郷十餘箇寺を統ぶる郡内屈指の名刹たり。文安元年、南多摩郡八王寺城主安藏（定光院）の創建に係り、開山は宋芝岱和尚なり。天正十九年十一月、徳川家康寺領三十石の朱印を寄す。

㊂寺域二萬二千五百六十九坪。本堂は十間に八間半、鐘樓には寛文五年の鐘銘を懸く。其他開山堂・衆寮・辨天祠等あり。寺内に永仁三年六月二十一日の古碑を存す。境内二萬二千五百六十九坪。

崇福寺　伊豆八丈島大賀郷村大字大里原。

㊀淨土宗。

㊁甑峰山と號し、豆州下田海禪寺の末寺なり。鎌西八郎爲朝、島人七郎三郎の女某を妾とし、二子を儲く。第二子を爲宗と稱し、後ち香爐山彌陀寺を西山の麓に建立して、兩親の冥福を祈る。其子孫奕世入道の宮と稱して全島を押領せしも、永享年中雲加入道、西山噴火して住み難きにより、寺を現地に移して島中を支配す。同十二年、武州金川宗興寺に屬し、禪宗に轉じて現稱に改め、又法名を瑞翁宗的と號す。永祿年中、靈譽宗遊の代に至りて現宗となる。尙ほ一說に、康正二年武州神奈川領主奥山宗林、其臣作右衛門太郎を島へ向け、雲加入道が一子若宮等を打取りし故、入道降參發心して瑞翁宗的と改め、屋敷を寺として、神奈川の宗興寺を請待し、是より島内隨一の巨刹となりぬといふ。現に島内五箇村の中、大賀郷村、三ッ根村の檀那寺なり。

神奈川縣

總持寺　横濱市鶴見區鶴見町。

㊀曹洞宗。

㊁諸嶽山と號す。もと能登國鳳至郡櫛比村にありて、眞言宗を奉じ、諸嶽寺と號す。元享元年住持定賢、隣郡鹿島郡洞谷山永光寺の瑩山紹瑾に歸依し、本寺を之に讓獻す。紹瑾因つて當山を曹洞宗に改め、現在の寺號を稱す。後醍醐天皇紹瑾に十種の勅問を垂れ給ひ、奏對旨に契ひければ、本寺を官寺に列し「日域無雙之禪苑曹洞出世之道場」の綸旨及び勅額を賜ふ。正中元年紹瑾五哲中の一人峨山紹碩法燈を襲ぎ、寺門更に盛大を加ふ。正平六年その弟子太原（普藏院）・通幻（妙高庵）・無端（洞川庵）・實峰（如意庵）・大徹（傳法庵）の五哲各各寺内に一院を造りて共に祖廟を守り、後この五院の住持交替して本寺の住持たるの制を設く。正平九年、後村上天皇より本寺に「祖位齊瑞龍、宗綱振天下、恢弘祖道、樂揚佛法」の綸旨及び瑩山に佛慈禪師の號を賜はる。應安三年五院開基の聯判狀を以て、當總持寺を來代に至る迄當宗の本寺となすべき旨を定め、永和四年には通幻、無端、大徹、實峰等協力して本寺を守らんことを聯判狀を以て誓ひ、更に永德二年本寺住職に關する置文を定む。應永年中、足利義滿、長祿年中同義政各寺領安堵の判物を與ふ。天文九年越前永平寺と位階昇進の事に關し紛議を生じ、以後の亂離の端、こゝに開く。尚同年後奈良天皇、「奉祈皇家再興」、天正十七年後陽成天皇、「老僧勞侶不叶上洛之儀者於當山可令轉衣」の綸旨を賜ふ。慶長十六年、當山々内芳春院象山、駿府に於て德川家康に謁し、教義其他に關して上答す。而して後の宗門三僧統たる總寧寺、龍穆寺、大中寺を總持寺目代として、坂東に設置する事とし、翌十七年此三寺に朱印條目の制定あり。元和元年、家康永平、總持兩寺共に本山たるの法度を下し、之れより永平寺を越本山、當寺を能本山と云ひ、兩寺を合して兩大本山と稱ふるに至れり。領主前田氏歷代の尊信深く明暦三年には寺領四百石を寄進し總持條目を改定す。正保二年後光明天皇、元亀年中綸旨幾矣に關する勅綸旨を受くる事五度にして、五朝天皇の綸旨を稱す。安永元年後桃園天皇、瑩山に弘慈圓明國師の號を追諡せらる。德川幕府初期以來、當寺々務は加賀寶圓寺及び山内芳春院外二十餘寺の合議によりて處理されたり。また住職輪住の事は古來一系輪住たりしが、中古以降五院輪住と一朝住持との兩系に分れて其次第を亟ふことゝなる。五院輪住は一朝住持せし者が特に定めたる全國末派中三百餘寺の輪番地より再住するものに係り、以て幕末に至る。維新の際、輪住制度廢せられ獨住地となり。加賀天德院突堂を獨住第一世とす。明治三十一年、觀禪の災を蒙り堂宇燒失す。第四世素堂因りて、寺基を現地に移して再建に着手す。同四十二年明治天皇、瑩山に常濟大師の號を追贈し給ふ。同四十四年遷祖式を行ひ、舊地には一寺を新築して別院とす。古來曹洞宗一萬四千餘の末寺は永平寺並に本寺に屬するものなるが、其大部分は當寺門葉に係ると稱せらる。

（總持寺全景）

㊂寺域五千四十餘坪。佛殿・紫雲堂・三寶殿・接賓閣・放光堂・監院寮・傳燈院・太祖堂・僧堂・山門・衆寮等の堂宇具はり。境内に鄰鼓林、三松閣、白字溪、雙飛丘、望世臺、龍王池、古砧壺、搖月陵、千光城、吹上塀の十勝あり。寺寶中左の三點は國寶に指定せらる。絹本着色提慶達多像一幅は提慶達多成佛の姿を描けるものと思はれ、手法精密にして文樣の特異なる點より考へて或は高麗朝の畫ならんか。同前田利家夫人像一幅には僧象山の贊あり。刺繍大法被一枚は美術工藝上の好資料として注意すべし。

東福寺　横濱市鶴見區鶴見町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁千生山樹本院と號す。當市櫻子區櫻子町金藏院末寺なり。寛治元年當地の豪族稲毛三郎重成、勝覺上人を請じて開創す。本尊如意輪觀世音は俗に子育觀音と云ひ、重成夫妻、此像に祈願して一子を得たりと稱せらる。又堀河天皇、康和二年勅使藤原道房をして本寺に祈願せしめ給ひしに皇子（鳥羽天皇）御誕生あり給ければ、長治元年子生山東福寺の扁額を賜はると傳ふ。爾來子女の誕生を祈る者多く寺運隆盛なりしが、足利末期の兵亂に堂宇の衰頽甚だしく、殆んど廢絶に瀕せり。元祿二年に至り黑川宗圓なる者諸堂を修理し、又將軍綱吉境内及び所有山林の課役を免じて保護を加へたれば、寺運再び興る。安政三年暴風のために建造物の一部破損せしも直ちに修理せらる。當時盛岡藩主南部大膳大夫本寺を崇敬する事篤く、本尊及び堀河天皇の勅額を麻布屋敷内に移せしが、誤ちて火を失し像額共に燒亡す。明治三十年觀音堂及び庫裡、火災に罹り類上し、其後再建せられて今日に至る。

㊂本堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。寺内の創の淵近傍は老樹多く、廓外の仙境たり。

豐顯寺　横濱市神奈川區三ツ澤。

㊀法華宗。

㊁法願山と號す。永正十二年、三河國八名郡多米村の多米權兵衛、其菩提所として本願寺なる一寺を創し日時上人を請じて開山とす。權兵衛その後天文年中關東に下りて武藏國三ツ澤に隱棲し、三河國より本願寺を現在の地に移し、豐顯寺と改む。これ卽ち本寺なり。權兵衛の子長宗、三ツ澤の邸宅を本寺に寄せ、大いに堂宇を造營す。これより本寺の名四方に知らる。依つて長宗を中興開基となし、また時の住職日慶を中興開山と稱す。長宗、日慶に歸依する事厚く、其一子を法弟となして日原と云ひ、本寺法統を繼承せしむ。享保九年日壺、所謂三澤檀林を寺内に設く。明治四年及び同十八年の兩度火災に罹り、堂宇の大半を失ひ、今は往時の盛觀を存せず。

㊂境内には櫻樹多く、俗に豐顯寺櫻と稱せらる。堂宇は本堂（八間半に七間半）・客殿・庫裡等を具備し、何れも草葺なり。境内に日時、多米氏累代の墓あり。

横濱別院　横濱市中區福富町。

㊀眞宗高田派。

㊁元治、慶應の頃、當地に港の開かるゝや、當派の信徒一所に相集りて法義相續をなせしが、明治六年淺草本願寺第二十一世慈如當地に二十八日講を設けしが、明治五年太田町六丁目（現在中區太田町六丁目）に移して後草本願寺出張所と改む。其後寺域狹隘を告ぐるに至りしを以て、同十六年花咲町に移り、更に同十八年梅ヶ枝町に轉ず。同二十九年淺草別院横濱支院と改稱し、同四十年には獨立して、横濱本願寺別院と云ふ。其後堂宇次第に完飾せしも大正十二年の震災に悉皆烏有に歸す。

㊂現在假堂にて寺務を處理す。

横濱本願寺別院　横濱市中區長者町五丁目。

㊀眞宗大谷派。

㊁慶應二年東本願寺第二十一世慈如當地に二十八日講を設けしが、明治五年太田町六丁目（現在中區太田町六丁目）に移して淺草本願寺出張所と改む。其後寺域狹隘を告ぐるに至りしを以て、同十六年花咲町に移り、更に同十八年梅ヶ枝町に轉ず。同二十九年淺草別院横濱支院と改稱し、同四十年には獨立して、横濱本願寺別院と云ふ。其後堂宇次第に完飾せしも大正十二年の震災に悉皆烏有に歸す。

㊂現在假堂にて寺務を處理す。

弘明寺　横濱市中區弘明寺町。

㊀古義眞言宗。

㊁瑞應山と號し、本尊は十一面觀世音にして、坂東三十三所第十四番札所たり。もと無本寺なりしが、一時中區堀内町寶生寺に屬し、今は同區元町一丁目增徳院直末なり。開山は行基と云ひ、或は空海なりとも傳ふ。寛德元年住持光惠堂宇を修理す。鎌倉歷代の武將の崇敬厚く、殊に源家は本寺を以て代々祈願所となせりと云ふ。其後元享元年には淨泉比丘尼、明應五年には源覺により堂宇修繕改築せらる。小田原の北條氏赤尊信淺からず、寺田若干を寄進す。慶安二年に至りて將軍家光より寺領五石の朱印を附せらる。明和二年智光本堂を改築す。現在の本堂卽ちこれなり。

㊂境内約一萬坪。本堂・太子堂・庫裡・客殿等を具ふ。本尊十一面觀音立像一軀（木造）は一に粗木の觀音と云ひ、藤原末期の作と推定せられ、現に國寶たり。所謂鉈彫式の一例にして、兩手・天衣・持物に至る迄墨く一木彫成なり。碧眼鮮やかに、各部の均齊又宜しきを得て此種作品中の傑作たり。其他歡喜天・不動明王・愛染明王・藥師如來等の佛像十數軀及び佛畫・古文書數點を藏す。

㊃緣日は毎月十八日にして大護摩供養行はる。

東漸寺　横濱市櫻子區杉田町。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁靈桐山と號し、關東十刹の一たり。正安三年北條宗長（一說に時長）、宏覺禪師を請して開創し、且つ寺田を獻じて其香華所とす。北條氏滅亡後寺運傾きしも、小田原の北條氏これを再興し、寺領五十五貫を寄進す。天正年中兵燹に罹り、幾許もなくして再建せられしも規模は大いに縮小せり。寶永年中、問宮敦信なる者種種奔走して再興す。因りて敦信を推して中興開基となし

す。

㊂堂宇に本堂・釋迦堂・開山堂・辨天堂・地藏堂等を具備す。

龍本寺（りゅうほんじ）　横須賀市深田町。

㊀日蓮宗。

㊁振海山毗師堂と號す。日蓮像を本尊とす。建長五年日蓮安房より鎌倉に至らんとし、安房南無谷より出帆せしが、暴風に遭ひ、米ケ濱（現在の寺地）に着す。此時白振現はれ、日蓮を有緣の地に導けりと傳ふ。近在深田の人石堂左衛門尉深く歸依し、日蓮を請ぜしも上人これを辭し、廣窟に入りて求法の大願成就を祈る。依つてこの地を初發願の靈場と崇む。日蓮の弟子日法其遺跡（現在本寺々内にあり）に一寺を建立して御浦法華堂と云ふ。第四世日靜寺基を三浦郡大字金谷に移して大明寺と云ひ、舊地にあるを龍本寺と稱して大明寺の奥ノ院となす。これ卽ち本寺なり。

㊂本堂・鬼子母神堂・稻荷堂・清正公堂・庫裡等を具ふ。境内二千五百坪あり、寺内に日蓮の三七日間誦經發願靈窟の遺跡あり。

平間寺（ひらまでら）（川崎大師）　川崎市大師河原。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁金剛山金乘院と號す。大治年中當地の平間兼豊、彼乘父子、海中より弘法大師の木像を得、草庵を營みて此像を安置せしに靈驗す。保延年中鳥羽法皇の寵妃美福門院、本寺の僧尊賢をして求子の法を修せしめ給ひしに、皇子誕生ありければ、本寺を勅願所に列し、且つ化粧の紅にて書せる緣起を賜はる。今に傳ふる紅緣起これなりと云ふ。又一說に應永年中、橘樹郡下平間村の眞言宗稱名寺の僧某、現營に歸依し弘法大師の像を多摩川に流す。一漁夫これを拾ひて安置し、村名によりて平間寺と稱すと。江戸時代初期には弘法大師堂の別當寺にして、荏原郡高畑村（現在東京市蒲田區高畑町）寶輪院の末寺なりき。慶安元年幕府朱印六石を寄せ寺中諸役を免除す。其後、明和、安永の頃住持隆範、隆盛等相繼いで堂宇を改築修理す。寛政八年將軍家齊參詣せし頃より當寺大師の靈驗四方に聞へ、賽者漸く多し。文化二年寶輪院と絶ちて醍醐三寶院の直末寺となる。同十年家齊再度參詣し寺運更に揚る。明治初年、廢佛毀釋の爲め稍々衰頽せしも、幾許もなく復舊、一般の尊信又篤に倍す。明治二十一年より同三十五年迄に諸堂宇再興、修理の事行はれ、東京、横濱兩市其他より講中の參詣

（平間寺本堂）

繁し。高尾山藥王院、成田山新勝寺と共に當派中の三山と稱せらる。

㊂本堂は第三十五世隆盛の再興に係り、山門また第三十九世隆僧の建立なり。寺寶に鼠鉢心經（傳弘法大師筆）・紅緣起等あり。近年寺域の南方に一萬三千坪に及ぶ公園設けらる。

㊃毎年一月、五月、九月の護摩供、三月二十一日の御影供には賽者群集す。

稱名寺（しょうみょうじ）　久良岐郡金澤町寺前。

㊀律宗。

㊁金澤山彌勒院と號す。當宗別格本山なり。初め北條氏の一族金澤實時當地に別業を構へて住せしが、文永六年其子顯時と協力して一寺を建立し、阿彌陀堂に過去成佛の彌陀如來を、講堂には現在成道の釋迦如來を、金堂には未來出世の彌勒菩薩を安置し三世成道の靈場に擬し、律宗の僧眞戒を請じて開山とす。鶴山天皇、詔して勅願所と定め給ふ。實時、寺領を寄せ、又六浦庄世戸堤内の殺生を禁斷する等尊信殊に厚し。其後裔顯時、貞顯、貞將等又何れも當寺の檀越として、歷世寺領を獻じ、崇敬の誠を致す。亦寺内に文庫を建て、和漢の書册を集む、金澤文庫卽ちこれなり。元亨三年第三世湛睿、結界の作法を行ひ、繪圖を記す。これによれば、寺中に金堂、講堂、方丈、兩界堂、本堂、五重塔、僧房、經藏、富士權現社、靈堂、庫裡、無常院、浴室、倉庫、地藏堂及び實時、顯時、貞時等の廟ありて、結構壯麗を極めたるもの、如し。元弘三年、後醍醐天皇勅して祈禱を命ぜらる。後ち足利氏の祈願所となり、小田原の北條氏亦崇敬厚く、寺領の寄進ありき。德川氏よりも、朱印地百石を寄せたり。尙ほ金澤文庫は實時の創設後、鎭時の代に至つて和漢の書充實し、金澤文庫なる印を遺り、儒書には黑印、佛書には朱印を各卷に押捺せり。此頃は何人たるを問はず自由に閲覽せしめたるも、時を經て書籍の大半散逸す。應永年中、管領上杉憲實再興せしも往時に及ばず。慶長七年德川家康文庫の書籍を江戸城の南富士見亭に移せしより全く廢絶し、纔かに當寺山門内右側に其の址を存せしのみなりしが昭和三年神奈川縣御大典記念事業として、これを再興し、書册のみならず寺寶をも納めて之を一般に公開するに至れり。現に史蹟に指定せらる。

㊂寺寶頗る多く、今國寶に指定せられたるもの、みを擧げて說明すべし。木造彌勒菩薩一軀は當寺創建以來の本尊と傳ふ。手法樣式より考察して鎌倉末期を下らざるべく、全體に美麗なる裝飾を施し、殊に天冠、天衣に施せる微金文樣は頗る精妙なり。同釋迦如來立像一軀は釋迦堂に安置され、京都嵯峨清凉寺の釋迦像を模造せる一例にして、當寺創立より遠からざる時代の製作なるべし。同十一面觀音立像一軀は特に南北朝の製作傑れたり。本尊彌勒像と相似たる作風にして鎌倉時代末期の製作と推考さる。銅鐘一口は金澤實時父母の爲に鑄造せる梵鐘銘文したるにより其子顯時正安三年に改鑄せしもの、銘文は入宋比丘丹種の作にして宋僧懇洪の書に係り、實時父子の好學の狀と本鐘の來歷を知るべき重要なる資料たり。紙本墨書明僧願文集一册は鎌倉時代藤原實貫及び菅原爲長の作のみを集めしものにて史料として重んずべく、この表紙に自署せる泄響は元應年間當寺に來れる學僧たり。絹本着色金澤實時、顯時、貞顯、貞將像四幅は鎌倉時代末期の肖像畫の好例にして、同十二神將像十二軀は室町時代初期の製作に係る。厨子入金屑製愛染明王一軀は永仁五年二月二十七日の銘あり、高さ二寸二分の小像なり。稱名寺創建古圖一枚に元亨三年二月の奥書ありて本寺の古へを知るべく、紙本墨書圓覺經二卷は正慶二年金澤貞顯の筆、同文選李善注十九卷又注意すべし。境内六萬八千餘坪に及び、寺域附近は鎌倉幕府時代の行樂地にして景勝の地として古來著れ、州崎晴嵐、瀨戸秋月、小泉夜雨、乙艮歸帆、稱名晚鐘（當寺境内）、平潟落雁、野島夕照、内川暮雪の金澤八景を數ふ。

上行寺（じょうぎょうじ）　久良岐郡六浦莊村大字三分。

㊀日蓮宗。

㊁六浦山と云ひ、中山法華寺末寺なり。もと眞言宗にして、金勝寺と稱せしが、建長六年日蓮、法華寺開基當木五郎と法論して、これを風服せしめ、其所願所なる當寺の住持普義また日蓮に心服せり。後ち荒井平次郎光善、中山第三世日祐の門下に入りて、日尙と改名し、當寺を現宗派に改め、日祐を推して開山となし、二世として其跡を繼承す。

㊂附近に文和二年六月と刻せる碑あり、日尙の墓と稱す。亦境内の東部に吉田兼好居住せりと傳ふ。

影向寺（ようごうじ）　橘樹郡宮前村大字野川。

㊀天台宗。

㊁醫德山と號す。東京府北多摩郡深大寺末寺にして、堂火災に罹りし時、頭部を燒して他は燒失せしを、圓仁修補すと云ふ。

㊂本尊藥師如來及び兩脇侍像三軀（木造）は國寶に指定せらる。何れも一木彫にして、もと彩色を施されたるものならんも、今は殆ど剝落せり。藤原初期の作と推定さる。

王禪寺　都筑郡柿生村大字王禪寺。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁星宿山華藏院と號す。開山は無空なりと云ひ、當初は禪律眞言三宗を兼學し、久良岐郡金澤稱名寺に屬せしが、後ち醍醐三寶院末寺となり、近時は眞言宗を奉ず。永祿年中小田原の北條氏寺料五十貫文を寄せ、又寛永十九年幕府寺領三十石の朱印を附したり。明治十三年堂宇美上し、觀音堂及び仁王門以外は悉く烏有に歸す。其後再建せられたるも、尙ほ舊態に及ばず。現今遷座の末寺十數寺を統ぶ。

㊂堂宇中觀音堂は屋根草葺にして大悲閣の扁額を掲ぐ。所藏の鐘口は元龜二年小田原西光院圓盛の寄進と云ふ。

神武寺（じんむじ）　三浦郡逗子町沼間。

㊀天台宗。

㊁醫王山來迎院と號し、鎌倉町寶戒寺末寺なり。神龜元年聖武天皇の勅願所となり、又圓仁堂字を修理改築せりと稱す。壽永二年源頼朝平氏討伐を祈願し、諸堂を造營して常法華三昧の道場とし、又山城高雄の文覺（當時伊豆に配流さる）を請じて本寺第三十八世住職とす。建保六年源實朝、右大臣昇進に際して堂宇を修築し、寺田山林若干町歩を寄進す。永正四年火災に罹り、坊舍悉く焼上す。其後再建せられしも、再び回祿の厄に遭ひ、爾後稍々衰頽す。後年小田原北條氏より寺田百石を寄せられて舊觀に復せしが、天正十八年小田原落城

の際、兵燹のため三度堂宇燒亡す。德川時代、享保安政の頃伽藍再建せられたるも尙ほ舊觀に及ばず。

㊁寺は山下の門より險路五町にして達す。一山巨巖に成り本堂・庫裡・乘師堂・山王權現祠以下の堂宇は岩石を切り開きて造營せらる。寺寶に大威德明王畫像一幅・古鐘一領等あり。尙ほ山頂には熊野三所祠あり傳の洞中に五輪塔ありて久明親王の刷所と稱し、守邦親王の御遺營と傳ふ。

岩殿寺（岩殿觀音堂）三浦郡逗子町久木。

㊀曹洞宗。

㊁海前山護國院と號す。十一面觀世音を本尊とし、坂東三十三所第二番札所。古來岩殿觀音と稱して著名なり。聖武天皇御宇の創建と傳ふ。寛喜二年西願再興す。後ち貞禎

（岩殿寺本堂）

せるを、天正十九年長谷川七郎左衛門長綱再建す。因つて長綱を中興開基に推す。近世寺領五石を有せり。

㊂境内三百坪。本堂背後に方九尺の岩窟あり、奥ノ院にして觀音石像を安置す。

大明寺　三浦郡衣笠村大字金谷。

㊀日蓮宗。

㊁金谷山と號する途次、當郡米ケ濱を過ぐ。後ち弟子日法、其遺跡に一寺を造營して、御浦法華堂と稱す。これ當寺の草創にして、鎌倉法華堂住持、當寺住職を兼任す。第四世日靜の代に現地に移りて、大明寺と改め、弟子日榮をして管理せしむ。而して舊地（現在横須賀市深田町）にあるを龍本寺と稱し、本寺の奥ノ院となす。其後、京都本圓寺に屬し、中本山となりて末寺三十三箇寺を有し、堂宇亦壯麗にして寺運隆盛たりしが、明治十九年回祿の厄に遭ふ。同二十五年再建せられたり。

最寶寺　三浦郡北下浦村大字野比。

㊀眞宗本願寺派。

㊁五明山と號す。建久七年源頼朝鎌倉辨ケ谷に一宇を創し、御藏山最寶寺と號す。京都に高御藏の乘師と稱し、行基作の靈像ありしを勸請して本尊とす。規鸞の直弟にして關東六老僧の一たる明光本寺の開基たり其後入りて住せしが西國に赴くに當り弟子明故に附與す。第三世明圓の時、舊本尊乘師佛を三浦郡野比の里に遷し、一堂を營み月山飯食寺と名付く。大永元年鎌倉兵亂の爲め災を受けしに依り第九世明心辨ケ谷の寺基を野比の地に移せり。

㊂寺寶に明德四年、應永十一年、享德元年等の文書・傳親鸞聖人筆十字名號一幅・足利尊氏寄附の大子像一軀等あり。

淨樂寺　三浦郡西浦村大字饗名。

㊀淨土宗。

（淨樂寺本堂）

㊁金剛山勝長壽院と號し、大御堂と云ふ。文治五年、和田義盛の建立と傳へ、所謂七阿彌陀堂の一なり。承

久二年、平政子鏡面佛を本尊胎内に納む。北條氏、幕府御家人等各一寸八分の小佛像二百餘驅を同じく胎内に奉納すと云ふ。其後寛曆甚しかりしが、光明寺二世寂惠之を再興す。天正十九年、德川家康寺領三石の朱印を附す。正保二年、堂宇類燒の厄に遇ふ。寛文三年再建の工竣る。

㊂境内四百五十坪。本尊木造阿彌陀如來及び兩脇侍三驅は、運慶作と傳へ、もと鎌倉勝長壽院の本尊たりしが、同院廢滅の後、本寺に遷座ありし所なりと云ふ。中尊に見る衣紋の刀法稜に强く、藤原末期より現るゝ新傾向を認め得。兩脇侍像又藤原期の樣式を遺存したれば、大略鎌倉初期の作と推定し得べし。近世の拙劣なる修理に依り、尊容をいたく損ずるは惜しむべし。

高德院（鎌倉大佛）　鎌倉郡鎌倉町長谷。

㊀淨土宗。

㊁大威山淨泉寺と號し、俗に長谷の大佛と云ふ。天照山光明寺に屬す。曆仁元年淨光大佛建立を發願し、四方の淨財を仰ぎて八丈餘の木造阿彌陀像を作り、仁治二年大佛殿上棟を行ひ、寛元元年工成る。建長二年大風の爲に殿堂、像と共に倒壞し、同四年再築して銅像となす。工人或は大野五郎右衛門と云ひ、或は丹治久友なりと傳ふ。建武二年、北條時行の軍勢、暴風を避けて本堂内に入りしに、棟瓔折損し壓死する者五百餘人に達す。其後再建せられしが、慶安二年再び大風の爲め堂宇顚倒す。更に明曆四年由井ケ濱の海水湧舞して、殿堂三度破壞す。爾來佛像露座し給ふ。正德年中、祐天別當坊を建て獅子吼山淸淨泉寺と稱し、從來眞言宗なりしを淨土宗に改む。よりて祐天を推して中興開山とす。

㊃明應年間以來堂宇なし、纔に玉砌石を留むるのみなり。本尊大佛銅造阿彌陀如來坐像（一軀）は現に國寶たり。總高三丈五尺、背に二窓を開き、胸内に六觀音及び彌陀三尊を安置す。此像鑄造の法奈良の大佛と等しく、下より漸次上方に及ぼせる鑄繰の法によれるものにして、胎内を檢するに、左右、上下を鑄繰するに各々壞を出して以て鑄結びたる痕跡を存す。相好圓滿にして、姿體に安定の美あり、鎌倉期彫刻の代表作なると共に本邦大佛中の逸品なり。

光則寺　鎌倉郡鎌倉町長谷。

㊀日蓮宗。

㊁行時山と號す。

（光則寺正門）

交永八年日蓮龍ノ口の法難に遭ひ弟子日朗、日心等は北條時賴の臣宿谷左衛門光則入道、西信の許に預けらる。日蓮佐渡に配流さるゝに及び書を日朗に送る。西信、日朗の師を慕ふの情切なるを見、密かに佐渡に赴かしむ。其後自邸を寺とし日朗に附す。而して其災行時及び己が名を以て寺號となし行時山光則寺と稱すと云ふ。

㊃日朗を宋せし宿谷入道邸内の土の宋の地は今寺域の北方小丘上に在り。寺寶に日蓮筆蹟・宿谷光則の像等あり。

㊄七月十六日、立正安國論進獻式。文應元年日蓮、宿谷光則を通じて立正安國論を北條時賴に進獻せる故事を偲ぶものなり。

新長谷寺（長谷觀音）　鎌倉郡鎌倉町長谷。

㊀淨土宗。

㊁海光山と號し、長谷寺と云ふ。坂東三十三所第四番の札所なり。養老元年德道上人、二體の觀音像を作り一體は大和長谷山に安置し、他の一體は有緣の地に奉安せしめんとて海中に投ず。其の後十六年を經て、天平八年相模三浦郡長井村に漂着す。依つて聖武天皇勅して一寺を創立せしめ、新長谷寺と稱し、德道を開山たらしめ給ふと傳ふ。文永元年住持眞光、淨佛勸進して、堂宇佛像を修理す。明德二年同義滿光背を修造し、傳行基作の像を前立とす。天文十六年、北條氏康、永正十七年の先規に任せ、敷地料二貫文を寄進す。天正十九年德川氏同額の朱印を與へ、慶長十二年堂宇を修補す。正保二年酒井忠勝更に改造す。これ卽ち現在の伽藍なり。

㊂觀音山の中腹にあり、鎌倉、由井ケ濱一帶の地を瞰下して眺望絶佳なり。本堂はもと豐臣秀吉造、桁行九間三尺、梁間九間の巨堂にして、其他總門・彌陀堂・大黑堂等整備せしが、大正十二年の關東大震災に大破

し、目下再建中なり。寶物中銅造十一面觀音懸佛六面は國寶に指定せらる。圓盤形の木心の上を銅板にて被ひて鏡面に擬しこれに牛肉鑄出の十一面觀音立像を附したるものなり。六面の内、元德、嘉暦の年號を刻せるものあること及び面の直徑の二尺四寸餘に達する大型なる事等は注目に値す。

㊁開帳（三月十二日より十八日迄）、四萬六千日（八月十日）、尊ほ十二月十七日、十八日の歳の市は頗る雜沓す。

極樂寺　鎌倉郡鎌倉町極樂寺。

㊀律宗。

㊁靈鷲山感應院と號し、或は靈山殿と云ふ。奈良西大寺末寺たり。正嘉年間、一僧、深澤の地に一宇を構へ、丈六の阿彌陀像を安置して極樂寺と稱せり。正元元年北條重時、此寺を西南地獄谷に移し、新に堂宇を營み、僧良觀を（忍性菩薩）を請じて開山となす。翌文應元年工竣る。重時の子長時、其弟業時と協力して造營を加へ、七堂伽藍、寺中四十九院悉く完成し、輪奐壯麗を極む。良觀、慈悲心に深く、本寺附近に牛馬の療病所を設けたるは著名なる事實なり。建治元年、回祿に罹りしが、良觀奉祿勸進して再興す。弘安四年勅により百座の仁王講を修して聖古降伏を祈願し、元軍潰滅の効驗著しきにより、北條時宗祈願寺となす。元弘二年勅願寺に列す。足利氏尊信深く、尊氏、義滿は塔頭地藏院に地を寄せ、又寺領の課役を免じ、管領氏滿また役夫工米以下諸役を永く免除せり。成氏は毎年二月の舍利會に塗讃し、五月には寺主を營中に招請するを例とせり。これより先き應永三十二年二度戚融の厄に遭ひ、堂宇悉く灰燼に歸し、更に永享五年には地震ありて一部堂宇破損し寺運次第に傾き、佛殿及び塔頭一院のみとなれり。天正十九年に至り、德川氏寺領九貫五百文の朱印を寄せ、稍々舊觀に復せり。

㊂境内四千二百坪。本堂・庫裡・客殿等を具ふ。本尊木造釋迦如來立像一軀は京都嵯峨清凉寺釋迦像の模作品中優秀なるもの、一なり。其手法精密にして全體の均整よく、壯重なる趣致を具ふ。本寺創建の際の製作なるべし。木造釋迦如來坐像一軀は鎌倉中葉以後の特色を稱し、轉法輪の印形を結ぶを見るべし。同不動明王坐像一軀は關西の某寺院より移されたりと傳へ、藤原後期の優雅なる作風を示せり。同十大弟子立像十軀は胎内に明暦三年修理の際の木札ありて、文永五年忍性の造立に係る由の銘記あり。この外金銅五鈷鈴一箇・同三鈷一箇あり。以上六點は何れも國寶に指定せらる。

光明寺　鎌倉郡鎌倉町亂橋材木座。

㊀浄土宗。

㊁天照山蓮華院と號し當宗大檀林なり。もと當宗關八州の總本山と稱し、十八檀林の第一位を占め、京都の一條、三條、木幡、關東の白旗、名越、藤田六派の本寺なりき。仁治元年（一説に寛元年間）執權北條經時、當地佐介谷に一寺を造建して、蓮華寺と號し、然阿良忠（記主禪師）を聘して開山となす。即ち、これ本寺の濫觴なり。寛元元年經時、更に現地に移し、天照山蓮華院光明寺と改め武藏國芦田郷三百町の地を寄せて寺領とす。寶治二年、北條時頼、堂宇を修理し、由良の地を寄進す。建治二年、後宇多天皇、本山の號及び紫衣法器等を賜はる。建武二年、足利尊氏堂宇修理田を寄進し、文和三年足利義詮、天下靜謐の祈願を本寺に行ふ。良治二年、管領足利基氏、上總國海井郷の地を寄進す。永享八年、後花園天皇、天照山の額を寄せ給ひ延德三年、後土御門天皇より紫紫衣の綸旨を賜ふ。明應四年、第九世觀誉祐崇入落し、禁中に於て阿彌陀經を講じて觀感斜めならず、勅して慈覺大師傳來の聲明を調ぜしめ給ふ。時に眞如堂の衆徒を率ひ、觀誉これが導師として引聲の彌陀經及び念佛を誦し、遂に紫紫衣及び勅願所の綸旨並に上人號の勅許を得。此時祐崇この念佛を己が精舍に移し、永く浄土の勤行に備へんことを望みて勅許を受く。これより本寺にて毎歳十月に之を修し、後に廣く「十夜念佛」として廣く浄土門の行儀となれりといふ。享祿四年、足利義晴、三浦郡南北の中、一向宗門徒は悉く本寺檀越たるべき旨を下知す。天文十六年、北條氏康、寺地料一貫二百文を寄せ、又天正十八年、小田原役の前、豊臣秀吉制札を立て、軍兵の濫妨

（朝光寺山門）

狼藉を禁制す。同十九年、德川家康より朱印百石、永十貫文の地を附せらる。慶長十三年、浄土宗關東十八檀林定まり、本寺は其第一に列し、紫衣を賜はる。當時日向國延岡の領主内藤氏、本寺の檀越となり、百五十石の地を寄進せしが、萬治二年更に加增して合計二百石とす。延寶三年、幕府三浦郡柏原に於て百石を寄せたり。大正十二年の關東大震災に堂宇大破せしが、直ちに再建に着手し、昭和二年工事竣成し、大略舊觀に復す。現に末寺七十五寺を統ふ。

㊂境内三萬坪。背後に天照山を負ひ、前に相模灘を控え、長谷、江ノ島を一眸に收め得る景勝の地を占む。大殿は十三間四面にしてもと開山堂と稱し、其忠自作の木像を安置す。記主禪師の額は伏見天皇の御宮筆なり。又後醍醐天皇の叡牌・宥慧・定慧・祐崇等の影像を安置せり。新禮堂には傳聖德太子作阿彌陀如來立像を安す。後土御門天皇御祈願の勅願を掲げしが、維新の際大殿に合併す。二尊堂は桁行六間、梁間五間ありしが、大正十二年の震災に遭ひて全潰し、今はこれに代ふるに大聖園建立さる。其他經藏・庫裡・客殿等を具へたり。天照山には其忠・北條經時の廟・内藤氏累代の墳墓あり。所藏の寶物中國寶に指定せらるゝものは次の四點なり。紙本着色當麻曼荼羅繪卷二卷（附、寛政五年松平忠信縁書一卷）は關書によれば淳仁天皇御宇橘佩大臣の女佛道に歸依して當麻寺に入り、彌陀觀音の化身に援けられて蓮絲の曼荼羅を織り、遂に來迎引接せらるゝ物語なり。圖面の聯結展開巧妙を極め、彩色又華麗なり。鎌倉時代繪卷中の一傑作なり。絹本著色當麻曼荼羅圖一幅は中央に極樂浄土を圖し、縁邊には右に阿闍世王の物語、左には十三觀、下邊に九品三輩の來迎を各々描く。かゝる圖様は鎌倉時代に浄土教の興隆と共に、盛に製作せられしものにしてこの圖亦其一例たり。紙本着色浄土五祖繪傳一卷は支那浄土教の五祖・曇鸞・道綽・懷感・善導・少康等の因縁譚を描けるものにして、奥書によれば嘉元三年の製作に係るものゝ如し。筆致簡素にして、宋畫の影響あるを窺知せしむ。絹本着色十八羅漢及び僧像十九幅は筆致温雅にして色彩艶麗なり。室町初期の作なるべし。添附の善月大師像の描法これと同一なり。

㊃十夜會（十月十二日初夜より十五日日中迄）

補陀落寺　鎌倉郡鎌倉町亂橋材木座。

㊀古義眞言宗。

㊁南向山歸命院と號し、高野山金剛峯寺に屬す。養和元年、源頼朝之を開創し、文覺を請じて開山となすと傳ふ。正平五年、鶴岡八幡宮の供僧頼基、堂宇を修理し寺運の再興を圖る。因りて頼基を中興開山とす。天文二十三年、小田原北條氏より棟別錢免除の下知を受く。文化年中及び明治五年の兩度美上せしが、同三十四年再建せられたり。

㊂山内東慶寺に、觀應元年の銘ある本寺の古鐘を傳ふ。

寶戒寺　鎌倉郡鎌倉町小町。

㊀天台宗。

㊁金龍山釋滿院と號す。もと當地葛西ケ谷に關東十刹の一なる青龍山東勝寺なる禪寺ありき。北條泰時、行勇を開山として創立せしものなるが、元弘三年、新田義貞大軍鎌倉を攻むるや、北條高時此寺に入りて一族郎黨八百七十餘人と共に自害す。建武二年足利尊氏勅許を得て、此寺を高時の邸址に再建し、以て北條氏の菩提を弔ふ。而して觀淑を請じて開山となし、現寺號に改む。本尊は地藏菩薩にして、俗に子育經讃地藏尊と云ふ。寺領近世九貫文を有せりと云ふ。

㊂國寶に指定さるゝ寺寶に左の三點あり。木造歓喜天立像一軀は本寺創建當時の作なるべく、刀法莽放にしてしかも一種の氣品あり。衣には輪寶等の土紋を置く。同地藏菩薩坐像一軀は頭部の内部に貞治四年正月造の朱銘あり。製作年代鎌倉末期に屬すれど運慶流の勁健なる刀法を見る逸品なり。光背の下部及び蓮華座は當初のまゝにして頗る精巧なり。同惟賢和尚坐像一軀は應安五年惟賢八十五歳の壽像なること、胎内に存する惟賢自筆の紙本墨書造像記一通によりて知らる尚ほ頭部内面に「いよのほうけんぶつしちやうけい」の墨書あり。

本覺寺　鎌倉郡鎌倉町小町。

㊀日蓮宗。

㊁妙最山と號す。日蓮佐渡より鎌倉に歸へりて滯在せし草庵の故址に、永享八年、日出、足利持氏の支援を得て一宇を創せしに起原す日出の弟子日例、遺囑により十五歳にして本寺を領す。其後日朝身延山に住するに及び、身延より日蓮の遺骨を分移して東身延と稱す。當時東三十三箇國の本山にして關八州の僧錄を司り、國本山と號して寺運隆盛を極めたり。天文年間、北條氏康數地料二貫二百文及び制札を寄せたり。天正十九年、德川家康、寺田十二貫二百文の朱印を寄進す。天文二年京都村雲御所より紫紋袈裟綸代の免許あり。近時堂宇の改築成り、面目を一新す。

㊂境内地約二千坪。本堂・仁王門・宗祖御分骨堂を具へ、寺寶に傳日蓮筆曼荼羅及び日蓮の消息等あり。

㊃日朝忌（七月二十四日）二十五日）宗祖會式（十月二十四日、二十五日）

（本堂寺本堂）

安養院（附、田代觀音）　鎌倉郡鎌倉町大町。

㊀淨土宗。

㊁祇園山長樂寺と號す。嘉祿元年、北條政子、源頼朝追善の爲に長谷稲瀬川の邊り笹目ケ谷に一寺を造營し、願行を請じて開山とす。これ本寺の草創なりと傳ふ。同年政子薨じ、遺骨を本寺に埋葬す。法名安養院殿なり。時に北條泰時堂宇を建立し、後堀河天皇より勅願所の綸旨及び安養院の扁額を賜ふ。正慶二年、堂宇兵火に罹る。依つて政子の廟所と共に現在の地に移轉す。尚ほ本寺もと無本寺たりしが、延寶四年、京都知恩院末寺となり、寺號も一時善導寺と改められたり。

㊂寺寶に政子、願行等の木像あり。尚ほ境内に觀音堂ありて千手觀音を安置し、坂東三十三所第三番札所なり。北條政子の開基と云ふ、俗に田代の觀音と稱す。もと比企ケ谷田代に在りしが、延寶八年、此地に移建せられしなり。

㊃願朝御祥忌（一月十三日）、二位禪尼御祥忌（七月十三日）。

常榮寺（牡丹餅寺）　鎌倉郡鎌倉町大町。

㊀日蓮宗。

㊁慧雲山と號す。俗に牡丹餅寺と稱するは往昔當地機敷の尼なる者、日蓮ノ口の法難の際、これに牡丹餅を獻ず。後ち寛文十二年に至り、水野渓路守重良の女慶雲院日祐、機敷の尼の法名妙榮日榮に因みて榮寺號として創建せるに由來すと云ふ。是より先き慶長十一年、水野氏の寄進によりて此地に法華經檀林設けられ、池上比企ケ谷兩山十四世自證院日詔、請ぜられて講主となる。其後中絶して其址を談所屋敷と稱せしが、本寺創立の際再興せらる、爾來元禄二年に池上に移されて南谷檀林と稱せらるゝ法縁檀ぜり。尚ほ本寺草創の際、機敷尼を寺内に勸請して機敷大母神と號せしが、今に靈驗著しと云ふ。

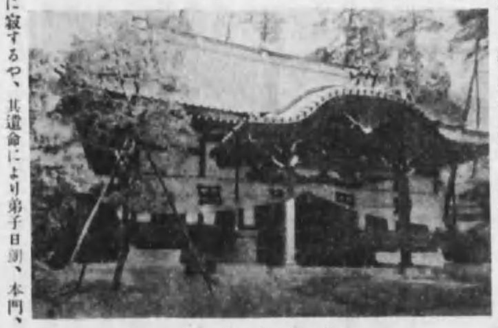
㊂境内二百五十坪。本堂・庫裡等を具へ、寺寶に機敷尼所持と傳ふる木鉢・鏡・かれ笈等あり。尚ほ本寺北側に阿佛尼の墓址あり。

㊃御雛頼つぎ餅供養會（九月十二日、十三日）當日堂内に安置せる日蓮像に牡丹餅を供ふ。蓋し機敷尼の故事を傳ふるなり。

妙本寺　鎌倉郡鎌倉町大町。

㊀日蓮宗。

㊁長興山と號し、本宗四十四本山の一なり。開基日學は比企能員の末子にして、初め比企大學三郎能本と稱せしが、日蓮の教化に歸して其弟子となり、文永十一年父の第址卽ち日蓮最初の說法地に本寺を創建す。而して父母の法諱に因みて長興山妙本寺と號すと云ふ。弘安五年、日蓮池上に寂するや、其遺命により弟子日朗、本門、妙本兩寺を兼攝し、爾來今日に至る迄、兩山山主一人の制たり。慶長三年、德川家康寺領一貫二百文（本門、妙本兩寺領）の朱印を附す。



（妙本寺本堂）

㊂寺域四千六百餘坪あり。老樹鬱蒼として幽邃閑雅な極む。祖師堂安置の日蓮像は文永十一年弟子日法の彫造に係り、久遠・本門兩寺の像と共に一木三體の作と稱し、信徒の尊崇厚し。其他本堂・蛇苦止堂・寶藏・經藏・庫裡等を具ふ。また有方山麓に比企氏一族の墓あり。寺寶としては蛇形本尊・歸命本尊・日蓮消息類等を藏す。

報國寺（宅間寺）　鎌倉郡鎌倉町淨明寺。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁建武元年、足利家時、慧廣（佛乘禪師）を請じて開創す。近世寺田料十三貫文を有せしが、屢々火災に遭ひて荒廢甚し。

㊂寺寶中紙本墨書東歸集一冊は佛乘禪師自筆の詩集にして、現存せる禪僧の詩文集中最古のもの、一なり。附するに紺本著色佛乘禪師像一幅（建武二年自賛）及び佛乘禪師所用の堆朱印類八木印二顆を以てす。現に國寶に指定せらる。紙本墨書佛乘禪師度牒一通及び同禪師戒牒四幅は何れも弘安九年十一月八日の日附ありてこれまた國寶なり。

覺園寺　鎌倉郡鎌倉町二階堂。

㊀眞言宗泉涌寺派。

㊁鷲峰山眞言院と號す。本尊は藥師如來なるを以て一に藥師堂と云ふ。建保六年、北條義時創建し、大倉藥師堂又は大倉新御堂と稱せり。寛元元年、建長三年の兩度祝禄の厄に遭ひしが、弘長三年、北條時頼再建す。永仁四年、北條貞時、現寺號に改め、且つ忍性の門弟智海を請して住せしむ。元弘三年、後醍醐天皇の勅願所となる。足利尊氏、文和三年梁牌銘を書して本寺に納め、天下靜謐を祈願す。其後足利基氏、同氏滿、同成氏、北條氏綱等何れも崇敬の誠を致し、或は所領を安堵し或は寺内に於ける武士の濫妨を禁止する等本寺を保護する事大なりき。

㊂寺寶中、地藏菩薩立像一軀（木造）は俗に火燒地藏と云ひ靈驗顯を稱せらる。其形相端麗にして、衣紋其他の刀法趣致に富む。恐らく鎌倉中葉以前の作たるべく現在にては彩色悉く剝落して黑色をなすに因り、黑地藏とも稱せらる。現に國寶に指定せられ。其他編旨・院宣・神官下文・足利直義下知狀・同基氏所時の令書・同氏滿寺領地諸役免狀・北條氏康印狀等の古文書を多く藏す。

淨妙寺　鎌倉郡鎌倉町二階堂。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁稲荷山と號し、鎌倉五山の第五位たり。文治四年足利義兼當寺を創建して極樂寺と稱し。眞言宗を奉ぜしが、其子義氏、建仁元年現宗に改む。建暦二年、源實朝稲荷社の此地に建立し、翌年北條政子、彌陀堂に轉迦の像を安置す。元應元年、義氏の玄孫貞氏を本寺に葬る。翌年其子尊氏、父の冥福を祈りて、伽藍を營み、元亨元年、現在の寺號に改め、新願寺となし、寺領課役を免す。至德三年、後亀山天皇足利義滿に勅して、本寺を鎌倉五山の末位に列せしめらる。應永三十一年、永享元年の兩度火災に罹りしも、後ち再興さる。天正十九年、德川家康寺領四貫三百文を寄進す。寛延元年、堂宇三度類上す。寶暦六年に至りて、遺營成る。これ現在の堂宇なり。

㊂光明殿に本覺大姉（法樂寺殿義氏の女）の位牌を安置す。

杉本寺（杉本觀音）　鎌倉郡鎌倉町二階堂。

㊀天台宗。

㊁大藏山と號す。傳へて行基の創建に係るとなす。文治五年、回祿の厄に遭ふ。本尊十一面觀世音のみは辛うじて機失を免れ得たりと云ふ。建久二年、堂宇大破せるにより、幕府修理料を寄進す。創立以來奉上する事多く、現在尚ほ寺境の荒廢甚し。されど鎌倉開府以前より、此地に存せし古寺にして坂東三十三所第一番札所たり。

㊂堂宇中、本堂は五間四面覺丈にして、内陣の厨子に十一面觀世音三軀並立す。左端のものは行基の作と云ひ、素朴古拙なる一木作なり。中央のものは圓仁、右端のものは源信の作と傳へ、後の二軀は國寶なり。中央の像製作最も優秀にして、寄木造なれど概して一木造の作風を存し相好圓滿、體軀雄壯なり。衣紋の刀法また勁健の趣きあり。藤原初期の作と推定せらる。右端の像は中央の像より丈低く、前者には見られざる玉眼を嵌入し前者の勁健なるに比して寧ろ穏和なる趣致を示せり。鎌倉中期の作なるべし。

㊃四萬六千日（八月十日）。

瑞泉寺　鎌倉郡鎌倉町二階堂。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁錦屏山と號す。嘉暦二年疏石（夢窓國師）の開創に係る。後ち足利基氏中興す。爾來足利家の香華院十二箇所の一として武家の崇信厚し。至德四年後亀山天皇の勅により、關東十刹の第二位に列せられ、以後歴代將軍より公帖を與へて住持職に任ぜらるゝを例とするに至る。天正十九年德川家康寺領三十八貫文（石高百五十二石）の朱印を寄進せり。慶長年間以後は圓覺寺の僧住持たり。大正十二年、關東大震災に遭ひ、堂宇

等多く遺滅す。

㊁境内千百四十坪。寺寶中夢窓國師坐像一軀（木造）は國寶に指定さる其温雅なる刀法に依りて、國師の氣品高き風貌を巧みに彫出す。其他公帖・古文書等多有す。境内に吉田松陰留跡碑あり。寺背の芳春丘に基氏、氏滿等の古墳あり。また疎石の安禪所なる薄光窟と云ふ。丘上の遍界一覽亭址は嘉暦三年疎石の營む所にして、薄光窟及び芳春丘等と共に、瑞泉十勝の一たり。

㊂塔施餓鬼（七月十日）疎石在住の頃、老僧に化して寺務に服せし古塔の靈を弔ふものなりと云ふ。開祖夢窓國師忌（九月三十日）。

（夢窓國師木像）（國寶）

光觸寺　鎌倉郡鎌倉町十二所。

㊀時宗。

㊁岩蔵山長春院と號す。頓燒阿彌陀緣起に依れば、建保三年、源實朝に仕ふる町の局なる者、佛師をして阿彌陀像を作らしめ、私宅に安置して崇敬怠ちず。時に高徳法師と言へる者あり。密語偷盜の戒を破り人を煩はす事甚だし。局怒りて法師の左頰に火印す。後ち其面を見るに法師には其痕なく、阿彌陀如來の頰に火印の痕あり。局、此奇瑞に感じて、比企ケ谷に岩蔵寺なる一宇を建立し、此像を安置して本尊となす。依つて此寺を俗にかなやき堂と云ふ。萬歳は後年大磯に住し、專ら念佛を勧み、路ゆく人に彌陀の名印を書きて與へ、往生の素願を遂げたりと云ふ。弘安元年現在の地に移轉し、作阿上人入りて住す。。爾來、光觸寺と改む。後年、後醍醐天皇より宮筆の扁額を賜ふ。現に本堂に掲ぐるもの即ちこれなりと云ふ。

㊂寺域三百八十坪。本尊阿彌陀如來及び兩脇侍立像三軀（木造）は所謂來迎相の立像にして、脇侍の内、觀音は蓮臺を捧げ、勢至は合掌す。かゝる像は鎌倉末期に多く見る所なるが。就中本像は優秀なるものゝ一なり。また寺寶中、頓燒阿彌陀緣起二卷は紙本に淡彩を施し、鎌倉繪卷物衰頽期の作なれど、淡彩に墨線を用ひたる趣き捨てがたし。以上二點は共に國寶なり。

㊃作阿上人忌（三月二十日）。

英勝寺　鎌倉郡鎌倉町扇ケ谷。

㊀淨土宗。

㊁東光山と號す。初め、太田新六郎康資の女、江戸城に出仕して梶の方（後ち勝の方と改む）と云ひ、德川家康に寵愛せられ一女を産む。然るに此の女久しからずして死せしかば、家康深く勝を憐み、德川賴房に命じて其准母となす。家康の薨後、勝髪髮して名を英勝院と改む。寛永十一年、英勝院、幕府より鎌倉扇ケ谷の地若干を得、一寺を建て、英勝寺と云ふ。然して賴房の女を養ひて尼となし、玉峯清因と號し、此寺に住せしむ。同十五年、幕府三浦郡逸子村四百二十石の田畝を附す。同十九年、英勝院歿し、明正天皇より御宮筆の扁額及び常紫衣の綸旨を賜はる。爾來關東屈指の尼院たり。

㊄本堂・庫裡以下の建造物は何れも壯麗にして輪奐の美を誇ふ。英勝院の墓は本堂の西方に存し、德川光圀の建立に係ると云ふ。寺寶に伏見天皇宸筆阿彌陀經・後陽成天皇宸筆名號・傳惠心僧都筆阿彌陀畫像・金泥曼荼羅・二十五菩薩像等あり。寺地は一に太田道灌の邸址と云ひ、近くに源氏山の丘陵を控へて風致に富む。

㊅開山（忌十月二十三日）。

海藏寺　鎌倉郡鎌倉町扇ケ谷。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁扇谷山と號す。開山は源霜にして、初め寶洞宗を奉じたるも、後ち住僧某、建長寺の道隆に歸依して現宗派に改む。天正の頃より建長寺々領の内一貫二百文を附ぜらる。

㊂佛殿及び庫裡は何れも草葺にして、本尊藥師如來は俗に嗜藥師と稱ぜらる。寺域の南方廣窟中に井十六ありて十六井と云ふ。一井の口徑壹に深さ尺餘に過ぎず。正面に彌陀三尊を彫刻したる長三尺餘の板碑を掲ぐ。寺寶は五部大乘經二十函・二十五菩薩（傳開山所用）・開山畫像及び傳記等あり。

淨光明寺　鎌倉郡鎌倉町扇ケ谷。

㊀眞言宗泉涌寺派。

㊁泉谷山と號す。山城國高雄山の僧文覺が源賴朝の爲に祈願所を建立せるに濫觴すと云ひ、古くは眞言、天台、禪、律四宗兼學の道場たりき。建長三年、北條長時眞阿を請じて住せしめ、淨光明寺と改めしむ。元弘三年、後醍醐天皇相模武藏下總三國の一部を本寺々領となし給ひ、且つ定額寺と定め給ふ。慶安七年、足

利義滿、伊豆三津庄を寄せ、赤本寺領内の課役を免除す。慶安六年、足利滿兼、關基氏、同氏滿等寺内に埋葬す。天正十九年德川家康、四貫八百文の地を寄進す。

㊂寺域は泉ケ谷の一部を占め、堂宇は數段の高地に分置せらる。而して其上層の地に阿彌陀及び其子冷泉爲相の墳墓ありて、現に史蹟に指定せらる。寺寶中、阿彌陀如來及び兩脇侍坐像三軀（木造）は國寶に指定せらる。三像の内、彌陀は玲しくも寶冠を戴き、上品中生の相にして轉法輪の印を結び、衣には諸所に土紋の彩色殘存す。脇侍は高彫鬼騰にして特殊の手相をなせる坐像なり。其衣は寫實的の複雜なる襞襞ありて支那風の趣きを存す。後年修理の際、彌陀の頭部より經卷名號等發見せらる。中に正安の年號を記せるものありき。會ほこれら三像の脇壇に安置せる矢拾地蔵は、足利直義が護瓦親王追善の爲に建立したる舊懋恩院の本尊なり。境内の別堂に安置せる八坂不動明王は文覺の勸請せるものと傳へ、舊寺中華蔵院の本尊にして、一に繰結び不動と云ふ。其他古文書・書畫等數點あり。

壽福寺　鎌倉郡鎌倉町扇ケ谷。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁鳩谷山霊鷲金剛禪寺と號し、鎌倉五山の第三位たり。初め岡崎義實、此地に一宇を營みて源義朝の冥福を祈りしが、正治二年、北條政子、桑西を請じて開山となし、堂宇を增築して一寺となす。本寺即ちこれなり。建久二年、政子、沼濱にありし義朝の舊館を本寺に寄す。建保元年、源實朝參詣して、和田義盛等の爲に法會を修す。實治元年及び應永二年の兩度風融の災に遭ひ、古文書等寺寶の大半燒亡す。天正十九年、德川家康、寺領五貫二百文の朱印を寄す。寛永十一年、寺地の一部を隣接せる英勝寺に讓與し、慶安二年其の代償として幕府より三貫八十文を加增ぜらる。

㊂所藏の地蔵菩薩立像一軀（木造）は一木彫成にしてしかも玉眼の嵌入を見る珍奇なる作と云ふべし。鎌倉初期の作と推定せらる。現に國寶たり。塔頭に逍遥庵、桂光庵、正隆庵等數宇あり。また境内に十境の勝あり。長庚嶺、獨松峯、雙巒池、象王巖、華嚴峯、歸雲洞、碧玉泉、金龜井、梅鳩池、望夫石、これなり。

（壽福寺前景）

龍口寺　鎌倉郡川口村大字芳瀬。

㊀日蓮宗。

㊁寂光山と號す。文應元年、日蓮、立正安國論を著して、幕府に獻じ、更に文永八年四箇格言を高調し、幕府此寺司に對し諸宗の禁制を強請せるにより、北條氏の忌諱に觸れ、四年九月此地に於て斬罪に處せられんとす。所謂龍ノ口法難なり。而して辛うじて難を免れ佐渡に配流さる。延元二年其門弟等協力して其法難地に一寺を造營し、日法作高二尺二分の日蓮像を安置す世人これを首つぎの宗祖と云ふ。これ當寺の草創にして、當初は常立、本蓮、本成、勳行、法源、東漸、本龍、妙典の八寺にて輪次に管理せしが、後ち一寺の制廢せらる。現に當宗四十四本山の一に列す。

㊂寺域、背後に青巒を負ひ、前面に江ノ島を望みて風光秀佳なり。堂宇中五層塔は最近十三箇年の日時と十萬餘人の淨財を以て造營せられたるものなり。寺寶に日蓮筆七字七幅及び制札二通等あり。

㊃九月十一日、十二日、十三日に大法要を修す。蓋し文永八年九月十二日子丑の刻における宗祖の龍ノ口の法難を記念するものとす。

證菩提寺　鎌倉郡本郷村大字上野。

㊀古義眞言宗。

㊁五峯山一心院と號し、金剛峯寺に屬す。文治五年源賴朝、石橋山の戰に死せる佐奈田與一義忠追善の爲に、宗覺（大蓮僧都）を請じて開創すと傳ふ。文暦二年北條泰時の女、寺中に新阿彌陀堂を建立す。建長二年堂宇を修理す。北條氏滅亡するや、從つて寺運大いに傾く。宏敎これを再興し、無量寺と改めしも後ち舊稱に復す。大正十二年の大震災に堂宇の破損甚だしかりしが其後本堂、庫裡再建せらる。

㊂奉安の阿彌陀如來及び兩脇侍像三軀（木造）は國寶にして、嘉禎元年建立の新阿彌陀堂の本尊なりしと云ふ。其彫風に一見藤原時代の樣式を示せども、衣潛等には明かに鎌倉時代の特色を示せり。其他藥師如來・

文覺上人像・太刀一口・古文書數通等あり。境内に岡崎四郎義實の墓あり。

永勝寺　鎌倉郡豐田村大字下倉田。

㊀眞宗大谷派。

㊁臥龍山鮮瑞院と號す。眞宗關東七箇寺の一なり。もと長延寺と云ひて天台宗なりしが、嘉禎年間、親鸞當地に化を垂るゝや、住僧これに歸依し、現宗派に改む。其後武田信玄、甲斐の府中に一寺を創立して長延寺と云ひ、當寺住職なして兩寺々務を掌らしむ。甲斐の長延寺は即ち現在の甲府別院なり。本寺は後ち枝ありて永勝寺と改む。

㊂寺寶に掛阿彌陀像聖德太子像（何れも親鸞作と傳ふ）・傳法然自畫像等あり。

常樂寺　鎌倉郡小坂村大字大船。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁栗船山と號す。古くは栗船御堂と云ひ、嘉禎三年北條泰時の創建に係る。仁治三年泰時卒し、本寺に葬る。聖寛元年、泰時追福の爲に當山に於て曼荼羅供養を修す。同年、宋僧道隆歸化し、當寺に住する事七年に及び、建長寺成るや、これに移る。本寺其末寺となり、建長寺々領の内を配當ぜられ、また輪番の制を設けて住持せしめらる。然れども、もと道隆居住の地たれば、本寺を以て、其根本寺と稱す。後ち寺運傾き無住寺となり、建長寺塔頭龍峯庵の僧擧する所となりしも、今は獨立す。

㊂鐘樓の銅鐘一口は寶治二年三月二十一日の銘あり北條時頼、父泰時追善の爲に鑄造せしものにして、現に國寶に指定ぜらる。また寺内に泰時の墓あり。堂宇は大正十二年の震災に佛殿、文殊堂を除き悉く倒壞し未だ舊態に復せず。

㊃文殊祭所謂會（一月二十五日）。

大長寺　鎌倉郡小坂村大字岩瀬。

㊀淨土宗。

㊁龜鋭山護國院と號す。天文十七年の創建に係り、開山は大導寺政繁の甥感譽存貞、開基は當郡玉繩城主北條左衛門大夫綱成なり。永祿元年綱成の室（大頂院光譽蟬誉）殁し、遺骸を本寺に埋葬するや、綱成寺田料二十貫文を附與し、自家累代の祈願所とす。而して綱成室の法名をとりて大頂院と號す。天正十五年、綱成死し、また寺内に葬る。同十八年小田原役の際、綱成の後裔氏勝、玉繩に據りて降らず。氏勝は本寺の檀越たりしを以て、本寺四世誂譽源榮、德川家康の内命により氏勝を說伏して恭順せしむ。其功により寺領五十石の朱印を附ぜらる。當時寺號を大頂寺と改め、後ち更に大長寺と改む。慶長十三年江戸城にて淨土、日蓮宗論議の際、源榮、これを奉行して修學料二百石を受く。

㊂寺寶に大頂院木像・四季泳歌短册四枚・德川家康影像・槍二筋（傳大導寺政繁所用）等あり。

黃梅院　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁傳衣山と號し、圓覺寺内にありて同寺の塔頭なり。

㊂所藏の夢窓國師像一幅（絹本著色、自贊あり）・華嚴塔勸緣疏一卷（紙本墨書）の二點は何れも國寶に指定ぜらる。

建長寺　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁巨福山と號し、當派の大本山にして、末寺五百餘寺を統べ、鎌倉五山の首位に在り。初め執權北條時頼深く禪宗に歸依し、圓爾辯圓を師として受戒す。建長元年、辨圓と議して此地に一寺建立を企圖し、同三年著工す。其規模專ら宋都臨安の興聖萬福寺に倣へり。同五年竣成す。時頼以て自家の祈願所となし、道隆（大覺禪師）を聘して開山とし、巨福山建長興國寺と號す。本尊として丈六の地藏を安置し、左右に地藏の小像千軀を置く。蓋し此地もと處刑場にして、地獄谷と云ひ地藏の小堂ありしによると云ふ。亦本尊の頂中に同像一軀を容れ、濟田地藏（濟田某の持佛と傳ふ）と稱す。尙ほ北條氏より寺田若干を附したり。正嘉二年、北條泰時、其室の三周忌を當寺に於て修し、一切經を供養す。道隆これが導師をなす。弘安元年、道隆寂し、翌二年宋僧无庵來朝して法燈を襲ぐ。永仁元年、震災ありて堂塔夷上し、正安二年に至り再建成る。延慶元年北條真時朝廷に請ひて、定額寺となし、併せて勅額を賜ふ。正和四年、又も夷上す。當時開山道隆の門徒と五世（祖元圓覺寺開山、佛光國師）の門徒最も多く、互に勢力を張りて相爭ひ、爲に廢絕に瀕せしかば、幕府細川頼之を遣はして和解を講ぜしも、門徒、これを容れず、應安六年道隆の徒弟等放火を企つに至る。よりて上杉能憲幕命を受けて嚴密に糺明す。同年鎌倉五山住持職の任免は京都に於てこれをなすとの舊制に復し、其他の事は鎌倉管領をして掌らしめ、且つ住持兩班改替の年紀等を定む。至德三年足利義滿五山の座位を決定し當寺鎌倉五山の第一位に列ぜらる。應永二十二年門前の民家より出火し、本寺類燒の厄に遭ひ、堂宇佛具寺

寶等悉く烏有に歸す。永正十二年、北條氏綱、境内諸役を免除す。天文四年、氏綱、上杉朝興を討伐するに當り、鶴岡八幡宮社前にて本寺及び圓覺寺の僧をして大般若經を轉讀せしめ、戰勝を祈願す。同九年、暴風ありて總門、塔頭正統庵、寶泉庵、向上庵等大破す。依りて十一年に至り、北條氏康、氏綱の先例に倣ひ、諸公役を免す。天正十二年、同氏直亦これを免除す。十八年四月、豐臣秀吉小田原攻撃の際、本寺域内に於て軍兵の濫妨を禁ずる旨の制札を寄せ、同年八月には寺領安堵諸役免除の朱印を寄進せり。翌十九年、德川家康寺料九十五貫九百文を寄進す。同家光、當源院殿の廟材を寄せ堂宇を修營せしむ。明和より天和に亘り關東一圓の勸財を允許され、以て山門を再建す。かくて伽藍逐次成り寺門の景觀漸く整ひて現在に及びしが大正十二年の大震災に山門・法堂を殘して、他は總て倒壞す。佛殿、唱堂、唐門は國寶建造物なるを以て、國費により再興せられしも、他未だ復興に至らざるは惜むべし。

㊂寺域五千五百餘坪。本堂（佛殿）は、正保三年德川家光、當源院殿（家光の母）の靈廟を移建せるものにして、桁行五間・梁間五間・重層・屋根四注造・銅板葺なり。樹組は上層に唐樓四手先を用ひ、下層には三斗栱を組めり、下層の正面には軒唐破風あり。内部は隨所に極彩色の裝飾を施し、天井の格間には全地に鳳凰を描く等、實に江戸時代初期に於ける華麗なる廟建築の代表的遺構の一にして現に國寶建造物に加へらる。殿内には本尊地藏菩薩を安置し、脇佛壇には國寶の北條時頼坐像木造（一軀）を置く。此像は明月院の上杉重房像と共にもと禪興寺の所藏なり。袍衣を着し烏帽子を冠し、手に笏を持てる像にして、此種の俗體の肖像は繪畫には其例多けれど、彫刻には珍奇なり。其手法簡潔にして要を得、且つ清雅なる氣品を具ふ。昭堂（禮堂）は長祿二年の造營に係り、桁行及び梁間各五間、單層、屋根四注造、茅葺にして、樹組は三斗栱を用ふ正面三間に棧唐戸を立て、其兩端の柱間に花頭窓を設け、内部は土間とし、左右後壁に接して脇佛壇を置く

（建長寺墓景）

室町時代の清淡なる趣味を現はせる禪宗建築の一として、國寶建造物に指定ぜらる。唐門は方丈の正門にありて、德川家光、佛殿と同時に當源院殿の廟門を移せるものなり。其形式は向唐門、屋根銅板葺にして、各部に施されたる華麗なる裝飾は桃山時代の遺制を寫はしむるものなり。本堂・昭堂と共に國寶建造物の一なり。桁行、梁間各五間、重層・屋根入母屋造にして、内部は瓦敷なり。塔頭はもと四十九院ありしも、貞享年間には十八院に減じ、今は西來、天源、正統、龍峯、廣德、同笑、長壽、寶珠等の數院を存するのみなり。境内に開山塔、大應國師、佛國々師、佛燈國師等の墓あり。また方丈背後の蘚苔池及び心字の庭は疎石の築造と云ひ現に史蹟たり。佛殿前の稚樹は天然記念物に指定ぜらる。寺寶中、國寶に指定ぜらるゝもの左の十三點なり。十六羅漢圖八幅（傳僧明兆筆、絹本淡彩）・釋迦三尊像一幅（傳張思恭筆、絹本著色）・大覺禪師像一幅（絹本著色、開山の門下元藏主入宋し、杭州淨慈の靈石如芝に請ひて贊を書せしめたるものなり。畫面の損傷多く、後世の補筆亦甚だし）・大覺禪師像一幅（絹本著色、椅子に坐せる通行の頂相にして、製堂其他は大半簡潔なる關聚描にてあらはし、著色淡白にして清楚なり。尙ほ禪師の自贊あり）・觀音像三十二幅（絹本墨畫、元末聚の支那畫なり。作者不詳）・喜江禪師像一幅（紙本墨畫、傳啓書記筆、玉隱叟永瑛贊）・北條時頼坐像・須彌壇一基（髹漆、圓覺寺のものと共に鎌倉時代の唐樓建築に伴ふ須彌壇の形式を示す貴重なる遺例なり。其勾欄及び各層の割形に注意を要す。また腰部の浮彫は雅趣に富み、同時に唯宋との關係或は鎌倉彫の發生を考察する上よりも興味あるものなり）・銅鐘一口（建長七年云々なる道隆自選の銘あり。全體の形態よく唐草蓮華の手法また巧みなり）・大覺禪師法語規則二幅（紙本墨書、道隆自筆、僧侶訓戒の法語にして筆蹟絕妙なり）・大覺禪師諷誦文一幅（紙本墨書、文中に弟子時宗云々とあり）・和漢年代記二册（紙本墨書、附、元祿寫本一册）・西來庵修造勸進狀一卷（紙本墨書、永正丙

子四月二十四日玉隆筆）とす。尙は奥ノ院脇上壇には本寺鎭守半僧坊大權現の祠堂あり。明治二十三年の勸請にして、社前より相模灘の眺望絶佳なり。

㊂開山忌（八月二十三日、二十四日）、達磨大師例年忌（十月四日、五日）、半僧坊大權現例祭（春季三月十七日、秋季九月十七日）。

淨智寺（じょうちじ）　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁金峯山と號す。鎌倉五山の第四位なり。弘安六年の創建にして、開基は北條宗政及び其子師時、開山は兀庵普寧、勸請開山は大休正念（佛源禪師）、准開山は南州宏海（眞應禪師）なり。天文年中、小田原の北條氏より寺領若干を寄進せらる。天正十九年德川家康寺領六貫百四十文の朱印を附す。往昔は七堂伽藍整備し、また天柱峯、回鸞峯、鵬摶峯、勢陀石、金峯松、寶蓋松等の名稱ありしが、今は大いに退轉す。

㊂堂宇には佛殿・書院・庫裡等を具ふ。寺寶中、木造地藏菩薩結跏趺坐像一軀は、境内の地藏堂に安置しあり。傳へて運慶の作と稱すれども、實は鎌倉末葉の作たるべし。また紙本墨書の西來庵修造勸進狀一卷は永正乙亥（十二年）七月二十四日に玉隆の書せるものにして、地藏像と共に國寶なり。

續燈庵（ぞくとうあん）　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁萬富山と號し、圓覺寺の塔頭なり。文和年中足利尊氏、佛滿禪師を請じて開創し、莊園若干を寄せ、自ら法華經一卷を寫して奉納す。永祿年間足利義氏、下野國小川莊、永十五貫文の地を附す。爾來喜連川氏歷代の祈願所たり。大正十二年の關東大震災に國寶の銅經筒一口（元亨三年十月藤原光時の銘あり）及び尊氏筆の法華經一卷の二點を失ふ。

㊂寺域は圓覺寺の東北に接する地六百二十三坪を占む。所藏の佛慈禪師骨壺一口は銅造にして側面に嘉暦二年十一月疎石の銘あり。現に國寶たり。大正十二年の震災に燒害を蒙りしも銘文は尙殘存す。其他古文書數通を藏す。寺背の廚窟中に佛滿禪師の墓あり。

東慶寺（とうけいじ）（縁切寺）　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁松岡山と號す。弘安七年、執權北條時宗殁するや其室落飾して覺山と號し、翌八年本寺を開創す。覺山當時の婦人の夫に虐遇さるゝも、容易に離縁する事能はざるにより、自ら身を過つ者多きを慨し、此の如き婦人にして當寺に入る者あらば、三年間留め置き、佛事修行に託して夫との緣を切り、以て其救濟を謀る。其後、勅許を得てこれを寺法とし明治維新に至る。故に當寺を緣切寺と云ふ。第五世用堂尼は後醍醐天皇の皇女にましまし、紫衣を賜はり、他の尼宮御所と同格の待遇を受け、當時其地名に因り松岡御所と稱せらる。永祿年間、小田原の北條氏寺料三十貫を寄せ、天正十九年、德川家康百二十石の朱印を附す。元和年間、豐臣秀頼の女天秀尼入りて第二十世を襲ぐ。天秀は德川家康の外孫に當りしかば、幕府の優遇する所となり。德川忠長の舊館を本寺に移して佛殿、方丈等を改築す。此頃より緣切婦人の入寺期限を二箇年に短縮す。元文二年、第二十二世玉鞭退院し、一時無住寺となり、脇坊蓬涼軒の住持本寺々務を兼ぬ。以後寺運頽さ、殊に維新後、緣切の特權を失ひてより、衰頽愈々甚しく、方丈、脇坊多くは滅亡し、僅に蓬涼軒殘存して、本寺號を維持するに至れり。

㊂本尊聖觀音立像一軀（木造）は國寶に指定せらる。著衣の像にして、衣には土紋文樣を附す。鎌倉末期の作と推定さる。尙は本寺の佛殿は近年橫濱三溪園に移建せられたり。寺背松杉の間に覺山、天秀等歷代住職及び釋宗演禪師の墓あり幽玄閑寂の境ななす。

明月院（めいげついん）　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁福源山と號す。上杉憲方、密室守殿を請じて開創す。初め明月庵と號して禪興寺（舊稱最明寺、北條時頼開基す）の塔頭たり。永德三年、足利氏滿、山の内、莊の内、岩瀬郷の地を寄せ、更に至德二年には常陸國信太莊の一部を附す。應永元年、憲方殁す。而して其法名に因みて明月院と號すといふ。後ち上杉憲定、上野國長野郷、武藏國馬室郷の一部を寄進せり。應永十二年、僧惠範、大石大炊助と共に憲方の冥福を祈る爲め馬室郷に妙樂寺を建立し、本院の末寺とす。上杉氏歷代の尊信厚く、代々寺領を安堵せり。禪興寺は其後廢絶せしかば建長寺に屬し、同寺より三十貫文を配分せられたり。

㊂寶物中、上杉重房坐像（木造一軀）は建長寺の北條時頼の像と共に、もと禪興寺にありしものにして、鎌倉朝官像彫刻の代表的作品なり。時頼像と作風全く同樣なれど、顔貌の手法等は彼像に優れり。紙本着色、玉隆和尙像一軀は畫技精巧さは言ひ難きも描寫細密を極む。上半に玉隆の自贊あり、紙本淡彩の明月院繪圖一軀には足利氏滿の花押を存す以上三點は何れも國寶

に指定せらる。其他北條時頼像・指月和尙畫像・朱漆螺鈿椀・青貝揮毫・中峯國師畫像等あり。

㊃北條時頼法要（四月二十二日）。

圓覺寺（えんがくじ）　鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁瑞鹿山と號す。當派の大本山にして、鎌倉五山の第二位たり。弘安五年、北條時宗宋朝寺院の制に擬して創建し、宋僧無學祖元（佛光禪師）を請じて開山とす。本寺開創の際、此地にて圓覺經を擁護し、落慶の日白鹿群來して聽法する等の瑞祥ありしにより、瑞鹿山圓覺寺と號すと云ふ。翌六年、幕府本寺を以て新願所とし、尾張上總二國内の地を其費用に充當す。以後佛事用途の料地を獻する事屢々なり。正安三年、北條貞時、住僧西澗と議して銅鐘を鑄造し、又舍利殿を建立して大慈寺所傳の舍利を奉遷す。延慶元年、伏見上皇勅して定額寺となし給ひ、宸筆の扁額を拜受す。建武二年、疎石、開山塔を建つ。正平二十四年、建德元年、相次で暴風に依り諸堂破損し、慶安七年失火して遂に全燒す。よりて天授二年、義堂周信、造營奉行人等と議し、十州管内棟別錢及び鎌倉中の課役を以て再建に勞め、同四年佛殿の造營完成す。足利氏滿、細川頼之を援く。元中三年、足利義滿鎌倉五山の座位を定め、本寺其第二位に列せらる。時に後小松天皇宸筆の冠額を下し給ふ。其後應永八年、同十四年、同二十八年の三度炎上し、永正十二年、天文十一年の二回に亘り、小田原の北條氏令して公役を免ず。永祿六年、四度回祿の災を蒙る。爾後諸堂頽りに興廢せしが、舍利殿、開山塔のみは奇蹟的に災厄を免れたり。天正十九年元和三年の兩度德川家康寺領を安堵し、寛永十三年寺領百四十貫の朱印を受く。元祿十二年、松平佐渡守發願して經堂を建立す。爾後漸次に諸堂を修營し、稍や舊觀を成じたり。大正十二年の關東大震災に、山門を除く外盡く倒壞す。其後舍利殿、開山塔、北條時宗廟・方丈等は再興され、佛殿現に造營中なり。

㊂寺域一萬七千五百九十四坪。堂宇中、舍利殿は國寶建造物に指定さる。方五間、重層、屋根入母屋造、上層茅葺、下層柿葺の建築にして、北條貞時の造營に係ると傳ふ。當代禪宗と共に我國に傳來せる唐樣建築唯一の遺構にして、建築史上特に重要視せらるゝ所なり。大正十二年の大震災に倒壞せしも、同十四年復舊完成せり。其構造在來の和樣建築と全く異り、柱は礎盤の上に立ち、柱の上に桝あり、軒は扇垂木にして組物は所謂唐樣の結組となる。内部は床に瓦を敷き、天井は中央に鏡板を張れるのみにして其周圍に垂木を現し、棧唐戸・火燈窓等の形式又從前のそれと相違す。全殿の構造纖密にして、南宋の禪宗建築を知貫にあらはせるものと云ふべく、裝飾の知きも内外簡素なる素木造にして、しかも細部に於て勁健の趣致あり、全體として清楚なる感を與ふ。舍利殿の奥に開山堂あり。所藏の寶物中國寶に指定せらるゝもの左の十八點なり。絹本着色佛涅槃圖一幅は鎌倉末期の作と推定され、描線甚だ暢達にして人物畜獸等殊に巧みなり。宋畫の影響著し。羅漢圖三十三幅は絹本淡彩にして張思恭筆と傳へ、損毀著しきも、堅實なる描法になる氣品高き逸品なり。元朝の作品なるべし、絹本着色虛空藏菩薩像一幅はもと伊勢朝熊金剛證寺に在り。此寺の本尊虛空藏菩薩を上方圓相内に描き、下に朝熊の三峯をあらはせる朝熊曼荼羅とも稱すべきものにして、鎌倉時代に大成せる本地垂迹の思想を圖化せるもの、一例なり。鎌倉後期の一佳作として推重せらる。同智吉祥釋迦像一幅は釋迦像と稱するよりは寧ろ地藏と云ふべく、此種のもの多く宋畫に見る所、筆勢また非凡なり。同佛光禪師像一幅は弘安七年九月三日の自贊あり。紙本淡彩。跋陀婆羅像一幅は宗淵の落款あり。同鍾馗圖一幅亦初代山田道安筆と推定され、筆威雄勁にして武人の氣魄を偲ばしむるものあり。同圓覺寺境内繪圖一幅は創建當初の堂宇の狀態を知るに好適の資料なり。これによれば當時の伽藍は所謂唐樣寺院の配列に從ひ、主要堂宇は中央一直線上に存し、其兩側に附屬建造物ありし事を知る。同富田庄圖一幅は尾張中島郡富田庄の圖なり。木造佛光國師坐像一軀は開山塔に安置さる。本塔の創建時と其製作年代を等しくすべし。禪宗肖像彫刻の好例にして、製作優秀なり。椅子又像と同時のものなるべく、國師東征の物語に因みて龍と鳩の彫刻を附せり。銅造阿彌陀如來及び兩脇侍立像三軀は一光三尊の所謂善光寺式像にして、中尊阿彌陀の蓮座には文永八年十月十九日賀茂延時鑄造の由銘す。鎌倉時代に於ける善光寺如來信仰の流行を語る好個の遺品たり。銅鐘一口は北條貞時の寄進せるものにして、正安三年、西澗和尙撰する所の銘を刻す。須彌壇二基及び前机一脚の二點は何れも髹漆製なり。須彌壇は層々相重りて出入し、各部の均衡よく、更に透彫の朱緣の牡丹花は華麗にして、しかも鎌倉時代の特色たる古雅なる趣致を存す。前机は其形狀の完好と、技の精密なるを以て稱せらる。青磁袴越香爐一箇は色調清澈、釉水温潤にして宋代の一遺品なり。紙本墨書定額寺官符一幅・同北條時宗書狀二幅（一幅には弘安元年十二月二十三日他の幅には七月十八日の日附あり）、（七月十八日の日附ある佛光國師書狀一幅弘安六年九月二十七日の日附ある圓覺寺年中用米注進狀一幅）等は國史學研究上貴重なる實料なり。以上すべて國寶なるが、この外藏す

る所の寶物古文書等多數に上る。毎年十月下旬五日間を限りて一般に公開す。塔頭には黄梅院（其項參照）・禮燈庵（其項參照）・佛日庵・靈頂庵・白雲庵等十數院あり。尚ほ寺域内に寝龍池、坐禪窟・虎頭石等の勝あり。

㊂開山忌（九月二日、三日）、舍利講法要（十月十四日、十五日）。

圓應寺（新井閻魔堂）鎌倉郡小坂村大字山ノ内。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁新居山と號す。もと由井濱の鶴岡八幡宮大鳥居の東南に在りしが、後ち足利尊氏これを現在の地に移せりと云ふ。

㊂堂宇中、佛殿は四間半に三間の草葺素木造の堂にして瑛王殿の金字額を掲ぐ。其他庫裡・鐘樓等を具ふ。寺寶中國寶に指定せるは木造閻魔王坐像一軀・同初江王坐像一軀・同俱生神像二軀の四軀にして、何れも運慶作と傳ふ。右の内、閻魔像の頭部と體軀とは製作手法異なり。體軀は後世の補作なるべしと稱せらる。怒怒の表現巧みにして、我國現存の閻魔像中屈指の名作なり。俱生神二軀の中、一軀は左手を缺き、他の一軀は略ぼ完全なり。何れも精到なる寫實的作風に成る初江王は近時修理の際胎内銘發見せられ、建長三年佛師幸有の作なる事判明せるは喜ぶべし。

永勝寺　高座郡藤澤町藤澤。

㊀眞宗本願寺派。

㊁風谷山鮮瑞院と號し、一に常磐道場とも云ふ。親鸞、北條時氏の請により一切經祝合の際本寺（當時長延寺と號す）に宿す。開基贈海、親鸞に歸依して其弟子となる。時氏、親鸞を崇敬する事厚く、其館の近傍常磐村に一寺を草創し聖人を此處に居らしむ。十世眞海の時武田永勝堂宇を現在の地に營む。此時より寺號を永勝寺と改む其後北條氏の軍勢亂入し、堂宇、寺寶、兵燹に罹りて烏有に歸す。寶暦八年、十六世惠俊再興せしも、大正十二年の大震災に堂宇倒壞す。昭和四年に至り二十二世正信の努力により漸く舊に復す。

㊂境内地六百七十餘坪。堂宇に本堂・庫裡・太子堂・鐘樓等を具ふ。寺寶に傳親鸞筆十字名號・聖德太子木像等あり。

清淨光寺（遊行寺）高座郡藤澤町。

㊀時宗。

㊁藤澤山無量壽院と號し、當宗の總本山にして、遊行念佛の根本道場なり。開祖一遍、諸國を遊行し、念佛教化を行ひしに徹ひ、歴代の宗主、廻國遊行をなすを以て俗に遊行上人と云ひ、本寺を又遊行寺と呼ぶ。

開祖は地に因みて藤澤道場とも稱せり。正中二年、當宗第四世他阿呑海、北條氏より當町の一廢寺址を受け、俣野景平の援助を得て創建す。延元三年、時宗第六世當寺第三世一鎮の代に、足利尊氏寺領六萬貫を寄せ、且つ堂宇を修理す。又後光嚴院より清淨光寺の勅額を賜はる。尊親法親王、本宗第十二世の法燈を襲ぎ給ふや、爾後當寺は南朝の門跡となり。堂宇は尊氏の修理後、一度美上ぜらるゝ例となれり。堂宇は南朝の門跡となり。堂宇は尊氏の修理後、一度美上せしも、上杉朝宗再興す。然るに應永三十三年再度火災に罹りたるを以て、永享七年、第九世南要の時、足利持氏新築す。永正十年、第十五世知短の代に、北條早雲の亂に遭ひて、伽藍三度灰燼に歸し、本尊、甲斐一蓮寺に遷る事六十餘年に及ぶ。元龜二年武田信玄寺領三百貫文を寄せ、また天正十五年には北條氏直、用材を寄進せるを以て、再興に着手す。同十九年德川家康寺領百石の朱印を獻じ、寺運又振ふ。第十九世尊任の時、本寺住職大僧正に任ぜらるべき綸旨を賜はる。其後、回祿の災を蒙る事、寛文元年、天保三年、安政六年、明治十三年、同四十四年の五度に達す。然れども古來貴顯の尊信厚きを以て、再興工事直ちに行はれ來りしが、大正十二年の關東大震災に倒壞し、現に再建計畫中なり。

㊂寺域一萬八千坪あり。寺寶中、絹本着色後醍醐天皇御像一幅は、灌頂御影と稱し、右手に五鈷杵、左手に金剛鈴を執り袈裟をつけ、王冠を戴さて、禮盤上に坐し給へる甚だ異樣なる御尊影なり。像の上方に三社託宣の名號たる天照大神、八幡大菩薩、春日大明神の神號貼附しあり。室町時代初期の作と推定され、國寶に指定せらる。尚ほもと紙本着色一遍上人繪詞傳十卷ありて國寶なりしが、明治四十四年七月燒亡せり。この外所藏の寶物頗る多し。梵鐘には延文元年七月五日の銘を有す。尚ほ境内に有名なる怨親平等の碑あり。ここは應永二十三年より二十四年に亘る足利持氏と上杉氏憲入道禪秀の衝突所謂禪秀の亂に於ける兩軍戰歿者の供養碑にして、應永二十五年十月六日に建設せられしものなり。四面の石塔にして正面六字名號の下に由來を刻す。思想史及び金石史上看過すべからざる遺品なり。この外に又小栗判官照手姫の墓と傳ふるものを存す。

養命寺　高座郡藤澤町。

㊀曹洞宗。

㊁由緒沿革不詳。

㊂所藏の木造藥師如來坐像一軀は國寶に指定せらる。其體軀、相貌等に古調を存するも、寄木造、玉眼嵌入等の手法より見て大略鎌倉時代の作品と推定すべし。

國分寺　高座郡海老名村大字國分。

㊀古義眞言宗。

㊁東光山醫王院と號し、本村大字河原口の總持院に屬し、現に高野の末なり。聖武天皇の御宇諸國に建立せられたる國分寺の一なり。天正十八年、小田原役に際し、豐臣秀吉より制札を受く。翌十九年德川家康、藥師堂料二石の朱印を寄す。明治三十八年堂宇炎上し古記錄等烏有に歸し、沿革の詳細不明なり。

㊂堂宇は本堂・庫裡等を具へ、何れも假堂なり。寺内に正應五年十月六日の銘ある銅鐘一口を有し、現に國寶に指定せらる。もと相模國分尼寺にあり、國分季輯及び其一族の寄進せるものにして大工大和權守國光の作なり。

㊃藥師會（九月十三日）當日は奉納競馬あり。

龍峰寺（水堂觀音）高座郡海老名村大字國分。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁瑞雲山と號す。開山は圓光大照（宗興）にして、中興開山は碩祐なり。

㊂本尊は木造千手觀音立像にして、現に國寶に指定せらる。所謂清水寺樣と稱せらるゝものにして鎌倉時代の特長を示せども著しく草古の風あり。衆に於て殊に甚し。本像俗に水堂觀音と稱し、衆庶の信仰集る所なり。

星谷寺（星谷觀音堂）高座郡座間村大字座間入谷。

㊀古義眞言宗。

㊁妙法山持寶院と號し、河原口村總持院に屬す。坂東三十三所第八番の札所なり。天平年間、行基の創建に係ると傳へ、以後の沿革不詳なり。天正十九年に至り德川家康、寺領三石の朱印を附せりと云ふ。

㊂堂宇は七間四方にして境内五百八十四坪なり。寺寶として嘉祿三年の銘ある梵鐘・北條氏關係古文書・豐臣秀吉制札・德川氏寺領寄進狀等を所藏す。尚境内に不斷櫻、松の梅、觀音草等ありて著聞す。

㊃觀音例祭（四月十五日）、藥師例祭（十月十二日）。

無量光寺　高座郡麻溝村大字當麻。

㊀時宗。

㊁當麻山金光院と號し、時宗大本山の一なり。古くは當麻道場と稱せりと云ふ。弘長元年、一遍上人各地を巡錫して當地に到り、里人の請により一字を設けて金光院と號し、留まる事四年にして京都に去る。後ち文永七年、弘安四年の兩度當寺を訪れしが、遂に之を法弟智得に附す。正應二年、一遍兵庫に示寂するや、智得の法兄、眞教、師の遺命により嘉元々年此地に至り。堂宇を修理し、無量光寺と號す。然して一遍を開山に推し、自らは二世となる。後ち智得三世の法統を繼ぐ。四世眞光の代に他阿呑海、清淨光寺を創建し、爾後兩寺對抗の形勢をなせしが、本寺僧智得北條氏の内命を拒みて諸國遊行を廢してより以來之を行はず自ら一門の宗風を顯致せり。天正十九年、德川家康寺領三十石の朱印を附し、境内不入を命ず。これ當地德川家の遠祖有親、親氏の舊跡たるに由ると云ふ。創建以來堂宇整備し、結構壯麗なりしが、安永二年、明治二十六年の兩度火災に遭ひ、後ち再建せられたるも尚ほ舊態に復する及ばず。

高麗寺　中郡大磯町高麗。

㊀天台宗。

㊁鷲足山靈上院と號す。東觀山寛永寺の末寺たり。役小角の草創と傳へ、小野文觀僧正これを修理す。もと眞言宗を奉ぜしも、後ち天台宗に轉じたり。小田原の北條氏より寺領六十七貫文の寄進あり、又德川家康は百二十石の朱印を附すと云ふ。

善福寺　中郡大磯町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁龍頭山華水院と號す。親鸞の門弟了源の開創に係る。了源、父は曾我十郎祐成、母は虎、もと祐若と云ひ、源實朝に仕へて平塚郷を領有し、河津三郎信之と稱す。後ち天台宗に歸依し、平塚入道法來と號し、高麗權現の別當職に補せらる。寛喜元年、親鸞の法弟となり、文暦元年、親鸞自作の影像を賜りて母の遺跡花水の邊に本寺を創建す。

㊂境内約千五百坪。寺寶に親鸞作自像・同黑本尊一軀を藏す。

大山寺（大山不動）中郡大山町大山。

㊀古義眞言宗。

㊁雨降山と號し、高野山金剛峯寺に屬す。天平勝寶

七年、真言宗山蘭座の阿夫利神社を石尊權現と改め、其別當寺として當寺を創建す。不動明王を安置せしに因り大山不動と俗稱せられたり。元慶三年、震災に遭ひ堂宇崩壞せしが、安然これを再興す。元暦元年、源頼朝寺領安堵の判物を與へ、大法會ある時は必ず當山僧侶を參列せしめたり。其後、寺運傾き、諸堂大破せしが、文永、弘安年間順行重興を計り、寺觀舊に復す。故に順行を以て中興開山とす。當時上下の尊崇厚く、武將の寄進多し。正平七年、足利尊氏丸島郷の地を寄進し、文和二年、天下靜謐及び武運長久の祈願を命ず。小田原の北條氏赤寺領百七十貫文を寄せたり。德川氏

（大山寺寶篋印塔）

の崇信殊に深く、慶長十年、命じて眞言宗僧實雄を當寺の學頭となし、定額僧を置く。次で伊奈氏を奉行として堂宇を再興せしめ、同十五年、寺領百石の墨印を附す。寛永十四年、將軍家光、法印隆賢を遣して墨詔せしめ、同十六年、黄金一萬兩を與へて講堂修理料とす。爾後の歴代將軍亦崇敬怠らず。堂宇の修繕屢次行はれ、前不動堂、奥不動堂（本堂）、鎮守社、石尊權現社、白山祠、行者堂、子坊十八院等を具備するに至る。維新後神佛分離の際、寺號及び寺領を廢せられ、大山祇命を祭神とする縣社、大山雨降神社（阿夫利神社）のみとなり、本寺本尊不動明王は山上の別堂に移されて明王寺と稱せしが、大正四年、大山寺の號復活せらる。

㊀寺域大山中腹の地二千二百餘坪を占め、本堂・客殿・庫裡・前不動堂・倶利迦羅堂・大師堂・寶塔印塔等の諸堂宇散在す。寺寶の鐵造不動明王及び二童子像三軀は、現に國寶に指定せらる。鎌倉時代の雄健なる作品にして、中尊の玉眼は後世の嵌入なり。

㊁五壇大護摩供（二月二十八日、三月一日）、春祭（四月十五日より二十四日迄）、秋祭（七月二十七日より八月十七日迄）、星祭（冬至の日）。

王福寺　中郡國府村大字寺坂。

㊀眞言宗東寺派。

㊁大高山延命院（一に圓明院に作る）と號す。天平年中、行基の創建に係り、高鳥山王福寺と號すと傳ふ。後ち源頼朝の祈願所となり、寺領七十貫文を受く。永正年間、長尭、榮に福り、堂宇悉く烏有に歸せしが、榮範再建す。即ち榮範を推して中興開山となす所以なり。其後、寛永七年、再度焚上し、本尊藥師如來及び金剛力士二軀のみを遺す。延寶年間に至り、伽藍の新築成り、從來境内にありし圓鏡寺、延命院、大高寺、寶持坊、堂觀坊の僧坊を本寺に合して、大高山王福寺と稱す。

㊂寺域二百九十五坪、本堂・鐘樓等を具ふ。寺寶の木造藥師如來坐像一軀は、現に國寶に列し、一木彫半丈六の像にして、藤原初期の作と推定さる。製作優秀にして當地方に於ける注目すべき遺品の一たり。

長德寺　中郡相川村大字上落合。

㊀眞宗大谷派。

㊁富樂山と號す。もと眞言宗を奉ぜしが、寛喜二年住持西善、親鸞に歸依して、現宗派に改む。爾來寺運隆盛にして、戰國時代には坂東風雅の大刹たりき。天正十八年、小田原役の時、豐臣秀吉、本寺に制札を下す。文禄元年、本願寺顯如寂するや、分骨を本寺に葬る。慶安二年、德川家光寺領十三石の朱印を寄せ、寺中門前竹木諸役を免除す。

㊂本堂は大正十二年の大震災にて倒壞し、現在は方四間半に改築せられたり。

寶城坊　中郡高部屋村大字日向。

㊀古義眞言宗。

㊁高野山金剛峯寺に屬し、古來藥師の靈場として著名なる日向薬山寺の別當坊たりき。薬山寺は靈亀二年、行基之を創建し、天正天皇勅願所となれりと傳ふ。天暦六年、村上天皇勅して堂宇を修興し銅鐘を鑄造せしめ給ひき。源頼朝亦厚く之を崇信し、建久五年、自ら參詣し、堂宇を修營す。爾來武人の歸崇殊に多し。康暦二年、後亀山天皇より三河、遠江兩國の棟別錢を以て堂宇を修造すべき綸旨を賜ふ。小田原の北條氏、當村々内に於て六十貫三百文の地を寄せ、豐臣秀吉亦六十石を附す。德川氏も同額の朱印を附與し、萬治三年には丹澤山の眞材を以て一山の堂宇に大修理を施す。もと一山に十二坊ありて本坊これが別當たりしが、維新後、他の十一坊は廢絶せしにより本坊薬山寺藥師堂を管理して今日に至る。

㊂所藏の本尊木造藥師如來兩脇侍像三軀は、行基の作と傳へ、古來日本三藥師の一として貴賤の尊信浅からず。三尊共に同一の作にして像の表面に彫目を殘し細部の造作を省略せる所謂鉈彫に成るものなり。この種の遺品は關東以北に屢次見る所なるも三尊の揃へるは珍奇とすべし。三尊共に一木彫にして面貌に雄拔な

る趣きあれど、本尊の螺髪、蓮瓣等の表寄式なる事等より見れば、其製作期藤原時代に入るべきものと推せらる。尚ほ本尊の右手と光背、脇侍の蓮座は後補に係る。木造藥師如來坐像一軀・同阿彌陀如來坐像一軀は共に略ぼ丈六の坐像にして彫風亦同じく、藤原式を傳へし鎌倉初期の作と推定せらる。同日光・月光菩薩立像二軀は、各八尺餘の巨像にして、しかも藤原期の優雅なる姿體を有す。同じく鎌倉初頭の作なるべし。同四天王立像四軀は高さ各々六尺餘全體として技巧稍々誇張に過ぐるも、しかも疎漏に流れざる優れたる刀法を示し、鎌倉時代の作なり。同十二神將立像十二軀は形式單調にして活氣乏しく、且つ後世の彩色に像容大いに損ぜらるゝも、各像大略鎌倉末期の特質を具へたり。銅鐘一口は靈山寺の荷什物にして、暦應三年十二月十五日の記ある陽刻銘あり。其末に勸請十二神將とあるは前述の像を指すものなるべし。以上七點すべて國寶に指定せらる。其他寺寶として寛保三年堂宇修繕勸化帳版木・古文書一卷等あり。

（寶物）（寶城坊藏藥師如來兩脇侍）

㊃春季大祭會（四月十五日、十六日）、俗に日向の市と云ふ。寅、申の年四月十五日、十六日には本尊以下諸佛を開扉す。秋季祭會（十月八日）。

光明寺（金目觀音堂）　中郡金目村大字南金目。

㊀天台宗。

㊁金目山と號す。俗に金目觀音堂と云ひ、坂東三十三所第七番の札所なり。大寶二年の草創と傳ふ。承安年間、源頼朝堂宇を修理し、治承年間に至り、別に觀音像を納めて自家の祈願所とす。其後寺運大いに傾きしが、元禄十年、慶賀再興して今日に至る。

㊂寺寶に源頼朝・足利尊氏・同義詮・同義愛等の文書數通を藏す。

金剛寺　中郡東秦野村大字東田原。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁大聖山と號す。承久元年、源實朝、公曉に討たれし時、其の臣某實朝の首級を持參して當地に潛り、退耕行勇を開山として本寺を創建すと云ふ。天正十九年德川家康寺領五石の朱印を寄す。一說に、東京市小石川區金富町の惠日山金剛寺は、建長二年、波多野某、實朝の菩提を弔はんが爲に行勇を請じて相模波多野庄田原村の此地に創建せし所なるが、後年現在の地に移り、其舊地に本寺遺營せられたりと云ふ。

㊂寺内阿彌陀堂安置の阿彌陀像は實朝の念持佛なりと傳ふ。寺寶に實朝の木像・古文書數通を藏す。尚ほ村内に一塔上五輪塔の建てるあり、傳へて實朝の墓と稱す。

最明寺　足柄上郡金田村大字金子。

㊀眞言宗東寺派。

㊁如意山蓮華王院と號す。京都敕王護國寺實菩提院末寺なり。開山を淨蓮房源延と云ふ。源延、信濃善光寺如來を尊信する事厚く、承久三年、善光寺三尊の彌陀像を模して一像を作り、以て本尊となし、本寺を松田の山中（現、松田町松田庶子）に創建すと傳ふ。建長元年、二世覺阿の代、北條時頼寺領若干を附す。また朝廷に奏して堂宇を造營し、如意山蓮華王院西明寺と號せしむ。應永の頃、兵亂の爲め寺領悉く掠奪さる。文明初年、中興開山賢昌、新に現在の地に寺基を定め寺號を最明寺と改めたり。永禄年間、小田原北條氏より寺領若干を附せらる。慶安二年、稲葉正則寺田一町七段餘を寄進し、境内竹木禁伐の制札を授く。近世寺領十七石六斗を有す。

㊂堂宇には本堂・庫裡・鐘樓・如來堂等あり。寺寶に北條時頼木像・足利直義筆大般若經・淨蓮筆往生集三卷等あり。

最乘寺（道了薩埵）　足柄上郡南足柄村大字關本。

㊀曹洞宗。

㊁大雄山と號す。應永元年、了庵慧明の開創に係る。道了薩埵は妙覺と號し、了庵常隨の弟子なり。當山開闢に當りて、怪力を以て土木の事に從ひ、禪師の化益を神補せりと云ふ（道了薩埵寶殿「妙覺寶殿」は、即ち道了の靈殿にして衆庶の崇信比類なし）。了庵の在住十八年に及びしが、禪風益に揚り、門衆常に千に充ち、東海第一の禪林と稱せられ、法制一に總持寺の清規に準ぜしと云ふ。永徳三年、北條氏康堂宇を修理す。天

正十八年、豐臣秀吉小田原攻撃に當り、軍勢の寺内亂入を禁ず。慶長十九年、安藤對馬守境内樹木の伐採を禁ず。蓋し之れ開山の遺囑と第五世春屋宗能の掟「山中草木總而禁不レ可レ切事。於二本木徴一者、可レ徴レ殖事。於レ徴レ枝者、可レ徴二手足一事」（以下略）等の先規に由るものなり。慶安元年幕府、本寺域内山林竹木免税の朱印を與ふ。これより先き康正二年、宗能、本寺及び山内大慈、報恩二院は各々其末派寺院より入りて輪番住持するの制を立て、本寺は最乗十六派の寺院より大慈院は明宗（大綱明宗、開山の高足なり）十二派、報恩院は宗能の七派よりこれを擧げ、毎年七月二十五日を交代の期日とせしが、明治七年此制を廢し、大本山總持寺の特選編住地とす。明治元年有栖川宮家の御祈願所となる。往昔關東に存する當宗の寺院中、四千餘寺は、當寺の末派門葉にして現在尚ほ當宗一萬四千寺の中、其四分の一を占め、宗内に於て兩本山に次ぐ名巨刹たり。尚ほ大正十二年の關東大震災に伽藍大いに破損し、加之、同十五年遠了大薩埵寶殿、新禮殿、拜殿等祝融の災に罹り、更に昭和三年本堂、金剛壽院、庫裡、書院等燒失す。因りて同五年より五箇年計畫にて再建修理に着手し、現に造營工事進捗中なり。本寺、古來著名なる巨刹なるも、尚ほ寺内道了大薩埵の霊驗著聞し、年々遠近の賽者接踵し、頒札六十萬以上七十萬に達すと云ふ。以て其盛況を察し得べし。

㊂境域山林實に三十三萬坪に達す。しかも歴年の保護により杉、檜、松、檜、樫等の巨樹大木鬱蒼として儒山書尚ほ暗く、其聲景天下に鳴る。堂宇は既述の如く目下開山堂（金剛壽院）・本堂（覺皇殿）・御眞殿（道了薩埵寶殿）・書院・表門・築地塀等を第一期工事として造營中なり。次に第二期工事として、大小庫院・方丈・鐘樓・金剛水堂・參籠堂等の改築企圖せらる。數年後に完成する輪奐の美盡し思ひ見るべし。寺實に厨子入佛舎利・逼幻、了庵兩禪師木像・道了木像・開山了庵所持品・鐵印・紺紙金泥大般若經・道元眞蹟了庵語錄等を藏し、其他綸旨・朱印・禁制掟書等の古文書數十通に達す。山中に十勝あり、覺皇殿、道了轟天閃坂、星宿燈、坐禪石、神通門、感應湯、金剛泉、多寶塔、中霊亭之なり。

㊄毎月二十七日、二十八日兩日を祭日とす。一月、五月、九月の祭日は大祭にして、薩埵の眞像を開扉す。賽者群霊集すと云ふ。

善福寺　足柄上郡福澤村大字怒田。

㊀眞宗本願寺派。

㊁龍頭山花水院と號す。大禮善福寺と墓を一にし、中世二分せるものなり。永祿四年、小田原の北條氏歸依して堂宇を修理す。寶永五年、洪水に伽藍流失せしに依り、現在の地に轉じて堂宇を興す。これ現在の堂宇なり

㊂寺實に了源自作と稱する木像あり。

長泉院　足柄上郡岡本村大字塚原。

㊀曹洞宗。

㊁玉峯山と號す。往昔大森寄栖庵、實山を請じて岩原村に清泉院を創建す。後ち文明二年、大森實賴、東明山と稱する驛寺址に本寺を移創し、現在の山院に改め、大寧を以て開山とす。其後荒廢せるを永祿年間、松田憲秀一貫五石文の地を寄せて再興す。慶安二年稻葉正則寺領二十八石を寄進す。

㊂境内より六町餘の山中岩窟間に地藏菩薩を祀る堂

祠あり。毎月二十四日には賽者群集す。

報身寺　足柄下郡小田原町十字。

㊀淨土宗。

㊁寛正四年、天蓮社燈譽法殘の建立に係ると云ふ。以後の沿革不明なり。

㊂寺域二百四十坪。本堂並に庫裡等を存し、寺實中絹本着色阿彌陀如來像一幅は國寶に加へらる。是は雲に乘じ上品下生の來迎相ななして、踏割蓮花臺上に立つ。鎌倉末葉の作なるべし。尚ほもと當地潮音寺境内に北條氏討滅を圖りて果さゞりし贈從二位烏丸成輔の墓あり。潮音寺は現今廢絶し墓は本寺の管理に屬す。

眞樂寺　足柄下郡國府津町。

㊀眞宗大谷派。

㊁勧山信樂院と號す。眞永元年八月、親鸞常陸より歸洛の途次、暫く當地に草庵を結びて化導に從ふ。在留七年にして上足願知に讓與して歸洛す。之れ當寺の濫觴なり。當時此地に高さ七尺、横三尺餘の霊石ありしが、親鸞これに十字及び八字の名號を書す。建武元年、覺如、本寺に來り、右の名號石に有志者、爲□西行光、門弟、一向專修念佛衆等と添刻すと傳ふ。蓮如また當山を訪れ、其時の住持に眞乘の名を與ふ。名號石は享祿年間眞乘、北條氏綱に道はれし時、土中に埋む。本寺其後一時廢絶せしが永祿二年、氏康と和成りし後之を再興す。

㊂寺實に、自作親鸞木像一軀・親鸞筆十字名號一幅等あり。尚ほ本寺の東方に勧堂なる一字あり、親鸞教化の舊址なりと傳ふ。

寶金剛寺（護摩堂）　足柄下郡國府津町。

㊀眞言宗東寺派。

㊁國府津山醫王院と號す。本尊は藥師如來にして、近傍三十一寺の中本寺なり。承和年間、杲隣の開基する所なりと傳ふ。久安年間、一海之を中興す。北條氏康本寺に於て百座の修法を行へりと云ふ。寺領は北條氏より十一貫二百文、德川家康より護摩堂料として二十二石の寄進あり。

㊂護摩堂（本堂）・鐘樓等の堂宇あり。寺實には不動明王畫像・其他古文書數通を藏す。

早雲寺　足柄下郡湯本町湯本。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁金湯山と號し、大永元年、北條氏綱、亡父早雲の遺言により、眞覺寺の故址に創建し、京都大德寺の宗清以天を請じて開山とす。堂宇の結構、大德寺を模倣すと云ふ。天文十一年、後奈眞天皇の勅願所となり、北條氏より永樂百七十貫文の寺領を寄進し、一族の菩提寺と定む。天正十八年、豐臣秀吉小田原城攻撃の際本寺内に本陣を置く。當時の住僧明叟は數代の大檀越たりし北條氏の滅亡を歎き、絶食して死すと傳ふ。以後當寺、供養主なく、寺運衰頽す。慶安元年、德川氏境内山林不入の朱印を與へてより、漸次復古觀に復す。

㊂寺實中國寶に指定せられしものとしては、絹本淡彩北條早雲像一幅・織物張文畳及び硯箱（傳北條氏政所用）一組の二點あり。尚ほ寺内に北條氏五代及び宗祇の墓あり。

阿彌陀寺　足柄下郡湯本町塔ノ澤。

㊀淨土宗。

㊁阿育王山放光明律院と號す。往昔天竺の阿育王四方に八萬四千の寶塔を造り、各佛舎利を安置せしが、我國にも三箇所渡來し、當山は卽ち其一なりと傳ふ。其後寶塔永く地中に埋れしを、慶長九年、彈誓山中に苦行し遂に之を發掘す。卽ち小田原城主大久保忠隣の援助により、一寺を造營してこれを安置す。これ卽ち本寺の開創にして當時堂宇壯麗關東屈指の名刹を以て稱せられしが維新後次第に衰運に向ふ。

（阿彌陀寺阿育王塔）

㊂境内地は八萬有餘坪ありしが、昭和七年十月一日より國立公園地域となる。寺實に彈誓の畫像・不動明王像・釋迦涅槃像等あり。

總世寺　足柄下郡足柄村大字久野。

㊀曹洞宗。

㊁阿育王山と號す。文安年間、小田原城主大森氏頼當寺を創建し、最乗寺の春屋宗能の弟子にして、氏頼の伯父なる安叟宗棚を請じて開山とす。明應三年、三浦義同出家して當寺に入る。天正十八年、羽柴秀次、梵鐘を寄進す。

㊂寺域四千四百七十五坪。本堂・庫裡・辨天堂・禪堂・鐘樓等の堂宇を具ふ。寺實に維摩像・北條氏直の虎ノ印・德川家康常用の盃等あり。

勝福寺（飯泉觀音堂）　足柄下郡豐川村大字飯泉。

㊀眞言宗東寺派。

㊁飯泉山と號す。俗に飯泉觀音堂と稱し、坂東三十三所第五番札所なり。本尊十一面觀音は天平勝寶五年唐僧鑑眞の齎せるものにして、弓削道鏡の持佛たりしが、下野國藥師寺に流謫せらるゝ際、當郡千代村に一字を創し、安置せるものなりと傳ふ。天長七年、現地に移轉す。永祿五年、北條氏より山中法度書を出し、天正十七年、神馬錢九貫文を寄せらる。

妙純寺　愛甲郡依知村大字金田。

㊀日蓮宗。

㊁明星山と號す。當宗四十四本山の一なり。日蓮、龍ノ口の法難より免れて當地に至り、本間重連の邸に入り、後ち佐渡へ遷らる。然るに其配流中、重連これに歸依し、己が邸宅を佛寺となして總堂と稱す。而して其南方に妙純寺を建立す。天文年間住持日位、妙純寺を總堂に合併す。これ卽ち本寺なり。其後一乘院日養庫裡を建て、堂宇初めて完備せしかば、日養を中興開山とし、且つ日蓮を第一祖、日朗を第二祖、日善を第三祖と定む。尚ほ本寺、當村大字上依知の妙傳寺、同中依知の梅善寺の三寺は何れも本間氏の第地にして、日蓮の遺跡星下り地と主張して讓らず。諸書又歸一する所なし。然れども本寺の地域には本間の馬場、大手通、並木通、亭の前等と稱する地名あり。亦附近に禪宗の建德寺なる寺ありて、本間氏累代の墓あるを以て

すれば、或は當寺其正脈に該當するものかと云へり。
㊁祖師堂・稲荷堂・鐘楼等あり。
㊂會式（十月十二日、十三日）等。

弘徳寺　愛甲郡小鮎村大字飯山。

㊀眞宗本願寺派。
㊁親鸞山心光院と號す。二十四輩の第五新堤信樂の遺跡なり。親鸞、越後國國府に配流せられし時、相馬太郎義清なる者歸依して、其弟子となる。信樂房これなり。後ち親鸞東國巡錫の衛、此地に本寺を創建し、信樂房に附す。康永元年、覺如奥州大網にて、如信の法會執行の際、本寺第三世釋作佛出勤して二十四輩の内に列せらる。中興開山を榮西と云ふ。寺領は二十九石三斗餘を有す。
㊂寺寶に傳聖德太子御作地藏像・親鸞作自像・親鸞筆蹟・親鸞十字名號等あり。

光福寺　愛甲郡小鮎村大字飯山。

㊀眞宗本願寺派。
㊁池谷山と號す。古くは教念寺と稱し淨土宗に屬す。開山隆寛は栗田關白道兼六代の後裔、少納言實隆の三男にして、法然上人の法弟となり、後ち一派を立て長樂寺流と云ふ。安貞年間、隆寛奥州に配流せられし時、當地領主毛利季光入道西阿、これに歸依して本寺を開創すと傳ふ。其後、天台宗を奉じ、正福寺と號せしが、天正年間春海の時、現在の宗派、寺號に改む。慶安二年、德川家光寺領十九石五斗の朱印を寄進す。
㊂境内に枝垂櫻二株あり、高さ二丈四尺及び二丈一尺にして、觀人多く來訪す。

長谷寺（飯山觀音堂）　愛甲郡小鮎村大字飯山。

㊀古義眞言宗。
㊁飯上山如意輪院と號す。俗に飯山觀音堂と稱し坂東三十三所第六番札所にして現に高野山金剛峯寺の末寺なり。建久年間、源頼朝、秋田城介義景をして堂宇を造營せしむ。嘉吉二年、回祿に罹りしが、幾許もなく再建さる。天正十九年、德川家康觀音堂料として三石の朱印を附す。

善勝寺　津久井郡千木良村。

㊀古義眞言宗。
㊁見宮山多聞院と號す。空海の草創と傳へ、後久しく荒廢せしが、明應九年、甲斐禪定院有海之を再興し爾來關東法談所三十六院の一と稱せらる。慶安二年八月、德川家光寺領七石餘の朱印を寄進す。現今末寺二十餘箇寺を有せり。
㊂境内富櫻に臨みて、絶勝の地を占め、山號に因る。本尊毘沙門天立像は丈高一尺八寸、空海の作と傳へ、寺寶として狩野古法眼筆畫部十二枚・小田原北條氏の文古書數通等を藏せり。

雲居寺　津久井郡串川村大字根小屋。

㊀臨濟宗建長寺派。
㊁奥德山と號す。嘉曆元年の創建にして、鎌溪是尊を以て開山とす。後ち次第に衰頽せしが、天正年間、德川家光寺領十五石餘の朱印を寄進す。初め現寺地の西方三町餘の所にありしが、後ち山崩に遭ひて寺地埋没し現地に移りしものなりと云ふ。
㊂堂宇に本堂・庫裡・鐘楼・山門等を具ふ。本尊地藏菩薩坐像は俗に伽藍阡地藏と稱し、丈高一尺六寸五分、空海作と傳ふ。鐘楼には寛永二年、德川家光眼病平癒報賽の爲、尾畑勘兵衛尉俗綱寄進に係る洪鐘を懸く。他に寺寶として、傳空海作財賀天像・毘首羯作釋迦如來木像・自隆筆達磨大師畫像・狩野洞雲筆維摩圖・光殿司筆十六羅漢像・守俊筆鵜見觀音像・卽非筆布袋圖・其他古文書數通等を藏せり。

功雲寺　津久井郡串川村大字根小屋。

㊀曹洞宗。
㊁太井山と號す。千葉縣東葛飾郡市川町總寧寺末たり。應永十五年、津久井城主内藤左近將監景定の創建に係り、大綱明宗を以て開山とす。慶長四年二月、德川家康寺領五十石を寄進す。現在末寺三十餘箇院を擁する中本寺にして、郡内隨一の名刹たり。
㊂境内地五千二百二十餘坪。本堂・庫裡・開山堂・禪堂・廻廊・鐘楼・總門・樓門・白山權現祠等の堂宇を具へ、本堂には功雲禪刹の大額を掲ぐ。本尊釋迦如來・脇侍迦葉・阿難兩像を安置し、寺寶として内藤景定所用一文字茶釜・同陣太鼓・景定妻所用長刀・其他古文書數通等を藏せり。尚ほ境内に景定墓所あり。

埼玉縣

蓮馨寺　川越市松郷。

㊀淨土宗。
㊁孤峯山寶池院と號す。關東十八檀林の一なり。天文年中、川越城主大導寺政繁の母蓮馨尼、感譽存貞に歸依して本寺を創建し、感譽を聘して開山とす。天正十九年、德川氏より寺領二十石の朱印を受く。慶長九年、檀林の一に定まり、傳燈付法の道場となる。明治二十六年、當地に大火あり本堂、開山堂以下堂宇悉く類燒す。後ち再建せられしも尚ほ舊觀に及ばず。

喜多院　川越市小仙波。

㊀天台宗。
㊁星野山無量壽寺と號す。天台宗八箇檀林の一なり山號また慶長年中、東叡山と稱す。此地往昔、仙芳仙人の住居址にして、天長七年、圓仁、淳和天皇の勅を奉じ、一寺を建立せしが、元久年中、兵燹に罹りて荒上し、永仁四年、尊海により再興さる。尊海以後、實海、觀同等の名僧住し、寺運常に盛なりしが、天文六年北條氏綱、上杉朝定を河越城に攻むるや、本院兵燹を蒙りて堂宇、寶物烏有に歸し、大いに衰頽す。後ち南光坊天海住持職となり、德川家康に信任ありしは周知の事實なり。秀忠又崇敬厚く、寺領三百石を寄進す。幕府更に當地城主酒井忠利に命じ、堂宇を修理せしむ。慶長十七年、本堂に阿彌陀像を安置せしが、後年家康の本地藥師佛を置く。故に特に本堂を本地佛堂と云ふ。元和六年、寺領を五百石に加增さる。當時の寄進狀に寺中門前屋敷境内山林竹木等の課役を免じ、檢斷使の入るを許さず、專ら佛法興隆に努むべき旨を記せり。寛永寺の江戸に創建せらるゝや、東叡山の號をこれに移し、當寺は舊號星野山に復す。寛永十五年、川越大火に類燒し、堀田正盛奉行して再建す。これ現在の堂宇なり。大檀越德川幕府倒壞後は稍々衰頽の觀あり。尚ほもと本院は北院と云ひ、中院、南院と共に鼎立せしが、後年當院のみ榮え、中院及び南院は當院寺領の中五十石を配當することゝなりて、宛然、寺中の如き觀を呈すと云ふ。
㊂境内約二萬坪、古樹茂る幽邃境なり。大師堂・庫裡・客殿・寶藏・經藏等の堂宇存す。職人繪畫六曲屏一雙（紙本着色）は二十五職を描き、上下二段に貼附せるものにして、各圖共に一隅に「吉信」の銘あり。德川初世、狩野派の手になれる風俗畫の一例なり。銅鐘一口（正安二年三月の銘あり）・太刀一口（銘友成、拵縁卷太刀）の二點と共に、現に國寶に指定せらる。尚ほ境内に東照宮、五百羅漢石等あり。

養壽院　川越市南町。

㊀曹洞宗。
㊁青龍山と號す。寛元二年、阿尼遠江守經重開創し眞言宗の僧圓慶を請じて開山とす。天文四年、住持隆專、屠叟に歸依してこれを禪院第一祖とし、以後曹洞宗に改む。天正十九年、德川家康、放鷹の際、本寺に少憩し、懶紙に認めたる寺領十石の朱印狀（俗に鼻紙御朱印と云ふ）を附與す。爾來、歷代將軍より代替毎に書替を得、合計十三通の朱印狀を有せりと云ふ。寶暦十一年、常恒會地免頒を得。明治三年、總持寺より同五年、永平寺より改めて常恒會地免頒の可否を受く、同四十一年、曹洞宗認可僧堂の開單を許され、昭和四年、曹洞宗專門僧堂の開單を指定せらる。
㊂寺域三千坪なり。寺寶中、文應元年十一月二十二日丹治久友大江眞重の銘ある銅鐘一口（丈高二尺六寸餘）は國寶なり。其他三十六歌仙（大式紙三十六葉、内二葉缺く）、金屏風中双・扇叟木像・達磨大師像・千手觀音像一軀（木造）・金銅釋迦像（昭和三年シャム國皇族御寄贈等）あり。堂宇は本堂・庫裡・開山堂・位牌堂等を具ふ。
㊃鎌守豐川稲荷大祭（四月二十二日）、兩祖忌（九月二十八日）、達磨忌（十月五日）。

勝願寺　北足立郡鴻巣町。

㊀淨土宗。
㊁天照山眞忠院と號し、關東十八檀林の一なり。建長四年、記主禪師（然阿眞忠）、北條時頼より武藏國箕田郡の地（當郡田間宮村大字登戸）を受けて開創す。慶長四年、住持不殘、德川家康の帰依を得、寺領三十石の朱印を寄せられ、寺基を今の地に移して再興す。同十一年、後陽成天皇、不殘に紫衣の綸旨を賜ふ。同十八年、檀林の一に列し、傳燈付法の道場となる。明治二年、更に勅願所の綸旨を拜受す。
㊂堂宇は結城秀康の舊館なりと云ふ。

平林寺　北足立郡大和田町野火止。

㊀臨濟宗妙心寺派。
㊁金風山と號す。永和元年、春桂梅圭、岩槻に石室を請して創建す。天文三年、岩槻城主太田道灌、四條

馬龍二村を寺領として寄進す。天正年間、北條氏政の臣恒岡越後守の弟、出家して泰翁と號し、本寺に住す。當時は戰國時代にして、泰翁も他寺の僧侶の如く、武事に携ばり、兄を援けて戰場を馳驅せしが、兄の戰歿後上洛して大德寺に入る。同十八年、岩槻城主の軍豐臣秀吉に破られ、本寺又その餘波を蒙りて堂宇炎上す。德川家康、再興を企圖し、寺領五十石を附し、飯山を住持とす後ち雪堂、鐵山の志を繼ぎて大いに本寺の面目を一新す。

（平林寺總門）

よりて雪堂を中興開山と崇む。寛文三年松平輝綱今の地に移す。慶應三年、堂宇再び回祿の厄に罹りしが、明治十三年に至り、住僧藍溪重興す。

㊁寺域は五萬坪に達し本堂・庫裡以下整備す。

善光寺 北足立郡川口町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁平等山と號す。建久年間、僧定尊の開創に係る。定尊は金銅にて信濃善光寺の阿彌陀三尊の像を模造し本寺に安置せりと云ふ。初め天台宗の寺院なりしが、後ち淨土宗に轉じ、元祿年間、住持一睿、堂宇を再興し、且つ現宗派に改む。明治初年、東明、西善の二支院分離し、本寺は阿彌陀堂と唱へしが、後年舊に復し今の寺號を公稱す。

㊂寺域、荒川の北岸を占め、風趣見るべし。境内に開山定尊の墓碑あり。

長德寺 北足立郡芝村大字芝。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁大智山と號す。應永年間、僧秀田、領主二階堂氏の援助を得て創建し、其師古先印元を勸請開山と崇む。中興開山龍派、德川家康、同秀忠の招聘に應じて、書册の校合及び講書をなし、又山内十境の詩を賦せりと云ふ。寺領は天正十九年德川氏より四十石を得、其他八幡社領十五石、觀音堂領二十石、合計七十五石を有せり。

㊂境内七千七百餘坪、老杉古松鬱蒼として伽藍を圍み、塵外の靈境なり。寺寶に龍派の日記なる寒松日記一函・同人詩文集八卷等あり。

泉福寺 北足立郡川田谷村。

㊀天台宗。

㊁東叡山と號す。延暦寺直末にして、天長年間、僧圓仁之を創建す。時に勅廷より東叡山の勅額を拜受し、末院二十一寺を統べたりと云ふ。其後寺運傾きしを、比叡山の信譽再興す。天正十九年、德川家康寺領五石の朱印を寄せ、境内不入地とす。正保四年、二十二世廣海堂宇を增築し、寶暦二年、三十四世義中、堂舍を改築し以て今日に至る。

㊂寺域高燥にして眺望に富む。大堂安置の阿彌陀如來坐像一軀（木造は）弘長二年四月の胎内銘あり、藤原末期の樣式を具へ、國寶に指定せらる。

法恩寺 入間郡越生町越生。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁松溪山と號す。行基、東國遊行の際、本寺を開創し、自作の大日、釋迦、彌陀、藥師、觀音の五軀を安置すと傳ふ。中世甚だしく退轉せしが、文治年間、倉田孫四郎基行（法名瑞行坊）、妻妙見尼と共に本寺の再興を源頼朝に請ふ。因りて建久元年、幕府は越生次郎家行に命じて再建せしめ、且つ寺地及び寺領を寄進せりと云ふ。爾來越生氏の氏寺たり。尚は此の際、從來法相宗たりしを天台宗に改めしが、應永年間、更に中興開山榮畠の時より眞言宗に轉ず。德川氏先例に準じて朱印地二十石を附與せり。

㊂寺寶中、高野明神・丹生明神像各一軀（絹本着色）に於て、高野明神は弓矢を持てる狩人姿をなし黑白二頭の犬を從へ、又丹生明神は唐草文樣ある紅の袿衣を着けて上疊に坐せる宛も宮女の如き純日本式の姿をなせり。畫の上部には置色紙に神語を記し、中央に圓形を描き、中に種子を書せり。現在にては剝落甚だしく圓樣判然せず。其形式高野山所藏のものと等しく、蓋し同一畫本に出でしものなるべし。唯其技巧に粗密の

差あれど、描國彩色等の點よりすれば鎌倉時代の作と推せらる。釋迦三尊及び阿難迦葉像一軀（絹本着色）には元の天曆三年五月高麗香徒等の列名あり。元朝佛畫の樣式を察知すべき貴重なる作例なり。二點共國寶に指定せらる。

龍穩寺 入間郡梅園村大字鹿ヶ谷。

㊀曹洞宗。

㊁山號を長昌山と號す。應永年中、無極惠徹、將軍足利義教の命により、領主上杉朝國の助力を得て創建す。文明四年、太田道灌、祖先の遺善及び義敎の三十三回を修する爲め堂宇を再興し、泰叟を招きて、當宗の僧錄所とす。而して道灌は境内に自得軒を營みて、これに居れりと云ふ。依りて道灌を中興開基、泰叟を中興開山とす。第五世雲崗の時、舊寺院瑞雲山を今の如くに改む。天正十八年、豐臣秀吉寺領百石の朱印を附し、慶長十七年、幕府は免例に倣ひ本寺を僧錄所とす。當時本寺の統轄する寺院武蔵、上野、信濃、越後等二十三國に亘りて四十餘寺に達せりと云ふ。萬治三年、住持諦心、加賀永平寺第二十九世となりてより後年本寺は下總鴻ノ巣の總寧寺、同國宮田の大中寺と共に交代昇任するの例となる。尚は僧錄司の事務はもと江戸青松寺に役僧を派遣して處理し、住持は寺内に止まりしが、延寶六年以後は江戸麻布に宿寺を營みて住持此寺に移り、本寺々務は總司により執行せしむる事となり、寺運隆盛に現在に至る。

㊂寺域五千餘坪、堂宇整備す。秩父郡吾野郷高山の不動尊は本寺の奥ノ院と稱し、本寺住持就任後、必ず參詣するを恒例とす。

善福寺 入間郡高麗川村大字新堀新田。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁高麗山勝樂寺と號す。天平勝寶年間、聖雲其師勝樂の遺志を繼ぎ、高麗王若光の菩提を弔はんが爲に、若光所持の聖天像を本尊として開創すと傳ふ。もと法相宗を奉ぜしが、貞和年間、醍醐の秀海住してより、現宗に轉ず。近世寺領十五石を有せり。

㊂寺寶に文應二年の銘ある古鐘を有す。

大聖寺（子育觀音） 比企郡小川町下里。

㊀天台宗。

㊁石青山威德院と號す。開山は希融、開基は平貞義なり。本尊如意輪觀世音は定朝の作と傳へ、もと京都東山にありしを希融法師此地に移せるものなりと云ふ。子育觀音と稱して、俗間の信仰厚し。

㊂寺境二千八百餘坪、本堂・如意輪觀音堂・鐘樓等を具ふ。境内に石造の法華經供養塔一基あり。六角形各面に薬壺上の梵字を表し、上に二重の笠石、其上に相形あり。銘に康永三年三月と刻銘す、現に國寶たり。

泉福寺 比企郡福田村大字和泉。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁不詳。

㊂本尊木造阿彌陀如來坐像は國寶にして、藤原末期の樣式を具ふ。胎内に建長六年五月修覆の銘を存す。

慈光寺 比企郡平村大字西平。

㊀天台宗。

㊁都幾山一乘法華院と號す。坂東三十三所第九番の札所なり。開基は白鳳二年、唐僧鑒眞の弟子道忠なり。延暦二年天台宗となる。貞觀十三年、前上野權大目安信小水麿大般若經六百卷を書寫して寄進す。治承三年、源頼朝、本寺を其祈願所とし寺領若干を寄進す。文永七年御所（後深草天皇か）以下、院、公卿、僧正等の書せる一品經を寄進せらる。天正十九年、德川氏より寺領百石の朱印を受く、寛永四年より東叡山末に屬す。もと寺中に七十五坊ありしも次第に廢絶す。

（慈光寺釋迦堂）

㊂寺域は慈光山々上六千六百七十九坪の地を占め、眺望絶佳なり。山麓より九町餘にして達す。堂宇は本堂（釋迦堂）・觀音堂・客殿・庫裡・開山堂・藏王堂、

鐘樓等を具ふ。
國寶指定の寺寶は、銅鐘一口（寛元二年五月の銘あり）法華經二十九卷（内五卷後補）、觀音賢經一卷・無量義經一卷・阿彌陀經一卷・般若心經一卷の合計三十三卷（紙本墨書、附、文永の筆者目錄一卷及び寛政の補寫目錄一卷）・大般若經百五十二卷（紙本墨書、貞觀十三年安信小水麿の奥書あり）の三點なり。

正法寺 比企郡高坂村大字岩殿。

㊀新義眞言宗智山派。
㊁巖殿山と號す。坂東三十三所第十番札所なり。寺傳に養老年間、沙門逸海、本尊千手觀音を岩窟中に安置し、傍に草庵を結び、正法庵と名づけしを以て本寺の開創となす。正治二年、源頼朝室政子再興せしも、永祿十年九月、松山落城の際、兵火に罹り、本堂以下坊舍總て烏有に歸し、加之、緣起古記錄をも失ひたり。依つて當地の人々一草堂を營みて先きの難に辛うじて燒亡を免れたる本尊を安置す。天正二年、別當榮俊再建を圖り、檀越を四方に募りて、漸く舊態に復し、同十九年、徳川氏より二十五石の朱印を附せらる。明治十一年再び池魚の殃あり、同十九年、新築落成す。
㊂鐘樓に、元亨二年鑄造の銘ある梵鐘をかく。また經藏には萬治三年、水野石見守忠貞の奉納せる。明版の一切經を藏す。本堂南方の高地は物見山と云ひ、櫻、躑躅多くして花時の訪客少なからず。

等覺院 比企郡野本村。

㊀天台宗。
㊁不詳。

㊂寺寶阿彌陀如來坐像一軀（木造）は胎内に、建長五年卯月三十日、大佛子定性修理の銘あり。國寶に列せらる。

安樂寺 比企郡西吉見村大字黑岩

㊀新義眞言宗智山派。
㊁岩殿山光明院と號す。本尊は聖觀音にして、坂東三十三所第十一番札所なり。行基の創建に係る。坂上田村麻呂、東夷征討祈願成就の報賽として自ら本願開基となり、領内の總鎮守となし、爾來勅願所に準じて國家の安穩を祈るると云ふ。源頼朝の歸依深く所領の寄せ、十六丈三重塔、二十五間四面の大講堂を建つ。これより寺運大いに振ふ。永仁四年、頼朝五世孫太郎義世、北條氏に滅されてより後は、寺領掠奪されて衰頽甚だし。加之、天文年間上杉憲政、北條氏康に敗られ、殘兵本寺に逃る。北條氏堂宇に火を放ちて之を討ちし爲め伽藍什寶悉く烏有に歸す。慶長法印、これが再興を企圖し、五間四面草堂、三重の塔其他を造營す元祿、寶永の頃諸佛像作製せられ、また蓮恒、大護摩壇、鐘樓等を作り、漸次舊に復せり。

西光寺 秩父郡秩父町。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁無量山と號し、開山は賢秀法印なり。秩父三十四所第十六番札所の觀音堂を管理す。觀世音堂もと他郡にありしが、後年現地に移すと云ふ。

常樂寺（附、坂氷觀音堂） 秩父郡秩父町。

㊀天台宗。
㊁南石山と號し、開山は寶門、中興開山は宗海なり、もと大宮町蓑にありしが、元文年間、燒失後現地に移る。秩父三十四所第十一番札所坂氷觀音堂を管理す。

慈眼寺 秩父郡秩父町。

㊀曹洞宗。
㊁麓下山と號し、秩父三十四所第十三番札所なり。里人高野某、聖觀世音を安置して本尊とし、東雄朝方を請じて開創す。

野坂寺 秩父郡秩父町。

㊀臨濟宗南禪寺派。
㊁佛道山と號す。秩父三十四所第十二番札所にして聖觀世音を本尊とす。慶安四年正宗大興の創建に係る。明治四十四年堂宇を改築し、現在に至る。

林寺 秩父郡秩父町。

㊀臨濟宗建長寺派。
㊁正しくは寶正山少林寺と云ひ、秩父三十四所第十七番札所なり。本尊は十一面觀世音なり。もと此地に壬生の眞門なる武家あり、强欲飽くなし。その臣林太郎定元屢々諫むれども聽かず。遂に追ばれて定元夫妻今の本寺々域に病死す。沙門寶願なる者、後年眞門を戮伏す。眞門前非を悔ひて、一寺を定元の死せる地に建つ。これ卽ち本寺なりと傳ふ。

諸石寺 秩父郡秩父町。

㊀曹洞宗。

㊁飛淵山と號し、秩父三十四所第十九番札所なり。本尊は聖觀世音にして東雄朝方の開創に係る。

長福寺 秩父郡吉田町下吉田。

㊀曹洞宗。
㊁延命山と號し、長山賢道を開山とす。秩父三十四所第三十三番の札所なり。もと菊水寺と稱す。こは觀音堂の通稱にして、御詠歌にも菊水寺として詠まれたり。秩父の靈場として賽者絶えず。
㊂堂宇は觀音堂・庫裡等あり、佛聖芭蕉の句碑境内にあり。「寒菊や小ぬかのかゝる白のはた」。

法長寺（附、牛伏觀音堂） 秩父郡横瀬村。

㊀曹洞宗。
㊁青苔山と號し、開基は清苔院傑孝常英にして凉室和尚を開山とす。秩父三十四所第七番の札所牛伏觀音堂を管理す。同堂の本尊は十一面觀世音なり。

西善寺 秩父郡横瀬村。

㊀臨濟宗南禪寺派。
㊁青苔山と號し、秩父三十四所第八番の札所なり。本尊は十一面觀世音なり。開山は竹印和尚なりと云ふも、文化七年火災に罹り古記錄一切を失ひたれば定かならず。

大慈寺 秩父郡横瀬村。

㊀曹洞宗。
㊁萬松山と號し、秩父三十四所第十番札所なり。往昔當地の長某聖觀世音を本尊として開創すと傳ふ。明歷二年東雄により再興せられ現今に及ぶ。

長興寺（附、語歌堂、明智寺） 秩父郡横瀬村。

㊀臨濟宗南禪寺派。
㊁南清山と號し、竹印和尚を開基とし、里人佐野某を開基とす。秩父三十四所中の第五番語歌堂及び第九番明智寺を管理す。
（語歌堂） 正しくは小川山語歌寺と云ひ、本尊は聖觀世音なり。
（明智寺） 明星山と號し、本尊は如意輪觀世音なり。天正年間、一時横瀬氏の臣加藤某の領内に此の觀音堂を建つ。享保五年、四間四面の觀音堂を長興寺境内より現地に移す。
（明智寺） 明星山と號し、本尊は如意輪觀世音なり。天正年間、一時横瀬氏の臣加藤某の領内に此の觀音堂を建つ。今は舊地に復す。

卜雲寺（附、萩堂觀音堂） 秩父郡横瀬村。

㊀曹洞宗。
㊁向陽山と號す。旃外春道を開山とし、土豪島田某を開基とす。秩父三十四所第六番の札所萩堂觀音堂を管理す。同堂もと境内より西方七町の所にありしが、寶曆十年現在の地に移す。本尊聖觀音なり。

常泉寺（岩本觀音堂） 秩父郡高篠村大字山田。

㊀曹洞宗。
㊁岩本山と號し、秩父三十四所第三番札所なり。本尊は聖觀世音にして、同村光明寺末なり。開山は峯山和尚（寛永十五年寂）なりと云ふ。

眞福寺 秩父郡高篠村大字山田。

㊀曹洞宗。
㊁大棚山と號し、秩父三十四所第二番札所なり。聖觀世音を本尊とし、同村光明寺の末寺なり。開山は行基、中興開山は義空（俗に大棚禪師と云ふ）と傳へ、後ち鐵磨再興す。義空、鬼女を濟度し、本寺を建てゝ觀世音の靈跡となすと云ふ。
㊂羅漢堂・札堂等の堂宇を具ふ。寺寶に鬼女の義空に歌ぜりと云ふ一節七匿相生の竹を藏す。

四萬部寺 秩父郡高篠村大字栃谷。

㊀曹洞宗。
㊁通經山妙音寺と號し、秩父三十四所第一番の札所なり。文龜三年、嶺山守的の開創に係る。行基東國巡錫の刻、栃樹を以て觀音像を彫刻す、本尊觀音像は卽ちこれなりと傳ふ。中世寺運衰頽せしが、徳川時代初期に額龍是伯これを再興す。秩父巡禮のこと文暦元年阿彌陀如來、閻魔大王、俱生神、妙見大菩薩、藏王權現、愛宕權現、稲荷明神、花山法皇、白河法皇、徳道上人、聖空上人、醫王上人、熊野權現の權者十三人、山伏の姿なして顯現し、秩父三十四所を開き、これより巡禮者絶えずと傳ふれど、實は元和、寛永の頃より行はれしものなるべし。

水潛寺 秩父郡日野澤村大字下日野澤。

㊀曹洞宗。
㊁日澤山と號す。阿佐美伊賀守慶延、當村大通院第

二世敬翁性遵（元亀二年寂）を請じて開創すと云ふ。観音堂は秩父三十四所第三十四番札所にして、本尊千手観世音を安置す。

岩上観音堂　秩父郡尾田蒔村大字寺尾。

㊀不詳。
㊁秩父三十四所第二十番札所なり。本尊に聖観世音を安置す。白河天皇の勅によりて建立せられしも、應仁前後の兵亂に堂宇悉く破却せらる。其後、北條氏邦再建せしも、今は大いに退轉して昔時の觀を止めず。
㊂山下に荒川の清流あり。突兀たる山巓に堂宇建ちて四望の風光絶佳なり。岩窟中に石造の佛像多く安置しあり。

永福寺（附、童子堂）　秩父郡尾田蒔村大字寺尾。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁西陽山と號し、南光法印の開創に係る。秩父三十四所第二十二番札所童子堂を管理す。童子堂は華台山と號し、本尊は聖観世音なり。淳和天皇の御弟伊豫親王御追善の爲め僧正遍照、當地領主に命じて草創せるものなりと傳ふ。元祿十四年、鏡覺再建す。これ現在の堂なりと云ふ。

觀音寺（矢堂）　秩父郡尾田蒔村大字寺尾。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁要光山と號し。元珍法印を開山となす。矢堂觀音は聖観世音を本尊とし、秩父三十四所第二十一番札所なり。

法性寺（般若堂）　秩父郡長若村大字般若。

㊀曹洞宗。
㊁石船山と號し、開山は眼應、中興開山は宗察なり。秩父三十四所第三十二番札所たる般若堂を管理す。般若堂は本尊は聖観世音にして、行基の創建と傳ふ。堂名はもと大般若經を藏せるによると稱す。

法雲寺　秩父郡白川村大字白久。

㊀臨濟宗建長寺派。
㊁環龍山と號す。建長寺第十九世道隙物塞の開創に係ると云ふ。
㊂観音堂は卽ち秩父三十四所第三十番の札所にして知意輪観世音を本尊とす。寺域の西南は高峰逶亘し、東は渓流を隔てゝ熊倉山麓に接し、北方のみに通路あり。奥ノ院に岩窟ありて、奇岩多し。

長泉院　秩父郡中川村大字上田野。

㊀曹洞宗。
㊁藤目山と號す。開山は敬翁性遵、中興は香庵春公なりとす。
㊂観音堂は聖観世音著隨を本尊とし秩父三十四所第二十九番の札所なり。文化二年堂宇燒失し、現在の地に移る。

大淵寺　秩父郡影森村大字上影森。

㊀曹洞宗。
㊁龍河山と號す。開山は寶明、中興開山は賢道なりとす。
㊂観音堂は聖観世音を本尊とし、秩父三十四所第二十七番の札所なり。尙ほ後光佛に三十三體の観音像あり。

橋立寺（橋立観音堂）　秩父郡影森村大字上影森。

㊀曹洞宗。
㊁石龍山と號す。秩父三十四所第二十八番札所にして、本尊は馬頭観世音なり。
㊂寺域は武甲山の西麓にありて、前に橋立の清流あり。寺背には懸崖高く聳え、石灰岩の洞窟あり、西より入り、東より出づ。開口甚だ狹く匍匐して出入す。内部は高低一樓ならず、高きは梯子を設け、低きは板を渡したり。洞内奇巖怪石多く、鍾乳石、石筍、石柱の奇觀に富む。此の洞窟に入るを穴禪定と云ひ、一年の入洞者三萬人を超ゆと云ふ。

圓融寺　秩父郡影森村大字下影森。

㊀臨濟宗建長寺派。
㊁萬松山と號す。宗猷大光の開創に係る。
㊂観音堂は岩井堂と云ひ、秩父三十四所第二十六番札所にして、聖観世音を安置す。石磴三百餘級を登りて堂前に達す。岩窟石壁には佛像無數に彫刻せらる。秩父太郎重弘は本尊を尊信する事厚く、堂宇修理の大檀那となり、以下重能、重忠又、これに倣へりと云ふ。寺域の南方に武甲山、西方に龍河山ありて自然の幽境なり。

久昌寺（久那岩井堂）　秩父郡久那村。

㊀曹洞宗。
㊁繁林山と號し、開山眞翁正順なり。秩父三十四所第二十五番札所久那岩井堂を管理す。久那岩井堂は本尊は聖観世音にして、中古、岩屋山御手判寺と號せり。蓋し閻魔王の手判なるものを巡禮に施せしを以てなり。

光明寺　見玉郡青柳村大字新里。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁不詳。
㊂寺境七百四十五坪、堂宇には藥師堂・愛宕堂・鐘樓等あり。寺寶木造阿彌陀如來立像一軀は丈高一尺五寸餘、背面に永仁三年八月の銘あり、現に國寶に加へらる。
㊃大般若轉讀會（四月十五日）。

熊谷寺　大里郡熊谷町熊谷。

㊀淨土宗。
㊁蓮生山當行院と號す。當地はもと熊谷次郎直實の城地にして、平氏滅亡後直實法然の門に入り、出家して蓮生と稱す。元久二年、蓮生此地に庵を結びて居住せり。天正年間に至り、轄隨意上人中興して、現寺號を稱すと傳へらる。一說には轄隨意の弟子、萬海の中興なりとす。慶長六年、德川家康忍城に赴きし際、本寺に休息し、客殿の金具に葵紋を附するを許可す。又同九年寺領三十石の朱印を寄す。安政元年、本堂奏上し、直ちに再建さる。現在の本堂は近年の造營に係る。
㊂寺寶に多田滿仲の子、美丈丸の念持佛・蓮生の木像等を藏す。寺内に稻荷祠・蓮生の墓あり。

龍淵寺　大里郡熊谷町上之。

㊀曹洞宗。
㊁太平山天釣院と號す。應永十八年、當地領主成田家時開基す、開山は和庵清順なり。天正十九年、德川家康江戸入城の直後、遊獵の際、本寺住僧呑雪、家康の舊知たりし緣故により、特に坐詣し、後年朱印百石を寄進すと云ふ。明治元年、有栖川宮の御新願所となり、慧仁親王より特に懷紙、慕提燈等を賜はる。尙ほ寺格は常恒會地にして、直末十八寺を統轄す。
㊂所藏の龍淵寺年代記は、記事大永より延寶に至り戰國時代考究の一資料なり。

歡喜院（妻沼聖天）　大里郡妻沼町。

㊀古義眞言宗。
㊁聖天山と號し、俗に妻沼聖天と稱せり。高野山金剛峯寺に屬す。本尊は歡喜天にして、行基作と傳ふる十一面観世音を前立佛とす。建久八年の創建に係る。開山齋藤實盛の次男齋藤實長は法名を阿請房眞應と云ひ、聖天堂を建て、別に歡喜院を造營すと云ふ。後ち更に支院五宇を建立せしが、現在は其中花藏院のみ存す。天文二十一年の忍城主成田下總守藤原長泰之を再興す。現今の堂宇、これなり。
㊂境内面積、聖天堂の分一萬千六百八十六坪、本坊の分三千坪あり。聖天堂は本殿（三間四面）、巨殿（間口二間、奥行四間）及び拜殿（間口七間、奥行四間）等より成る權現造にして、總彫物付、極彩色の銅瓦葺なり。天文二十一年の再建に係る。其他、境内建物に中門・仁王門・通夜堂・鐘樓等あり。寺寶の錫杖一柄（鍛造）は頭部の中央に雙身の歡喜天を、左右に二童子を配したる三尊式の異相をなす。同軸部は甚だ短かく中央二箇所に別鑄の蓮蕾を附し、奉鑄武藏國永井聖天堂錫杖、御正體建立氏人藤原實家、宮道國平、平氏藤原實幹、聖人信乘自身依御託宣奉鑄筆、附建立建久八年丁巳四月八日辛亥、鑄匠和氣末友藤原守家齊昭則友の銘あり、現に國寶に指定さる。

長久寺　北埼玉郡忍町行田。

㊀新義眞言宗智山派。
㊁應瑛山極護院と號す。應永年間、當武藏國忍城主成田家時（一說に顯泰）、遍傳を請じて開創す。寺地は、忍城の鬼門に位せしかば、代々の領主本寺を以て居城鎭護の祈願所となす。慶長年間、住僧重戴、城主德川忠吉の移封に當り、これに從ひて尾張國清洲に移りし後も、本寺は永く此地に存續せり。寺領は近世三十石を有せり。

龍門寺　南埼玉郡岩槻町。

㊀曹洞宗。
㊁玉峰山と號す。天正年中、齋田若狹守の開基に係り、格叟富慈を開山とす。
㊂寺寶として國寶の刀一口あり、無名なるも助眞作と傳ふ。

甘業院　南埼玉郡久喜町久喜本。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁永安山と號す。古河公方足利政氏、當地に館を設けて隠栖せしが、永正十六年に至り、これを寺に改め其弟、僧真巖を開山とし、四世の祖氏滿の法諡及び自己の法名をとりて永安山甘棠院と號す。これ本寺の草創なりと傳ふ。天文十七年堂宇美上し、翌十八年再建さる。近世、德川氏より寺領百石の朱印を寄せらる。

㊂寺境千九百八十五坪、所藏の寺寶傳真巖和尚像一幅（源直朝筆、絹本着色）は國寶に列す。寺内に政氏の廟及び其館址、墓等あり。いづれも現に史蹟に指定さる。同廟内に政氏の木像を納め外に五輪の塔あり。

淨國寺　南埼玉郡柏崎村大字加倉。

㊀淨土宗。

㊁佛眼山英隆院と號し、關東十八檀林の一なり。天正十五年、總學清巖開基す檀越は岩槻城主太田氏房なり。清巖、もと北足立郡勝願寺に住せしが、氏房深く歸依して寺地二萬餘坪を寄せ、以て本寺を開創せしめしものなりと云ふ。慶長十九年、檀林に列し、傳燈付法の道場となる。近世、德川氏より朱印五十石の寄進あり、明治二年勅願所の綸旨を賜はる。

㊂本寺彌陀三尊は安阿彌作と云ひ、眞忠の持佛なりしを、弟子寂慧に傳へ、寂慧更に勝願寺に移し、清巖これを本寺に安置せるものなりと傳ふ。

慈恩寺　南埼玉郡慈恩寺村大字慈恩寺。

㊀天台宗。

㊁華林山最上院と號す。坂東三十三所第十二番の札所なり。天長元年、慈覺大師千手觀音を安置して本寺を開創し、當山の風景、唐の大慈恩寺に似たりとて慈恩寺と號せりと傳ふ。其後、寺運傾きしが天文年間太田道灌により再興さる。當時本坊四十二、新坊二十四を存せしと云ふ。天正年中、德川家康寺領百石を寄進し、慶長年間、更に諸法度狀の朱印を授けたり。

㊂寺寶に南蠻鐵の燈籠あり、天正十七年、伊達房實の寄進なりと云ふ。

西光院　南埼玉郡百間村大字百間東。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁百間山光福寺と稱す。永祿十三年、北條康成、寺門内軍士の濫妨を禁ずるの書を下す。天正十四年、北條氏房、寺領を安堵す。其後德川氏より寺領五十石を附せられたり。往昔は寺域廣袤なりしも、今は堂宇頗殘し舊觀見るに由なし。

㊂寺寶阿彌陀如來及び兩脇侍像三軀（木造）は國寶に指定せらる。其中尊は坐像、脇侍は立像にして何れも秀箱になる。相好圓滿にして、衣紋の刀法穩かに典型的なる藤原式の佛像なり。中尊の胎裏に造立願願の人名と思はるゝ銘を存す。

永福寺（施餓鬼寺）　北葛飾郡高野村。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁觀燈山と號し、俗に施餓鬼寺と稱す。和銅三年、下野國縣主賢、一族を率ひて當地に來住し、耕漁を事とせしに、神龜三年、行基菩薩、其家に宿し、懇請によりて中品彌陀を刻して授け、且つ耕種の法を教へて去る。賢乃ち草堂を建て尊像を安す。天平勝寶五年、葛飾の郡司、賢の孫宗慶宅の尊像靈驗顯著なるを上申す。孝謙天皇佐伯の子麿に命じ之を拜せしめ給しひより、宗慶其居宅を梵刹となし、阿彌陀と號す。乃ち宗慶（法名信聽）を開山とす。弘仁十一年、弘法大師巡錫の御本尊を開眼す。降りて壽永二年、下河邊庄司行平、春日部實光禮越となりて修營し、永德二年、覺官上人再興す。元中九年七月二十三日、日尊、兩親及び三界萬靈の爲に大施餓鬼法會を創め、觀燈山長福寺と改む。爾來大施餓鬼法會年々修行して今日に及ぶ。寛文六年、又寺號を永福寺と改む。天正六年以來前後三回の回祿に罹り、現今の堂宇は安政五年以後のものなり。

㊂本堂・庫裡・玄關・日牌堂・月牌堂・表門・鐘樓堂・觀音堂・閻魔堂・地藏堂等を具ふ。本尊は阿彌陀如來坐像なり。

㊃大施餓鬼會（七月二十三日）、高野の施餓鬼として遠近より參者群參し、東武鐵道など大雜沓を極む。寺俗名こゝに出づ。

靜栖寺　北葛飾郡松伏鎮村大字松伏。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁定永山と號す。元和九年、明海、當地の土豪石川幸正の歸依を得て創建し、清淨寺と稱す。慶安年中、石川氏更に寺田十餘町歩を寄進し、以後一靈毎に一寺を建立して本寺の支院とし、遂に二十三寺に及びしが、維新後十三寺に減ぜり。中興開山霊宗の代より、京都仁和寺の末寺となり、寺號も今の如くに改めたり。

群馬縣

妙安寺　前橋市立川町。

㊀眞宗大谷派。

㊁一谷山最頂院と號す。親鸞門下二十四輩の第六、一谷成然の遺跡なり。（成然、一に常念に作る）成然は俗姓藤原氏、九條中村行實と稱せしが、承元四年事に觸れて、下總國眞島郡に配流さる。赦されて後ち親鸞の弟子となり一谷に住す。天福元年、同國三村、大子堂最頂院に移り、聖德太子草創と傳ふる一寺を再興して、妙安寺と云ふ。第十五世成空、關宿城主、坂倉周防守の歸依を受け、寺領十石を附せらる。天正八年坂倉氏の移封に隨ひて、武藏國川越に移り、後ち更に現地に移轉す。慶長八年德川家康、教如の爲に東本願寺を創建し、本寺傳來の親鸞自作像を本願寺に獻ぜし也。（現に本願寺に奉安ぜるゝもの之なり）。これに對し教如より蓮如筆親鸞像及び諸國東本願寺末寺門徒中、永年奉加免許の印書を與へたり。慶安四年美上し、寺寶、堂宇多く燒失す。尚ほ三村の舊地には別に願正寺建立されて、本寺の黙所たりしが、三村の寺領に就き本寺と爭論す。因つて幕府これを裁して願正寺を妙安寺と改め、本寺より分離獨立せしめ。本寺は成然寺と改稱せしめたり。然るに享保年中又同じく妙安寺の舊號に復するに至れり。

㊂寺寶に傳親鸞筆唯信鈔一節・名號數幅・成然房遺文・成然自讃像・唯信鈔・聖德太子畫像等あり。

（妙安寺本堂）

龍海院　前橋市紅雲町。

㊀曹洞宗。

㊁三河國額田郡明大寺村の龍海院と同系なり。領主酒井氏、三河國岡崎より同國西尾、武藏國川越を經て慶長六年此地に移封せらる。龍海院の僧、其都度これに隨從し、堂坊を營みて、龍海院と稱す。當地に於けるもの卽ち本寺にして酒井氏の菩提所たり。弘化年中奕堂、本寺を重してより、寺運大いに振ふ。嘉永年中有栖川宮家御祈願所となる。

㊂堂宇には本堂・庫裡・書院・方丈等あり。有栖川宮令旨を藏す。

㊃浮信會大會（四月十五日、九月十五日）、大般若法會（九月十七日）。

善勝寺　勢多郡芳賀村大字端氣。

㊀天台宗。

㊁真塲山と號す。大治四年聖慶法師、春王善逝像を當所に安置し、草庵を結ぶ。正嘉年中、北條時頼、これに地一町歩を寄す。永享三年、圓祐の時、これを寺院に改築し、德榮山慧德院自親寺と號す。天文年中、前橋城主長野氏命じて善勝寺と改めしむ。山號真塲山は永祿五年、前橋城代北條高廣の名する所なり。

㊂寺寶阿彌陀如來坐像一軀（銅造）は、背面に仁治四年二月大勸進僧心禪の銘あり、鐵造として細技に稀有の手法を示せる逸品にして現に國寶に指定せらる。

水澤寺（水澤觀音）　群馬郡伊香保町水澤。

㊀天台宗。

㊁五德山と號す。坂東三十三所第十六番札所なり。創建に就き、寺傳に依れば推古天皇の御宇、上野國司高光中將、自家の菩提所として本寺を建立し、高麗僧惠觀を請じて開山別當となし、高邊家成の三女、伊香保の持佛たりし千手觀音を本尊となすと云ふ。持統天皇の御宇、上野國司柄階左大將邦隆のために堂宇美上せしが、東圓これを再興す。其後八百有餘年を經て、寛永年中、天海僧正の再興に歸し、堂宇を美上せり。

（水澤寺本堂）

餘年間回祿其他の災厄なく、萬代の隆盛を期せしも永正八年、近傍の火災に類燒す。依つて鐵忍邏く淨財を募り、數年にして漸く舊に復す。大永二年、又も災上し、同年再建工事竣成す。天明七年堂宇に大修理を加ふ。これ現在の堂宇なり。

㊂寺域一萬二千餘坪、樓名蓮山の一なる淺間山の傾斜地に位置し、前方に赤城山、利根川を望み、關東平野を瞰下して眺望絶佳なり。本堂は七間四面にして本尊は一寸八分の丈長と傳へ秘佛なり。側の六角堂には、六尺餘の紫銅造地藏尊立像六驅を奉安す。堂の左側に元亨四年三月二十日の板碑あり。

㊃二月節分會は殊に盛んにして、賽者、二萬を越ゆと云ふ。開帳は三十三年毎に行ふ。

長谷寺　群馬郡久留島村大字白岩。

㊀天台宗寺門派。

㊁白岩山と號す。本尊は十一面觀世音菩薩にして、坂東三十三所第十五番札所なり。

㊂境内五百坪あり。寺寶として長谷寺緣起一卷・緣起考一卷・太刀二口・大般若經一卷等を藏す。

㊃聖武天皇御願所の法と傳へ毎月一日、八日、十五日、二十八日に行ふ。

雙林寺　群馬郡白郷井村大字中郷。

㊀曹洞宗。

㊁最大山と號す。寶德二年（一説に文安四年）、白井城主、長尾左金吾景仲入道昌賢、其子景信に命じて、本寺を創建せしめ、月江正文を請じて開山とす。寛正四年昌賢歿す。景信、佛師をして昌賢の像を造らしめ寺内に安置す。上杉、長尾兩氏の勢盛大なりし頃は、上野、信濃、越後、佐渡等諸國の曹洞宗、寺院を統轄す。寛永十九年、德川氏より寺領三十石を寄せられたり。現に末寺四十八箇寺を有す。

㊂寺境三千六百三十坪、堂宇には本堂・開山堂・禪堂・衆寮・庫裡・書院・方丈・鐘樓等あり。什寶には釋迦如來・摩訶迦葉・阿難・達磨・地藏菩薩・高僧、開祖、開基、二代、三代等の木像・其他、孝明天皇綸旨・雙林十人老僧法問夜話集等を藏せり。

㊃開山忌及び道了大薩埵大祭典（四月十日）。

淨法寺　多野郡鬼石町淨法寺。

㊀天台宗。

㊁廣澤山般若淨土院と號す。古くは蓼野寺と云ひ、聖武天皇の勅願により、東州の導師道忠、開創すと傳ふ。其後、最澄再興して相輪樓を建つ。往昔は寺運隆盛にして本堂、戒壇院、千手院等の諸堂宇輪奐莊嚴すと云ふ。然れども天文年中、上杉憲政に寺領を沒收され、加へてまた高山氏の兵燹に罹り、以後大いに衰頽す。弘治二年に至り、住職舜祐の努力により、稍々舊觀に復す。天正十九年、德川家康より朱印三十石を寄せらる。

㊂堂宇に戒壇堂・開山堂・相輪樓・鎮天嗣等あり。

不動寺　北甘樂郡磐戸村大字大鍋澤。

㊀黄檗宗。

㊁黑龍山と號す。行基、自作の不動明王像を安置して開創すと傳ふ。延寶三年住僧高源、館林廣濟寺の潮音を聘す。これより寺運大いに振ひ、學徒四方より雲集し、堂宇亦次第に成り、遂に著名の巨刹となる。後年黄檗宗黑龍派の本寺となり、支院末寺二百餘を統べしが、近年衰頽甚しく、堂宇亦破損して、往日の舊觀を留めず。

㊂寺境は黑龍山中、幽邃の地を占め、奇巖怪石鬱しく、就中日東、星中、月西の三巖、最も著はる。其他三十三觀音、九十九谷の勝あり、紅葉の美觀最も佳なり。

㊃不動尊大祭（四月二十七日、二十八日）、開山忌（十月二十四日）。

不動寺　碓氷郡松井田町松井田。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁龍本山松井田院と號す。寛元元年、慈猛の開創に係る。元龜四年、武田信玄、寺領若干を寄す。元和年中第十五世秀算、德川秀忠の歸依を受け遂に推されて豐山第四世の能化職となる。これより寺運大に榮え、獨禮地の格に昇る。慶安元年、德川家光、朱印八十九石六斗を附す。十八世惠圓、德川家綱の信任を得江戸知足院住持に請ぜらる。寛文六年堂宇回祿の災に遭ひしが、惠圓幕府の支援を得て、寶塔、仁王門等を造營す。

㊂寺域、三千三百六十九坪なり。

㊃星供法（節分前三日）十九世正算、延寶四年、山城醍醐より星供法を相承し、德川將軍、安中領主の爲に當日此法を行ふ。維新後は廣く有緣道俗の爲にこれを修す。

達磨寺　碓氷郡八幡村大字鼻高。

㊀黄檗宗。

㊂少林山と號す。本尊は十一面觀世音なり。初め天和年中、一了居士なる者、丈四尺餘の達磨像を作り、當地に安置せしが、享保の頃了無居士と云へる者、山田を寄せて當山を開基す。後ち、水戸、壽昌山祇園寺第二世天瀑法禮、脇橋の城主、酒井忠知に聘ぜられて本寺に住す。天瀑、其師、東皐心越を開山に推し、自らは少林二世と稱す。壽昌山の水戸德川氏の祈願所たりし法緣により享保十一年德川宗堯本寺なるも、其祈願所とす。

（遠勢寺鎮符堂）

又北辰鎮宅靈符神を祇園寺より、當山に勸請して、靈符堂に祀る。開創當時は曹洞宗を奉ぜしも、後ち、黄檗宗に轉じ、宗風、隆元を中興開山に仰ぎて現在に至る。

㊃境地高燥にして、四方の眺望絶佳なり。觀音堂には本尊十一面觀世音を、靈符堂には北辰鎮宅靈符神を安置す。其他、大講堂・鐘樓・庫裡・書院等を具ふ。

㊄七草大祭（一月六日、七日）俗に少林山の達磨市と云ひ、賽者張子の編達磨を購ひて開運を祈る。舊七草祭（舊一月七日）、開運講及び養蠶講（四月一日より七日迄）、星祭本命祭（冬至日）。

藥師堂　吾妻郡澤田村。

㊀不詳。

㊁不詳。

㊂堂宇中、藥師堂（桁行三間、梁間三間、單層、屋根四注造、茅葺）は國寶建造物たり。組物は唐樣出組にして、天文四年願主道親、番匠藤原八郎四郎により造營せられたるものなり。

玉泉寺　利根郡古馬牧村大字後閑。

㊀曹洞宗。

㊁三峰山と號す。高吉年中、一州正伊の開創する所なり。正伊は周防國の人、寛正二年、長尾昌賢に請ぜられて鎌倉に至り、玉泉庵を九曜井の傍に建立す。後ち沼田長忠、これを上野國に聘す。よりて正伊當地に來りて、一寺を造營す。本寺即ち之なり。永祿年中、兵燹に罹りて堂宇炎上す。其後再建せられしも、寛政十一年明治七年の兩度回祿の災に遭ふ。寺領近世五十石を有す。

㊂境域千六百餘坪あり、本堂・開山堂・庫裡・寶藏・經藏・八幡宮・十王堂等の堂宇を具ふ。境内に龍燈木と稱する樅の大樹（周圍二間）及び知高左馬介義隆の墓碑あり。

泉龍寺　佐波郡名和村大字柴。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁萬松山と號す。大同年中の創建と傳ふ。もと眞言宗にして、玉泉寺と稱せり。應永元年、那波城主大江廣、三百貫文の地を寄せて再興し、寺號を現在の如くに改め、近江國永源寺の寂室の門下、白屋を請じて中興開山とす。爾後、白屋流の本寺となる。慶安四年德川家光寺領十石を寄す。現在所屬寺十一箇寺あり。

㊂境内二千三百餘坪あり。什寶として唐獅子毛拂子・堆朱大香爐・羅漢畫像等を藏す。

大光院（子育呑龍）　新田郡太田町太田。

㊀淨土宗。

㊁義重山新田寺と號す。淨土宗關東十八檀林の一なり。當地、德川氏の祖、新田義重の故地なるに因り、德川秀忠一寺を創して、其菩提を弔はんとし、慶長十六年、江戸增上寺の存應（觀智國師）、土井利勝、成瀨正成等を遣して本寺を創建せしめ、義重の法名に因みて、大光院と號す。同十八年、存應、其弟子然譽呑龍をして本寺々務を司らしめ、以て開山たらしめたり。同年德川氏より寺領三百石を附せらる。元和八年常紫衣の勅許を賜はり、檀林に列す。正和二年、延寶二年、元祿十一年等數度に亘りて堂宇修理增營せらる。明治二年勅願所の綸旨を拜受す。

㊂境内一萬四百七十七坪。本堂は桁行十一間、梁間九間、銅葺にて、家康寄進の阿彌陀像を奉安す。又義重、家康、秀忠等の木像あり。其他大方丈・小方丈・庫裡・鎮堂・鐘樓等を具ふ。尚ほ本堂左方に十三間四

面鐵筋コンクリート、單層、入母屋造、銅葺の開山堂造營中なり。寺寶として新田氏に關する古文書を多く所藏す。

㊐開山忌（舊八月八日、九日）安產、子育の靈驗著しとて參詣者多し。

清蓮寺　新田郡尾島町岩松。

㊀時宗。

㊁岩松山と號し、一に岩松道場と稱す。島山六郎義純（元、新田岩松氏）、新田氏の遠祖義國の邸址に開創する所なり。因りて義國院とも云ふ。至德二年、信濃國波合の戰に、新田氏の一族多く戰歿せしが、其中、世良田有親、親氏等は逃れて陸奥に奔り、後ち、上野國新田郡戒人村（青蓮寺の東南一里）に歸住す。後ち、偶ま本寺に掛錫せる、藤澤遊行寺第十二世尊觀の門に入りて剃度し有親は長阿彌、親氏は德阿彌と號するに至る。爾來本寺、從來の臨濟宗を改めて、時宗の寺院となれり。

總持寺　新田郡世良田村大字世良田。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁威德山陀羅尼院と號す。仁安三年、新田義重の創建に係り、初め、館之坊と稱したり。後年兵火に罹りて廢頹せしを、新田義貞再興して眞光寺と號し、堂塔伽藍を悉く修理せり。七世傳國の時、幕府に請ひて修理料を受く。慶安元年十月、回祿に罹る。次で同二年、再建せしも、寛政十二年、再び風雨の災に遭ひて寺寶概ね烏有に歸す。嘉永三年、春山の時、再建成り、以て現在に及べり。現在末寺十箇寺を有す。

㊂境内地四千九百六十坪。寺寶として富岡氏記錄書同由緒記・梵鐘等を藏せり。

普濟寺　邑樂郡赤羽村大字羽附。

㊀曹洞宗。

㊁龍洞山と號す。大永五年、長尾但馬守景長の開基する所にして、開山は大雲伊倹なり。中興開山花翁存柳は德川家康の舊知たり。因りて天正十九年大窪郷百石の寺田を安堵せらる。其證文を傳へて折紙の朱印と云ふ。現在の寺域往昔に比し、大いに縮小せるも尙ほ當地方の名巨刹なり。

㊂寺境六千餘坪あり。寺寶として古文書を多數所藏す。

寶福寺　邑樂郡伊奈良村大字板倉。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁大同山と號す。聖德太子の開創し給ふ所と云ふ。大同年中、坂上田村麻東夷征討の途、當寺に異狀計滅の祈願を爲して伽藍を造營す。永祿、元龜の頃、兵燹に罹りて堂宇喪上せしが、寛永十四年、館林城主榊原式部大輔康政、之を再建し、更に寛文十二年、德川家綱之に改修を加ふ。後ち、明和五年再び風雨の災に遭ひしも、安永八年、再建成り、以て現在に及ぶ。

㊂寺寶として、近年境内より發掘せる康元元年、文永二年、建武元年、延文二年、貞治三年、應安二年等の銘ある古碑を藏せり。

長樂寺　新田郡世良田村大字世良田。

㊀天台宗。

㊁良田山と號す。承久三年後鳥羽上皇の勅願により德川氏の遠祖、新田次郎義季、本寺を創建し、榮朝を請じて開山とす。榮朝は榮西門下の俊傑にして、台、密、禪の三學に精通し、本寺に蓮華流の灌頂を行ふ。其門に入る者九百餘人に及び、學德一世に聞ゆ。聖一國師（辨圓）又當寺に於て別傳の法を受けたりと傳ふ。而して當初は台、密、禪三宗を兼修せしが、永正十七年、後柏原天皇より、寺中の眞言院に永宣旨及び勅印を賜はり、門徒の僧官を管理せしめ給ひしより後ちは眞言宗の寺院となる。當時遠近の士庶爭ふて祈禱を請ひ、武將の寺領を寄進する者多く寺門大いに振ひて、關東十刹の一に數へられたり。然れども其後、戰亂相繼ぎ、寺領多く掠奪されて荒廢漸く甚だし。寛永十七年、天海之を再興し、眞言院を廢して天台宗に改む、德川家康、朱印地百石を寄す。德川家光、寺域内に東照宮を建て又二百石を加增す。爾後引續き寺運隆盛、遙かに往昔を凌駕するの狀態たりき。

㊂寺域一萬餘坪を有し、堂宇に本堂開山堂・庫裡・勅使門・鐘樓門・寶藏等を具ふ。寺寶には後鳥羽上皇の勅願五幅・後柏原天皇の勅印一顆・無準禪師畫像一幅及び古文書・古器物等數十點を藏す。

善導寺　邑樂郡館林町谷越。

㊀淨土宗。

㊁終南山見松院と號す。建治二年、良纂加法師の地に開創す。天正の末年、榊原康政、當地領主となり、本寺を以て其菩提所となし、現地に移轉せしむ。因りて時の住職、轉隨意白道を以て中興開山第一祖となす。慶長年中、關東十八檀林に列し、傳燈付法の道場となる。德川氏寺領百石の朱印を寄す。明治二年勅願所の綸旨を賜ふ。現に尙ほ末寺支院百五十寺を統ぶ。

㊂堂宇に不動堂・觀音堂・藥師堂・開山堂等を具ふ。寺寶に、鏡の御影と稱する、德川家康衣冠の畫像あり。又生不動像は古來靈感を稱せられ其靈驗によりて祐天及び南了は名僧となれりと傳へらる。境内に榊原康政の墓碑を存す。

㊃生不動開帳（四月下旬より五月中旬迄）、轉隨意上人法會（舊九月四日、五日）。

善導寺本堂

龍泉院　邑樂郡小泉町上小泉。

㊀曹洞宗。

㊁鮮平山寺と號し、當郡六郷村大字堀江茂林寺末たり。天文三年八月、城主富岡秀信の創建に係り、梵海正音を以て開山とす。天正十八年、富岡氏沒落と共に當寺亦次第に衰頽せしが、七世傳國の時、幕府に請ひて修理料を受く。慶安元年十月、回祿に罹る。次で同二年、再建せしも、寛政十二年、再び風雨の災に遭ひて寺寶概ね烏有に歸す。嘉永三年、春山の時、再建成り、以て現在に及べり。現在末寺十箇寺を有す。

㊂境内地四千九百六十坪。寺寶として富岡氏記錄書同由緒記・梵鐘等を藏せり。

普濟寺　邑樂郡赤羽村大字羽附。

㊀曹洞宗。

㊁龍洞山と號す。大永五年、長尾但馬守景長の開基する所にして、開山は大雲伊倹なり。中興開山花翁存柳は德川家康の舊知たり。因りて天正十九年大窪郷百石の寺田を安堵せらる。其證文を傳へて折紙の朱印と云ふ。現在の寺域往昔に比し、大いに縮小せるも尙ほ當地方の名巨刹なり。

㊂寺境六千餘坪あり。寺寶として古文書を多數所藏す。

寶福寺　邑樂郡伊奈良村大字板倉。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁大同山と號す。聖德太子の開創し給ふ所と云ふ。大同年中、坂上田村麻東夷征討の途、當寺に異狀計滅の祈願を爲して伽藍を造營す。永祿、元龜の頃、兵燹に罹りて堂宇喪上せしが、寛永十四年、館林城主榊原式部大輔康政、之を再建し、更に寛文十二年、德川家綱之に改修を加ふ。後ち、明和五年再び風雨の災に遭ひしも、安永八年、再建成り、以て現在に及ぶ。

㊂寺寶として、近年境内より發掘せる康元元年、文永二年、建武元年、延文二年、貞治三年、應安二年等の銘ある古碑を藏せり。

茂林寺　邑樂郡六郷村大字堀江。

㊀曹洞宗。

㊁青龍山と號す。應仁二年、上野國青柳城主、赤井正光之を開創し、大林正道を請じて開山となす。大永二年、住持密天正茂、後柏原天皇より勅願所の綸旨を拜受す。永祿年中、館林城主、長尾景長、堂宇を修理し、寺領若干を寄せたり。寛永十九年德川幕府より朱印二十三石四斗を附せらる。現に末寺十八箇寺を統ぶ。

㊂境内九千二百五十六坪を有し、本堂、庫裡以下の堂宇整備す。寺寶には、後柏原天皇、後陽成天皇、仁孝天皇の各綸旨・十一面觀音畫像・慶乘逮磨圖・德川家光、吉宗等の朱印狀等を藏す。尙ほ有名なる當寺文福茶釜に就て、傳へ言ふ。これもと本寺の僧、守鶴の所持せる釜にして。守鶴は應永年中大林に從ひて本寺に來り、十七世天南の代迄居住す。七世、月舟の時會下の衆僧千人に及ぶ。これに茶を供せんとせしも茶釜小なり。即ち守鶴何處よりか、茶釜を持來りて茶を煎ずるに、汲めども盡きる事なし。守鶴曰く、此釜に八功德あり、就中福を頒與するにより、分福と名付く。此釜にて煎じたる茶を喫すれば、開運出世、壽命長久たるべしと。十世岑月、守鶴が一睡の中に、手足に毛生へ尾現はれたるを見る。守鶴、我れ開山の德に感じ當山に居る事百二十餘年、今ま化緣盡きて退く、我はこれ數千載を經たる鼠なりと云ひ訖りて飛び去る。一山の僧徒其德を慕ひ、一廟を建て、守鶴宮と云ひ、當山の鎭守となせりと。

高德寺　邑樂郡大川村大字古海。

㊀古義眞言宗。

㊁醫王山延命院と號し、高野山金剛峯寺の末寺たり僧義晴を以て開山とす。一に義晴は卽ち見島高德の法號なりとも云ふ。

㊂本堂に義晴木坐像を安置す。高さ一尺二寸二分あり。他に義晴靈碑ありて「開山志純義晴大德覺位、永德二壬戌年十一月二十四日」の銘を有せり。境内に存する開山佛牙塔は高さ五尺、文字剝落して判じ難し。又門内に幹圍一丈餘の枝垂櫻一株あり、開山手植と云ひ、俗に高德櫻と稱す。

春昌寺　邑樂郡大島村。

㊀曹洞宗。

㊁突葉山と號す。永祿六年五月、福地出羽守昌寧の創建に係り、快叟良慶を以て開山とす。慶安六年春、三世景山梅悅の時、福地智久の助力を得て現在の地に伽藍を再建す。卽ち智久を以て中興開基とす。舊寺領二十石を有せり。現に小本寺格たり。

㊂本尊は聖觀世音像にして脇侍阿難、迦葉二尊亜に十六羅漢像を安置す。他に定朝作釋尊坐像を藏せり。

千葉縣

千葉寺　千葉市千葉寺

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁海上山觀音院と號し、坂東三十三所第二十九番札所なり。往昔行基、聖武天皇に奏して本寺を創建し、阿彌陀、十一面觀音の二像を彫刻して安置すと傳ふ。水野元年、雷火に罹り堂宇失上す。源頼朝、石橋山に一敗れて後ち、源家再興を祈りて、白旗を奉納すと云ふ。建久三年、千葉常胤、大檀那となり、堂宇を修理す。應長十九年、德川家康、寺領百石の朱印地を寄す。元祿二年堂宇火災に罹り、德川綱吉の母桂昌院これを再興す。

（千葉寺仁王門）

山の移轉地たりしが、其後、文化八年二十八世高照の代に又も失上し、高照刻苦努力して、天保年中再建完成す。維新後一時寺運稍々傾きしも、漸次舊に復せり。

㊂本堂（九間四面）・仁王門・大師堂・鐘樓・庫裡等を具備す。境内幽邃にして、老樹多し。尚ほ寺内に弘長元年十二月二十二日の銘ある巨鐘あり、俗に展鐘と稱す。中世之を改鑄せんと、江戸鑄工某の所に送りしに、千葉寺々々と云ふ音を立てゝ、自ら鳴りしを以て鑄工、恐れをなして其儘、寺に歸したりと傳ふ。故に展鐘と稱する由なり。

㊃七月十七日、十八日の法會の際、千葉音頭の催しあり、尚ほ古くは千葉笑として、毎年師走晦日の夜、里人本寺に集まり、各々覆面して地頭村長等の曲事、其外他人の非行を罵り合ひ、以て人々の懈りを諫むる慣習ありしと云ふ。

大巖寺　千葉郡蘇我町生實浦。

㊀淨土宗。

㊁龍澤山玄忠院と號す。もと玄忠院と稱せしが、天文二十二年、江戸增上寺第九世道譽貞把中興してより後ちは、白旗流の念佛道場となる。永祿三年、小弓城主、原胤榮檀越となりて堂宇を造營し、時に現寺號に改む。天正十九年、德川氏寺田百石の課役を免除す。爾後、幕府の尊崇厚く、關東十八檀林の一に列せしめらる、後水尾天皇、大巖寺の勅願を賜ひ、明治二年には勅願所の綸旨を拜受す。

㊂寺寶に眞把鈍血の衣なるものあり。眞把生來脊鈍成田不動に立願し、參籠斷食修行をなす。滿願の夜に至り、不動明王示現し、長短二劍を携へて曰く、是れ利鈍兩口の劍、汝執れを呑まんと欲するやと。眞把此處に於て利劍を揮ひて呑む。流血淋漓として法衣を染む之より智德共に進み、道學揚ると云ふ。

妙興寺　千葉郡白井村大字野呂。

㊀日蓮宗。

㊁長崇山と號す。當宗四十四箇本山の一なり。建治元年、曾谷入道道崇、日蓮の弟子日合を請じて開創す。中世、寺内に檀林を設けて野呂檀林と云ひ、衆徒群集せしが、第二十一代住職、日講不受不施論を唱へ、爲に德川氏に忌まれ、日向國に流謫せられてより後ちは寺運傾けり。

㊂堂宇は本堂・經藏・鐘樓・庫裡等を具備す。

國分寺　市原郡市原村大字惣社。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁醫王山清淨院と號す。本尊は藥師如來なり。天平九年、聖武天皇の勅願による國分寺の一なり。當時七堂伽藍整備し、僧房百餘宇、壯麗無比の靈場たりしが天慶三年、平將門の徒本寺に據りて抗せしにより、官軍襲ひて堂宇に火を放つ。卽ち聖武天皇以來の由緒と共に、洪基此處に灰燼となる。以後、星霜七百餘年、寺運大いに傾きしが、元祿年中、僧快應これが再建を企圖し、正德六年、遂に諸堂の造營發成す、これ卽ち現堂宇なりとす。然れども、延喜の創に、正稅四萬束を充てられし往昔の盛觀は、再び見る事を得ず。

㊂現今の堂宇の附近より布目瓦の磨滅せるもの、或は古礎石等屢々發掘され、往古の盛觀を想はしむるものあり。

西願寺（光堂）　市原郡平三村大字平蔵。

㊀天台宗。

㊁清泰山と號す。承平二年、當地領主、平將經創建し、また寺内に熊野三社權現を勸請すと云ふ。後年、土橋平蔵なる者、堂宇を修理す。明應四年、再び堂宇修理の事あり戰國時代に至り、兵亂絕ゆる事なく屢々兵燹に罹りて本寺堂宇の大半廢滅す。

㊂堂宇中、阿彌陀堂は國寶建造物に指定せらる。此堂は一に平蔵の光堂と云ひ方三間、單層、屋根寶形造、茅葺にして、室町時代の建立に係る。斗栱、櫨、柱其他一切の裝飾には、純唐樣の手法を用ひ、所々に朱色金箔、極彩色の跡を殘して、往時の輪奐を偲ばしむ。

（西願寺光堂）（國寶）

鳳來寺　市原郡富山村大字吉澤。

㊀曹洞宗。

㊁鳳凰山と號す。永正年間、乾龍明德の創建に係る。現に鶴見總持寺の末寺なり。

㊂堂宇中、觀音堂は桁行壁間各三間、單層、屋根寄棟造、茅葺にして、現に國寶建造物に指定せらる。建立年代分明ならざるも、樣式上、室町末期に屬すべし。

（鳳來寺觀音堂）（國寶）

弘法寺（眞間法華堂）　東葛飾郡市川町眞間。

㊀日蓮宗。

㊁眞間山と號す。當宗六門家の一にして、四十四本山の一なり。もと眞言宗にして空海の遺跡なりと云ふ。建長年中、住侶了性、邑主の富木五郎胤綱の男を弟子とし、伊豫房と稱せしむ。伊豫房は後年、日蓮の弟子となりて日項と云ひ、文永十一年、本尊釋迦如來像を作りて安置し、これより日蓮宗の寺院となる。弘安二年、胤綱、本尊の開眼供養を修す。もと寺領三十石を有せり。

㊂寺域は里見義弘が「敵を討つ心まゝなる國府臺夕日照むる勝浦の里」と詠める禍の臺の南端、老杉古栢繁茂せる丘陵一萬六千坪の地を占め、近く江戸川の清流を望み、眞間手古奈の昔を偲ぶ眞間の川邊及び葛飾の沃野、市川の市街脚下に展開し、遠く伊豆、相模、甲斐の連山の雲煙の内に起伏せるを見る。境内には祖師堂・客殿・書院・寶藏・方丈・鐘樓・手古奈霊堂・眞間の繼橋等あり。また正和三年、建武二年、曆應五年、文和三年、明應八年、明德三年等の日附ある古碑あり。其内明應八年のものは日隆の建てたる法華經供養の碑なり。寺寶には嘉曆三年、康曆三年の日附ある文書・甲子大黑天像・山水猛虎圖等あり。

㊃開山忌（三月八日）、手古奈神祭（春季、四月八日九日、秋季、十月八日、九日）、宗祖會式（十一月十三日、甲子大黑天開帳（毎月甲子日）。

其の構造形式は鎌倉圓覺寺舍利殿のそれに類似し、繪樣また雄勁の趣を存せり。

總寧寺（ソウネイ）　東葛飾郡市川町國府臺。

㊀曹洞宗。

㊁安國山と號し、關東僧錄司三箇寺の一なり。永德三年、佐々木氏頼、遁幻寂靈を開山とし、近江國新庄郷原郷（現大津市馬場か）の地に乗安寺を開創す。天正三年、北條氏政、これを下總國國府宿の字和田（今の臨川塲の地）に移し、寺號を今の如くに改む。慶長十七年、德川家康、僧錄所たる事を許し、寺領二十石を寄進す。元和三年、又も移轉して内町に至る。されど此地は水難の憂あるにより、寛文三年、三轉して國府臺城址、即ち現在の地に移る。當後寺運次第に衰え、寛政五年には全國末寺中、本寺に屬する、七千二百十三寺に達ざりと云ふ。然るに嘉永年中回祿の災ありて、堂宇、古記錄の大半を失ひ、文久年間再建ぜられしも尚ほ舊觀に及ばず、加之、維新の際、寺領上地されてよりは漸く衰頽に傾けり。

㊂寺域七千八百坪を占め、江戸川に臨む靜地にして附近に道鏡の分骨塔なりと稱する、法王塚なる古墳あり。

本土寺（ホンド）　東葛飾郡小金町平賀。

㊀日蓮宗。

㊁長谷山と號し、日蓮宗三十九箇の本山中第二位を占む。文化六年、勝鹿の目代陸山土佐守、日蓮に歸依して、狩野の松原に法華堂を建立せるに淵源す。然れども、其地は風雨の災あるにより、建治三年、大野の領主曾谷山城守（教信）と圖り、當地にありし鼻和地藏堂を改めて寺院とし、日朗を請ず。日朗弟子日傳を遣して住ぜしむ。日傳は師日朗を開山とし、自らは第二世となる。後ち、日蓮此寺に北谷山日蓮本土の寺號を授くと、延慶二年、佐倉城主千葉大隅守貞胤の死後其室芝崎夫人（曾谷教信の女）其の化粧料地たる平賀六郷（本平賀、久保平賀、片田平賀、東平賀、殿平賀、内平賀）を寄進して堂宇を修理し、夫の菩提を弔ふ。第六代日順、鎌倉妙本寺及び池上本門寺の山號を長興山、長榮山と云へるに倣ひ、本寺の山號を長谷山と改め、以後これら三寺を、朗門の三長三本と云ふ。其の後、日意（第九世）、日隆（第十三世）の如き名僧輩出しまた天正十九年、德川家康寺領十石の朱印を附し、山林竹木等の諸役免除し、乘輿獨禮の待遇を受くる等寺運大いに振ふ。然るに京都妙覺寺の日奥のとなへたる不受不施論の影響本寺に及ぶや、住職日弘、日遙等これに傾向し、爲に此の間五十餘年は、幕府の壓迫甚だしく、日弘より日遙に至る五代の住僧悉く追放若くは遠流の刑に處ぜられたり。更に維新の際、寺領官に返納ぜられ、又排佛毀釋の餘波を蒙りて大に衰頽す。然れども近年漸く復興し、現に末寺直孫合計八十七寺を統ぶるに至る。

（本土寺蔵日蓮上人真蹟）

㊂境内二萬餘坪あり、總門の大石標あり松杉檜權、鬱然として兩側に聳立ぜる參道、數町餘を經て、仁王門に達す。域内に本堂・鐘樓（梵鐘に建治四年の銘あり）・書院・方丈・大客殿・白竜殿・靈寶殿・朗師門・日像堂等の堂宇あり。寺寶に過去帳三册（建治より元禄に至る間の關東の治亂、名門の興廢等を記載ぜる好資料にして、群書類從に納められる）。文明十四年の銘ある古鐘一口・傳日蓮年二十四枚繼大本尊一幅・日蓮所用と稱する九條大衣及び念珠・日蓮消息數通・歴代住職畫像・經論數卷等あり。尚ほ乳出靈水、誕生櫻、日朗、日像、日傳、妙朗尼の墓、芭蕉の（御命講や油のやうな酒五升）句碑等あり。

㊃朗師會（一月二十一日）、千部會及び日像菩薩大會（四月十二日、十三日）、靈寶蟲拂會（八月十六日）、會式並に日像菩薩大會（十一月十二日、十三日）。

東漸寺（ゼン）　東葛飾郡小金町。

㊀浄土宗。

㊁佛法山一乘院と號し、浄土宗關東十八檀林の一なり。文明十三年、行蓮社慶學清運、小金城主の歸依により一字を根本内村（當町根本内）に粗創す。是れ本寺の起源たり。天文十三年、第五世行譽、寺域狹隘にして堂宇も虚朽せるにより、當地領主高木氏（一説に高城氏）の許可を得て、寺基を現在の地に移す、以後大に法幢を建て、學徒を訓育し、慶長年中、檀林の一に列す。幕府より寺領三十五石を受く。明治二年、勅願所の綸旨を賜ふ。

㊂寺域五千八百餘坪を占め、老樹參差たり。本堂其他の堂宇整備す。

法華經寺（キョウ）　東葛飾郡中山町中山。

㊀日蓮宗。

㊁正中山と號し、日蓮宗四大本山の一なり。建長六年、下總國若宮の領主、富木常忍、日蓮の弟子となり文應元年、日蓮、松葉ケ谷の草庵より諸宗徒に逐はるるや、これを扇ケ谷の自邸に迎ふ。後ち、日蓮に請ひて若宮八幡社前に説法せしめ、次いで、若宮の己が館の傍に法華堂を建つ。日蓮これに釋迦如來立像を安置す。常忍後ち、出家して日常と云ひ、法華堂に住す。當時太田乘明の子、出家して日高と稱し、父の邸宅を寺院に改めて本妙寺と號す。其の後、是れ等二寺合して本妙法華堂と稱し、又略して法華經寺と云ふ。現在の法華經寺は即ち本妙寺の後にして、奥ノ院は法華堂の跡なり。元應二年、第一世日常、第二世日高の姻戚なる千葉胤貞、田園を寄進す。尚ほ三世日祐又胤貞の猶子なりしかば、千葉氏の尊信、外護特に篤かりき。胤貞は其二子を日高の弟子とし、胤貞の男胤繼亦二子を日祐に就きて出家せしむ。即ち胤貞の二子の内、日胤は法宣院並に浄光院を開き、日貞は其第二世となり共によく法兄日祐の教化を輔佐せり。また胤繼の二子の内、日經は浄光院の第三代となり、日慈は安世院を開基し、法弟なる本寺第四世日尊をして後顧の憂ひなからしめたり。應安二年、日尊、日祐の遺命により、一山の格式を正し、先づ四院家を定む。即ち日貞は法宣院に、日經は浄光院に、日慈は安世院に、日尊の弟子日寂は本行院を開基してこれに居り、四院家の祖となりて寺内の要職を掌り、寺基漸く繁固なり。然れども足利氏の開府後は稍や衰頽し、加之、戰國の陰雲漸く深くして、寺門の隆盛を見るに由なく、あまつさへ、一門の名僧多く上洛して寺運頓に振はざるに至る。依りて四院家及び一門の者決議し、京都頂妙寺及び本法寺、堺妙國寺の三寺輪番の制を定め、文祿二年、妙國寺の佛心院日現入りて、第十二世となりしが、德川家康と親交あり、其援助により寺門再び舊態に復す。日慈の代に、日來如上の制を破りしかば。慶長十九年、幕府命じて三年を一期として輪番交代せしむ。明治四年、第百十二世日因の代に至り、輪番制度廢止され、同十二年、百十四世日鳳は、寺務一切に改革を加へ、新に門末の制を採用す。また諸堂を修理造營し、寺運大いに振ふ。尚ほ寺領はもと五十二石を有せりと云ふ。

（法華經寺法華堂）（國寶）

㊂寺境一萬四千坪、一山堂宇中、現に國寶建造物に指定されたるものは五重塔・法華堂（附、四脚門）の二なり。五重塔は三間五層塔婆、屋根、銅板葺にして元和八年、本阿彌光室の本願により其の父母の菩提の爲め、前田利光の寄進せし所と云ふ。全體として權衡の美充分ならざるも、尚ほ古く德川初期の特徴を表はせり。法華堂は桁行五間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、銅板葺にして、前面一間を開放して外陣とし、それより内部を内陣とす。形態及び權衡整美ならざるも木割雄大にして、繪樑、彫刻、裝飾等、よく室町時代の特色を發揮す。四脚門は屋根切妻造、柿葺の建築にしてもと鎌倉愛染堂の四脚門なりと傳ふ。室町初期の建立と推定ぜられ手法唐樣になる四脚門として珍重すべき

（法華經寺塔婆）（國寶）

遺構なり。其他の堂宇に本堂・大寛行堂・剃髪堂・祖師堂・聖牧殿・奥ノ院等あり。此内剃髪堂は十羅刹女・子安尊神を祀り、一に叡龍堂又は鬼子母神堂と稱し、小兒の成長、疾病平癒を祈願する者多し。次に寺寶中、國寶に指定せられしものは、十六羅漢像（絹墨筆）但し其中、第一、第二、第五、第十の諸尊者は狩野榮信、養信の筆なり、八曲屏風一雙（絹本着色、内四枚後補）にして、其の他に觀心本尊抄・立正安國論・法華取要鈔傳（日蓮筆）・日蓮像二點・釋迦及び大黒天像各一軀等あり。境内面積一萬四千餘坪あり。尚ほ泣銀杏あり。日頂、その父日常の勘氣を蒙り、其樹下にて不孝の罪を悔ひたりと云ふ。

㊃番神會（一月十八日、十一月八日）、出行會（二月十日）、宗祖降誕會（二月十六日）、開山會（又は根本法華堂發願會と云ふ、三月十日）、常師會（三月十九日遠夜、二十日正當）、祖師會（四月十日）、千部會及び常師征常會（四月十二日より二十日迄）、夏經日中讀誦會（四月十五日より七月十五日迄）、高師會（四月二十六日）開宗會（四月二十八日）、祐師會（五月五日）、伊豆法華會（五月十二日）、龍ノ口法難會（九月十二日）、親師會（九月十七日）、七面會（九月十九日）、御影供報恩會（十月十二日、十三日）、小松原法難會（十一月十一日）、會式（十一月十二日より十八日迄）。

萬滿寺　東葛飾郡馬橋村。

㊀臨濟宗大德寺派。

㊁法王山と號す。建長五年千葉頼胤、鎌倉極樂寺の眞觀を請じて、小金の地（當郡小金町）に大日寺を建立し、歴代將軍及び自家一門の菩提を祈る。貞胤の時此の寺を千葉に移せしが、大日五佛の尊像は靈驗顯著なるにより、尚ほ其地に留まると云ふ。元中六年（北朝康暦九年）足利氏滿、山城天龍寺の古天を請じて中興開山となし、堂宇を再建し、寺號を萬滿寺と改む。天正年中、豐臣秀吉、寺田若干及び寺内軍兵不入の制札を附與す。德川家康また寺領七十石の朱印を附したり。明治四十一年風雨の災あり、堂宇什寶多く燒亡す。近年其一部復興せられたり。

㊂堂宇中、仁王門は桁行五間、梁間四間半、破風瓦葺にして、木造の金剛力士立像二軀安置さる。二軀の内一は高さ九尺五寸、他は八尺五寸にして玉眼を嵌入しあり、よく鎌倉時代末期の特徴を具せり、現に國寶に指定せらる。

㊃中氣除不動祭及び唐椀供養（春季三月二十七日より三日間秋季十月二十七日）には各地殊に東京、福島方面よりの賽者多し。

常敬寺　東葛飾郡二川村大字中戸。

㊀眞宗本願寺派。

㊁中戸山西光院と號し、親鸞の女覺信尼の男なる唯善の遺蹟なり。初め嘗普、京都東山大谷南殿に住し親鸞の廟所に奉仕せしが、後其留守職を覺如と爭ひ延慶二年、潛かに聖人の影像並に御骨を供奉して相模國常盤（常葉）に下り、此處に安置す。遠近より禮拜するもの頗る多し。後ち、鎌倉の地は兵火の罹あるを以て影像のみを此地に留め、別に下總國關宿の近傍に一宇を建立し、阿彌陀本願寺と號す。當時支院四十八を擁し、寺運隆盛なりき。中院大納言正忠の傳奏を經て中戸山西光院の勅願處に勅願所たるの宣下を蒙ほり、鎌倉幕府また寺領數箇所を寄せて、修理の料たらしむ而して唯善の京都より供奉せる御影は後ち大谷派本願寺の寶物となる。所謂常葉の御影卽ち是れなり。第四世善榮の時、本寺を以て一宗の根本道場たらしめんとし、大谷本廟に安置せる影像を取出せしが、道手急にして之を運ぶに暇なく、御體を大津に殘し、御首のみを供奉し來りて奉安せり。天文八年第六代善慧の時、御首を本寺に返還して歸葬を乞ひしに、本寺より附後隨順して、常に敬ふべしとて常敬寺と改稱せしめたりと云ふ。而して、中戸山配下の寺院及び坂東諸國寺院の觸頭たらしめたり。天正年間、第十代了照の時、豐臣氏、北條氏を討ち、本寺其兵燹に遇ひて諸堂悉く灰燼に歸す。顯如上人關宿に其再興を計らしめしが遂に果さざりき。後に至りて今の地に轉ず。

㊁堂宇は阿彌陀堂・御影堂等あり。前者には定朝或は安阿彌作と傳ふる阿彌陀像を、後者には唯善作又は第四世善榮作と傳ふる親鸞の像を安置す。寺寶には親鸞筆名體不離の尊號一幅（鹿の名號）・同聖人、覺信尼、蓮如の御骨・蓮師作聖德太子木像一軀・覺如附點淨土三部經四卷・選擇集相傳の畫像等あり。

國分寺　東葛飾郡國分村大字國府。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁國分山と號し、聖武天皇の勅願により、諸國に造營せられたる國分寺の一なり。古くは藥師堂領十五石を有し、伽藍壯麗なりしが、次第に退轉し、加之、明治二十四年火災の爲め藥師堂及び山門燒亡し、殆んど舊觀を失へり。

㊂境内東北に俗稱、昔堂なる林藪あり、往昔の本寺寺域なりと云ひ、布瓦、礎石多く散在し往時の偉觀を思はしむ。

東海寺（布施辨財天）　東葛飾郡富勢村大字布施。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁紅龍山松光院と號し布施辨財天と俗稱す。往昔、空海、辨財天の靈異に感じ、平城天皇に奏し、大同二年創建する所なりと傳ふ。平將門の亂に堂宇烏有に歸せしが源經基これを再興すと傳ふ。其後、正德、享保、寶曆の各年間に堂宇の修理を行ひ現在に至る。

（東海寺布施辨財天本殿）

㊂本堂は享保年間の造營に係り、屋根の厚さ數尺ありて、頗る異彩を放つ。其他最勝閣・鐘樓等を具ふ。

㊃大般若會（二月十五日）、暴除祈禱（七月七日）、暑中大祈禱（七月二十日頃）、八朔節會（九月一日）。

新勝寺（成田不動）　印旛郡成田町成田。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁正しくは成田山神護新勝寺と云ふ。本尊不動明王は相模大山不動、武藏高幡不動と共に關東三不動と稱せられ、衆庶の信仰盛にして、現に海内風指の靈場たり。同宗智山派の別格本山にして、全國に七箇所の出張所を置く。寺記に平將門の亂起るや、京都廣澤の寛朝公津ケ原に持ち來り、賊徒平定を祈る。滿願の日將門誅に伏す。以後、東國鎮護の爲め此像を其地に止め、又寛朝の弟子清雲、照宥二人をして、これを守らしむ。朱雀天皇、不動の靈驗に感懇後からず、國司をして堂宇を造營せしめ給ひ、且つ寺號を神護新勝と賜ふ。これ本寺の草創にして、この不動尊卽ち今の本尊なりと云ふ。其後、寺門傾き、永祿九年、成田古墨師に移る。元祿十三年、住持照範、香取郡醫王院より入りて住し同十四年、不動堂其他の堂宇を造營し、寺觀舊に復す。寶永二年今の地に移轉し、佐倉城主稲葉丹後守正道、莊田五十石を寄進す。これより寺運大いに振ふ。因りて照範を推して中興第一世とす。從來は江戸彌勒寺末寺たりしが、同三年より髭嶽大覺寺門跡廣澤流の院家に列し、後ち更に、智積院直末となる。正德の頃、三重塔、念佛堂等落成す。照輪の代に至りて寺運益々振ひ、關東第一の靈場と稱せらる。照勤の代には規模大いに擴張され、寺觀全く一新す。現に成田不動尊と俗稱し、關東を中心に遠近の信仰を一山に集め、年々遥じて賽者百數十萬に達し、香華の盛んなる海内稀に見る大靈場なり。

㊂寺域、西北に丘陵を繞し、境内約二萬坪、主なる堂宇は本堂・本坊・開山堂・方丈・三重塔・仁王門・經藏・鎮堂・光明堂・奥ノ院・清淵堂・鐘樓・新更會館等にして、結構壯麗、諸堂輪奐として其の美を競ふ、不動古面・祐天筆六字名號一幅等あり。尚ほ境内後方に續く五萬坪の地は現に公園に作らる。

㊃節分會（二月四日）撒豆すること三石に及び、衆者雲集して頗る雜沓を極む。星供（節分の夜）、弘法大師御影供（三月二十一日）、先師忌（一月三十一日、六月三日、十一月二十九日）、開山忌（七月十二日）、祇園會（七月七日、八日、九日、奥ノ院大日如來の祭典なり）、覺護講（十二月十二日）、護摩及び作壇法（十二月三十一日夜）。

東勝寺（附、宗吾靈堂）　印旛郡公津村大字下方。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁鳴鐘山と號す。一に坂上田村麿、東夷征討の際の戰死者供養の爲に、創建せるものと傳ふ。寺基はもと村内白幡臺に在りしが、里見殘黨の兵燹により堂宇大破せるにより、寛文年中、祐澄、現在の地に移して再興す。因りて祐澄を推して中興開山となす。明和四年京都智積院の談林所となり、明治三十一年、準別格本山に昇格す。

㊂寺寶には三尊彌陀如來・不動明王像各一幅・一文字刀一口・不動明王像（宗吾念持佛と傳ふ）一軀・古過去帳一部・外に近年、宗吾靈堂信徒の寄附に係る書畫器物數多あり。尚ほ寺域に宗吾靈堂あり。本寺の管掌する所にして、承應年中、領主堀田正信の暴政を將軍德川家綱に直訴し、遂に極刑に處せられたる義民宗吾及びこれと進退を共にせる六郎兵衛、重右衛門、忠

藏、牛次郎、三郎兵衛等五人の鑄を祀る。寛政三年、堀田正順、宗吾に德滿院の院號を追謚し東勝寺住持宥昌をして百五十回忌を修せしむ。明治初年住持照心、官許を得て、同十年供養堂造營に着手し、十有餘年を經て、供養堂外四宇建立さる。然るに同四十三年、火災に罹りしを以て、直ちに七間四面の假本堂を建つ、これ今の四囉堂なり。大正二年本堂再建に着手し、同十年十間四面欅造銅葺の本堂完成す。饗者四時絶へず。

結緣寺 印旛郡船穂村大字結緣寺。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁靖天山と號す。紳龜年中、行基の開創にして本尊の阿彌陀如來は其刻する所なりと傳ふ。後ち資頼せる源頼政の臣、主の首級を此地に葬り、本寺を中興すと傳へ、又一說には頼政の甥陸助頼重の開創に係ると云ふ。

㊂寺寶不動明王立像一軀（銅造、嘉元元年九月の銘あり）は國寶に列す。境内に頼政の墓と稱するものあり。

鷲山寺 長生郡茂原町鷲巣。

㊀本門法華宗。

㊁長國山と號し、當宗の大本山なり。文永年中、邑主の小早川内記創建し、日蓮の弟子日紳を請じて開山となすと傳ふ。日紳は應長元年寂し、日源第二世となる。德川氏より寺領七石七斗を附せらる。

㊂寺境九千九百四十坪、堂宇は甚だ宏壯にして、東國の藤原寺と輪奐の美を競へり。

藤原寺 長生郡茂原町。

㊀日蓮宗。

㊁常在山妙光寺と號す。日蓮宗六門家の一にして、現に當宗四十四本山の一に列す。文永四年、日蓮、其母妙蓮尼の爲に百日の追福を修し、鎌倉に出でんとして上總國を過り、笠森寺に假泊す。此時當地の郷士實藤遠江守金綱、深く日蓮に歸依せしが、建治二年已が邸宅を寺院とし、常在山妙光寺と號す。これ本寺の草創なり。而して日蓮を開基とし、父に佐渡阿闍梨日向二世となる。日向は身延山久遠寺並に本寺の二院を兼務せるを以て、これを兩山一寺と稱し、本寺を東身延と云ふ。大小の會式、山規等皆身延山に準ず。天正十九年、德川家康、寺領三十石の朱印を附與す。元禄、正德の頃堂宇修理さる。現在の本堂、祖師堂は此時の造營に係る。現に末寺百餘寺を統ぶ。

㊂境内約六千坪。本堂は十二間四面、總朱塗なり。其他祖師堂・客殿・書院・仁王門・鐘守堂・奥ノ院等を具ふ。寺寶には傳日蓮眞蹟の木像・同人使用の乘輿・六老僧の遺墨等を有す。尙學域に寶篋塔鋼の墓あり。

長福寺 長生郡鶴南町長南宿。

㊀天台宗。

㊁大平野山と號す。延曆十七年、桓武天皇の勅願により、最澄の創建する所と傳ふ。正平八年、比叡山惠光坊義憲これを中興す。天正年中、住僧蓬仙、房總三國の眞材を比叡山に贈遞し、根本中堂の餘材を賜はりて本堂を修理す。これより本堂を根本中堂と云ふ。同十八年、德川家康、寺領五十石の朱印を附し、制札並に下馬札を立つ。慶長十八年、天海、家康の命により配末寺法條式を定め、自筆の法度書を授く。以後幕府より御城書院獨禮席に遇せらる。文化二年、中堂以外の堂宇悉く燒失せしが、近年再建さる。

㊂寺域三千五百坪堂宇中、中堂は十間四面にして、宮殿造なり。寺寶として最澄筆橘供養記一卷・圓珍筆不動尊像一幅等を有す。

笠森寺（笠森觀音） 長生郡水上村大字笠森。

㊀天台宗。

㊁大悲山橘光院と號す。坂東三十三所第三十一番の札所なり。延曆三年、最澄の創建なりと傳ふ。後一條天皇御宇、貴作の翁なる者、勅許を得て堂宇を造營す長元元年、諸堂悉く竣成し、橫川の覺超、導師として供養を修す。因りて、覺超を以て中興第一世とす。其後、天正四年迄に堂宇表上すること三度、本堂のみは幸に其厄を免れ、今に存す。往昔は寺領二十石を有せりと云ふ。當山は古來當國屈指の靈場にして、數萬の信者を有し、賽者日に數百を下らずと稱せらる。

（笠森寺觀音堂）（國寶）

㊂境内外合計二萬餘坪、古松老杉鬱蒼たる幽邃境なり。丘麓より七十餘級の石磴、木階を經て本堂に達す

本堂（觀音堂）は長元元年の造營と稱するも、其樣式手法に鎌倉時代の特徴を存す。桁行五間、梁間四間、前面向拜を附せる單層、屋根四注造、銅板葺の堂にして境内の小丘上に建てられたる所謂舞臺造りの建築なり。舞臺の支柱長きは五丈、短かきも五尺餘ありて、偉觀を呈す。整美ならざるも構造甚だ奇拔にして、しかも堂下悉く舞臺造なるは他に比類なき奇構なり。現に國寶建造物に指定せらる。其他天王堂・六角堂・不動堂等を備ふ。寺寶に日蓮自寫と稱する法華經十卷・阿彌陀經一卷・武田兵部大輔寄進の十六善神畫像二軸等あり尙は山門の傍に芭蕉の句碑あり。「五月雨や此の笠森にさしもぐさ」と刻す。

㊂例年八月九日に四萬六千日の祭會あり。遠近數千の詣者群參して雜沓す。

稱念寺（齋吹如來） 長生郡豐榮村大字千田。

㊀淨土宗。

㊁唐笠山と號す。下總國生實大願寺の末寺なり。後二條天皇德治二年、遊行第二世、他阿眞敎の開創に係り、西明院稱念寺と號して、專修念佛の道場なりき。寛永元年、中興雄學靈巖の時より、現宗旨を奉ずる事となれり。近世寺領十五石を有す。明治十五年大本寺格樣林に准ぜらる。

㊂寺境二千八百六十餘坪、本堂・庫裡・鐘樓堂等を具ふ。本尊阿彌陀如來は高さ二尺七寸、口を開き、白齒を露はせるにより、俗に齋吹如來と稱す。天授六年海中より出現すと傳ふ。齋藤に靈驗著しとて、饗者多く又漁者の尊信篤し。

（稱念寺全景）

西福寺 山武郡東金町東金。

㊀顯本法華宗。

㊁安國山と號す。もと最福寺と稱し、天台宗を奉ぜしが、文明十一年、日近の時、現宗旨に改む。よりて日近を中興開山とす。天正年中に至り寺號を現在の如くに變ず。近世朱印三十石を有せりと云ふ。住職は累代京都妙滿寺に輪番し、現在上總、下總の末寺十六寺を統ぶ。

㊂境内一萬七千餘坪。寺寶として智者大師彫像・刺繡涅槃像・明呂記花鳥の圖等を藏す。

本漸寺 山武郡東金町東金。

㊀顯本法華宗。

㊁鳳凰山と號す。もと當郡公平村大字松之郷に在りて願成就寺と云ひ、禪宗の寺院なりしが、後ち松之郷の内金谷の地に移りて、現在の宗派に改め、且つ巨德山と號す。中興開山は日親、開基は東金城主、酒井越中守定歷なり。爾來酒井氏累代の菩提所たり。大永年中、更に現在の地に轉じ、同時に山寺號を今の如くに改む。天正十九年、德川家康より寺領三十石を附せらる。現に末寺二十七寺を統ぶ。大正三年、堂宇の大修理施さる。

㊂境内九千坪。堂宇は本堂・客殿ノ東裡・鐘樓等を具ふ。寺寶に日蓮木像一軀・古文書數十通・弘安三年大檀部平朝臣久時の銘ある古鐘一口（初め田間村上行寺の所藏と傳ふ）等あり。

本國寺 山武郡大綱町。

㊀顯本法華宗。

㊁法流山と號す。古くは善興寺と云ひて、眞言宗を奉ぜしが、文明年中、日什の弟子日旰、此地に巡錫し本寺住僧を說伏して、宗派並に寺號を現在の如くに改めしむ。天正十九年、德川家康、寺領十石の朱印を附す。元和八年、第十世住職日純、幕臣久世廣宣の仲介により將軍秀忠に謁し、其許可を得て轉劣派檀林を興

す文明年中、酒井定隆の造營せる八幡宮寺城内に在りしを以て宮谷檀林とも稱す。爾後明治四年學寮廢止さるまで、常に僧徒千餘人を修學せしめたりと云ふ。

㊂境内二千九百餘坪。本堂・祖師堂・客殿等の諸堂何れも輪奐莊嚴せり。

不動院　山武郡成東町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁石塚山と號し、もと長勝寺と稱す。行基、當地巡錫の間、近傍の海上にて船舶多く溺沒せるにより、涙切不動像を刻みて、死者の菩提を弔ひしに起原すと傳ふ。元祿二年、九十九灣の漁夫、海上危難に遇ひ、當山不動を祈りて忽ち感應あり。爾來成東不動の名聲漸く高しと云ふ。

㊂堂宇は奇巖怪石重疊して成れる丘頂にありてもつとも眺望に富む。もと此丘陵高峻なるも、尙ほ波濤其脚下を洗へり。因りて地名を鳴門と稱せしが、後ち變じて成東となれりと云ふ。

正法寺　山武郡大和村大字小西。

㊀日蓮宗。

㊁妙高山と號す。當宗四十四本山の一なり。千葉氏の一族、原胤綱（肥前入道行朝）、平貧の日意に歸依する事深く、長祿二年、遂に己が邸宅を捨てゝ、寺院となし、日意を請じて開山とす。これ本寺の草創なり。第七世日悟の代に、寺内に檀林を建つ。稱して小西檀林と云ひ、通玉院日裕（字は慧澤）を聘して教化せしむ。德川家康より講學の賞として、寺領若干を附せらる。寛文四年、住持日曉、江戸城に於いて、教義を問上せしが、當郡東金町の將軍家の行殿を受けて、これに寺基を移す。今の講堂は卽ち此の行殿なり。寺領二十石を有せり。

㊂後西院天皇皇女、理實宮御染筆妙高山の額を藏す。梵鐘は寛文元年、德川頼宣の鑄造に係る。

觀音寺　山武郡二川村大字芝山。

㊀天台宗。

㊁天慶山聖福院と號す。天應元年、藤原繼繩之を創建し、天長二年、圓仁中興すと傳ふ。弘治年中、坂田城主井田因幡守友胤、三谷大膳なる者と戰ひしが、山田の金光寺（現、當郡千代田村大字山田、普光山承天寺）其の兵禍に罹りて衰上す。此時、此寺の仁王像二軀を本寺に移す。現在の仁王像は卽ち之なりと云ふ。享保六年、堂宇修營せらる。これ卽ち現在の本堂なり。明治四年、仁王門其他を改築す。同四十二年、回祿の災ありて舊記を失ひたるにより、沿革の詳細知りがたし。寺運現に隆盛を極め、賽者の多きこと上總佛閣中の隨一と稱せらる。

㊂境内千三百餘坪。堂宇中、本堂は三手先、入母屋造向拜附、輪重檐四方、三方階段、方五間餘、茅葺なり。堂内に安置せる前立佛は俗に、厄除大士と云ひ、三十三年毎に開帳す。また仁王門は高さ五丈四尺、桁行六間三尺、梁間五間三尺、銅瓦葺なり。其他三重塔・山王堂等を具ふ。寺寶に巨勢金岡筆と傳ふ阿彌陀三尊像あり。

觀龍寺　香取郡佐原町牧野。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁妙光山蓮華院と號す。寛平年中、尊海の創建に係る爾來武將の豐信厚く、山谷理行。同智兼入道等田園を寄進せり。

㊂境内一萬坪。筑波の秀峯、利根川、霞ケ浦一帶の水郷を一望し得べし。堂宇中、大師堂は天保五年の再建にして四間四面・入母屋茅木造の堂なり。堂内に安置せる弘法大師像は、川崎及び西新井の大師像と共に關東三厄除大師と稱せらる。其他、觀音堂・鐘堂・藥師堂・毘沙門堂・不動堂・書院・客殿等を具ふ。寺寶中、釋迦如來坐像一軀（銅造、光背に弘安五年八月の銘あり）、十一面觀音坐像一軀（銅造、光背に弘安五年八月の銘あり）・藥師如來坐像一軀（銅造）の四點は國寶に指定さる。以上の諸像は明治初年神佛分離の際、香取神宮より移遷せしものなり。其中釋迦及び十一面觀音は、其銘に依れば、弘安五年香取神宮の本地佛として、佛師蓮願の造りし四體の内の二軀なり、而して願主は、同社の大禰宜實政にして、同社の繁盛及び異國降伏心願の爲に納入せしものなる事を知る。藥師像は現在光背を失へるも、以上二像と同一形式なれば四體の内の一なるべし。また地藏は實政等の追善の爲に、其子實嵐が造立せるものなる事、同じく其銘によりて知らる。四像共に其手法簡略にして、鎌倉末期の類型的なる銅像の一例なり。其他、略畫數點及び文永五年、建武四年、延元二年、延文三年明德四年、嘉吉三年、文明十六年、大永二年、享祿五年等の日附ある古碑數點等を有す。尙ほ寺域内に開山尊海及び國學者伊能魚彦の墓碑あり。

龍正院（景川觀世音）　香取郡常河町景川。

㊀天台宗。

㊂景川山と號す。坂東三十三所第二十八番の札所なり。承和年中、小田宰相將治、當地朝日淵に於いて觀音及び地藏菩薩像を感得し、本寺を創建してこれを安置す。其後佛工定朝、丈長一丈二尺の十一面觀音像を彫刻し、將治の得たる觀音像を、胎内に納めて本尊となすと云ふ。後年、別に一字を造營し、其中に地藏像を安置す。俗に船越地藏堂と稱せらるゝものこれなり。寛政九年、朝日淵の舊址（本堂の西一町）に東叡山凌雲院寶乘の撰に係る、觀音應現の碑を建つ。近世寺領五石を有せり。

（龍正院仁王門）（國寶）

樹林寺　香取郡長文村大字五郷内。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁白華山と號す。大治元年、千葉常重一説に平忠頼又は重隆の創建に係り、稲荷山諦林寺と稱すと傳ふ。建保六年、東胤頼、堂宇を修理す。後ち、木内胤朝の孫、樂胤、再度伽藍を改築し、從來眞言宗を奉ぜしを現宗に改む。天正十九年、德川家康寺領五石の朱印を寄す。明治四年、火災に罹り、堂宇烏有に歸す同七年、庫裡、籠堂等の再建なる。

㊂境内一萬三千餘坪あり。

日本寺　香取郡中村。

㊀日蓮宗。

㊁正東山と號し、一に日本講寺とも云ふ。當宗四十四箇本山の一にして、永仁年中、日常の開創する所たり。日常は現東葛飾郡中山町に、法華經寺を創建して後ち、當地に隱棲して一寺を創立し、法華經寺の正中山と稱するに對し、正東山と號す。第三世日祐の代に領主千葉胤貞、檀越となりて諸堂を造營す。天正年中當郡飯高寺第四世慧雲院日圓、住持となりて、學徒の訓育に努む。其學林を中村談林又は正東學庠と云ふ。また寺號瑞光寺を今の如くに改む。中村談林は飯高談林と共に日蓮宗の二大談林と稱せられしが、維新後、東京に移さる。寺領はもと十八石を有す。

㊂堂宇は本堂・庫裡・客殿・山門・鐘樓・經藏・妙見祠等にして妙見祠以外は、明治二十五年、日慶の改築に係る所なり。

飯高寺　香取郡飯高村大字飯高。

㊀日蓮宗。

㊁妙雲山と號す。初め日祐、法輪寺なる一寺を松崎村に建立す。これ本寺の草創なり。永祿年中、もと小田原北條氏の臣平山某の城址なる現在の地に移る。天正十九年、德川家康、寺領三十石の朱印を附與せしがこの朱印狀に飯高寺とありしかば爾後寺號を今の如く改むと云ふ。尙ほ此際、檀林設置を許可せられ、大講堂以下の諸堂造營せられる。教藏院日生これが開講の祖たり。宗門最初の根本檀林と稱せらるゝ。飯高檀林卽ちこれにして、學僧常に千人を數えたりと云ふ。

㊂寺域、丘陵の地を占めて眺望に富み、大講堂・書院・庫裡・學問所・對面所・鐘樓・鼓樓・一切經藏・文句論談所・玄義論談所等の諸堂宇を具備す。寺寶に德川光圀書軸其他あり。

圓福寺（飯沼觀音）　海上郡本銚子町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁飯沼山と號し、三十三所第二十七番の札所なり。天正十九年、德川家康寺領三十石の朱印を附す。

㊂寺域五千六百餘坪、林丘に衝りて江海を望む。堂宇又壯麗なり、寺寶に享德五年の銘ある洪鐘・文安二年の銘ある銅塔・驛鈴・古文書數十通等あり。

龍福寺　海上郡瀧郷村大字岩井。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁仙瀧山と號す。寺傳に往昔、弘法大師當地に來り不動明王堂に兩童子の像を造り、一堂を建てゝこれを安置す。これ本寺の開創なりと見ゆ。中世、見廣城主嶋田三河守忠廣、本尊不動明王を信仰する事篤く、諸堂を修理造營す。後ち、里見千葉兩氏相爭へる際、其兵燹に罹りて堂宇烏有に歸す。享保十八年、住持長與の代に仁王門及び鐘樓堂建立さる。寛政年中、住持宥英、從來方五間なりし本堂を八間四尺四面茅葺茅木造に改造す。

㊂境内老樹繁茂し、また飛瀑多く四十七瀧の稱あり。

堂宇には本堂・大師堂・觀音堂等を具ふ。寺寶に石劍・不動明王像二幅・五大明王像一幅・彌陀三尊像一幅・不動像一幅等あり。

高藏寺（高倉觀音堂）君津郡鎌足村大字矢那。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁平野山と號し、坂東三十三所第三十番の札所なり。大化二年、德義、聖觀世音を本尊として開創し、天平年中、行基此地に來り、長さ一丈八尺の觀音像を作り本尊をその中に納む、これ現在の本尊なりと傳ふ。貞觀の頃、藤原時重、堂宇を修理すと稱せらる。

㊂堂宇中、本堂は方十間、柱數八十四あり、皆斧を以て削鉋を用ひず。其狀甚だ古朴なり。もと阿佐波（阿漢邊）なる大樹にて作りしも、何時の頃にか燒亡し現在のものは其機造に過ぎずと云ふ。

神野寺 君津郡秋元村大字鹿野山宿。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁鹿野山琳聖院と號し、承和年中の創建なりと傳ふ。元慶年中、平將門の亂の兵燹に罹りて堂宇燒失す。因りて住僧鍵堯、永保元年に再興す。而して此時舊號鹿野山琳聖院神應寺を恕慈山神野寺と改む。治承四年源賴朝、自家の興隆を祈りて報賽す。元仁年中、親鸞此地に留錫して化を敷く。其後、南北朝の兵亂に遭ひ、寺門大いに衰微せり。應永十年、上杉氏憲再興す。明應年中、大火に遭ひ堂宇又も羨上す。永正年中、上總國守護入道全舜、本寺の興隆につとめ、又久留里城主里見義堯の歸依深く、これより寺運次第に振ふ。天正十九年、德川家康、寺領五十石の朱印を寄す。元和七年寺中より出火し、伽藍の大半三度烏有に歸す。湯殿隆の援助を得て漸次舊に復す。後水尾天皇、黃金佛舍利塔を寄せ、勅願所と定め給ふ。維新後、寺運次第に傾く。明治三十年、住持倉田光運、維新の際に沒收せられたる森林の下附を受く。大正六年暴風の爲め堂宇大破せしが、住持楠純隆再興す。然るに同十二年大震災に又も、堂宇破損せるにより翌年直に修理に着手、翌年其寺觀を整へたり。

（神野寺山門及び本堂）（國寶）

㊂寺域、海拔千百五十五尺の鹿野山六萬坪を占め、十州臺に立てば四圍の風光甚だ佳なり。堂宇中、本堂は二重唐樣造、五間五面、重層、入母屋造、銅瓦葺、總丹塗にして、寶永五年の再建、大正六年暴風雨の爲に大破し、同十年修理完成せしものなり。本尊は三十三年毎に一回開扉す。仁王門、樓間五間、樓間三間唐樣の樓門にして、本堂と同じく暴風雨に遭ひ、大正十年、補修せられたり。表門（國寶建造物指定）は、四脚門、屋根切妻造・茅葺の建築にして、永正年中、建立に係る、一間一戸にして、規模小なるも、軒、柱、斗栱等甚だ輕雅にして、しかも精妙を極む。其他、客殿・六角堂・一切經堂・庫裡・方丈等を具ふ。境内の東北に白鳥神社あり、日本武尊、弟橘媛を祀る。尚ほ九十九谷の勝あり。

㊃修正會並に常樂會（一月十五日）、大般若轉讀（一月二十八日）、本尊緣日大祭（三月二十八日並に六月二十七日、二十八日）、奥ノ院祭典（十月九日）、奥ノ院開扉滿山總法樂（十二月二十八日）。

建暦寺 君津郡周南村大字濱古。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁普信山釋迦院と號す。行基の創建と傳ふ。天延年中、多田滿仲、堂宇を修理し、貞元親王の冥福を祈ると云ふ。建暦年中、北條氏の尊信深く、朝廷に奏して建暦寺の號を賜はる。天正十九年、德川家康、寺領十五石の朱印を附す。

㊂境内千七十餘坪あり。寺寶中、二十五菩薩の假面の彫刻は頗る古雅なり。一に惠心僧都の作と傳ふ。

照願寺（門徒寺）夷隅郡大原町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁毘沙輪山と號す。親鸞門下二十四輩の第十七念信房の遺跡なり。念信、俗名は高澤氏信と云ひ常陸國高澤山に住せしが、貞應元年、出家して親鸞の弟子となり毘沙輪村に本寺を創建す。元祿年中、現在の地に移轉すと云ふ。

（照願寺本堂）

㊂寺境五百坪、本堂・鐘樓其他を具ふ。寺寶中、親鸞聖人繪傳四卷（紙本着色）は各卷に、康永三年、釋覺如外題を書する旨の奥書あり。南北朝時代の繪卷の作例として注意すべき遺品なり。現に國寶に指定せらる其他、親鸞筆柑紙金泥十字名號・聖德太子木像・法然筆六字名號・覺如木像等あり。境内五百坪。

大巻寺 夷隅郡大原町。

㊀天台宗。

㊁明王山と號す。本尊不動明王は、俗に波切不動、又は小濱不動と云ふ。創建年代不詳なるも、後深草天皇の朝、當地の漁夫小濱某の妻海邊に不動明王の像を得、之を現地に安置する所なりと傳ふ。

㊂境内百三十五坪、寺域高丘に梵り、西南は八幡岬より、北は大東崎に至る間、一眸の裡に入りて眺望頗る開豁たり。堂宇中不動堂（桁行三間、樑間三間、單層、屋根四注造、茅葺）は、鴨根村清水觀音堂を移建せるものにして、和樣建築の細部に唐樣の手法を交へたる建造物なり。室町時代の建立と推定せらる。現に國寶建造物に指定さる。

（大龍寺不動堂）（國寶）

妙覺寺 夷隅郡興津町興津。

㊀日蓮宗。

㊁廣榮山と號し、日蓮宗四十四箇本山の一なり。文永元年當地領主佐久間兵庫頭重貞、日蓮に歸依し、其繼子、長壽丸を日蓮の弟子となし當地の釋迦堂を寺院となして之に住せしむ。卽ち本寺第二世日保にして、日蓮を推して開山第一世とす。重貞の末弟竹壽麿、又出家して日家と云ひ、本寺第三世となり、別に誕生寺を開創す。寛政四年及び文化十二年の兩度回祿の災に罹りしが、同十四年、再建さる。近世寺領二十五石を布し、從來無本寺たりしが、明治七年、甲斐久遠寺に屬し本山に定まり、末寺二十五寺を統ぶ。

㊂寺域四千餘坪。後に山を負ひ前方海に開けて風光見るべし。寺寶に日法作日蓮像・日蓮筆讀數通・毘沙門天像・三面大黑天畫像等あり。

㊃開山會（舊三月十一日）、會式（舊十月十一日）、靈寶虫拂（舊七月七日）。

清水寺 夷隅郡中根村大字鴨根。

㊀天台宗。

㊁音羽山と號す。坂東三十三所第三十二番札所なり。延暦年中、最澄の開創と傳ふ。其後、坂上田村麻呂、京都清水寺に

（清水寺山門）

擬して堂宇を造營すと。寛永二年、内野郷の領主、中鳥尾張守政重再興す。山號は初め音和山と記せしを、此時音羽に改む。文明十三年、本堂、奥ノ院以外の諸堂悉く燒失せしが、寛永年中再建成る。

㊁境内二千四百七十五坪。堂宇は本堂・奥ノ院・百觀音堂・大師堂・念佛堂等を具備す。寺寶に柑紙金泥薬門品、同大日經等あり。

㊂別修千座護摩修行（一月十七日）、大般若經讀誦會（三月十七日、九月十七日）。

天寧寺　安房郡勝山町下佐久間。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁山號を瑞雲山と稱す。建長年中、二階堂覺岐守行盛の創建に係る。文和元年、足利尊氏再興し、本山輪番三十八世正宗廣智國師を請じて開山とし、寺領二百石を附す。其後稍々退轉せしが、里見義弘、同重婚、寺田若干を寄進し、漸次舊態に復せしも、明暦元年火災に罹り堂宇悉く烏上す。享保十一年に至りて再建完成す。

㊂境内は千三百餘坪あり。寺寶として里見氏寄進の柑紙金泥大般若經・佛畫二幅其他を藏す。

妙本寺　安房郡保田町吉濱。

㊀本門宗。

㊁中谷山と號し、本宗七本山の一にして、末寺十八寺を統ぶ。建武年中（一説に康永年中）、日蓮の弟子日興の法孫日郷、安房國禮村に來りて教化を重ぬ。吉濱の郷士佐々宇左衛門尉（一説に藍生左衛門尉）深くこれに歸依し、己が所有地なる親の内の地を寄進して一寺を建つ。これ本寺の草創なり。文和二年、足利基氏寺領若干を寄す。天文年中、里見義堯、足利氏の先例に倣ひ五十石を寄進す。德川幕府亦之に準す。

㊂境内千八百坪。本堂・客殿・庫裡・寶庫・塔頭四坊等を具へ、寶庫には醍醐天皇御宮輪、足利尊氏境内課役免除の教書等其他古文書數十通を藏す。

日本寺　安房郡保田町元名。

㊀曹洞宗。

㊁乾坤山（一に大福山）と號す。もと藥師山と稱して天台宗に屬せしが、後年現宗に改む。神龜二年、行基聖武天皇の勅により七堂十二院百坊を造營して開創し本尊藥師如來を安置すと傳ふ。後ち寺運漸次傾きしが養和年中、源頼朝これを再興す。元弘元年、兵燹に罹りて堂宇悉く灰燼に歸し、一時本尊を岩窟に安置す。貞和元年、足利尊氏、本寺の衰頽を嘆き、發願して諸堂を造立す。其後、足利末期、戰國の擾亂の爲め寺運又も傾く。安永、天明の頃住僧愚傳、鋭意再興を圖り四方に勧進して遂に堂宇を營興す。また石工甚五郎なる者と相議して五百羅漢、百觀音の石像千三百餘軀を彫刻して安置す。近世寺領十五石を有せり。

㊂寺域百六十坪、鋸山中腹の地を占め、山頂十州一望臺よりの眺望絶佳なり。仁王門右側の梵鐘には元亨元年及び永德二年の銘あり。石門に通天窟、三峯門、岩石に蛙石、鷲石、獅子石あり。其他無漏窟、薛蘿窟、護摩窟、日布泉、白骨堂、日牌堂等ありて探勝者絶えず。以上の勝地はもと本寺の境内なりしが、今は一帶公園地に指定さる。

那古寺　安房郡那古町那古。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁補陀落山千手院と號す。坂東三十三所第三十三番札所なり。養老元年、行基之を創建し、承和十四年、圓仁當地巡錫の間再興すと傳ふ。建久年中、源頼朝、平家討滅祈願成就の報賽として、本堂、三重塔、仁王門等を建立し、また寺田若干を寄進す。永正年中里見義實の三男出家して義秀と云ひ、中興第十二世となる。其後當郡鶴谷八幡宮の別當となり、社領百七十一石を管理し、尚ほ寺領百九石を領す。元禄十六年、震災あり、堂宇の被害少なからず。後ち、再建せられしも尚舊觀に及ばず。然れども三十三所の最終札所にて古來著名なる靈地なれば、寺運隆盛にして堂宇又整備す。

㊂境内三千七百坪あり。地高燥にして、鏡浦の風光脚下に展開す。堂宇は本堂・多寶塔・大日堂・阿彌陀堂・閻魔堂・鐘楼・仁王門等を具備し、寺寶の源氏系圖は國史學研究上著名なり。

㊃縁日（陰暦六月十七日、十八日、七月八日）。

清澄寺　安房郡天津町清澄。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁千光山金剛寶院と號す。光仁天皇寶龜二年無名の法師なる者、老柏樹もて虚空藏菩薩像を彫刻し、一堂を建てゝ此像を安置す。これ本寺の草創なりと傳ふ。仁明天皇承和年中、圓仁中興し、十二僧坊二十五嗣殿を建て、不動明王像を安置すと云ふ。堀河天皇嘉保三年、藤原の爲め堂宇燒亡せしが、安房國司源親元これを

再興す。また承久年中、北條政子、輪藏を作りて一切經を納め、更に寶塔を建て、佛舍利及び涅槃像（傳、見首鳴摩作）を安置す。四條天皇天福元年、日蓮十二歳にして本寺に入り、道善を師として出家し、蓮長と云ふ。二十一歳にして寺を出で或は鎌倉に赴き、或は北嶺南都を訪ひて研學修道せしが、建長五年、再び當寺に歸山す。而して同年四月二十八日朝山頂にありて海上に昇る日輪に向ひ、題目を高唱す。卽ち、これを以て當宗開闢の起原となせり。よりて本寺を日蓮四箇靈場の隨一となす。後小松天皇明德三年、住持弘賢の代に洪鐘一口を鑄造す。慶長十五年、里見忠義、百六十六石餘の朱印狀を與へ、また元和二年、德川秀忠、寺領百七十七石を安堵す。同四年、秀忠命じて智積院の學僧頼勢を住持とし、本山格の獨禮寺格を附與す。尚ほ德川幕府は本寺を以て關東四箇靈場（日光、足利、筑波、清澄）の一として、郡人特敬の地に指定し、十萬石の格式を與ふる等其優遇見るべきものあり。頼勢卽ち本寺に入り、鋭意寺運の興隆に努め、在來の天台宗を眞言宗に改め、醍醐三寶院より法流を繼承す。朝廷これに僧正紫衣の宣下あり、菊花御紋章を掲ぐる事を許さる。因りて頼勢を以て法流第一世とし、現在に至る泛法統連綿三十世を數ふ。

㊁清澄山上に、寺域三萬四千餘坪を占め、老樹翳蔚たる幽邃境なり。山麓天津町より登攀一里半にして達す。本堂は廂下十八間、五間五面、入母屋造、總朱塗にして、江戸時代末期の造營なり。妙見堂は本堂の背後、當山中最高所にあり、附近遠望者の目標にして、毎年七月二十日に妙見祭行はる。庫裡は正保年中の造營に係る。能藏院は往昔の清澄十二坊の一にして、日蓮、日朝を祀る。奏師堂附近に日蓮の師道善の墓と稱する五輪塔あり。尭森は建長五年、日蓮が妙法第一聲を放ちし故地にして、房總の山野、太平洋の洪波を望みて眺觀甚だ壯大、特に其日出の景は人口に膾炙する所なり。現在日蓮の銅像を建てたり。練行場には、著行精進する信徒甚だ多し。本堂前面の所謂、清澄の大杉は周圍九間餘、高さ約三十間に達し、天然記念物に指定さる。本尊虚空藏菩薩は日本三菩薩の一と稱せらる。寺寶として木造虚空藏菩薩像・同雨寶童子像・同辯天像・同愛染明王像等其他多數を藏す。

㊃長日大護摩（春季舊三月十五日、秋季舊九月十三日）、日蓮開宗會（四月二十八日）。

日蓮寺　安房郡小湊町内浦。

㊀日蓮宗。

㊁岩高山と號す。當町誕生寺の末寺なり。文永元年日蓮、小松原法難の際、東條景信に討たれ、一磨窟に入りて苦痛を忍ぶ事三旬なり。建治三年此磨窟の附近に一寺を建つ。これ本寺の草創なりと云ふ。

㊂境内四百五十坪。寺内に養統窟あり、卽ち日蓮養生する所の岩窟なりと稱す。また統洗井あり。魚道市ケ坂より西方を望めば遠かに伊豆大島を指呼し景光頗る佳なり。

㊃御會式（十一月八日）、法難會（十一月十二日）。

誕生寺　安房郡小湊町小湊。

㊀日蓮宗。

㊁小湊山と號す。貞應元年、日蓮誕生の舊址にして現に當宗四十四本山の一に列す。建治二年、日蓮の弟子日家、其姪日保と相議し、俗兄上總奥津（現、夷隅郡興津町）の領主、佐久間兵庫頭重貞の援助を得て、此靈跡に本寺を創建す。卽ち日蓮を推して開山とし、日家其二世となる。日蓮これに高皆山日蓮誕生寺の號を與ふ。後ち、私に高光山と改め、また地名に因みて小湊山とも稱す。明應八年、地震、海嘯の災を蒙る。因りて寺基を妙の浦に移して再興す。天正八年、正木頼忠、寺領五十石を寄進し、同十一年、安房國主、里見義頼又若干の地を附す。慶安元年、德川家光本寺を以て鎮護國家の道場となし寺領七十石及び寺内山林竹木等の諸役免除の朱印を附與す。德川光圀、又歸依深く、本寺の檀越となる。元禄十六年、兩び海嘯の厄に遭ひ、堂宇大破せしかば、現在の地に移轉せり。草創以來寺運常に隆盛なりしが、寶暦年中、火災に罹りてより以後、次第に衰頽す。明治初年、日具、第六十一世住持となり

（誕生寺山門）

て寺門の振興に努めしにより漸次舊態に復し、現に末寺百二十六寺を統ぶ。

㊁寺域三千三百餘坪、小湊灣に面し、三面は小湊山に包まれ、堂宇宏壯華麗を極む。堂宇中祖師堂は七間六面、入母屋造、瓦葺にして、天保年中の再建に係る其他釋迦堂・妙見堂・鐘實殿・客殿・龍王殿・清正公堂・誕生堂・方丈・庫裡等を具ふ。本寺附近には誕生水等日蓮に因む舊蹟多し。山頂に物見臺と稱する地あり。展望開豁、風光絶佳なり。

㊂會式（陰暦十月十二日、十三日）。

妙蓮寺　安房郡小湊町小湊。

㊀日蓮宗。

㊁妙日山と號し、誕生寺の末寺なり。正暦二年、日蓮の父妙日（貫名重忠）歿するや、日蓮歸來して、母妙蓮尼と共に服喪し、追善の爲に一代大意鈔を撰す。時に日蓮の住ぜし草庵、卽ち今の兩親閣なりといふ。文永四年、妙蓮尼死す。日蓮卽ち二人の廟を寺とし、其法諱を合して、妙日山妙蓮寺と號すと傳ふ。

㊂境内に廣布梅、蘇生櫻の名樹あり、日蓮聖の蘇生愛茶羅一幅を寺寶とす。

國分寺　安房郡館野村大字國分。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁日色山と號す。天平年中、諸國に建立ぜられたる國分寺の一なり（現に寶順甚しく往時の規觀を存せず。

㊂境内及び其附近より屢々布目瓦發見さる。孝子塚あり、土俗說りて庚申塚と云ふ。承和三年至孝を以て彰賞ぜられし孝子、伴直家主の遺塚なりとす。寛永三年の建立に係る。また正德元年領主屋代氏の暴政に苦しみ、所謂、萬石騷動を起せる安房新人、秋山角右衛門、飯田長次郎、根本五右衛門の墓あり。賽者多く、香華常に絶えず。

延命寺　安房郡國府村大字本織。

㊀曹洞宗。

㊁長谷山と號す。永正十七年、里見實堯、吉州梵貞を請じて開創し、自家の菩提所とす。實堯の子義堯、寺田二百五十石を寄進す。德川氏、また二百十七石の朱印地を附與ぜり。維新後は大いに退轉し、往昔、安房國五大寺の一たりし盛觀を偲ぶに由なし。

㊂本堂内に里見實堯、同義堯以降の位牌及び木像を安置す。經堂は八棱造にして、一面毎に羅漢像を描けり。寺寶に里見累代の文書・武具等あり。

石堂寺　安房郡丸村。

㊀天台宗。

㊁長安山と號す。神龜三年、聖武天皇の勅願により行基創建する所なりと傳ふ。仁壽元年、圓仁、前立佛千手觀音、持國、廣目二天の像を刻して安置すと云ふ。中興開山は定朝なり。文明十八年、山中妙法坊より出火し、本堂、仁王門の外悉く燒上す。依りて住僧宗海領主丸氏の援助により再興す。

㊂堂宇中、本堂（桁行四間、梁間三間、單層、屋根四注造、茅葺）は大永五年の造營に係る。妻入にして前に一間の向拜を附す。海老虹梁の異形なるは注目に値す。現に國寶建造物に指定ぜらる。本尊木造十一面觀音立像一軀は俗に厄除觀音と稱ぜられ、細身正直の像にして、衣紋流暢、刀法尖銳、よく藤原初期の特色を具へ、國寶に列ぜり。

鏡忍寺　安房郡東條村。

㊀日蓮宗。

㊁日蓮宗四十四箇本山の一にして、宗祖日蓮四度法難の遺蹟なり。文永元年八月、日蓮鎌倉より當安房國小湊に歸りて母を省し、同年十一月、再び鎌倉に赴かんとして當國小松原を過ぐ。地頭東條景信卽ちこれを襲擊し、日蓮の從者工藤吉隆、鏡忍房等其因及に斃れ日蓮亦額に一傷を蒙る。後ち、日蓮、吉隆の子日隆をして一宇を造營せしめ、吉隆の法名妙隆院日玉と鏡忍房の法諱に因みて、妙隆山鏡忍寺と稱せしむ。後ち、里見・德川兩氏より寺領若干を附せらる。現に堂宇宏壯參者頗る多し。

茨城縣

祇園寺　水戸市上市馬口勞町。

㊀曹洞宗。

㊁壽昌山と號す。開基は德川光圀、開山は心越禪師なり。禪師は支那杭州の人にして、延寶四年、長崎興福寺の懇請により我が國に渡來す。德川光圀、其臣今井小四郎をしてこれを水戸に迎へしむ。時に天和四年なり。元祿四年光圀、現在の寺地に在りし瓊崇山天德寺を改築し、禪師を此寺に住ぜしむ。これより曹洞宗中、壽昌の一派我國に流布す。正德二年、第四世大寂の代に、德川綱條、幕府の許可を得て、天德寺の寺號を河和田村に移し、其跡を壽昌山祇園寺と改め、寺領百石及び僧梁扶養料百石を附す。安政五年、火災に罹り堂宇悉く灰燼に歸す。維新後、末寺の大半は黃檗宗に轉じて本寺より離れ、寺門大いに傾きしも、明治四十一年、第二十三世淺野斧山努力して漸く舊觀に復す。

㊂堂宇は其建築樣式明朝の風を機して、他と大いに趣を異にす。寺寶に出山釋迦像・十八羅漢像二幅・心越像一幅・德川光圀・同綱條の書狀等あり。

信願寺　水戸市常磐河和田横町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁獅池山蓮生院と號し、親鸞二十四輩の第二十三番谷唯信の開基に係る。貞永元年、唯信東茨城郡橘村轄谷の地に本寺を開創し、其門弟願信二世となる。享祿元年、唯空住持の時、久慈郡に移りしが、以後、寺運稍々振はず。天正七年、唯空再興して現市内上市藤澤小路に移轉す。同十八年寺町に、更に慶長十年並松與力町に、延寶九年大工町（今信願寺町）に轉じ、同年現在の地に移る。元祿年間、唯信房の遺跡たること本山より認定ぜられたり。

（信願寺本堂）

㊂寺寶に親鸞筆消息一通・阿彌陀如來畫像一幅・傳聖覺筆一枚起請文一幅・蓮如筆名號三幅・顯如筆十字名號一幅等あり。

願入寺　東茨城郡磯濱町。

㊀眞宗大谷派。

㊁岩船山と號す。初め親鸞の孫如信、東國を巡錫し、奥州白川郡大網に草庵を營みて願入寺と云ふ。文安三年、八世如慶の時、兵火に罹り堂宇炎上せるにより、常陸大根田に移遷す。十二世如正の代に久慈郡久米に移る。更に十五世如高、延寶元年、德川光圀の許可を得て現在の地に移し、東本願寺琢如の子、慧明院如晴を請じて、本寺法統を繼承せしむ。水戸藩より寺領三百石及び年々黃金二百兩の寄進あり。住持は代々連枝に準ぜられたり。元治元年兵燹に罹り、一時久米村に移りしが、明治九年又現地に復歸す。

㊂寺後の山上に水戸八景の一、岩船夕照の碑あり。寺寶甚だ多く、其二三を擧ぐれば十字名號三幅・墨鸞・親鸞遠影像一幅・聖德太子像・唯信鈔義一卷・一心歸西鈔二卷・如信木像・二十四輩牒等なり。尙ほもと拾遺古德傳繪卷を藏せしも、故ありて瓜連常福寺の有となれり。

藥師寺　東茨城郡石塚町。

㊀天台宗。

㊁佐久山多聞院と號し、東叡山寛永寺に屬す。もと眞言宗にして淨瑠璃光寺と稱せしが、近古、天台宗に轉ず。德川家康、寺領三十石及び寺中山林竹木諸役免除の朱印を附し、また德川光圀は堂宇修理料を寄す。伽藍壯麗なりしも、維新後は次第に衰頹ぜり。

㊂國寶指定の本尊藥師如來及び兩脇侍像三軀（附、銅造の胎内佛一軀）は何れも鎌倉時代の作と推定され、木造漆箔、本尊は高さ四尺六寸、結跏趺坐像にして相好端麗なり。光背には牡丹唐草の透彫を施し、金箔を殘存す。脇士は日光、月光の兩菩薩立像なり。何れも鎌倉時代の作と推定さる。他に寫實的なる十二神將あり。

善重寺　東茨城郡酒門村大字酒門。

㊀眞宗大谷派。

㊁遍照山光明院と號す。親鸞の第子二十四衆の第十二久慈善念眞が元元年常陸國鹽川（一說並間）に本寺を開創す。後年、久慈郡門部（現那珂郡木崎村大字門部）に移る。其後、寺運大いに傾き、現那珂郡静村大字石澤の常弘寺境内に轉ず。天正十三年、十三代善空、水戸城下鍛師町（現在水戸市上市鍛匠町か）の地に再興す。元和二年再び移轉して寺町に至り、天和三年現在の地に寺基を定めたり。

（善重寺太子堂）

㊁太子堂に安置せる聖德太子立像一軀（木造）は童子形にして、衣其他には盛上の文樣を置ける極彩色の像なり。鎌倉末期の作と推定せられ、現に國寶に指定せらる。其他寺寶に親鸞筆十字名號一幅・蓮如筆六字名號一幅・同正信偈二幅・聖德太子木像一軀・同繪傳二幅・六體御影一幅等あり。

報佛寺　東茨城郡河和田村大字河和田。

㊀眞宗大谷派。

㊁親鸞門下唯圓房の遺跡なり、もと唯圓此地に梟慶寺を營み、其子孫相續して住せしが、承應年間、故あり て堂宇破却せられ、住持俗家に居りて長十郎と稱す其後、元祿二年願入寺の瑛愛、水戸藩主に請ひて再興し寺領一町七段歩を附與せらる。堅三年本山より報佛寺の寺號を受く

㊂寺寶に親鸞筆光明本尊一幅・唯圓作自像一軀等あり。

（報佛寺本堂）

圓福寺　東茨城郡上野合村大字鳥羽田。

㊀天台宗。

㊁寺記に、往昔慈覺大師奥州巡錫を終り、京師に還らんとして當地を過ぐ。偶々彌陀出現の奇端あり、大師、卽ち一寺を建立して、法螢山高岳院圓福寺と號すと云ふ。卽ち以て本寺草創の緣由となす。

㊂境内五百十三坪。本堂・庫裡・不動堂・小栗堂等を具ふ。寺寶中木造阿彌陀如來坐像（一軀）は現に國寶に指定せらる。定印を結べる玉眼入の像にして面相、衣紋等の刀法穩健且つ趣致に富み、大略鎌倉時代の作と推定さる。尙ほ胎内に慶長二年四月十五日の修理銘を有す。

眞佛寺　東茨城郡飯富村大字飯富。

㊀眞宗大谷派。

㊁廣林山受法院と號す。初め親鸞東國巡錫の砌、常陸國那珂郡大部の平太郎なる者、聖人に歸依して他力念佛の敎を奉ず。建保六年、聖人より十字名號に「五劫思惟の苗代に」以下七句の和語を書き加へしもの一幅を與へらる。弘長元年寂す。本寺は卽ち其遺跡にして、寺號は平太郎の法名眞佛に由來す。承應三年堂宇故ありて破却され、後ち再建せらる。時に水戸城主より二町六段歩の田圃を給せらる。

㊂寺寶に阿彌陀如來木像一軀・同壽像一幅・聖德太子像一軀・平太郎木像一軀等あり。寺内に眞佛の墓あり。

小松寺　東茨城郡小松村大字上入野。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁白雲山普明院と號す。平氏の滅亡後、一族平眞能、重盛の遺骨及び其念持佛如意輪觀音を奉じ、重盛の室相應禪尼を伴ひて當國に至り、常陸大掾より寺地を得て、右の觀音を安置し、相應院と名付く。これ本寺の草創なり。而して眞能は剃髮して小松房と云ひ、重盛の菩提を弔ひ、此地に寂すと云ふ。中興宥尊の時、寺號を今の如くに改む。もと末寺十二ありしも、後ち廢絕せり。

㊂本尊如意輪觀音像一面（木像浮彫）は國寶に指定せらる。堅二寸八分、幅二寸五分、厚さ五分なる小形の浮彫像にして藤原時代の作に係る。刀法巧緻を極め、六臂の複雜なる形相及び火焰、蓮座の意匠等更に璎珞、寶冠、座光の精緻なる眞に驚嘆に値す。尙ほ裏面に德川光圀の刻銘あり。

清香寺　東茨城郡西郷村大字上古内。

㊀臨濟宗南禪寺派。

㊁太古山と號す。貞和年中、復庵の創建なり。復庵は延慶年中、元に赴き、天目山の中峯に學ぶ。歸朝して後ち當國佐竹氏及び下總二階堂氏の歸依を受け、本寺及び法雲、瑞源、華藏等の諸寺を開創す。寶德四年佐竹義髦、寺寶高麗版大藏經を修復す。後年德川氏より朱印百五十石（當高二百四十二石）を附せらる。往昔は有數の名刹たりしが、近世甚だ退轉す。

唯信寺　西茨城郡宍戸町太田町。

㊀眞宗大谷派。

㊁親鸞門下二十四衆の第二十二戸森唯信の遺跡なり。唯信、俗稱宍戸義春、當國宍戸に生る。年少にして佛道に志し、郡珂郡戸森に隱棲せしが、安貞元年、稻田に於て親鸞の門に入り、戸森の庵居を寺となし念佛の弘通に努む。之れ卽ち當寺の濫觴なり。後年寺門大いに傾き遂に廢絕す。然るに寛永四年に至り、宍戸の常安寺より本願寺宣如に請ひて、唯信の遺跡たる事認めらる。明暦二年、寺號を唯信寺と定む。寛文七年領主德川光圀の命にて現地に轉ず。

㊂寺寶に、親鸞筆六字名號一幅及び敎行信證斷簡數葉等あり。

（唯信寺本堂）

正福寺　西茨城郡笠間町。

㊀曹洞宗。

㊁佐白山と號し、一に觀音堂と云ふ。本尊は千手觀音にして、坂東三十三所第二十三番札所なり。古くは眞言宗の寺院にして百餘の僧坊を有し、寺門大いに榮えしも、元久二年、藤原時朝の爲め破却さる。其後再興して寶時、秀林、南禪、松本、開迦井、櫻本の六坊建立せらる。然るに天正十八年、寶勝坊の他は悉く破却せられし爲め新坊を佐白山上に移して觀音堂を建て勝福寺と改む。貞享三年、更に現在の寺號を唱へ、元祿十年、宥明により堂宇新興せらる。近年寺基を山麓に移轉す。寺の右、佐白山（俗稱城山）は赤穗義士にて有名なる淺野氏の笠間城址なり。正保二年、淺野氏は幕府に無斷にて城の修繕を爲したる廉により赤穗に移封せらる、山下に大石家の邸址あり。今柏の老木茂りて僅に昔を物語れり。

光照寺　西茨城郡笠間町。

㊀眞宗大谷派。

㊁親鸞の直弟、敎養房の設けたる道場の遺跡なり。と傳ふ。敎養は笠間庄司基員の子なり一說に、親鸞の弟子となりしは、敎養の兄敎名なりとも云ふ。現今之を確證すべき資料なしと雖も、要するに本寺の開祖たりし者笠間氏より出でたる事には疑ひなし。爾後幾星霜の變遷と共に寺運の興衰ありしも、詳細を知るに由なし。

（光照寺本堂）

㊂寺寶に八字名號及び聖德太子繪傳等あり。

安國寺　西茨城郡岩間町岩間上郷。

㊀曹洞宗。

㊁朝日山と號す。當地東谷山觀泉院の末寺なり。寺記によれば、村上天皇天暦年中、常陸朝日の城主、有馬左中將安國の開基と傳ふ。或はまた、足利尊氏、直義が夢窓國師疎石の說を用ひ、諸國に興せし安國寺の一にして、暦應二年の建立なりとも云ふ。當初、臨濟宗なりしが後ち現宗に改む。

㊂寺域七百餘坪堂宇は本堂・庫裡・鐘樓堂等を具ふ。

㊃開山忌（八月二十八日）。

楞嚴寺　西茨城郡北山内村大字片庭。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁佛頂山と號す。もと律宗なりしが、火災に罹り衰頽せるを、笠間城主藤原某、大拙を請じて再建し、又寺田を寄せて自家の菩提所とす。更に宋の千岩を勸請して開山となす。慶安元年、德川家光、寺領五石及び山内竹木諸役免除の朱印を附與す。

㊂寺域は佛頂山々麓勝景の地を占む。堂宇中、山門は國寶建造物に指定さる。四脚門・屋根切妻造・茅葺にして室町時代の建造に係る。規模小なれど、均衡整ひ、よく室町中期の特色を示現せり。山門より西方三町にして乘師堂あり。本尊千手觀音立像一軀（木造）は背面に建長四年七月藤原時朝の銘あり。現に國寶に加へらる。此像は岩谷寺藥師像、彌勒堂彌勒菩薩像と共に藤原時朝の願願になれるものなりと傳へ、笠間六體佛の一なり。明に鎌倉中期の特徴を現す。尙ほ山門の左方に時朝の墓と稱する五輪塔あり。

彌勒堂　西茨城郡北山内村大字石寺。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁明治維新前は巧德山馬頭院石城寺と稱し、常務修驗住して佛前に奉仕せしが、修驗者復飾して より後は無住となれり。堂宇は其後大いに衰頽し、現在にては同村大字荊田金剛寺住職の兼管する所なり。

㊂境内二百坪、鐵筋コンクリート二間四面の堂宇に國寶の彌勒菩薩立像一軀（木造）を安置す。此像は足柄に信心大施主藤原時朝云々の銘ありて笠間六體佛の一なり。其形相如來像に類似すれども、銘文には彌勒菩薩として作られし由を記す。運慶流の餘風を傳へたる佳作なり。

㊃陰暦四月八日には六堂參詣と稱して巡禮する者多く、肯法會を執行し佛龕を開扉す。

岩谷寺　西茨城郡南山内村大字來栖。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁醫王山護命院と號す。平城天皇大同四年、秀悅の開基に係ると傳ふ。本尊は藥師如來なり。後年寺運傾きしを、順德天皇の御宇、忠圓によりて再興され、同時に舊寺號醫王山護命院を今の如くに改む。慶安元年德川家光、寺領三十石の朱印を寄進す。現に門末三十餘寺あり。

㊂寺内安置の藥師如來坐像一軀（木造）及び同立像一軀（木造、建長五年七月藤原時朝の銘あり）何れも國寶に指定せらる。共に鎌倉時代の勁健なる作風を示す。

西念寺（稲田禪房）　西茨城郡西山内村大字稲田。

㊀眞宗大谷派。

㊁稲田御坊・稲田草庵とも云ひ、古來親鸞東國教化の根本地として著名なり。もと當地領主稲田頼重、元久二年、笠間時朝の副將として此地に館を設けて居住す。其養父宇都宮頼綱、法然の門に入り、實信房蓮生と稱す。建暦元年、念佛停止の禁解かるゝや、頼綱、時朝及び頼重に命じ、親鸞を越後國府より頼重の館に迎へしむ。親鸞依りて館の西南なる吹雪谷に草庵を結ぶ。頼重剃髮して其弟子となり、頼重坊教養と改む。親鸞此地に居住する事十餘年、元仁元年、遂に眞宗開闢の本典教行眞證六卷を完成し、聖嘉禎元年京師に歸る。其後も教養、親鸞の跡を繼承して傳道に勵精す。これ卽ち本寺の開山なり。其子教念二世となり父の遺命に依り、親鸞の室慧信尼に奉養す。弘長三年小田泰知の兵火に罹りて灰燼に歸す。新治郡大覺寺住僧了覺の弟、本寺の寶物を信濃高田の淨興寺に傳ふ。嘉元二年四世宗慶の時より今の寺號を稱し、本寺を東本寺（東の本願寺なる義）と名づけ、安心血脈の根源地となさんとせしが、高田專修寺の專空に拒まれ互に相

（西念寺本堂）

爭ふこと久しう本願寺覺如これを和解せしめしが、後ち宗慶意を餞して上人の弟子となる。慶長五年、第十五世了興の時、教如、德川家康に請うて本寺を關東の道場たらしめんとす。了興前述の理由によりこれを喜ばず、却つて慶長二年藤生秀行の浸敬せる寺領、寺格の復舊を求む。家康依りて奏の陣幕及び提燈を寄せ、江戸城白書院燭禮の格式を許可す。十六世了慶の代に、笠間城主松平康重の臣石川昌信禮越さなりて堂宇を修理し、大谷派本願寺に屬すべき事を勸む。慶安元年十七世了波の時、將軍德川家光、寺領三十石を寄せ無本寺の格を以て遇す。萬治三年以降、大谷派本願寺の末寺となる。明治四年火災に罹り、山門、太子堂の外悉く炎上す。後ち再興して現在に至る。

㊂寺域附近に筑波、稲田の兩山脈連り、加波、板敷、我國、香取、佐白の諸山四圍を限り、幽邃閑寂なる聖域なり。二千四百坪の境内に本堂・太子堂・親鸞聖人御骨堂等の伽藍整備す。寺寶として十字名號一幅・柑紙金泥六字名號一幅・大經切・阿彌陀像一軀・聖德太子像一軀等を所藏す。尙附近に御杖杉、鹿島井、迴心櫻、親鸞廟所、懸信尼墓等あり。鹿島井は一に神原井と云ひ、拾遺五蓮集に梶井宮嘗嵐法親王「神原のたえぬうきよりや法の井の、なかく稲田にそそくためしは」とあるは此井を詠じ給ひしものなり。

小山寺　西茨城郡北那珂村大字富谷。

㊀天台宗。

㊁施無畏長山寶樹院と號す。本尊は傳行基作の十一面觀世音なり。天平七年、行基、聖武天皇の勅願により開基すと傳ふ。南北朝時代に兵亂の爲め什器寶物の大半掠奪され、伽藍も亦荒廢せしが、結城、多賀谷、大野の諸氏堂宇を修造し、種々寄進する所ありき。

㊂境内は千四百四十坪あり。槃丘の半腹に位し、登攀僅に六町に過ぎざるも、展望開豁にして、八州を一瞰するを得。堂宇中、本堂は桁行壁間各五間、茅葺朱塗なり。本堂西側の三重塔は寛正六年の造營にして、國寶建造物に指定せらる。三間三層塔婆、屋根柿葺の建築にして、全體の均衡よく、形態又美なり。其手法和樣に唐樣を交へ、細部の裝飾亦注目に値す。

㊃本尊は子育安產の靈驗を稱せられ、毎年舊二月、三月、八月、九月十八日の緣日には寥者殊に多し。

淨光寺　那珂郡湊町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁來寶山と號す。親鸞二十四紫の第二十一吉田唯佛の遺跡なり。

（淨光寺本堂）

初め唯佛、本寺を茨城郡吉田枝川（那珂郡川田村枝川）に營み、領主佐竹未堅より十貫文の寺領を寄せらる。後年水戸の江戸氏居城の側に移る。十一世唯性の代に領主江戸氏、寺領十五貫文を寄進す。江戸氏、佐竹氏に滅さるゝや、常磐の地に轉ず。卽ち今の淨光寺口の地なり。文祿元年領主佐竹義重、本寺を菩提所とし、寺領二十七貫を寄進す。慶長年間三度寺基を移して、現在の地に至る。慶安元年、德川家光、寺領十石の朱印狀を附す。元祿年間、德川光圀の歸依厚く、親鸞像一軀を寄せ、又寺寶の親鸞繪傳四卷を修理す。

㊃寺寶に親鸞木像一軀・親鸞繪傳四卷（淨眞法眼壽・覺如詞書）・蓮如筆正信偈文二幅等あり。境内に平國香の墓ありて寶暦年間、國香墓の銘ある金板を發掘せりと云ふ。

虛空藏堂　那珂郡村松村。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁村松山と號す。寺記に大同二年空海當地留錫の砌、靈木を得て虛空藏菩薩一軀を製作し、これを本尊として開創す。平城天皇より村松山神宮寺の勅願を賜ひ七堂伽藍輪奐の美を成じたりと見ゆ。後年、佐竹氏の尊信厚く、其一族眞崎三郎、現存本尊の厨子を奉獻す。德川家康は朱印五十石を寄せたり。眞享三年德川光圀本尊前立虛空藏尊を修理し、且つ蓮華齋上に其旨を彫り更に人夫並に修理料を附して伽藍の美を一新す。又塔頭數寺を置きて本尊の供事に遺憾なからしむ。維新の際星の宮と改稱せられしも、明治四年舊稱に復す。同三十三年門前の民家より出火し、堂宇悉く類燒す。因つて再建に着手し、大正六年本堂及び小書院、同十二年長廊廊、同十四年鐘楼堂等建立さる。

㊂境内五千百坪は悉く國有林に編入せられ、直ちに

太平洋に接する白砂青松の淨區なり。本尊虛空藏菩薩は伊勢朝熊獄德一滿虛空藏、奥州柳津福一滿虛空藏と共に日本三虛空藏と稱せられ、一に大滿虛空藏と云ひて民間の崇敬厚し。寺背の砂丘は水戸十二勝の一にして村松晴嵐と云ふ。

㊁修正會（舊一月十五日）漁師船主の參詣多し當日尼除の眞弓馬を奇ふ古例あり、大祭會（舊三月十二日、十三日）往昔本尊の有無を調査する爲め御煤取式（舊十二月二十七日）往昔本尊の有無を調査する爲め御煤取式と稱して厨子内を清掃す。本會式これに起原し、五十年毎に一度擧行さゝゝ定めなり。

願船寺　那珂郡石神村大字石神外宿。

㊀眞宗大谷派。

㊁親鸞二十四衆の第十四定信房の遺跡なりと傳ふ。小松川義明及び其弟義照定信の弟子となり、義明は善明と改め、當郡額田村阿彌陀寺を相續し義照は夢明と改名し本寺を繼承すと云ふ。もと本寺は願泉寺と云ひしが、德川光圀命じて現在の如くに改むと稱せらる。

（願船寺本堂）

上宮寺　那珂郡神崎村大字本米崎。

㊀風宗本願寺派。

㊁檜原山と號す。親鸞二十四衆の第十九檜原明法の遺跡なり。明法は初め辨圓と稱し、常陸國塔野尾村（那珂郡王川村大字東野）不動堂（現在法尊寺と云ひ、眞宗大谷派の寺院なり）國内の修驗者を監督せしが、親鸞、稻田禪坊に於て教化を布き、信徒日に增加するを見て之を嫉み、親鸞を害せんとして果さず。却つて親鸞の德風に歸し遂に其弟子となる。承久三年、不動堂に親鸞筆の十字名號を安置す。これ本寺の草創なり。三世敎正の代に、當郡額田村に移り、更に天正年間、現在の地に轉ず。天保年間、領主德川齊昭放ありて寺寶を沒收し、元治元年には又武田耕雲齋の亂に堂宇爽上する等の事ありしも、後ち次第に舊に復す。

㊂寺境二千坪、本堂以下の諸堂具れり。所藏の聖德太子繪傳一卷（紙本着色）は室町初期の作に係る頓型的なる繪卷なれど剽取り、自由にして殊に活動的場面をあらはせる所興味多し。現に國寶に指定せらる。其他に覺知撰拾遺古德傳九卷を藏す。

阿彌陀寺　那珂郡額田村大字額田南郷。

㊀眞宗大谷派。

㊁小靈山と號す。親鸞門下二十四衆の第十四那珂定信、當郡大山（現今東茨城郡圷村大字裏か）の地に開創す。後年、阿波村（現、東茨城郡澤山村大字阿波山か）に移り、更に今の地に轉ず。時に傳會利納入の小靈を發掘せるにより小靈山と號すと傳ふ。

㊂寺寶に、親鸞筆十字名號二幅同作聖德太子像一軸同筆法然上人畫傳一幅・聖德太子繪傳（畫土佐光信覺知）等あり。

（阿彌陀寺本堂）

常福寺　那珂郡瓜連村大字瓜連。

㊀淨土宗。

㊁草地山蓮花院と號す。（延文三年）太田城主佐竹義敦入道淨喜（或は義篤）檀越となり、盛蓮社成阿了實を請じて開山とす。眞和四年、了實、白石義滿の一子を得度せしむ。卽ち江戸傳通院の開山西蓮社聖聞了譽これなり。了譽は後ち本寺に住し、大いに宗風を宣揚す門下には下總弘經寺の嗟譽、武藏增上寺の西譽等の俊材あり。嘉慶二年、堂宇火災に罹り、應永年中再興さる。實德四年、後花園天皇より勅願所に充つべき旨の綸旨を賜はる。慶長七年、德川氏百石の朱印を寄せ、

同八年領主武田萬千代早世し、これを本寺に葬り、其菩提所とす。關東十八檀林の一に列す。もと來寺六十に達せりと云ふ。慶應三年、檀林號を東京市芝區天德寺に移す。

㊂所藏の寺寶中、拾遺古德傳九卷（絹本着色）は、覺知の作に係る法然の小傳なり、本傳、當地方に數多存するも、本寺のものは全卷完備し、元亨三年の奥書ありて、製作年代又確實なるに依り推重せらる。法然上人像一幅（絹本着色）は剝落甚しきも、鎌倉末期の作と推定せらる。以上二點共に國寶たり。

（常福寺本堂）

常弘寺　那珂郡靜村大字石澤。

㊀眞宗本願寺派。

㊁太子堂玉川山（又は寶藏山）と號す。親鸞門下二十四衆の第二十村田慈善の開基に係る。寺基開創以來變遷する事なく以て現在に至る。

㊂親鸞作と傳ふる十字名號一軸阿彌陀如來畫像一幅十三體蓮座畫像一幅聖德太子木像一驅、傳覺知筆九字名號一幅・傳蓮如筆六字名號一幅等を所藏す。

（常弘寺本堂）

善德寺　那珂郡佐郷村大字鷲子。

㊀眞宗本願寺派。

㊁額光山と號し、親鸞門弟二十四衆の第十二久慈善念の遺跡なり。寺基はもと那珂郡木崎村大字門部に在りしが、後年現在の地に移る。

㊂寺寶に傳親鸞筆阿彌陀如來畫像一幅・同十字名號一幅・傳存覺筆光明本一幅、傳蓮如筆六字名號一幅等あり。

嘉命寺　那珂郡野口村大字野口。

㊀眞宗本願寺派。

㊁信照山蓮華院と號す。親鸞門下二十四衆の第十六穴澤入信の舊跡なり。開山入信房はもと東茨城郡澤山村阿野澤（舊稱穴澤）に在りしが、親鸞の命により、眞應元年本寺を創建せりと云ふ。

㊂寺寶に六字名號一幅・聖德太子木像一驅あり。何れも親鸞の筆並に作と傳ふ。

（嘉命寺本堂）

照願寺　那珂郡佐郷村大字鷲子。

㊀眞宗大谷派。

㊁毘沙輪山と號す。親鸞門下二十四衆の第十七奥郡念信の創建に係る。念信は俗姓を高澤氏信と云ひ、高澤に居りしが、眞應元年、親鸞の門に入り、乘願房念信と改め、毘沙輪村に一寺を建て、照願寺と號す。これ本寺の草創なり。三世信光の時、高澤の舊館を毀ちて本寺を當地に移す。爾來法統連綿として今日に至る。

㊂寺寶に傳親鸞筆及び作の二河白道返書一卷・十字

名號一幅・三祖（法然、親鸞、念信）像一幅・善導御影一幅・傳善鸞筆聖德太子像一幅等あり。尙ほも親鸞繪傳四卷を藏せしが、今は千葉縣夷隅郡大原町照願寺の所藏に歸す。

（照願寺全景）

法然寺　久慈郡太田町。

㊀淨土宗。

㊁圓覺山稱名院と號す。正平十一年、淨土宗白旗流第五世永慶蓮勝の開基に係る。後年佐竹、小田兩氏の兵亂に遭ひ寺門頹廢す。天文年間、佐竹義重の臣、田中重氏再興し、瓜連常福寺第十二世朱梅を請じて中興開山となす。爾後、常福寺の末寺となり、田中氏の菩提所たり。寺運は其の後再び傾きしが、慶長元年再興さる。

㊂堂宇には本堂・開山堂・二十三夜堂・庫裡等具ふ。

㊃毎月二十三日の御忌會には參者多し。

枕石寺　久慈郡幸久村大字上河合。

㊀眞宗大谷派。

㊁大門山と號す。親鸞門下二十四輩の第十五內田道圓の遺跡なり。道圓、もと日野左衞門尉賴秋と云ひ當常陸國大門に居る。親鸞一夜これに一泊を乞ひしも賴秋肯ぜず。親鸞やむなく門外に露臥す。賴秋奇夢を感じ、遂に其の弟子となり、名を入西房道圓と改むと云ふ。後自宅を寺となして枕石寺と稱す。寺基一時久慈郡內田に移りしが後年更に今の地に轉ぜり。

（枕石寺本堂）

㊂寺寶に阿彌陀如來木像（傳最澄作）・六字名號一幅（親鸞筆）・八祖畫像一幅（藤如筆）等あり。

西光寺　久慈郡佐竹村大字谷河原。

㊀眞宗大谷派。

㊁島喰山無量光院と號す。親鸞門下二十四輩の第二十四島喰唯圓の開基なり。唯圓は俗名を橘本綱宗と云ひ、武藏國檜山の城主なりしが、一子の病歿後、家督を弟經宗に讓り、建保三年、城內安置の藥師如來を奉じて諸國を巡る。偶々常陸國稻田に於て親鸞の化に遇ひ、遂に之に歸依して、出家し唯圓坊寂照と號す。而して那珂郡島喰（五藏村豐喰新田）の地に本寺を開創す後年寺運傾き、寛文年間現地に移りて、舊稱本泉寺を今の如くに改めたり。

㊂寺寶に親鸞像二軀・十字名號一幅・光明名號攝化十方尊一幅・引接攝取眞親身厚容一幅・六字名號三幅・皇太子聖德佛法輪隆滿足尊容一幅・藥師佛木像一軀・筑波山男體權現像一軀・唯圓木像一軀・法然上人夢想畫像一軀等あり。

（西光寺本堂）

佐竹寺（佐竹觀音）　久慈郡佐竹村大字天神林。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁妙福山明音院と號す。本尊は十一面觀音にして坂東三十三所第二十二番の札所なり。花山天皇、勅願に御歸依あり、勅して村內鵜ケ池の北洞崎の峰に本寺を創建せしめ給ふと傳ふ。文永六年、佐竹昌藏堂宇を再興し、天文十二年兵火に罹る。依りて同十五年佐竹氏寺基を今の地に移し、寺領三百貫文を寄進す。寛永年間、德川家光、寺領八石の朱印を附し、元祿年間、德川光圀、十石九升七合の除地を支給す。

㊂本堂は桁行、梁間各七間、重層、屋根四注造、茅葺にして、天文十五年の造營なり。正面大唐破風造りにして壯重雄大の觀あるも各部の手法複雜にして稍や不統一の嫌ひあり。桃山時代建築の先驅をなすものとして看過すべからざる遺構なり。現に國寶建物に指定さる。

鄰師堂　久慈郡金澤村大字下利員。

㊀不詳。

㊁由緒沿革不明なるも本尊藥師如來は行基の作と云ひ、德一の開基する所と傳へらる。近世水戸藩より二十六石の除地を附せられたり。

㊂本尊木造藥師如來坐像一軀は鎌倉初期の作にして國寶に指定せらる。

青蓮寺　久慈郡山田村大字東連地。

㊀眞宗本願寺派。

㊁皇跡山と號す。寺地はもと某親王（寺記、天武天皇の居住し給ひし舊地にして小佛堂ありしと。其後、後鳥羽天皇第二皇子周觀親王下向せられ、皇跡山極樂院蓮華寺と號し、天台宗の寺院となし給ふと傳ふ。建保六年、親鸞、これを再興して二十四輩の第八戌飼性證（俗名島山重秀）に附す。爾來眞宗の寺院となれり。寺領は佐竹氏より七百石を附せられしも、後年水戸藩排佛論者の爲に沒收せられたり。

㊂寺境八百二十五坪。寺寶には親鸞作自像・傳弘法大師作阿彌陀如來像一軀・法然上人像一幅（筆者不明）・聖德太子像等あり。寺域の東方二十町にして枕石の舊跡あり。

耕山寺　久慈郡磯田村大字瑞龍。

㊀曹洞宗。

㊁廣澤山と號し、越後村上耕雲寺末なり。文永四年佐竹長義、檜澤村に本寺を開創し、詮慧を請じて開山とし、陽雲寺と號す。然れども三世にして法統斷絕せしを以て、佐竹義仁、越後耕雲寺の傑堂を招きて中興せしむ。傑堂八世の孫三陽、文明五年、本寺に住し寺號を現在の如くに改む。近世寺領十石を有せり。

久昌寺　久慈郡磯田村大字新宿。

㊀日蓮宗。

㊁靖定山と號す。日蓮宗四十四本山の一なり。初め德川光圀、其母久昌院靖定大姉の冥福を祈らんが爲に一寺を創建す。延寶元年工事に着手し、同五年、寶殿、多寶塔、位牌堂、方丈、鐘樓等を完成す。而して、靖定夫人の法諡に因みて靖定山久昌寺と稱し、禪部院日忠を請じて開山とす。其後、光圀、寺內學寮の規模擴張を企圖し、元祿五年起工、同八年、講堂、方丈、玄義寮、板頭寮、主座寮、所化寮等より成る檀林成就す。俗に、これを水戸三昧堂檀林と云ふ。檀林は天保十四年一時中絕し、嘉永年間再興せられしも、明治二年以後は廢止せらる。

㊂寺境三千坪、舊本堂には三寶殿の扁額を揭げ、正面に瓶目ありて內に光圀筆の紺紙金泥の妙典二十八品を納む。左右には釋迦、多寶二像を安置す。其他築石堂・大寶塔・讀書素寮（三昧堂）・僧坊十宇等あり。天保十三年、德川齊昭、封內の八景を選び、其第八山寺の晚鐘に本寺を擬ぐ。

正宗寺　久慈郡磯田村大字增井。

㊀臨濟宗圓覺寺派。

㊁萬秀山と號す。初め當地に平眞將の創建せる大瑞山靜樂寺なる律宗の寺院ありき。後年眞言宗に轉じ眞和年間に至り、領主佐竹貞義の長子某出家して月山と云ひ、蘇石の門に入り、此の寺を禪宗に改め、且つ其寺域に本寺を創建す。慶長七年、靜樂寺の堂宇一部燒亡せしにより、該寺を本寺に屬せしめて塔頭となす。現に佛殿の西方に存す。康安二年、佐竹氏、久慈郡橫瀨村の一部を寄進す。舊時は寺領二百石、朱印百石を有したり。

㊂經師堂背後の平坦の地に小礫を積み、小松を植えたる墳墓多く存す。當地の豪族那珂氏一族の墓なりと稱せらる。

枕石寺　久慈郡磯田村大字大門。

㊀淨土宗。

㊁親鸞門第二十四輩の第十五道圓房の遺跡なり。もと本願寺の末寺なりしが、中世太田城主の眞宗寺院叢寨を圖るや、本寺住職なる道圓の後裔も亦道はれ、遂

に淨土宗に變ず。近世甚だ退轉し、有志の努力により漸く舊態に復ぜり。

㊁境内に道圓の墓あり。もと本寺の南方里餘の枕石なる地に在りしものと云ふ。また枕石の近傍に道圓の邸址と傳ふる地あり。

日輪寺（八溝觀音堂）　久慈郡黒澤村大字上野。

㊀天台宗。

㊁八淨山と號す。本尊は十一面觀音にして、坂東三十三所第二十一番札所なり。白鳳十一年、役小角の開創に係り、大同二年、空海之を再興し、本尊十一面觀音像を彫刻すと傳ふ。仁壽三年、圓仁堂宇を增築す。江戸時代、德川家光より寺領若干を寄せらる。寛永二十年、同緣の災に罹りて伽藍烏有に歸す、萬治三年に至り再建竣成す。元祿八年、德川光圀、本寺維持策として、春秋二季に常陸、下野、陸奥三國に守符を配付して寄供を收めしむ。明治十三年、天災の爲め堂宇亡びしも有志飯村智仁等奔走し、漸次舊態に復ぜり。

㊂寺地は茨城、福島二縣の境界をなす八溝山（海拔四千尺）の八合目に位す。頂山に八溝嶽神社あり。

覺念寺　多賀郡國分村大字金澤。

㊀眞宗高田派。

㊁德地山蓮生院と號し、關東二十四樂第二十三唯信房の遺跡なり。唯信は俗名島谷信時（一說に佐々木高重）と云ひ、建保六年、親鸞の弟子となり、保内小瀬村の島谷（現在東茨城郡橋村大字轟谷か）に本寺を創建す。天正八年、第十一世顯覺の代に佐竹氏山形某と戰ひ、堂宇什寶等兵燹に罹りて燒亡す。第十三世順眞の請願に依り、琢如上人堂宇を再興す。元祿三年、境内二石六斗九升を除地として附ぜらる。元文六年、故ありて高田專修寺末となる。天保六年、本堂、庫裡等爲上し、後ち再建されしが、元治元年、水戸藩騷擾の際、又も兵火に罹りて建造物悉く烏有に歸す、明治十六年に至り二十二代唯光、諸方に淨財を募りて現在の本堂を建立す。

（覺念寺本堂）

㊂寺境千五百坪本堂・太子堂等を具へ親鸞木像其他數點の寺寶あり。

㊃聖德太子遠夜祭（七月十四日）。

根本寺　鹿島郡鹿島町宮中。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁瑞鹿山と號す。推古天皇の御宇、聖德太子の創建に係り、高麗僧慧灌これが開山たりと傳ふ。建久年間、北條氏により再興され、元寇の時、勅印を賜ひてこれが討滅を祈願せしめらる。當時天台宗を奉じ、藥師如來を本尊とせしが、康永年間、教外得藏住してより禪刹となれり。延文三年、足利義詮、堂宇を修理し、後光嚴院より勅願を賜はる。其後また寺運退轉せしが、天正十七年、天桂玄棧中興し、以後妙心寺末となり、鎌倉五山の輪番たり。慶長年間、德川氏より寺領百石を附ぜらる。

㊂寺背の小山を樂山と稱し、所謂、玉垂小瓶の古跡と傳ふ。

無量壽寺　鹿島郡巴村大字島栖。

㊀眞宗本願寺派。

㊁光明山無量光院と號し、親鸞門下二十四樂の第三鹿島順信の遺跡なり。大同年間の創建にして、もと無量寺と云ひ、三論宗（一說法相宗）を奉ぜしが元久年間、村田利部なる者これを禪刹に變ず。其の後

（無量壽寺本堂）

利部の宝の亡靈出づとの傳說傳はりしな、親鸞東國巡錫の砌、此の怪異を止む。利部依りて本寺を親鸞に獻ず。親鸞留錫する事三年、寺號を無量壽寺と改めて順信に讓る。順信はもと片岡信廣と稱する、鹿島神宮の神官たりしが、親鸞の教に歸して遂に其門に入れり。故に後世に至る迄、鹿島神宮運宮の文書、諸事の規式源頼朝の下知狀等多く鹿島神宮關係の文書を藏す。後十一世順巴是等を鹿島に貸與すと云ふ。順巴は同村大字下富田に隱居し、後年、これを寺として、これをも無量壽寺と名付けたり。

㊂寺寶中、拾遺古德傳（殘闕）一卷（紙本著色）は國寶に指定せらる。もと九卷にて完結するものなれど、近世火災の爲め損傷せしに依り、其殘部を集めて一卷となせるものなり。闕九段繪十五段あり、闕は九卷中の第一、第二、第八の斷片を集めたり。繪は本縣那珂郡の常福寺本と大差なし。

福泉寺（穴寺）　鹿島郡白島村大字大藏。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁大藏山と號し、俗に穴寺と云ふ。康暦年間、平幹義の草創に係る。開山は天徹高冲なり。其後次第に衰頽せしが、天正年中、鏡山祥圓中興し、爾來法統連綿として現在に及ぶ。

㊂本尊木造釋迦如來立像一軀は所謂、三國傳來の釋迦像と稱するものにして、京都嵯峨清涼寺の模作の一なり。製作優秀にして、年代又鎌倉中期を下らざるべし。現に國寶に指定せらる。

長勝寺　行方郡潮來町潮來。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁海雲山と號す。文治元年、源頼朝の開創に係ると傳ふ。中興開山は太嶽瑞溥なり。延寶年間、德川光圀堂宇を修理す。幕府寺領十石の朱印を附ぜり。

㊂境内四千五百坪あり。堂宇には佛殿方丈庫裡等を具ふ。寺寶の銅鐘一口及び其鑄銘拓本一卷は國寶に指定せらる。銘によりて圓覺寺の清拙鐘銘を撰し、千葉胤長大施主となり、北條高時其大檀那たりし事を知る。

西蓮寺　行方郡玉川村大字出沼。

㊀天台宗。

㊁戸羅度齋上山曼珠院と號す。東京上野寛永寺末寺なり。延暦年間、曾禰の長者某の本願にて開創さると傳ふ。開山は最仙にして、廣海を中興開山とす。近世寺領三十石の朱印を有し、寺中八坊末寺二十四寺ありて寺門大いに繁榮せりと云ふ。現在末寺三十寺を統ぶ。

㊂堂宇には中堂・常行三昧堂・鐘樓・仁王門等を具ふ。就中仁王門は三間一戸、單層門、屋根四注造、棧瓦葺の建築にして弘安九年延暦寺の慶辯の建立と傳ふれど、唐樣の手法に成り、恐らくは室町時代の造營なるべし。單層門にして其腰組に屋蓋を加へしものなるべし。又青銅製の相輪樓は常行三昧堂の前面にあり、高さ三十三尺、木心に青銅板を張り、頂上に五輪塔形を冠し上方に卍字を刻して銘杖形をなす。弘安十年慶辯の遺營と傳へ、元寇役の記念塔なりと云ふ。樓式手法上寺傳大略認め得べし。仁王門と共に國寶建造物に指定せらる。

㊃常行三昧會（九月二十四日より同月三十日迄）俗に西蓮寺市と云ひ、雜沓を極む。

（西蓮寺仁王門）（國寶）

大念寺　稲敷郡江戸崎町。

㊀淨土宗。

㊁正定山知光院と號す。天正年間、聖蓮社源譽慶巖當地城主藤名盛重の歸依によりて創建し、翌十五年、入佛式を執行す。江戸增上寺の存應、修目一遥智瓶一法旬の則及び所化五十人を遣して、これを援助す。慶長五年、堂宇回祿の災に罹る。因りて同七年德川氏、寺領として常陸國河内郡下蒲ケ山村の内五十石を寄進し且つ、寺中山林竹木諸役等を免除す。これより寺運大

いに振ひ、關東十八檀林の一に列す。第五世雪應より第十三世澤瓦に至る間、方丈、庫裡、表門、小方丈及び樓門、鐘樓、所化寮十一字等順次に建設され、輪奐の美を極む。明治二年勅願所の綸旨を賜ふ。然れども同六年檀林號、東京深川本誓寺に移されてより後は寺運稍々衰頽の觀あり。

㊁寺境三千五百坪、本堂（十二間四面）・庫裡・開山堂・鎮現堂・地藏堂・閻魔堂・大黑堂・鐘樓等を具ふ。寺寶に阿彌陀如來立像二軀（傳、聖德太子並に惠心僧都作等あり）。

不動院　稻敷郡江戸崎町。

㊀天台宗。

㊁醫王山東光寺と號す。文明二年、常陸國河內郡信太莊に創建さる。開基は土岐治英、開山は幸譽なり。天正十八年、豐臣秀吉、當信太莊を蒲名盛重に與ふ。十九年、盛重即ち諸堂を再興し、寺領若干を寄せ、天海を請じて住せしむ。慶長七年、德川家康寺領百五十石の朱印及び境內山林竹木諸役免除の墨付を授け、寛永十三年、同樣の朱印を附す。其後東叡山寛永寺の末寺となり、關東十八檀林の一となる。もと寺中十箇寺末寺二十二箇寺を數へて、地方有數の巨刹たりしが維新後稍々衰頽せり。

㊂境內一萬六千餘坪あり。本堂（不動堂）は明暦元年德川家綱、阿部忠秋を奉行として、江戸城紅葉山の建物を移せるものなり。

㊃節分の日、星除祭を修行し賽客多し。

金龍寺　稻敷郡縣柴村大字若柴。

㊀曹洞宗。

㊁太田山と號す。越後國南條郡宅貝村慈眼寺の末寺にして、本尊は如意輪觀世音なり。元弘元年、新田義貞、天眞自性を開山として開基す。其後、兵火に罹りしを、應永二十五年新田貞氏再興し、香華料永樂三百三貫三百文及び寺領四十石を寄す。一戒に貞氏、祖父義貞追善の爲に創建し、其法號金龍院殿に因みて寺號を金龍寺と號すと云ふ。寺基もと上野金山の地に在りしが、天正十八年、豐臣秀吉命じて當郡牛久に移し、寛文六年更に今の地に移轉す。

㊂寺境一萬五千坪、本堂・開山堂・庫裡等を具ふ。寺寶の十六羅漢像十六軀（絹本着色）は承陽大師の將來せるものと傳へ、所謂李龍眠式圖樣の典型的なる傑作として有名なり。現に國寶に指定せらる。其他釋迦出山圖・開山畫像・道元筆蹟等あり。尙ほ境內に新田義貞及び同家累代の墓あり。金山より移せるものとなす。

蓮善寺　稻敷郡太田村大字小野。

㊀天台宗。

㊁慈雲山無量壽院と號す。文武天皇の御創建と傳へ又一說には淳和天皇天長三年、覺叡（覺榮）の開基なりと云ふ。淳和天皇の皇女、眼病平癒を當寺觀音に祈り給ひ、効驗顯著なりしにより、勅願所に列せらるゝと傳ふ。天正年中、第十五世定玲、學識を以て聞へ、日本天台先德記及び素絹記等を撰す。慶長七年、德川家康、山內竹木諸役を免除し、寛文五年、德川家綱、寺領二百石を寄進す。古くは天台宗の檀林にして、穩本、寂光、竹泉、梅本、松本、妙音の六坊あり。又常陸、下總二國に於て末寺百四十餘寺を統轄す。現に尙ほ寺運隆盛にして堂塔壯麗なる名刹なり。

㊂境內一萬八千餘坪。

等覺寺　新治郡土浦町。

㊀眞宗大谷派。

㊁蓮光山と號す。建仁元年、了信房の開基する所なり。了信は小田城主、八田知家の男なり。出家して眞言宗の僧となりしが、後ち眞宗を奉じ、本寺を建つ。元龜元年十四世慶圓の代に兵火に罹る。當地領主菅谷氏命じて、土浦城內に再建せしむ。慶長十年、現地に移轉す。元和八年、德川秀忠當寺に來參し、德川氏歷代の法要に出勤すべき旨を命じ、葵紋付茶罐、常陸帶、白銀等を寄贈すと云ふ。

㊂寺寶中、銅鐘一口には建保年間筑後入道尊念（八田知家）の銘あり、潮來長勝寺の鐘と共に集古十種に載錄せられ、現に國寶に指定せらる。

如來寺　新治郡柿岡町。

㊀眞宗大谷派。

㊁歸命山無量壽院と號す。親鸞門下二十四輩の第四南庄乘然（一に乘念に作る）の遺跡なり。乘然もと片岡親綱と稱し、鹿島明神の神官片岡信廣（順信）の弟なるが、親鸞に歸依して其門に入る。安貞元年、親鸞信田の浮島（現在稻敷郡浮島村）に一寺を建立し、乘然をして住せしむ。其後一時天台宗に轉ぜしが、明應七年現在の地に移りて再興し、眞宗に復す。

㊂寺寶に十字名號二幅及び六字名號一幅（親鸞筆）・聖德太子童形像一軀（傳、圓仁作）・十字名號一幅（覺如筆）等あり。

（如來寺本堂）

常福寺　新治郡中家村大字下高津。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁東光山と號す。桓武天皇の御字、最仙巡錫して乘師如來を開眼し、大同二年、德一來りて寶頂座尊者を刻みて安置すと傳ふ。

㊂寺寶乘師如來坐像一軀（木造）は藤原時代の作にして、國寶に指定せらる。

般若寺　新治郡中家村大字宍塚。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁靈王山釋迦院と號す。元暦元年の創建と傳ふ。本尊は大日如來なり。現に貴徵して往昔の盛觀を存せず。

㊂寺寶として銅鐘一口を藏す。其銘に「大日本常州信太莊、般若寺、建治元年乙亥、八月二十七日乙巳、時正第二、大勸進源海、願以此功德、普及於一切、我等與衆生、皆共成佛道、大工丹治久友、千門重延」とあり。現に國寶に指定せらる。

大覺寺　新治郡懸瀬村大字大增。

㊀眞宗本願寺派。

㊁板敷山と號し、親鸞の門弟、善性房鸞英の創建に係る。善性は後鳥羽天皇の皇子なるが、出家して周觀大覺と稱し、親鸞に歸依してより後は、此地に草庵を設けて居住し、師法の弘通に努む。因りて親鸞これを大覺堂阿彌陀寺と稱せしむ。元仁元年、更に板敷山大覺寺と改めたり。後親鸞歸洛に際し、善性に本寺及び稻田兩寺を託す。弘長三年小田泰知の兵火に罹り、稻田禪坊は灰燼に歸し、本寺は遺僧の群集する所となる。永正十六年、北條氏綱、堂宇を破毀せるにより、住持了觀復佛して森田豐後と稱し、霧寶を維持す。大永末年、北條氏康の許可を得て大覺堂一字のみ再建さる。寶暦十年、再興を企圖せしも德川氏、これを許さず。やむなく武藏國の正行寺を此地に移して、漸く舊態に復せしが、明治十六年、遂に大覺寺の號を公許さる。

（大覺寺本堂）

㊂本堂背後に善性の墓あり。附近に修驗者獅圓（明法房）が親鸞咒殺の爲に設けたる護摩壇の址、親鸞說法の跡なる天蓋樹等あり。

法雲寺　新治郡斗利出村大字高岡。

㊀臨濟宗建長寺派。

㊁大雄山と號す。文和三年、復庵宗己の創建なり。初め元亨三年、宗己、元の普應國師中峯明本の法を坂東を教化す。小田城主治久、城の東方里餘の地に一宇を設け、宗己を此處に居住せしむ。宗己、これを楊阜庵と稱す。建武二年、正受庵と改め、中峯明本を勸請して開山に推し、己れは二世となる。文和三年、元の天目山法雲塔院の銘文により、更に今の寺號に改め、建長寺の古先印元を聘して開堂の供養を行ふ。堂宇は檀越小田氏の援助により漸次完備し、寺領二萬石、塔頭十餘寺ありて、坂東の一大禪林たりき。然るに天正二年、小田氏治、佐竹氏に敗るゝや、本寺また兵燹に罹り、悉く烏有に歸す。當時の住職第二十世寬翁宗守再興に盡力せしも、尙ほ舊觀に復せず。

㊂寺境九千坪、本堂・庫裡・鐘樓・寶庫等を具ふ。寺寶に高峯原妙禪師頂相・中峯明本頂相及び古文書等を藏す。境內に宗己及び小田氏治の墓・龜井の泉・雷

鳴石等あり。
㊁三佛會、祖忌、開山忌、彼岸會、羅漢供等を修す。

清澤寺　新治郡山ノ井村。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁南明山と號す。聖觀音を本尊とし、坂東三十三所第二十六番札所なり。推古天皇十五年の創建にして、本尊は聖德太子の御作と傳ふ。大同元年、德一、寺基を今の地に修す。永祿、元龜の頃兵火に罹り、堂宇寺寶悉く灰燼に歸せしも、本尊は幸に其難を免れたり。元祿十三年堂宇再建さる。これ現在の堂宇なり。

大御堂　筑波郡筑波町。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁一に知足院中禪寺と云ふ。本尊は千手觀音にして坂東三十三所第二十五番札所なり。維新の際排佛毀釋の災を受け、堂宇破却され、目下假堂にて東京護國寺に管理さる。

不動院　筑波郡板橋村大字板橋。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁清安山と號す。平城天皇大同年間、空海東國を巡化して當地に來り、不動明王及び二童子の像を彫刻して、求子安產の祈念を修す。これ當寺の起原なりと傳ふ。現に俗稱三角山卽ち原新田の御聖塚は其遺跡なりと云ふ。開創當時は現寺域の西南に堂宇ありき。天授六年、祥海、諸堂を改築して、結構壯麗を極めしが、嘉吉三年兵火に罹る。其の後復舊して寺門再び榮ゆ。然るに戰國時代に又も堂宇兵亂の餘波を蒙りて烏有に歸す。因りて文祿年間、中興開山雲雲、今の地に移して再建す。慶安元年、德川家光、寺領十五石の朱印を附す、安永、文政兩年度諸堂改築され、輪奐の美を成ずしが、萬延元年失火して客殿、庫裡共上す。依りて文久年間又も造營ぜらる。慶應二年、村內の大火本寺に及び庫裡其他燒亡し、今は觀堂を庫裡に代用す。
㊂堂宇には本堂・三重塔・庫裡等を具ふ。本尊木造不動明王及び二童子立像三軀は藤原時代の作にして、現に國寶に列す。其肢體緻く、刀法又淺く、概して穩和な趣致に富めり。尙境內に代官岡田氏の碑あり。墮胎の惡習を矯正せし功を銘す。
㊃毎月二十七日の緣日には安產を願ふ賽者多し。

常福寺　筑波郡大穗村大字大曾根。

㊀眞宗大谷派。
㊁佛名山玉川院と號す。親鸞門下二十四輩の第十八八田入信の遺跡なり。入信は常陸國久慈西郡八田村の後ち親鸞に歸依して其法弟となる。而して穴澤の入信に對して、八田の入信と稱せらる。文永二年、其居住せる八田に一宇を建つ。これ本寺の草創なり。天文十年今の地に移る。
㊂寺寶に親鸞、法然、如信、覺如、連座の畫像・親鸞筆跡・入信木像等あり。

光明寺　眞壁郡下妻町下妻。

㊀眞宗大谷派。
㊁西木山高月院と號す。眞宗關東七箇寺の一にして明空の創建に係る。明空房はもと三浦荒次郎義忠（一說に和田義次）と云ひ、承久年中、親鸞の門に入り、下妻に本寺を草創す。其子孫相繼して代々本寺に住す。近世寺領五石を有せり。
㊂境域二萬四千坪所藏の什寶に親鸞畫像一幅、閻浮檀金三尊佛・明空房木像一軀、親鸞門侶交名帳一卷等あり。

（光明寺觀音）

觀音寺　眞壁郡中村大字中館。

㊀天台宗。
㊁施無長山延命院と號す。本尊は延命觀世音と云ひ用明天皇御字、法輪獨守居士の安置せるものと傳ふ。文治五年、源頼朝奥羽征討の際其臣當地の常陸前司朝宗、本寺に戰勝を祈りしが、後ち報賽として己が封地の內二百畝を燈明料に獻ずと云ふ。建武三年、伊達行

顯（一に行宗、或は朝村とも云ふ）本寺を以て自家の新禮所とし、本堂、仁王門、經藏、鐘樓、五重塔、學頭觀音寺を建立し、比叡山より實相坊心海を請じて中興開山とし、尙ほ柔色三十三町を附す。其後寺門退轉し、下館城主水谷勝隆により再建せられしも、正保二年及び慶安四年の兩度、當村の大火に類燒し、堂宇悉く灰燼に歸す。時の住持最海、再興を圖り翌五年觀音堂を建立す。元祿十年、伊達綱村より五十石を寄せらる。寛政十一年、觀音堂並に客殿の修理成る。維新後衰頽せしが、明治二十六年、照眞の努力により、漸次舊態に復せり。

（觀音寺本堂）

㊂寺境千七百坪、本堂（觀音堂）・客殿・庫裡等を具ふ。本尊は柴法寺（茨城縣眞壁郡）の雨引觀音と同形の木像にして、彼像の傳寫なるべく、鎌倉時代初期の優美なる彫刻を有し、現に國寶に列せらる。寺域は往昔の伊佐城の地にして、城主伊達行朝の墓と稱するものあり。
㊃本尊護摩供（四月十日）、觀櫻大會（四月十五日）、法華三昧會（舊十月五日）。

傳正寺　眞壁郡樺穗村大字總井。

㊀曹洞宗。
㊁天目山と號し、神奈川縣足柄下郡早川村海蔵寺末寺なり。文永五年の創建にして、開基は眞壁安藝守時幹、開山は法身（一に法心に作る）なり。法身はもと當郡猫島の產にして功名を紅蔵と云ふ。二十三歲の時、時幹の下僕となり、平四郎と改む。一日、時幹一寺に詣雪の宴を開き、平四郎隨伴して寺の入口に待つ。其の間主人の木履を憤中して温む。時幹歸宅の際、木履の暖氣あるを平四郎の腰掛けたる爲と誤解し、其木履にて平四郎を打擲す。こゝに於て平四郎、心中大いに憤りを發し、彼の木履を携へて主家を去り、一國一城の主となるより寧ろ佛道に入りて出家す。後ち宋に赴き、臨安府徑山の佛鑑禪師に就きて專心修道す。懶惰の心生ずれば、直ちに彼の木履を見て、以て自ら戒む。在宋九年にして歸朝し、奥州松島瑞巖寺を經創す、德風遠近に普及し、鶴山天皇より法身國師の號を賜はる。其後常陸國眞壁郡白井村の光明寺（現在廢絕す）に寓す。舊主時幹、法身のもと己が下僕たりしを知らず、邸內に招く。法身曰く、我れ往年叱責を受くる。依つて出家して宿怨を報ゆるの機を窺ふ。されど今は佛法に歸依し、報復の愚なるを悟ると。時幹感激深く、遂に法身を開山となして金城峰天目山照明寺なる一寺を創建す。これ本寺の草創なり。創立の際は法身の宗旨により臨濟宗を奉ぜしが、康正二年相模海蔵寺の安叟宗禪、本寺に住してより後は曹洞宗に轉ず。因りて安叟を改宗初祖開山となす。慶長十一年、常陸國笠間及び眞壁の領主淺野長政、本寺住持其雄大蘭に歸依する事甚だ厚し。其後、紀州和歌山城主淺野幸長及び笠間城主淺野長重等、長政の遺命により大檀越となり、堂宇を修理し、寺田若干を寄進す。時に長政の法名傳正院殿に因みて、傳正寺と改む。元和元年、元祿四年の兩度本堂棟上せしが淺野氏によりて再建さる。舊寺領六十石なりき。維新後大いに退轉し、廢寺に等しき慘狀を呈せしが、明治四十三年に至り上地林下附され、又大正三年淺野氏の援助により漸く面目を一新す。
㊁堂宇は本堂・太祖堂・遺了堂・忠魂堂・庫裡・開山堂・書院・鐘樓等を具へ、寺寶に法身の木像一軀・法身筆偈一軸等あり。境內に法身及び淺野長政夫妻の石像・同夫妻の廟等あり。
㊃開山忌（二月十一日）、淺野長政法要（四月七日）。

樂法寺　眞壁郡雨引村大字本木。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁雨引山と號す。本尊は一に延命觀世音と稱し、坂東三十三所第二十四番札所なり。用明天皇の御字、法輪獨守居士の開山と云ひ、或は大同年中德一の創建と傳ふ。中古、足利尊氏の歸依深く、堂宇を修理す。文明年間兵火に罹り、堂宇衰上す。住持快阡卽ち眞壁久幹、其の弟高幹と協力して再興す。只後眞壁氏の尊信後からず。天文年間には同家幹より寺領若干並に大般若經六百軸を寄せらる。寶永七年、十方檀門一人十二錢十萬人講を作りて本堂を修理造營す。これ現在の本

堂なり。近世國學者の墓碑、性相學者の墓碑等の名僧輩出し寺領百五十石を有し、寺院四十餘箇寺を統べ、寺運大いに振ひしが、維新後、衆徒離散して稍々衰運に傾けり。

（樂法寺觀音堂）

㊀寺域、筑波山脈に連なる雨引山の中腹、二萬餘坪の地を占め、松杉檜椎等の緑樹繁茂し、遠くは富士、後間近くは筑波の山容を望む景勝の地たり。山又櫻樹多し。堂宇には本堂（觀音御堂）・多寶塔・御供所等を具ふ。本尊木造觀世音菩薩立像一軀（附、前立像一軀）は國寶なり。安產守護の靈顯を稱し參者少からず。

稱名寺（しやうめいじ）

結城郡結城町結城。

㊀眞宗本願寺派。
㊁新居山と號し、關東七箇寺の第二位なり。建保年間親鸞門侶二十四衆の第二高田眞佛の開創に係る。もと下野國新居村に在りしが西宮町を經て今の地に移る後ち眞佛本寺なる其子信證（一說に門人信性となす）に讓れり。

（稱名寺本堂）

㊂寺寶に親鸞筆往生要集譯本・親鸞室玉日姫像一軀・太子堂扁額（仁和寺覺助法親王御染筆）・眞佛木像一軀・十字名號一幅・要集問書集一卷等あり。寺域に結城朝光、同朝廣、同廣綱、同時廣の墓あり。

弘經寺（くきやうじ）

結城郡結城町結城。

㊀淨土宗。
㊁壽龜山楞嚴院と號す。飯沼弘經寺と云ふ。開創は正元年、飯沼弘經寺兵燹に罹り、住持檀樂存把逃れて此地に一寺を創立す。これ本寺の草創なり。文祿四年當地城主結城秀康、長女松姫の菩提を弔ふため、堂宇を修理し、存把を開山と定む。業樂還無（增上寺二十一世）の代に、白旗流關東十八檀林決定し、本寺其一に列す。舊寺領五十石なり。
㊂境内三千二百餘坪ありて、諸堂整備す。

東弘寺（とうこうじ）

結城郡石下町大房。

㊀眞宗大谷派。
㊁高柳山と號す。親鸞門侶二十四衆の第九飯沼善性の遺跡なり。建保六年、善性親鸞に歸して當郡岡田村大字藏持（舊稱倉持）の大高山）に本寺を開創す。後ち大高山より二十町餘東方な

（東弘寺本堂）

る現在の地に移轉すと云ふ。
㊂所藏の寶物に阿彌陀如來像一幅・十字名號一幅・聖德太子像一幅（何れも親鸞筆と傳ふ）・六字名號一幅（蓮如筆）・藥師如來木像一軀（傳惠心作）・善性房木像一軀（當寺二世眞信作）等あり。

弘德寺（くとくじ）

結城郡安静村大字新地。

㊀眞宗大谷派。
㊁新堤山宗智院と號す。親鸞門侶二十四衆の第五新堤信樂（俗稱相馬義清）の遺跡なり。信樂は法門に就き自義御見の失あり。遂に親鸞の許を去りて一寺を建つ。後年本願寺三世覺如に說伏されて、己れの非を悔る。卽ち許されて弟子の列に加ふ。開八世蓮如東下の際、弘德寺の寺號を授け、東本願寺第十三世宣如の代に二十四衆に列す。

（弘德寺本堂）

㊂寺境千二百坪。寺寶に三性和讃・信樂像・親鸞木像・阿彌陀如來木像（傳親鸞作）等あり。尙ほ境内に親鸞手植と稱する木槵樹あり。

弘經寺（くきやうじ）

結城郡豐岡村。

㊀淨土宗。
㊁壽龜山天樹院と號す。もと此地は飯沼と稱せしかば、一に飯沼弘經寺と云ひ、關東十八檀林の一なり。應永二十一年、横曾根（豐岡村の舊稱）の城主羽生經貞及び羽生の城主羽生吉定等檀越となり、嗣樂眞雄を請じて開山となす。且つ山林並に寺領二十五貫文を寄與す。天文七年、後奈良天皇勅願を蹈ひ、寺門大いに振ふ。天正元年、本寺僧侶等、下妻城主多賀谷修理大夫を拔け、北條氏友と戰ひしが利あらず、堂宇兵燹に罹り住持檀樂存把は結城に奔りて、結城弘經寺を建つ。後ち慶長八年、寺主照譽了學（增上寺十七世）堂宇を新築し、後陽成天皇より紫衣の綸旨を蹈ふ。寛永三年、豐臣秀賴の室天樹院、本寺に於て剃髮し、本堂、鐘樓中門、藥師堂等を建立す。同六年、諸堂竣成するや寺額を書して贈る。寺領もと百石を有せしが、寛文五年羽生村の地を以てこれに代ふ。明治三十九年、回祿の災あり。次で再建さる。
㊂寺域六千八百坪。境内に天樹院の墓等あり。

報恩寺（ほうおんじ）

結城郡豐岡村。

㊀眞宗大谷派。
㊁親鸞門侶二十四衆の第一性信房の舊蹟なり。性信は鹿島大宮司の支族にして、もと藤五郎鷲久と云へる太剛の武士たりしが、元久五年、紀伊國熊野社に參詣し其歸途、京都東山吉水道場にて法然の說法を聽聞するや、直ちに落髮して法弟となり、名を性信と改む。後ち親鸞に師事し越後、關東と常陸給仕す。親鸞歸洛の後、當横曾根に住し現在の地に草庵を營む。卽ち之れ報恩寺なりとす。
㊂本坊より三町餘にして性信の墓あり。

三月寺（さんがつじ）

結城郡總上村大字小島。

㊀眞宗大谷派。
㊁建保二年、親鸞此地に來化し、小島の郡司武弘の請により、留錫三年に及ぶ。後ち其禪房を門人蓮位に附す。蓮位入洛に際し、更にこれを丹後入道法信房善下に讓り、其子孫をして代々相續せしむ。一時、關東七箇大寺の一に數へられしが、後年稍々退轉し、下妻光明寺々内に移りしも、近年舊地に復す。

宗願寺（しうがんじ）

猿島郡古河町古河。

㊀眞宗本願寺派。
㊁足立山野田院と號す。親鸞門侶二十四衆の第七野田西念（俗名井上次郎道祐）の遺跡なり。建暦二年の創建にして、もと武藏國足立郡野田にあり、武州總道場と稱せらる。康永元年、現地に移り舊地名を冠して足立山野田院と號す。享保五年、本願寺門跡隆帶所となり、古河御坊と稱す。弘化三年、回祿の災に罹りて堂宇悉く焼し、假建築にて現在に至る。
㊂境内千二百坪あり。寺寶に傳親鸞作自像及び三人連座像一軀等を藏す。

西念寺　猿島郡岩井町逸田。

㊀眞宗大谷派。

㊁極樂山延柔院西念寺と號す。親鸞門侶二十四輩の第七たる野田西念房の遺跡なり。初め此地に聖德寺なる天台宗の寺院ありしが、西念此處に來化す。爾來眞宗の佛閣となれり。元應三年、當寺第三世眞浸の時堂宇を再建す。建武年間、武藏國野田の道場にありし西念房の裔孫等兵亂を當地に避け、以後引續き當寺に住せしが、延寶年間に至り、遂に寺號を西念寺と改稱す後ち二十四輩の一に加へられたり、其後連綿として法燈絶えず、以て今日に至る。

㊂寺寶に傳親鸞筆蓮座畫像一幅・蓮如筆六字名號一幅・傳惠心僧都筆阿彌陀如來像一幅等あり。

（宗眞寺開本堂）

蛙延寺　猿島郡勝鹿村大字大堤。

㊀曹洞宗。

㊁正源山と號す。元和七年、出羽の最上氏所領を沒收せらるゝや、重臣蛙延越前秀綱、其家臣二十人を率ゐ古河に至る。古河城主土井利勝これに五千石の地を與ふ。秀綱此地を家臣二十人に分ち、自身は順次二十人の家に寄食して其身を終る。依つて其臣追福の爲に本寺を創建し、其姓を以て寺號とすと云ふ。

㊂境地六百三十四坪。寺域内に熊澤蕃山の墓と稱するものあり。

㊃水代大施餓鬼會（舊七月二十四日）。

勝願寺　猿島郡香取村大字禮部。

㊀眞宗大谷派。

㊁鷲高山順性院と號す。開東七箇大寺の隨一なり。建保二年、親鸞の弟子善性本寺を開創し、後ち弟明性に讓る。稻田禪坊（西念寺）兵火に罹りし時、本寺亦類燒す。第三世順性はもと無量壽寺の住職なりしが、該寺を順慶に讓り、本寺を今の地に再建す。德川氏及び吉田左金吾、寺領若干を寄贈す。明和年間堂宇奠上したるも再建せらる。

㊂寺寶に親鸞筆と傳ふる自畫像・同十字名號・同詠歌・蓮如筆六字、九字、十字の名號等あり。

妙安寺　猿島郡森戸村大字一ノ谷。

㊀眞宗大谷派。

㊁一谷山と號す。當地は親鸞門侶二十四輩の第六成然房往生の地なり。成然房俗稱を中村賴國と云ひ、事に觸れて當郡境に配流せらる。たまゝ〳〵親鸞、稻田の草庵（今の西念寺）にあり、賴國之に赴きて其化に服し遂に法弟となりて名を成然房と改め、現地に草庵を作る。これ本寺の草創なり。尙ほ成然三村の地に一宇を營みて親鸞の像を安置す。これ卽ち後の前橋妙安寺なりといふ。本願寺東西分離に際し、寺號を西編寺と改め、報恩寺（結城郡豐岡村）末寺となる天和二年以降佛光寺に屬せしが、元文五年東本願寺派となりて今日に至る。

（妙安寺前景）

㊂境内千五百坪を有し、寶物に光明本尊・六字名號・鹿島赤童子像等を藏す。

阿彌陀寺　猿島郡長須村大字長須。

㊀眞宗大谷派。

㊁屈旋山と號す。開基を惠鶴と云ひ、古くは三論宗を奉じ、屈旋龍山稱名院と號せしが、八世澄惠の代天台宗に轉ず。眞親年中、十四世安了、親鸞に歸依し、眞宗に改めて現在に及ぶ。

㊂本堂背後に親鸞筆庵の墓跡あり。寺寶に親鸞の作と傳ふる六字名號・束燈鈔斷片・其他蓮如、空海、最澄、惠心等の作と傳ふる六字名號・般若經斷片・阿彌陀佛像・同畫像等を所藏す。

西林寺　北相馬郡守谷町。

㊀天台宗。

㊁無護山と號し、延長二年、慧念の開創と傳ふ。長保年間、惠心僧錫して五重相傳を執行し、今に此法行はる。近世寺領二十石を有せり。

㊂境内千三百餘坪あり。本堂・書院・庫裡・鐘樓等を具ふ。境内に相馬妙見八幡社あり。平將門亂に際し一殷女あり、將門を惡位に登すべき八幡大菩薩の神託ありきと告ぐ。依りて將門之を城内に妙見と共に祭りしが、後年此所に移せるものなりと傳ふ。

㊃五重相傳（舊十月十七日）、出世地藏（寺内安置）縁日（舊三月二十四日）。

弘經寺　北相馬郡取手町取手。

㊀淨土宗。

㊁大鹿山と號す。結城郡結城町、同郡豐岡村の弘經寺と共に下總三弘經寺と呼び、關東十八檀林の一たり開山は嘆譽眞龍、開基は大鹿氏にして、爾來大鹿氏の菩提所たり。其後、退轉せるを慶長年間、顯譽了學中興し、檀林に列す。了學の俗姓了閑百譽、其跡を繼ぐ。寺領は三十石を有したりと云ふ。

來見寺　北相馬郡布川町。

㊀曹洞宗。

㊁瑞龍山龍海院と號す。眞壁郡下妻町多賀院の末寺たり。永祿元年、城主豐島賴藏の創建に係り、寺領若干を附して其菩提所とす。同時に大光佛國請ぜられて開山となる。同六年六月二十三日、賴藏卒するや、之を當山に葬り、且つ寺號を賴藏寺と定む。後ち慶長七年、德川家康當國巡視の途、當山に留りて來見寺と改めしむと云ふ。

㊂境内に豐島賴藏の墓を存す。又庭中に松替梅と稱する老梅あり。曾て德川家康來山の砌、當寺庭中の松樹大に獲致あるを愛して、之を江戸城に移さしめ、代ふるに一株の梅樹を以てす。卽ち傳へて其名ありと云ふ。

龍禪寺　北相馬郡稻戸井村大字米ノ井。

㊀天台宗。

㊁米井山と號す。初め延長二年僧傳樂此地に一宇を建立して、釋迦、彌陀、彌勒の三像を安置し、三佛堂と稱す。承平七年、守谷城主相馬將門武運長久祈願の爲め三佛堂に詣でしに奇瑞あり。乃ち茲に新に堂宇を興して米井山龍禪寺と號す。これ當寺の濫觴なりと云ふ。降りて建長三年源賴朝、平千葉介常胤に命じて三佛堂を修營せしむ。慶長年中、德川家康寺田若干を附す。明治維新後、次弟に衰頽せしも、同二十一年、內務省より三佛堂保存金若干を受け、次で同堂保存協會の設立あり、以て現在に及べり。

㊃三佛堂（本堂）は木造茅葺にして、本尊に一木彫釋迦、彌陀、彌勒の三像を安置す。

東漸寺　北相馬郡寺原村大字寺田。

㊀天台宗。

㊁天正二年の創建なりと云ふ。正德二年、回祿に罹りて堂宇奠上せしが、次で享保三年再建成り、以て今日に及べり。

㊂堂宇に本堂・大師堂・觀音堂等を具ふ。觀音堂は往昔其別當に永福寺と稱する一寺を有せしが、後ち、廢寺となりて茲に併合す。今堂內に行基作と傳ふる馬頭觀音像を安す。本尊は阿彌陀如來像にして、寺寶に傳中將姬作蓮絲變茶羅を藏せり。又境內に目隱銀杏と稱する老樹あり。里傳に、往昔當寺觀音堂前を騎馬にて過る者あれば必ず落ちて疾を發す。依りて里人相議して堂前に銀杏樹を植え、以て騎者の影を蔽へりと云ふ。

㊃正月、六月、七月の各十八日。當日蕊燈と稱して觀音堂にて國家鎭護、駿馬息災の祕密大護摩を修行す。賽者遠近より群集し、殊に馬を畜ふ者は紅白紫黃青五彩の布を以て愛馬を飾り其息災を願すと云ふ。

本願寺　北相馬郡井野村大字書翰。

㊀淨土宗。

㊁光明山と號し、京都知恩院直末たり。應永二十九年の創建にして、了譽聖聞を以て開山とす。本多作左衞門重次の歸信殊に厚く、其菩提所たりき。

㊂境內地九百坪。堂宇に本堂（梁間七間半、桁行七間）・開山堂（方二間）・太子堂・勢至堂・庫裡・山門等を具ふ。寺寶に本多重次所用甲冑・同旗差物・同金扇・同軍扇・了譽聖名號等を藏す。境內に本多重次五輪塔（高約五尺）・同重玄の各墓碑あり。

栃木縣

正行寺　宇都宮市泉町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁親鸞門侶法善房の開基に係る。法善は佐々木義綱と云ひ、越前國に住せしが、承元元年越後國國府に行きて親善の門弟となり、建暦三年下野國都賀郡佐貫村（現在鹽谷郡船生村）に一寺を草創す。之れ卽ち本寺の濫觴なり。建保二年、親鸞を屈請し、里人為して其教化に浴せしむ。寛永十二年、宇都宮城主本多正純、宇都宮市内に於て寺地若干を寄せ、寺基を此處に移す。これ今の寺域なり。

㊂寺寶に傳親鸞筆十字名號二幅及び親鸞木像・蓮如筆桂紙金泥阿彌陀經一卷等あり。

清巖寺　宇都宮市清水町。

㊀淨土宗。

㊁芳宮山高照院と號す。宇都宮經綱入道蓮生の開基せる御室念佛堂の舊跡にして、弘治元年、芳賀伊賀守清原高巖、其兄芳賀次郎高照の菩提を弔はんが爲め旭蓮社儀翁を請じて開創せるものなりと云ふ。

㊂境内に鐵塔婆（高さ十尺餘、幅一尺五分、厚さ一寸七分）一基あり。上部は五輪形にして基部は反花なり。表面上方に阿彌陀の種子、來迎形の阿彌陀三尊を、下部に菩提心論の句及び建立の由來等を鑄出す。右に依れば正和元年、孝子某、母の十三回忌供養の爲め建立せしものなりといふ。蓋し稀有の鐵塔婆として珍重すべし、現に國寶に指定せらる。

（清巖寺鐵塔婆（國寶））

安養寺　宇都宮市西原町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁北遊山華岳院と號す。元仁元年、親鸞、下都賀郡大光寺村花見岡（現、國府村大字大光寺か）に一字を建立して安養寺と號す、これ本寺の濫觴なり。後ち、親鸞門侶二十四衆の第三願信房に本寺を附す。永享十二年六世釋願智、結城氏朝の兵亂を避けて奥州米澤郷茂原に寺基を移す。元和七年、奥平美作守、下總國古河に移封せらるゝや、宇都の里西原村の地を寄せて寺地を此處に移さしむ。寛永年間更に現地に轉ず。

㊂本堂・庫裡・鐘樓・寶庫等を具ふ。境内約八百坪あり。寺寶に親鸞及び蓮如筆と稱する六字名號・親鸞像等あり。

一向寺　宇都宮市西原町。

㊀時宗。

㊁宇都宮景綱入道蓮瑜の開創に係ると云ふ。近江國坂田郡息郷村大字馬場の蓮華寺末寺なり。

㊂寺内に長樂寺あり、一向派第四世忍阿の開基にして、本尊阿彌陀如來坐像一軀（銅造）は俗に汗かき阿彌陀と云ひ、左右の膝及び背面に有する錆により、應永十二年四月、宇都宮滿藏の造立に係る四十八體佛の一なる事を知る。現に國寶なり。

觀專寺　宇都宮市西原町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁稻木山と號し、親鸞門侶二十四衆の第十三信願房を開基とす。後ち、親鸞當下野國巡化の砌、自像を與へて安置せしむ。那須郡烏山町慈願寺、同郡馬頭町慈願寺、河内國中河内郡八尾町慈願寺と同系なりと言ふ。

㊂寺寶に親鸞木像・六字名號一軀等あり。

長林寺　足利市西宮町。

㊀曹洞宗。

㊁大祥山と號す。古來越前國普門山慈眼寺末寺なり文安五年、足利城主長尾景人、一家の菩提所として、今の山川長林寺の地に創建し、長雲寺と號す。同年越前國八幡龍興寺の大見祥龍、景人並に定景父子に請ぜられて入山し、龍澤寺と改稱す。大見、本寺に在ること六年、享德二年、龍興寺に歸住す。依つて長尾景長、大見の弟子傑傳祥長を聘して二世とし、今の地に移して龍澤山長林寺と改む。天正五年、堂宇美上し、七世學英宗益再建す。天正十八年、城主長尾顯長、北條氏に從ひて豐臣秀吉と戰ひ、戰後常陸の佐竹義宣に預けらるゝや、九世光巖奮瑞、これに隨從して常陸國竹原の

地に移り、一寺を建て、長林寺と稱す。元和元年十一世月巌宗波の代、將軍家光より朱印十二石三斗を寄せらる。元祿十年、水平寺常恒會地の免讃を十四世萬山汝摠に下附し、爾後關東の古禪林として永く宗門僧侶出世の道場となる。當時、堂宇の修理、新築行はれて寺觀を改め寺運愈よ隆昌となる。これより先き、寛文三年上野國後閑の長源寺と本末關係に就きて爭ひ、暫く長源寺末となりしも、正德二年、十四世祥堂認璃、本末の系統匡正を圖り、遂に幕府の裁斷によりてもとの如く慈眼寺末となる。より祥堂を復古の祖と崇む。文久二年、二十三世雲巖の代、再び風雨の災に罹り、其後再興せられしも、維新以後大に衰頽せり。然れども明治四十一年、二十八世哲道、堂宇の一部を修理し、更に昭和三年諸堂を改築して漸く舊觀に復せり。現今門末寺七箇寺を有す。

（長林寺本堂）

㊂境内千五百七十五坪あり。本堂は單層屋根四注造、碧瓦葺、鐵筋コンクリート造にして昭和三年の新築なり。其他、開山堂・庫裡等を具ふ。什寶に開山、二世、十二世・十四世の畫像・長尾景長、憲長、政長の自畫像・開山所持品數點・應永二十三年鑄造の梵鐘・山水の畫・古文書數通等を藏す。

鑁阿寺　足利市家富町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁金剛山仁王院法華房と號し、建久七年、足利義兼の建立に係る。正和三年、花園天皇より勅願寺たるべき旨の綸旨を賜ひ、佛供料として上野國館林の地を寄せらる。文和二年、後光嚴天皇より興國と書ぜる勅額を賜ひ、又足利直義長門國下關の地を、同基氏備前の地を、同義滿は喜連川及び武藏國戸守の地を各々寄進す。應永十四年、足利滿兼、堂宇を修理す。正長元年、足利持氏、名草郷、上野國橋本郷を、享德三年、駿河守重伸、莊内勳農郷を寄進する等、足利氏一族の崇信大いに厚し。天正十八年、豐臣秀吉の足利城攻略に際し、本寺其兵火に罹りて美上す。翌十九年、德川家康寺領六十石並に一山境内五萬餘坪の朱印を附し、之を再興せしむ。元祿年中、桂昌院（德川綱吉母）、多寶塔を修理し、黄金二百兩を寄す。寛保二年自者院修禮格に昇格せり。此の如く寺運隆盛なりしが、維新の際寺領沒收せられ、また院中二十二坊及びその學頭千手院廢されて一時衰頽す。其後、漸次復舊し、現に當地方の名巨刹たり。

㊂堂宇中、本堂（桁行梁間各五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺）は一に大御堂と稱し、天福二年の造營なり。純然たる唐様の手法になりよく鎌倉時代の特色を示す鐘樓（桁行三間、梁間二間、單層、屋根四注造、棧瓦葺）又同じく天福二年の造營に係る。その下部は所謂袴腰となり、勾欄を廻らし、屋根は低くして軒の出深く全體の構造頗る輕快なり。細部の手法又本堂と同樣にして、何れも現に國寶建造物たり。其他仁王門・護摩堂・一切經藏・

（鑁阿寺本堂）

足利家鐘刻等を具備す。寺寶として、青磁浮牡丹香爐一箇・青磁浮牡丹花瓶二箇あり、花瓶の一は、大正十二年關東大震災の際、口邊を缺損せしも、三箇共現に國寶たり。其他、金剛界・胎藏界曼荼羅二幅・釋迦如來八大菩薩像一幅・涅槃畫像一幅・十二天畫像一幅・古文書並に古器物十數點等を藏す。寺域の東南に足利學校址あり。

㊁大日如來祭禮（三月及び九月二十八日、二十九日）、節分會（二月）等を行ふ。後者は一に鐵年越と云ひ、足利時代よりの古例たる鐵武者の行列あり。

安國寺（アンコク） 河内郡藥師寺村大字藥師寺。

㊀新義眞言宗智山派。

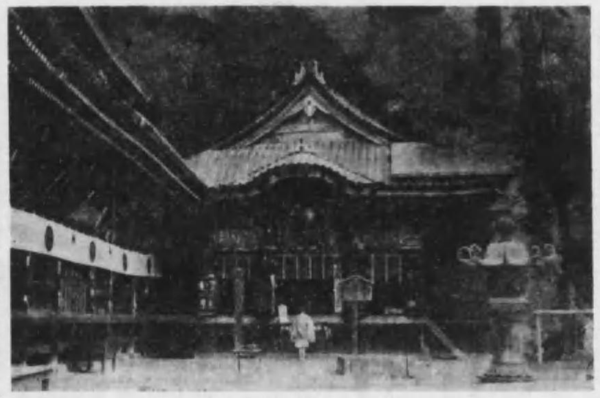
㊁天武天皇即位八年に建立せられたる藥師寺の遺跡なり。藥師寺は東大寺戒壇院、筑紫觀世音と共に日本三戒壇の隨一なり。寶龜元年、僧道鏡、此寺に貶せらる。寛喜三年頼賢（惣檢上人）留錫し、弘長二年その弟子眞賢（惣檢上人）、藥師寺を中興して眞言宗に改む。暦應二年、諸國に安國寺建立のことありしも、下野國には新築せずして、藥師寺を改めて安國寺となす。元龜元年（一説に二年）冬、北條氏に敗れたる多賀谷氏の殘兵、本寺本堂前に集合し、失火して堂宇全燒せしが、本尊のみ辛うじて其難を免れたり。其後再建せられて以て今日に至る。明治十三年二月現宗に轉じ、總本山智積院の管轄に屬す。

㊂本堂・庫裡・前藥師堂・六角堂等を具へ、寺寶として藥眞像一幅・天正二年の日附ある緣起一卷・安國寺及び附近の繪圖面版木一枚等あり。舊藥師寺境内は宏壯を極めたりしが、その中央部約八町歩、大正十一年史蹟に指定せらる。現在、寺域千二百六十六坪を占む。

大谷（オオヤ）寺（大谷觀音） 河内郡城山村大字荒針。

㊀天台宗。

㊁天開山と號す。惣覺大師（圓仁）第一の法嗣傳海の開創に係ると傳ふ。本尊は岩壁に彫刻せられたる一丈三尺餘の千手觀音にして、坂東三十三所第十九番札所なり。



（大谷寺觀音堂）

㊂境内は奇巖怪石幾噴として瀾門廻寶多く、廻壁には本尊の外幾多の佛像彫刻せらる。かゝる磨崖佛は奈良、富山、福島、大分の各地に存すれども、本寺のものは特に優秀なり。夙に史蹟に指定せらる。

輪王（リンオウ）寺 上都賀郡日光町日光。

㊀天台宗。

㊁天台宗の門跡寺にして、一に日光門跡と云ひ、舊滿願寺本坊なり。延暦年中、僧勝道、神宮寺を今の中禪寺の地に建立す。是れ卽ち當山の濫觴なり。後年空海、圓仁等も此地に留錫せりと稱せらる。同寺、四本龍寺、滿願寺と次第に變遷せしが、圓仁以後天台宗となりてより、漸く興隆の機運にむかへり。當時一に一乘實相院と稱せられ、其盛時卽ち延寶年中にありては、本院を光明院と號し、支坊三十六、附屬の小坊等合して無慮三百餘坊に及びたりと云ふ。當山第二世敎旻以來、歴代座主の宣下を蒙りしが、仁治三年、光明院の辨覺始めて其職となりしより、以後光明院世々座主職たり き。しかも應永二十七年、座主大僧正惣玄退きてより、光明院の座主職斷絶し、坐禪院の昌瑜、權別當に任ぜられて寺務を掌れり。爾來九十餘年間、坐禪院世々權別當職となる。慶長十八年、坐禪院昌尊、一山の反對に遭ひて辭職し、天海、幕命により滿願寺に入り、坐禪院に住して四十九世の山主となり、元和三年、東照宮遷座の事に心力を盡す。尙東照大權現銅座と共に大樂院を傍に奉して以て其別當寺となす。同七年滿願寺本坊を光明院の舊址に再建して、光明院の號を再興す。寛永十八年更に今の東照宮の前面に移して建立す將軍家、其他公武の歸依甚だ篤く、寺領二千石に及ぶ同二十年相輪樓建立さる。同年天海示寂し、その遺骸を日光山中大黑山に埋葬し、拜殿、影堂を造營して惣眼堂と名づく。次で天海の法弟公海、その後を繼承し無量院を新築して惣眼堂の別當とす。正保二年、幕府寺領を加增し、總計一萬石となり、後ち、更に三千石を加ふ。慶安四年四月、德川家光薨じ、その遺命により、大黑山に葬りて大猷院廟を造營す。同年九月、後水尾上皇の第三皇子一品守澄法親王、公海の後を襲ぎて門主となり、東叡山に居住して、寛永寺及び本寺を兼住し、天台宗の總管領とならせ給ふ。以後、法親王相繼承し給ふ事十三世なり。明暦元年、後水尾上皇、院宣を以て法親王の門室に輪王寺の號を賜ふ。これより一山の門主を輪王寺宮、又は日光門跡と稱し奉る。寛享元年、寺内より出火して僧坊多く類上す。依つて翌二年、堂宇を新築し、また寛永寺より客殿及び書院を移建す。降つて明治元年四月、德川旗下の士三千餘名、當山内に據りて官軍に抗し、一山危殆に瀕せしも、當山總代權本院道純並に安居院惣立、兩者間に斡旋し辛うじて無事なるを得たり。同年十月、第十三世門跡公現法親王勅命によりて復佛し、北白川宮能久親王と改め給ふ。翌二年、輪王寺の稱號廢さる。依つて學頭代を置きて寺務を管掌せしむ。同四年、神佛分離の令下り滿願權現を二荒山神社、東照權現を東照宮と改め、僧侶の社務に與る事を禁ず。同年、各院區々の名稱を廢して本坊に合併し、單に滿願寺と呼ぶ。同年五月、寺中より出火して庫裡、書院燒失せしも翌五年再建せらる。同七年、學頭代を執事と改め、別に副執事を置きて寺務を輔佐せしむ。同十二年、支院護光院、同十五年、安養、法門、華藏、照尊、淨土、南照、禪智、醫王、櫻本、光樹、唯心、實敎、日增の十三院並に敎光坊（二十五年敎光院と改む）の再興許可せらる。同十六年、本坊輪王寺の舊號復稱許され、一山の總寺號たりし滿願寺を輪王寺と改め、前記の諸院を輪王寺の寺中とす。同十八年、延暦寺の別院と定まり、門跡號を公稱す。同二十七年、歴代法親王の靈廟を建立し、又文庫を經營す。以て現在に及ぶ。

㊂境内面積七千三百餘坪、境外附屬地三十二箇所、總二十八萬坪に達す。堂宇壯麗にして輪奐の美を極め東照宮、二荒山神社と共に日光の二社一寺と稱せらる所なり。堂宇中、本堂及び相輪樓は現に國寶建造物に指定せらる。本堂（桁行九間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、銅板葺）は一に三佛堂と云ひ、日光山内隨一の大建造物にして、内陣に阿彌陀佛、千手觀音、馬頭觀音の三大尊像を安置す。これ舊日光三社の本地佛なり。初め嘉祥三年、圓仁、延暦寺の根本中堂に擬し、山内總の尾鑑に創立して神宮寺となせるに起原す。仁治年中、辨覺これを恒例山麓に移し、元和三年、二荒山神社の東方に轉じ、明治十四年、現今の地に移り同十六年、輪王寺の本堂となれるものにして、正保三年の再建に係る。權式和樣にして規模雄大、全態の均衡整へり。本堂の傍に存する相輪樓（青銅製）一基は天海の比叡山延暦寺の樣に模して、寛永二十年、奥ノ院に建立せるものにして、高さ五十七尺七寸、圓柱狀の塔なり。傳敎大師四字句銘文を鐫す。慶安三年山下に移り、明治八年今の地に轉ず。其の他の堂宇には大師堂・本坊・開山堂・常行堂・惣眼堂・護王殿・四本龍寺・立木觀音堂等あり。立木觀音堂は中禪寺湖畔にあり、別に補陀落山中禪寺と號し、坂東三十三所第十八番札所なり。本尊千手觀音立像（木造）一軀は國寶なり。當山什寶中、以上の外、國寶に指定せらるゝものは、紙本墨書東照權現像八幅・蒔繪手筥一合・住ノ江蒔繪硯筥一合・鍋杖一枝・銀多寶塔一基・銅鏡二面・弊一柄・阿彌陀經一卷・般若心經一卷・紙本墨書日光山縁尾建立草創日記一卷・同東照權現祝詞一卷・銅鈴一口・銅磬一面・太刀一口等にして東照權現像は衣冠束帯の紋服、白衣等服裝それゝ異り姿勢又種々變化あれど、家康の風貌殊によく表現さる。家光、狩野探幽に命じ、寛永十六年より正保四年迄の間に描かしめたるものなり。附屬の守袋は家光の秘藏せるものと謂ひ、在中の書附は家光の熱烈なる東照宮信仰の念を示して餘蘊なし。これを收めたる蒔繪の筥又推賞すべき逸品なり。蒔繪手筥は黑漆塗にして、蓋の表裏に閑雅なる海濱の風景を、金銀を併用せる蒔繪にてあらはせり。其蓋裏に安貞二年卒助永施入の銘記を存す。蒔繪の手法は前代以來の古樣を以てせり。住ノ江蒔繪硯筥は天海所藏と傳へ、德川初期蒔繪の特徴を具ふ。鍋杖には願主秀海の銘あり。鍍多寶塔また文明二年三月十五日奉新造の銘見ゆ。銅鏡二面中、一は八稜形をなし、表面に佛像を毛彫にてあらはし、藤原時代の作と推定せらる。他は菊花に二羽の雀を配せる文樣をその背面に鑄出す。鎌倉末期の作たるべし。弊は其刃琵琶の撥狀をなす。柄には鍍金蛭巻を施し、その趣甚だ古雅なり。阿彌陀經は紺紙金泥、櫻町天皇の御染筆なり。般若心經又同じく紺紙金泥にして、應永十三年十一月十二日、足利滿兼の筆に係る。東照權現祝詞は春日局の筆と傳へ、德川家光の將軍相續問題等の機微に觸れ、秘史として德川世史研究の好資料たり。銅磬には延元元年六月晦日奉施入の銘あり。銅磬は小形の磬にして、裝飾文樣なく、全面に銘記を刻せる異樣のものなり。銘に建保五年六月奉施入とあり。太刀は無銘にして、一に行平作と傳ふ。刀身に寛正六年五

月經使施入の切付銘見ゆ。なほ境内に大猷院廟あり、當寺の所轄に屬す。（大猷院廟の項參照）

大猷院廟（ダイユウインビョウ）　上都賀郡日光町日光。

㊀なし。

㊁德川家光の靈廟にして、輪王寺の所轄なり。輪王寺法華堂の南方山麓に位置す。慶安四年、家光薨ずるや、其遺命により廟地を此地に相し、酒井忠勝監督の下に木原義久、平内正信の二人、大工頭となりて着工し、三年の日時を費して承應二年竣工す。堂塔の配置樣式、手法は殆んど東照宮と同樣なれど、規模稍々小さく、裝飾又簡素なり。本殿、拜殿、相ノ間を連結せる權現造にして、その建造物は一括して國寶建造物に指定せらる。個々に就きて見るに、本殿は桁行五間、梁間五間、重層、入母屋造、銅瓦葺の通常の佛殿式構築なり。屋根には千鳥破風を置き、軒は二軒にして扁極を分布し、斗栱は總て唐樣なり。下層の外部三面は折唐戸及び火燈窓を併用し、切目縁には唐樣勾欄を繞らし、尙ほ主要部には墨くゝ蟻色塗、本朱塗及び漆箔押を併用し、斗栱欄間廻りは彩繪滅金金具等を用ふ。更に内陣は中央三間三面、その正面中央に須彌壇を設け、家光の坐像を安置す。内部の裝飾も亦技巧の極致を盡し、結構の豪華、配色の精美は内外相和して壯麗を極む。相ノ間（桁行四間、梁間一間）は所謂石ノ間なるすして床を張り、床の高さは拜殿と同一なり。この點權現造として異法なるが、しかも棟及び軸部は一段低きを以て、上に海老虹梁を、腰部には妻戸を附して連絡を計る。内部の樣式は拜殿と同一にして天井の格板に鳳凰、本殿との境界の角柱の左右の羽目に昇降の龍を描けり。拜殿は桁行七間、梁間三間あり、軒に唐破風を置き、正面に三間の向拜を附す。屋根は入母屋造、銅瓦葺にして、屋上に千鳥破風を架す。裝飾美麗なること本殿に劣らず。内部は東照宮の神式なるに反し、佛式にして外部と絢爛の美を競ふ。卽ち左右の胴破目に金地唐獅子の極彩圓、天井の格間には金彩の丸龍描かれ、精巧なる裝飾細部に至る迄施さる。内法長押が割形なるは注目に値す。唐門は柱間十尺二寸、兩妻の間隔七尺二寸の向唐門なり。正面に大唐破風を架す。東照宮のそれの白主調たるに對し、金主調の絢爛たるものなり。金具に「いろゑさし」を用ひたる事も前者と異れり。唐門左右の瑞垣は延長約五百九十尺あり、構造は腕木造、屋根銅瓦葺切妻なり。上長押の欄間には極彩色丸彫の花弁唐獅、胴羽目及び羽目板下長押にも極彩色の裝飾を施ぜり。夜叉門は八脚門、桁行三間、梁間二間、屋根切妻にして、前後の中央に唐破風を附す。構築は簡單なれど、細部の手法には見るべきもの少なからず。卽ち柱の胡麻發面の如きは日光建築のみならず全國建造物中に比類なく、圓柱裝飾として甚だ効果に富む。また斗栱其他の樣式も斬新奇拔を極め、殊に金主調の配色は華麗の極致を示す。廻廊は夜叉門の左右和扉より發し、左右に延長す。各々桁行六間、梁間二間、單層、入母屋造、瓦葺にして裝飾あり。鐘樓、鼓樓は夜叉門前に相對峙し、構造、樣式、手法、規模は何れも同一にして、桁行三間、梁間二間、單層、袴腰造、屋根入母屋造、銅瓦葺なり。東照宮のそれよりは稍々規模小に、裝飾乏しきもなほ壯重雄大の權衡を保てり。二天門の構造は大唐陽明門と同樣にして三間一戸の樓門なり。屋根は入母屋造、銅瓦葺なれど、軒唐破風は前後二面となれり。また上層を極彩色に、腰組を一色塗となせる事は陽明門に見ざる點なり。中央戸口の兩脇には前面に唐目、持國二天、後面に緣色風神、赤色雷神を安置す。正面唐破風下の大猷院の扁額は、後光明天皇の御宸筆なり。左右の袖塀は延長二十四尺、腕木造、屋根切妻銅瓦葺なり。水屋は東照宮のそれよりは、屋根の形狀及び支柱下方の多少異きて著しく安定感を與ふ。寶藏は五間三面、單層、入母屋造、銅本瓦葺、校倉造にして三間の向拜を附す。東照宮神庫に類似すれども裝飾は簡單なり。仁王門は三間二面、單層、八脚門、屋根切妻銅瓦葺にして、寶藏の如く、東照宮の表門に比して彩色少なく、裝飾文樣又異れり。奥ノ院の入口たる皇嘉門はその構造、俗に龍宮門と稱せらるゝ異樣式を具へ、小建築なれど、其形狀の優美と配色の雅趣ある點に於て、本廟内隨一と云ひ得べし。その構造を見るに土臺を石造とし、其上に白色の蟻壁立ち、前後の中央に蝦形の入口を設け、多少内方に傾斜して上層の袴腰長押に達す。斗栱は唐樣、軒は二重にして繁樘を分布し、屋根は兩切妻にして左右に破風を架す。組物は極彩色、他は丹塗金箔を施し、白色の蟻壁と好對照をなす。奥ノ院は拜殿、寶塔、唐門（青銅製丁に鑄拔門と云ふ）より成り、拜殿は五間三面、單層、入母屋造の前後に軒唐破風を附し、銅瓦葺なり尙ほ内部には極彩色の裝飾を施せり。拜殿後方に石柵を繞して方形の墓域を設け、中央に寶塔を建つ。慶安四年五月六日、家光を此處に埋葬す。

西明寺（サイミヤウ）　芳賀郡益子町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁鶏鉢山善門院と號し、高野山半腹に在り。坂東三十三所第二十番札所なり。正暦元年、花山法皇の御草創に係ると云ふ。本尊に傳行基作の十一面觀世音立像を安置す。天文元年、表門及び三重塔を建つ、現存のもの卽ち之なり。慶安四年、寺領四十石を附せられ、領主黑羽大關氏の尊信篤く、屢々堂宇を修理す。元祿年中本堂を增築す。

㊂堂宇中、表門（三間一戸樓門、屋根四注造、茅葺）は外見稍々安定を缺くも、手法唐樣にして細部の裝飾彫刻殊に精妙なり。其墓殿、殿間の形狀、彫刻には見るべきものあり。その右方に三重塔一基（三間三層塔婆、屋根棟葺、現今壓板葺）あり。其手法和唐兩樣を混用す。建立年代は何れも寺傳の如くにして、現に國寶建造物なり。

（西明寺樓門〔國寶〕）

地藏院（ヂゾウ）（附、阿彌陀寺）　芳賀郡益子町大羽。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁大羽山と號し、智山派の檀林なり。宇都宮朝綱入道寂心の開創に係る。寺領五十石を有し、内二十石は本尊阿彌陀堂の修覆料なりき。文化年中、地藏院は夷上せしも、阿彌陀堂は其間離れたれば、災を免れて存す。

㊂境内多寶塔は文明二年宇都宮綱久の建立に係る。寺域内に宇都宮家代々の墳墓多し。尙當院境外佛堂に阿彌陀寺あり。本堂は（桁行五間、梁間四間、單層、屋根四注造、茅葺）は一見住宅の如き觀を呈す。手法は唐樣にして、木割纖細、室町時代の建造なり。現に國寶建造物に指定せらる。

（阿彌陀寺本堂）（國寶）

宗光寺（ソウ）　芳賀郡長沼村大字太田。

㊀天台宗。

㊁新御堂山圓頓止觀院と號す。嘉祥元年、慈覺大師之を創建し、東月枝山別當寺と號せりと云ふ。建久四年、源頼朝の本願により堂宇再建せらる。弘安九年、下野國長沼の城主長沼五郎宗光、本寺檀那となり、比叡山無動寺の盛海を請じて中興とす。正應五年、伏見天皇より新御堂山圓頓止觀院宗光寺の勅額を賜はる。尙ほ此際、盛海權僧正に任ぜられ、爾後歷代住職は何れも僧正に任ぜられたりと云ふ。文祿二年、豐臣秀吉より灌室修法の御判を下附さる。慶長十九年、住職天海、德川氏の援助を得て堂宇を修理增築す。後ち寺領五十石の朱印を附せらる。明治五年火災に罹り堂宇悉く灰燼に歸す。同十四年、觀田これを再興し別格寺に列す。

㊂境内四千百八十六坪あり。假本堂・鐘樓・觀音堂・辨天堂・新御堂・地藏堂等を具ふ。寺寶に豐臣秀吉、同秀次の朱印文・尊朝親王書翰等あり。

專修寺（セン）　芳賀郡物部村大字高田。

㊀眞宗高田派。

㊁高田山と號す。古くは高田別院と云ひしも、今は專修寺と稱す。親鸞二十四輩の第二眞佛房の遺跡なり親鸞、眞岡城主大内國時の援助を得、嘉祥元年、其感得せる善光寺の阿彌陀如來の分身を安置して開創す。翌二年、後堀河天皇、勅願所の綸旨及び專修阿彌陀寺の寺號を賜はる。堂宇はその規制善光寺に倣ひ、四方に四門を設け、また明星太子を勸請して鎭守とす。今の柳植神社これなり。親鸞歸洛の後は、弟子眞佛その後を繼承し東國に於ける眞宗の根據たり。眞慧第十世となるや、大いに宗風を發揚し、寛正六年、伊勢一身田に專修寺を建てゝ高田派の本寺とし、下野の專修寺を兼帶所とす。爾後、本寺には住職を置かず、輪番の制をとり、伊勢專修寺の僧、本寺事務を執る。寺寶の大半は伊勢に移されしも、本尊のみは本寺に置き、壓

次伊勢にて、これが開帳供養を行へり。江戸時代には開帳盛んに行はる。櫻町、後桃園、後櫻町、光格、仁孝、明治の諸帝、これを宮中に迎へて御禮拝ありき。

㊁寺域二萬餘坪、本堂(如來堂)・開山堂(御影堂)・太子堂・鐘樓・鼓樓・大門・庫裡・書院・中雀門等を具備し、本堂背後に鎮廟及び當寺八代の墓あり。寺寶に本尊(天拜一光三尊と云ふ)・親鸞木像・釋迦像・阿彌陀如來畫像・聖德太子像等あり。

俗寺域の東二十町に三谷草庵遺跡あり。

當寺の建立以前、親鸞常陸國稲田より來りて棲居ぜる跡なりと云ふ。

(專修寺開山堂)

圓通寺　芳賀郡七井村大字大澤。

㊀浄土宗。

㊁虎溪院と號す。浄土宗名越流の本山にして、名越流の學匠貞榮の塵水九年に創建せる所なり。世に貞榮の門流を大澤流と稱するは、この地名に因む。天正二年正親町天皇の勅願所となり、綸旨及び勅額を賜ふ。近世寺田六十石を有せり。

㊂堂宇中表門(四脚門、屋根切妻造、茅葺)は國寶建造物なり。樓式純唐樣を用ひ、細部の手法甚だ珍奇、精妙にして全體の形狀又優美なり。室町中期の建築と思はる。

(圓通寺表門)(國寶)

滿願寺　下都賀郡寺尾村大字出流。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁出流山千手院と號す。本尊は千手觀音にして坂東三十三所第十七番札所なり。延曆年中、僧勝道の開創と傳へ。弘仁十一年、空海東國巡錫の際、靈夢に感じて本尊の像を彫刻すと稱ぜり。足利時代に國守の崇敬篤く、墨印二十石を寄せらる。本寺開山勝道は又日光山を開きしに依り、德川氏の尊信後からず、日光の修驗者は必ず入峯の修行を本寺に於て行はしめ、且つ守護不入の地として、十萬石の格式及び寺領五十石の朱印を與ふ。當時、總本山智積院移轉地七箇寺の一に列し、常法鶴林として同宗有數の名刹たりき、維新後、寺領を上地してより寺運稍々衰へしが、明治十一年、吉堀慈恭之が復興に努めしより一山漸次舊觀を復するに至れり。

㊂寺域は海拔二百三十尺の出流山腹の地を占め、頗る巖石の美に富む。堂宇には大御堂・奥ノ院・千光院・女人堂・經藏・寶光院・藥師堂・毘沙門堂等あり。御堂(本堂)は寶暦五年の改築に係る。奥ノ院はこれより三町餘、懸崖の中間にあり。二十五間百二十餘階の階廊を登りて達す。千光院に於てはもと、大師、奥ノ院、大日の三窟巡拜(厄除の三山廻りと云ひ現に盛んに行はる)の切手を出せり。

㊃緣日(新舊三月二十一日)、大護摩法(四月十日より二十日迄)等を行ふ、大護摩供會に於ては觀音講員の二世安樂を祈る。

大中寺　下都賀郡富山村大字西山田。

㊀曹洞宗。

㊁大平山と號す。延德元年、小山重長、越後より此地に來れる塔芝正悅に歸依して、一寺を造營し、己が法名大中存孝の大中を以て寺號とす。翌二年、正悅の師快庵妙慶を越後高田の顯聖寺より請じて開山となす。天文十一年、四世龍洲文海の時、同緣の災を蒙る。永祿三年、六世快叟眞慶の代に住持の席に爭を生じ、遂に眞慶、顯聖寺に去りて一時住職を缺けり。同五年、再び奥上し、寺運漸く傾けり。天嶺帝補、百方苦心して中興す、依りてこれを中興開山に推す。天正十九年九代柏堂宗淳の代、德川家康、特に本寺を曹洞宗の僧錄とし、寺領百石を寄せ、また山林竹木寺中門前守護不入地となしてより、寺門再び興る。慶長七年、十世韓嶺眞雄の時、三度火災に罹る。元和六年、幕府、第十三代天南松蔭に供養料を寄す。同九年、又も戒藏の厄あり、幕府、来一千俵を與へて堂宇造營料に充つ。寛永六年、曹洞宗の僧錄關東の三箇寺定まり、本寺、下總國總寧寺、武藏國龍穩寺これに指定せらる。同十一年、德川氏より造營料米三百俵を受け、同十六年、大梵鐘鑄造せらる。同十九年、幕府供養料若干を附與す。正保二年、また奏上す。開創以來五度目の戒藏なり。慶安年中、第十六世門解盛關の時、江戸三田に天曉院を造營し、本寺住職此處に在りて宗門の事務を採り、本寺には總司を置きて住持代理とす。寛文五年、十八代月洲尊海の時、幕府より三度造營料を寄せらる同九年、幕府命じて關東三箇寺住持を年齢の順次に大本山永平寺に住せしむる事とし、翌十年、此制により尊海、永平寺に轉住す。翌十一年、十九代好覺解嚴の時、六度火災に罹る。よりて貞享元年、二十代好山鐵柔の代に德川氏より造營料を受く。文化十二年、七回目の回祿に遭ひ、文政三年再建さる。これ今の堂宇なり。維新の際、僧錄廢せられ、寺地を上地し、寺運一轉せるも、俗地方著名の名刹にして、直末寺三十二寺を統ぶ。

㊂本堂・庫裡・方丈・開山堂等あり。境内三萬坪内に羅漢廟、白鷺溪、西澤、古淫、神靈峰、富士嶺、燈廚、龍洲洞、塔芝池、碑部石、蟠龍瀑の十一景及び七不思議あり。

(大中寺參道)

法得寺　下都賀郡野木村大字佐川野。

㊀眞宗本願寺派。

㊁高槃山上宮院と號す、初め、天台宗の寺院にして睿土寺と稱ぜしが、仁治三年第三代住持潭空、親鸞門徒二十四衆の第一番に沼性信に歸依し、宗派及び寺號を改む。當時は堂宇整備し、寺運亦振ひしも慶長十五年火災に罹り諸堂焼上す。第十七世住職敦運の代に再建を圖り、享保二年に至りて再築成る。明治三十五年更に堂宇を修理す。

㊂寺寶に親鸞筆十字名號及び六字名號・上宮太子像一軸等あり。

觀音寺(寺山觀音)　鹽谷郡泉村大字長井。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁興樂山と號す。もと本寺々域の北方高原山に、聖武天皇の勅建と傳ふる法樂寺なる寺院ありしが、延曆二十二年、雷火の爲に觀音堂の外は悉く燒失せり。大同元年、平城天皇の勅により、坂上田村麿、舊地を去る三里の山麓に一寺を建て、德一を開山となし、興樂山大悲心院觀音寺と改稱す。正治二年、中興開山法橋行圓堂宇を修理す。天正年中、當地方の領主にして、古來本寺の大檀越たりし鹽谷氏、豐臣秀吉の小田原攻撃に與せざりしにより、その領有地は鹽谷氏の家老岡本正親に隷屬す、岡本氏は禪宗に歸依せしにより、本寺寺領を沒收す。これより寺運次第に傾けり。然れども其後、德川氏寺領十二石を寄せ、また天和年中には住僧眞重、宇都宮城主本多忠平の援助を得て堂宇を改築し、以後、宇都宮城主累代の祈願所となるに及び、山門再び榮ゆ。寛政五年、三十五世學慧、醍醐三寶院の院室永俊帶を開基し、第四十世天慧の代迄繼續せしもその死後は一時住職なく大いに衰頽す。然れども近年又漸次復舊せり。

㊂寺域千七百三十五坪、寺寶中に國寶千手觀音及び脇侍像三軀(木造)あり。觀音は丈高三尺三寸八分、鎌倉初期の特徴を具へ、其雄勁なる刀法と清新なる意匠は注目するに足る。殊に其光背の制頗る珍奇なり。(所謂延命形の一種)、脇侍像(毘沙門天、不動明王)は中尊の精巧なるに反し、簡素なる一木造なれど、面貌其他に同期の特色を表はせり。

㊃甲子大黑天祭を年六回行ふ。

雲巖寺　那須郡須賀川村大字雲巖寺。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁東山と號す。高峯顯日(佛國々師)、北條時宗の援助を得て、弘安六年に堂宇を造營し、其師佛光國師を開山に推し、自らは二世と稱す。次に太平妙準(佛應禪師)來住して第三世となる。以上三師を總稱して雲巖の三佛開山と云ふ。室町時代九層華嚴塔建立され、寶田二萬餘石を有するに至る。次の戰國爭亂の世寺門稍々傾く。天正六年、京都妙心寺派の妙德禪師入住してより妙心寺派となる。同十八年、小田原役の際、下野國の那須氏、豐臣氏に抗して本寺に據る。秀吉攻めて本寺を燒き寺領を沒收す。其後、妙德再興せしも未だ舊觀に及ばず。弘化四年、方丈、庫裡奥上し、嘉永

二年再建成る。大正十一年佛殿を修理す。近世寺領百五十石を有せり。

㊁寺域高燥にして林泉の美に富み、堂宇には佛殿・開山堂・虚空蔵堂以下整備す。寺寶中の佛國々師像（自贊）一幅・佛應禪師像（貞治己卯法忻贊）一幅は何れも絹本着色にして現に國寶たり。共に頂相として著名なり。

慈願寺　郡須郡烏山町。

㊀眞宗大谷派。

㊁栗野鹿崎山と號す。親鸞二十四輩の第十三阿輪信願の遺跡なり。信願は俗名藤井八郎信親と云ひ、常陸國烏喰の人なりと傳ふ。初め信願、下野國上郡須郡栗野鹿崎に一寺を營み、慈願寺と號す。天正年中、郡須郡馬頭町健武に移る。開地に現存する栗野山慈願寺これなり。延寶八年、別に分れて一寺を現在の地に建つ。これ本寺なり。

（慈願寺本堂）

㊂寺寶に傳親鸞作阿彌陀如來木像及び同畫像・和讃一帖・聖德太子略繪傳・蓮如筆六字名號等あり。

光厳寺　郡須郡兩郷村大字寺宿。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁正覺山と號す。承安年間、郡須典一宗高の開創にして、唐僧一圓を開山とす、應安年中、郡須肥前守貴村鎌倉建長寺可翁妙悅を請じて中興開山たらしむ。其後、大關美作守高增、堂宇を修興し、京都妙心寺の妙德大蟲を請じて住せしめたり。現に塔中九院を有し地方屈指の古刹たり。

㊂寺域千七百二十七坪。本堂・庫裡・方丈等の堂宇を具ふ。本尊は安阿彌作と傳ふる釋迦如來像にして、方丈には德一作と傳ふる地藏菩薩像及び觀世音像等を安置す。境内に宿龍池、大蟲禪師墳墓等あり。

專稱寺　郡須郡伊王野村大字伊王野。

㊀時宗。

㊁創立沿革不詳。

㊂寺寶中、阿彌陀如來立像一軀（金銅）は高さ一尺五寸餘の小像なれども、鎌倉時代中期金銅像の優品なり。背面に文永四年五月、當地の名家伊王野氏の遠祖藤原資長願主となり、藤原光高造立せし由の銘あり。現に國寶に指定せらる。

妙願寺　安蘇郡堀米町。

㊀日蓮宗。

㊁富宗四十四本山の一なり。日蓮の法弟天目、師日蓮の没後、下野國に來りて創建せるものなり。天目は伊豆波多郷の人、美濃阿闍梨と稱せらる。曾つて鎌倉圓成寺にあり、本迹勝劣の義を唱ふるや、法兄日向其所説の高祖の妙判に至らざるを誡む。天目卽ち改悔して遂に其奥旨を究むと云ふ。延元二年四月二十六日寂せり。晩年武藏品川に庵居し、また水戸領に修多羅寺を建立す。

永臺寺　安蘇郡飛駒村。

㊀曹洞宗。

㊁妙高山と號す。天平年間、僧行基の開創に係ると傳ふ。もと宇寺澤の山頂にあり、後ち廢頽せしが、建保二年、佐野安房守國綱根古屋城築造に際し、現地（字鳥谷）に寺基を移して再建し、一門小野寺縮口入道の願に依り、其師榮西鎌倉壽福寺より講じて開山とす。時に臨濟宗に屬し、佐野庄四箇寺の隨一として、俗に佐野寺と稱し、寺運振ひしが、其後再び衰頽す。天正十二年、佐野家臣小野兵部當地に住するや、大いに諸堂を改修し、當郡田沼町栃本、本光寺第十世久山長蛭を請じて中興開山とし、次で現宗に改めたり。文政元年七月、回祿に罹り、天保七年再建せらる。

㊂寺域千百二十五坪。佛殿・開山堂・山門等あり。なほ境内風致よく獨松閣、聖苑馨、常翠林、歸雲峯、天狗岩、婆神窟、獅天池、花鳥塢の八勝稱せらる。

鍋足寺　足利郡小俣町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁佛手山と號す。寺内に存する弘長三年の鐘銘に「

朱雀皇帝の御願所、羽林中郎將藤依の地」とあり。羽林中郎將は平將門の父良將、又は下野左近衛中將藤原公孝なりと稱せらる。本尊は不動、軍荼利、降三世、大威德、金剛夜叉の五大明王にして、將門亂に際し其靈驗著しかりきと傳ふ。文永年中、高野山金剛三昧院僧意敎（賴賢）の法弟慈猛（良賢）中興す。爾後、從來の顯密二敎の袈裟を改め、當宗慈猛流の根本道場となる室町時代には鑁阿寺等と共に鶴岡八幡宮別當職の袈裟たり。現今末寺百三十寺を統べ、慈猛流の本寺なり。

㊁本堂・不動堂・閻魔堂・五大尊堂・鐘樓・客殿・寶藏・庫裡等を具ふ。寺寶中太刀（銘力王、拵黑漆太刀）一口は現に國寶に指定さる。力王は千手院流派に屬し其遺作稀有なり。殊に當太刀は大作にして頗る珍重すべし。拵又室町初期の裝刀法に據れり。

龍江院　足利郡青麦村大字上羽田。

㊀曹洞宗。

㊁明應三年、水戸領主佐竹義舜、其父義定追福の爲に水戸城内に造營せしものにして、開山は秀峯存啓なり。慶長七年、佐竹義宣、秋田に移封せらるゝや、十二世玄芳、寺寶を護持して下野國間々田に至り、一寺を創して龍昌寺と號す。同十八年現地に移れり。

㊂寺寶中、エラスムス立像（傳貸狄尊者像）（木造）一軀は國寶に指定せらる。高さ三尺四寸五分、その手にせる巻物に、エラスムス。ロッテルダム。一五九八なる銘ありて、文藝復興期の和蘭碩學エラスムスの像なる事を示せり。渡航編船々尾に置かれて其電除けたりしものなりと。作技優秀にして對外交通史上の珍寶料たり。

淨因寺　足利郡北郷村大字月谷。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁行道山と號し、關東四靈場の一に列す。僧行基の開創と傳へ、開山は法德禪師なりと云ふ、其後の沿革は詳らかにせず。

㊂境域三萬八千二百十四坪。海拔凡そ千三百尺、行道山巓にあり。紅葉を以て著聞す。山麓に直下十丈の淵泉懸り、雌雄瀑と稱す。山門を過ぎ、本堂に至れば堂前に一巨巖あり、巖上に遊仙閣、淨心亭の二小亭あり。眺望脚下に展け、奇巖萬態、秋色の妙致極まりなし。堂後を登ること十町にして不開堂に達す。山頂は四十九隱と稱し、巖石累堆し、其上に寶釋迦を安置す。四面豁然として、關八州を一眸におさむ。附近に清心亭、指月橋、窟龍池、不明堂、涅槃堂、地藏院、阿叫瀧、雨晴臺、雷電窟、結之平の十勝及び獻餅石、止母石、屏風石、臥牛石、荷鞍石等の五名石あり。

最勝寺　足利郡三重村大字大岩。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁大岩山多聞院と號す。本尊毘沙門は聖德太子作開浮檀金像と傳へ、信貴、鞍馬と相並びて日本三體の一なりと稱せらる。僧行基毘沙門天王の夢託を蒙り、此地に本像を安置して一宇を創せしに由来すと云ふ。天正十七年、勅して寺號を賜ひ本堂・經堂・釋迦堂以下十二坊を建立せしめらる。觀應、文和兩年間、足利氏の歸依厚し。文安四年五月、雷火の災に罹り堂宇美上、寶暦十二年再建す。古來商賈の信仰厚く、緣日には賽者堂に滿つと云ふ。

東北地方

宮城縣

仙臺別院　仙臺市東一番丁。

㊀眞宗本願寺派。

㊁明治十三年二月二十日、本願寺明如上人の創立に係り、初め本山說教所たりしが、後ち改めて別院とす爾來漸く發展し、同四十二年に至り本堂を改築して面目を一新す。

㊂境内九百二十五坪。

東北別院　仙臺市東三番丁。

㊀眞宗大谷派。

㊁明治十四年宗主最如上人の創立に係る。後ち故ありて一時廢院の已むなきに至りしが、大正二年に至り彰如上人之を再興し、同年四月二十二日開院式を擧ぐ。

㊂境内四千二百坪。間口十三間、奥行十二間の假本堂は舊桃山御殿の書院なる之に充てしものと云ふ。他に教務所、道交會寄宿舍等あり。寺寶に桃山御殿傳來妻戸四枚を藏す。

稱念寺　仙臺市新坂通。

㊀眞宗本願寺派。

㊁櫃昌山本善院と號し、偖に北山の赤門寺と云ふ。

（稱念寺本堂）

親鸞上足二十四聚の第十一綾和無爲子房說法利生の遺跡なり。無爲子房は有大臣橘諸兄の齋にして俗名橘氏部少輔と稱す。曾つて師命を奉けて是信、覺圓、源海、專空等と共に奥州教化の劍、會津綾和の地に草庵を結びしを以て當寺の草創となす後ち現寺地に移れり。

㊂寺寶に親鸞筆十字名號二軸、同消息二紙、七體連座影像、聖德太子木像、蓮如筆六字名號等あり。

瑞鳳寺　仙臺市越路。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁正宗山と號す。往古滿海當山に修法し、大般若經奥ゐ峰頭に藏ぜりと傳へ、一に經ケ峰の名あり。寛永十一年國守伊達氏の創建にして清岳を以て開山となす。伊達氏累代の香華所なり。

㊂境内に伊達三代の墳廟あり。瑞鳳殿、成仙殿、善應殿是にして、就中瑞鳳殿は輪奐壯麗にして結構日光廟に亞ぐと稱せらる。廟内に政宗像を安置し、正面に掲ぐる瑞鳳殿の扁額は佐々木文山の揮毫に係る。奥殿は青銅瓦を以て葺き、同じく瑞鳳殿の三字額は伊達忠宗の筆なり。涅槃門の傍に青銅手洗盤、梵鐘等存す。成仙殿は忠宗廟にして内に忠宗、同夫人其他の像を安置し廟傍に殉死者碑あり。善應殿は三代綱宗の廟にして瑞鳳殿を距る凡そ二十歩、内に靈牌を安置せしが維新後毀ちて成仙院に合祀す。其他境内には戊辰役戰死者碑（伊達宗基建立）、西南役戰殁者碑等あり。後者は儘仁親王筆額・澤少將親撰文・廣谷太政官書記官揮毫に依るものなり。

輪王寺　仙臺市北山町。

㊀曹洞宗。

㊁金剛寶山と號す。後花園天皇嘉吉元年領主伊達持宗、祖母圓庭明玉尼の本願によりて當國伊達郡黒川の地に草創し、僧大庵を請じて開山とす。同年將軍足利義教の上奏により宸筆扁額を賜はる。後ち伊達氏居城を移すに隨ひて郡内西山、出羽米澤、當國岩出山等に轉ぜしが、慶長七年終に現寺地に定まり、寺領百四十七石を受く。次で元祿四年新たに本堂・禪堂・客殿等を造營し、藩主より靈水扶持五十人分を給せられ且つ東奥八百八箇寺總錄司を命ぜらる。當時末寺五十餘寺ありて一門林の優遇を享く。明治九年廢藩の災に遭ひて堂宇灰燼に歸せしが、幾許ならずして再建せられ今日に至る。現在末寺四十箇寺を有し常恒會地たり。

龍寶寺　仙臺市坊主町。

㊀古義眞言宗。

㊁惠澤山と號し、御室派に屬す開基年代詳かならず。舊醍醐三寶院の末寺にして出羽米澤成島にあり。維新前は大崎八幡宮の別當寺として、伽藍莊嚴を極めしが明治初年、廢寺となり、明治三十二年再興せられて現在に及ぶ。

㊂本尊木造釋迦如來立像一軀は、現に國寶にして（明治三十六年四月指定）國守伊達綱村の寄進に係り、其形貌、衣紋、螺髮等嶮峻清涼寺の釋迦像と形式を同うす。但し同じく清涼寺式なる鎌倉極樂寺、茨城縣福泉寺等の像とはその趣を異にし、彼我孰れも精緻なる技巧を以てせる細身の像なるに反し、本像は堂々たる體軀に曬殿なる相貌を備へ、刀法等又簡素勁健なる趣致を存ぜり。從つて製作年代亦他に比して古致を認められ所謂清涼寺式釋迦機像の最古品なるべく、鎌倉初期を下らずと思考さる。他に文殊・普賢の像を有す、高さ丈餘なり。尙ほ仙臺三文庫の一の稱ある法寶藏は明本一切經・群書二萬餘卷を藏せしが、維新後悉く散逸せり。

㊃毎年二月十五日開帳にて涅槃會あり。

孝勝寺　仙臺市東九番丁。

㊀日蓮宗。

㊁光明山と號し當宗本山たり。弘安年中日門の開創と傳ふ。永仁三年六老僧日持留錫して弘法に努めしに依り寺務大いに加はる。もと大仙寺と稱せしが伊達政宗當寺に歸依して全勝寺と改めたり。政宗の宝孝勝寺殿德川振子亦深く尊信し堂宇を重修す。藩主綱村に至り寺領を寄せ堂宇を改修して現寺號に改む。後ち日潮本寺を中興して伊達南部二領下に多くの末寺を興し寺勢愈々盛なりしが、幾後數度風蝕の災に遭ひ、現在の堂宇は何れも維新後の再建なり。

㊂境内一萬四千餘坪あり。本堂・光明殿・寶藏・書院・庫裡等を存す。又池田氏並に烈婦政岡の墓あり。尙ほ本寺東北四町餘檜ケ岡の地に元祿八年綱村建立の釋迦堂あり。本尊赤栴檀釋迦像は政岡の守本尊たりと傳ふ。

（孝勝寺總門）

寺寶として政宗寄進不動尊像・綱村寄進二天王像・日蓮眞筆等其他伊達家關係の古文書古佛像等多數を藏せり。尙ほ當山織座光明稻荷大善神は古來靈驗顯著なるを稱せられ、遠近より參拜者絶ゆる事なし。

㊃光明稻荷祭（四月一日）、大流燈會（八月二十四日）、龍ノ口法難會（九月十二日）等あり。

正樂寺　仙臺市新寺小路。

㊀眞宗大谷派。

㊁北原山と號す。眞源の開基と傳ふ。眞源僧名を佐藤眞玄と云ひ忠信の後裔にして、親鸞高弟性信に師事し名取郡笠島に草庵を結びて之に居る。之れ本尊の濫觴なり。後ち蓮如の弟子願勝奥州教化の際親鸞筆六字名號を當寺に傳ふ。二世願勝の時玉造郡岩出山に移り更に三世明慶の時名取郡白逢邑北原に移る。翌で仙臺に移り正樂寺と號するや、慶長十二年四月伊達政宗之に黒印を附して封内の宗寺となす。同十三年採華園として松林一町歩及び平泉中尊寺に屬せし古鐘を寄す。翌十四年八月青葉城下八ツ塚に移る。

㊂寺寶に傳運慶作阿彌陀如來像（本尊）・傳空海作金銅阿彌陀如來・七高僧畫像・傳土佐光成筆親鸞繪傳等を有す。境内に木村重成室糸子の墓あり。

國分寺　仙臺市木ノ下。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁護國山と號し、一に善逝堂、また藥師堂といひ、天平年間、聖武天皇の勅願に依り國毎に建立せられたる所謂國分寺の一にして正しくは金光明四天王護國寺と稱すべし。大同年中、坂上田村麿之を修營す。後ち更に藤原秀衡僧房を建立して頗る壯觀を極めしが、文治五年の兵燹に遭ひて燒亡す。天正年中國分盛重再建後慶長九年より同十二年に亘り、伊達政宗之を大いに修營せしが、當時の遺構としては今僅かに藥師堂を存するのみ。

㊂藥師堂は現に國寶建造物に列し（明治四十一年四月指定）、方五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、比較的宏大なる堂宇にして、前面東に一間の向拜を附す勾欄擬寶珠の銘に「慶長十仁年丁未十月日、奉行小手森五左衞門、町山與二郎作」とあり、本堂建立年代の徵證

とすべし。構造樣式格別珍とするに足らずと雖も、其細部の手法繪樓彫刻等に於てよく桃山時代の風調を有す。本堂は明治三十八年春の修造に係れり。なほ寺内に阿彌陀堂・辯財天堂を存せり。

藥師堂　仙臺市木ノ下。

國分寺の項參照。

高藏寺（阿彌陀堂）　伊具郡西根村大字高倉。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁高倉山と號し、又一に勝樂山ともいふ。嵯峨天皇弘仁十年四月德一の開創と傳へ、治承元年聖圓之を中興する所なり。同二年藤原秀衡、入ノ坊、大門坊、一乘坊の三塔中を增

（高藏寺阿彌陀堂）（國寶）

營し、朱印三十石の寺領を寄す。建武二年、北畠顯家再び之に大修理を加ふ。永正二年、本寺戚融の災に罹り、次で慶長十三年、國守變替と共に寺領を沒收ぜられ寺勢頓に衰へたり。

㊂境内八百五十餘坪。堂宇東南に面し、松杉鬱蒼として深く寺境を圍めり。境内に方三間の阿彌陀堂ありて、現に國寶建造物たり單層、屋根四注造、茅葺にして、（明治四十一年四月指定）。所謂阿彌陀堂建築にして、外觀白水阿彌陀堂に似たれども、手法簡略にして、組物等舟肘木を用ふるに過ぎず。しかも其手法頗る雄健比較的太き圓柱は厚き草葺の屋根と雄大なる桷を受けて、外觀よく權衡を保てり。内部天井、虹梁等の構造樣式等に藤原後期の作風を存す。全體の印象、高雅簡樸にして珍重すべき藤原後期の遺構なり。もと荒頽を極めしが大正二年の修理に因り舊態に復したり。内陣後壁に接して安置せる本尊木造阿彌陀如來坐像一軀も亦現に國寶に列し（昭和二年四月指定）、光背、臺座も具足し、總て藤原式の丈六像なるも、其相貌、衣紋等の刀法に鎌倉期に近き特色を現せり。本尊の下に大なる三鈷の雌刹壇を設け、雲氣饕餮の彫を彫れり。其間左右に十三佛を設けし跡あり。古額榜高藏寺の三字は嵯峨天皇の宸筆なりと傳ふ。寺中に上樂文を藏せり。所々消滅の簡所あれど、造替修理の古事を知るに足る即ち弘仁十年、伽藍を新造し、德一の建立に係る。治承三年五月修理を加へ、後ち國司秀衡妻女、其廢壞を改修し、國司北畠大納言入道、建武二年、國宣により て高藏寺を修造して既に成るとあり。又傳運慶作丈六の木造阿彌陀佛像一軀を藏せり。

㊃大祭典（四月十五日）、般若會（七月六日、六月一日）等。

瑞巖寺　宮城郡松島町本松島。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁青龍山と號し、一に圓福寺或は松島寺ともいふ。東奥無雙の禪林にして、松島の勝名と相俟ち、海内に喧傳せらるゝ所なり。初め天長五年圓仁此地に天台の一寺を創し延福寺と號せるに由來す。鎌倉時代に至るや、宗規年に衰れ法弊時に加はる。即ち執權北條時頼宋より歸朝せし法身を請じて此處に住せしめ、改めて禪院となし、松島山圓福寺と號せしむ。之より大覺、

（瑞巖寺本堂内部）（國寶）

覺雄、智覺、覺滿、明極等の歸化僧來りて住持たり。第九十一世義山の時鎌倉建長寺末に屬せしが、次世宗中の時改めて妙心寺末となれり。後年伽藍稍々頽廢せしが、慶長九年、伊達政宗、紀州具匠中村日向守吉次等に命じて寺宇を修營せしめ同十四年三月竣工す。現在の殿宇即ち是なり。茲に於て政宗、海内を請住し改めて瑞巖圓福寺と號す。爾來世々伊達家の菩提所たり。政宗歿後、忠宗其遺命に依り、寛文十三年妙心寺より雲居を招請し、以て寺門を中興す。爾來叢規頽に帰る。當時寺領二百十五石其三里四方は當山の墾料地たりき。而して伊達家一門格の優遇を蒙け、出仕等其例に依り舊邑數十軒其寺士たりしといふ。七十餘の末山と、得

住、福隆、傳曲、青松、江月、萬松、瞬芳、大光、圓同、寶珠、護國、龍月、法雲の十三塔頭、中門より大門間に靈を並べ、法威大いに振へり。然るに維新後寺祿及び寺有地を失ひ、寺運いたく衰へしも、明治九年六月、聖駕東北巡幸の御、當山を行在所に充て給ひ、當山緣起を聞し召され、修繕費として御下賜金の事あり、以後所在の喜捨漸く多く、重修寺觀漸く舊に復するを得たり。同十五年十一月、其記念碑建立す。百二十五世釋薩水師晋山するや、舊藩及び縣内有力者により保端會起り、堂塔の修理相次ぎ明治三十六年十月總伽藍の營繕竣に成り輪奐こゝに莊嚴にして寺勢頓に揚れり。現に末山五十八箇寺を有す。

㊂諸堂宇中現に國寶建造物たるものを列擧すれば次の如し（總て慶長十四年三月の建立）。

本堂。桁行十三間、梁間（右側九間、左側八間）單層、入母屋造、本瓦葺にして一に大方丈と稱し、當時の方丈造の典型なり。南面右側前方に御成玄關を出し、左側前方に懸魚を出し、恰も本堂の兩翼を成す。御成玄關（三間六面）の構造手法は注目に値し、其平面は屈曲して乙字型をなす。屋蓋は入母屋造にして正面切破風の前に唐破風を附し、形狀變化に富むと雖も其手法頗る雄健莊重なり。細部多く刀法堅實なる繪樓彫形、彫刻を用ひて桃山時代建築の放膽にして雄勁なる趣致を示す。蓋し其形式禪宗建築に則るも、手法樓式飽く迄日本的なるを見るべし。室内の結構裝飾其善美を盡す。何れも中村日向守吉次の作たり。内部疊敷中央を佛間とし孔雀ノ間と稱す。襖繪は狩野永德並に長谷川等風作の全壁畫にして、佛壇に政宗甲冑像及び本尊聖觀音像（三國傳來佛にして草創以來の安置と傳ふ）を安置し左右に伊達家歷代位牌及び法身、雲居、潤水等の木像を並置す。孔雀ノ間の左右に雲ノ間、文王ノ間（御成間若くは上段ノ間といふ）あり、總て小組格天井、前者は舊伊達家一門の詰所にして、襖子に狩野山樂の雄鷲雲圖及び狩野九郎太の梅檜圖あり。奥なる上々段ノ間（御座ノ間）は明治九年聖駕巡幸の御、其玉座たりき。襖の緣は蜀紅錦、雲に天人の繪は等風の筆なり其他松鶴千鳥ノ間（襖繪狩野信高）羅漢ノ間（襖繪狩野孝信）墨繪ノ間（襖繪吉備公益、信高、山樂）等あり總じて建築繪畫共に桃山朝の眞髓を示せるものにして當代建築斯の如き奇巧と意匠の縱橫無盡なるは、他に比屋するものなく、當時政宗東奥の鎮地にありて豐太閤と其榮華を競ひし跡を偲ぶべし。

（瑞巖寺廊）（國寶）

御成門（樂醫門）。入母屋造、本瓦葺にして、規模大ならずと雖も形態權衡よく、手法奇奇ならされども頗る雄勁にして細部の繪樓彫刻等精巧なり。一見明かに桃山時代風調をなす。

中門（四足門）。御成門に並びて其東側に建ち、南面して本堂の中央南面に當る。門は四脚切妻造、棟蓋にして軒に木割比較的雄大なる疎桷を分布す。裝飾彫刻の意匠等御成門に同じく、全體の構造手法等頗る簡素なりと雖も頗る雄健なる風趣を具へよく當時代の特徴を發揮せり。（以上孰れも明治三十三年四月指定）

東裡。桁行（左側四十二間、右側四十一間）梁間（左側六間、右側七間）、屋根切妻造、本瓦葺にして、妻を正面とし屋頂煙出し棟あり、外觀頗る雄大、手法勁健なり。内部屋根裏小屋組にして粗削の大柱雙立し、無數の貫梁綻橫に渡り豪宕の氣宇溢れり。京都妙法院庫裡、嚴島神社攝社豐國神社等と相類似し、桃山時代斯種建築の貴重なる遺構といふべし。

廻廊。桁行延長二十五間、梁間一間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、本堂の左側より發し若干南折して前端に小玄關を作り、御成玄關と左右均齊の配置にあり。西側中庭に面して勾欄を架せる濡縁を造り、内部は板張、化粧屋根裏を表し、紫紅樓を架せり。勾欄の制特に見るべきあり。全體の樓式手法唐樣精神を踏襲し他建築との權衡殊に優れたり。（以上明治三十六年四月指定）

右國寶建造物の他に五世天嶺青桑海禪林の大額を揭げたる總門及び小玄關又同じく慶長度の建立に係れり廻廊東側の小方丈・書院・寶庫・鐘樓等亦當山の一廓を造る。其他境域内には臥龍梅、南蠻鐵製燈籠、政宗手植五葉松、岩倉右大臣撰文碑、法身窟（無相窟と云ひ時頼入道毛髮埋葬碑、雲居國師行狀碑、法身像を存

す）等あり。雄島は天台宗當時本寺の奥ノ院たりし所にして、今の村社山王神社は草創當時比叡山下山王權現を勸請せしものと傳へ、永く其守護神たりき。塔頭は現今圓通院、傳曲庵、天麟院、陽德院等當山由緒庵院を存するに過ぎず。本寺右方の觀瀾亭は政宗遊息の地東南岸に近き五大堂は慶長五年建立に係り現に國寶建造物たり（其項參照）。他に觀音像、楊柳大觀音石碑、松本重太郎建立觀音銅像（高一丈餘）等あり。寺寶には前記の他に狩野家並に各名僧の筆に成るもの其數を知らず。又金毛搏子・空海筆般若心經・春日作霜面・清和年間作能面・防火鈴・火用心刻板・酒井忠直寄進紫石硯・燭臺・佛舍利・二位尼自筆公帖等あり。

㊃開山禪師例祭（舊八月八日）、開基公例祭（舊五月二十四日）、佛誕生會、涅槃會、瑚鈴樓のお廻り（歲末大晦日）等を主なるものとす。

五大堂　宮城郡松島町本松島。

㊀（瑞巖寺內附屬堂）。

㊁桓武天皇延暦二年坂上田村麿の創建に係り、當時多聞天を祀り毘沙門堂と稱へしが、後年圓仁之に五大明王を配り五大堂と云へりと傳ふ。後陽成天皇慶長五年藩主伊達政宗刈田白石城攻略に際し、夢告により紀州の良匠鶴右衛門等に命じ本堂を再建せしめしが、同九年十月工を竣へ、三十石の堂宇料を寄せたり。爾來松島名所の一として饗者絶えず、大正四年七月古社寺保存法により大修理を加へられ面目を一新せり。

㊂現在の堂は慶長五年の建立に係り、瑞巖寺の東南海岸に近き五大堂島にあり。現に國寶建造物にして（明治三十四年三月指定）、三間三面、單層、屋根寶形造、本瓦葺、前面に一間の向拜を附せり。欅衝壁美なる堂宇にして細部の手法又堅實なり。蟇股其他に裝せられたる繪樣彫刻等總じて桃山時代の特色を發揮せり。內部の須彌壇、厨子亦頗る精巧なる唐樣手法になり、裝飾彫刻の巧緻なると共に注目すべし。厨子の形態略ぼ五大堂を縮小せるが如く、中に安置されたる五大明王は一木彫にして平安朝初期の作風を示せり。なほ本堂前檐に懸けられたる鐘口の銘に「乾元元年正月十一日草驗入道勸進五郎爲武運長久」とあり。此他松島雲月記、覺重高陸碑等建てり。本島は陸を距ること數十歩、中間の一岩崎を隔てゝ二橋を架せり。第二橋を松島橋と呼び、又筏橋と稱して、紀德民の所謂洗橋是なり。岸畔に長松茂り往古は更に紫藤橋を敷ひ、民部輔忠敎が「ふみわけて

（五大堂）（國寶）

わたりもやらすむらさきの藤咲きかかる松島の橋」と詠じて有名なりしが、後ち放ありて罰伐せられたり。陸さの中間に島ありて八幡の小祠を祀る。往昔同村八幡崎に在りしを、寛永十七年十月此地に移せしものにして、類聚國史に松島八幡として見へ稀有の古祠なり。本島は雄島と共に松島中の名島にして、老松蒼々たる間五大堂の欄檻碧潮に倒映し、二子、屏風、福浦、毘沙門、地藏の諸島遠近に横はり、眺望海內に冠たり。

㊃春秋二回の例祭あり。

洞雲寺　宮城郡七北田村。

㊀曹洞宗。

㊁龍門院と號し、俗に山の寺と云ふ。慶雲年間僧定惠の創建に係り、弘仁年間圓仁當寺に來錫して獅來山の寺と稱すと傳へたり。曆應元年加賀大乘寺三世明峯素哲東北遊化の砌、中興して龍門山洞雲寺と號す。素哲加賀に還るや、再び衰頽せしも、應永七年梅國祥三東北巡化の際、當寺に來り領主國分盛行に請ひて再興し、七堂並に二十五院を建立し境內百餘町に及ぶ。その弟子安榮、實底兩人、寺僧に龍月、泉龍二院を剏して之に住し以て師を輔く。文安四年四月梅國寂後堂塔漸く荒廢し、二十四院中僅かに龍月、泉龍、江北、江西、景雲、當陽六院を遺すに過ぎざりしが、享保年間輪王寺の公海・この地に退隱するや、當寺の諸堂を修復して舊觀に復し領主より百十九石餘を寄せらる。明治年間聖駕東巡の砌、特に當寺に鳳輦を駐め給ひたり。

㊂境內地廣潤にして、寺內に熊野權現・飯盛五社明神・秋葉權現・荒神・山神の五祠あり。又附近に龍門十五境ありて景勝を以て聞ゆ。

安國寺　志田郡志田村大字柏崎。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁興聖山と號す。曆應二年足利直義、尊氏の志を繼ぎ、僧疎石の說に從ひて諸國に令し國家安康祈禱道場として一國一寺を建つ。利生安國は佛乘を弘むるに如すとの主旨より古の國分寺制に倣ひ元弘以來戰歿者供養のために設けしものなり。當寺はその一にして疎石之が開山たり。初め鶴峯天龍寺に屬せしが、荒廢の後ち常樂寺と改號し、一時寶洞宗に屬せしが、後ち現派に歸す。慶安年間藩主伊達忠宗雲居國師を瑞巖寺より請じて當寺を中興せしめ寺領十七石を寄す。其後柏庭悅岩更に一宇を建立し本源庵と號せしが、その瑞巖寺を兼すに及び法嗣遠玄をして當寺に住せしめ、次で寺號を安國寺に復す。

琵峯寺　遠田郡琵琶村大字琵琶。

㊀天台宗。

㊁無夷山尊常住院と號し俗に琵琶觀音といふ。奥州三觀音の一たり。寶龜六年鎭守府將軍大伴駿河麿の草創と傳へ、延暦年間坂上田村麿此地に堂宇を創建すといふ。古く露嶽山正福寺と號せしが、嘉祥二年圓仁之を中興して現號に改めてより天台宗に屬す。當時常住の衆徒二十一坊ありて寺勢盛なりき。舊寺領百二十石なり。

㊂境內二千五百餘坪あり。三面山に倚り南方河海開けて絶勝の地を占む。堂宇は南面にして配置の制柔く地勢の高低に依り、本堂・仁王門・護法堂・藥師堂・文殊堂・彌陀堂・鎭守白山妙理堂・琵宮權現祠あり。他に坊舍二十宇東西に散在す。寺寶に本尊十一面觀音・多聞天像・傳田村麿所用水晶五輪・水火珠・陣笛・書寫大般若經等を藏す。

㊃陰暦正月二十五日。當寺は五發塹壕を所りて驟驗ありと傳へ、當日近縣よりの參詣者踵を接す。

雙林寺　栗原郡築館町。

㊀曹洞宗。

㊁醫王山と號し、俗に杉乘師と稱す。寺傳に依れば孝謙天皇の勅願により天平寶字四年に開創せられ、元本郡一ノ迫下宮邑能持寺末に屬して興福寺と號せしが天正の頃天台宗より改宗して今の寺號とすといふ。天德二年、嘉保三年の再度に亘りて改修す。元暦、文治年間より荒廢甚だしく正和、永正年間の修補ありしも遽かに一堂を殘すのみとなれり。後西院天皇承應三年に至り伊達忠宗僧茂林を當寺に請じて堂宇を再建し寺領を寄せてより粉々舊觀に復せり。

㊂本尊木造藥師如來坐像一驅（俗に杉乘師と稱し藥師堂安置）・木造二天王立像二驅は共に現に國寶に指定せらる。藥師像は一木彫成の特色あゝ像にして製作年次は堂の創建（天德二年）と略ぼ同時なり。二天王像は堂の外陣に置かれ純然たる藤原時代の作風を示し、嘉保三年頃の作と推さる。他に古像等多し。

觀音堂　牡鹿郡大原村大字給分浦。

㊀曹洞宗。

㊁昔時城山持福院の知行所にして眞言宗に屬せしが現在鮎川村大金賣山陽山寺の管理に係る。昭和七年龍堂を建立す。

㊂境內六百坪。觀音堂は四間四面、海濱に臨みて建ち、東方金華山に接し、西は遠く松島の景勝あり。寺境古杉老樹繁茂し、自ら幽邃の地なす。本尊木造十一面觀音立像一驅は現に國寶に列す。像は一木造に見る簡樸なる手法になり、略ぼ鎭倉初期の作と推定さる。寺內に弘安八年及び享保、寶曆年代の碑を存す。

（觀音堂）

福島縣

眞淨院　福島市。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁草創年代並に沿革詳ならず。
㊂寺寶中、鍍金金剛鈴・金剛杵等筒入二箇は明治三十八年四月國寶に列す。

常光寺　福島市清明町。

㊀曹洞宗。
㊁長規禪師の草創に係り、遠江國中田村雲林寺に屬す。初め信夫郡大森村にありしが、天正年間現寺地に移轉す。同十八年豐臣秀次九戸政實討征の途、當寺に慰勞宴を張りしことあり。德川時代五貫文の寺領を有す。板倉氏藩主たるに及び菩提所と定む。
㊂境内千四百餘坪。堂宇に本堂・開山堂・十王堂・觀音堂・鐘屋・庫裡・鐘樓等あり。寺内に板倉家墓碑あり。

康善寺　福島市西裏三丁目。

㊀眞宗本願寺派。
㊁親鸞弟子明教開基の地なり。寺傳に、明教はもと平氏に仕ふる武人なりしが、其沒落後出家して源空に投じ、建白二年東下して親鸞に侍す。貞永年間親鸞歸洛に際し、數種の靈寶を授けて東國に留まる。卽ち信夫郡黑岩村に草庵を創し遠境の教化に從ふ。建長四年宗意を亂すものあり、明教憂ひて上落し親鸞に告ぐ。乃ち親鸞自彫像、正邪判決消息、八字名號を得て歸關し以て邪徒を伏す。後ち寺號を秀安寺と定め、文永五年二月寂す。五世祥雲の時、覺如東下の途當寺に來り六字名號を寄す。九世義玄越前に赴き、靈寶を蓮如の拜に供す。蓮如亦六字名號を寄す。天正十四年兵燹に際し、十一世了敎靈寶を櫃中に納めて逢隈川に沈め最上に逃る。六年を經て之を探得せしに損傷なかりきと。後ち城代古河重吉、十三世宗覺と謀り、現地に移して再建し、現寺號に改む。寛文十一年祝融の災に罹りしも、數年後再建成る。元祿三年寂如より二十四輩所中の十七番に列せらる。
㊂境内地四千三百八十坪を有し、堂宇に本堂・寶藏・太子堂・鐘樓・庫裡等あり。寺内に西根明神と稱する一遍・同八字名號・圓仁作阿彌陀如來木像・親鸞筆阿彌陀經・同作聖德太子像・同贊明敎筆十四體連座御影・覺如筆阿彌陀如來像等を藏す。

實相寺　若松市馬場上五之町。

㊀臨濟宗妙心寺派。
㊁安吉山と號し、關東十刹の一たり。元德年間蘆名氏の臣富田祐義、復堪宗己禪師に歸依して、當寺を創し禪師をして開山たらしむ。文和年間佛殿、山門、經藏、僧坊成り、貞治三年覺鐘を鑄造す。永正十二年三月第二十一世泰天の時關東十刹に列す。第二十三世桃林契悟、夢に殘夢と云ひ、下野郡須靈巖寺より來住せるものにして奇僧の名高し。文祿元年若松築城の際、甲賀町口郭門の内より移して現寺地に再建す。近世寺領百五十石を有す。
㊂淫二尺四寸の古鐘を藏す。

淨光寺　若松市天寧寺町。

㊀日蓮宗。
㊁法紹山と號す。寛永年間日遵の草創と云ふ。初め寛永十二年信濃國高遠城主保科正之亡母を同地長遠寺に欲り、日遵之が導師たり。尋で保科氏出羽山形に移封さるゝや、日遵又隨ひて同地に到り一寺を創す。卽ち當寺の草創たり。同二十年保科氏再び若松に轉ずるに及び第二世日陽亦當寺を會津に移し、第三世日然の時現寺地に轉ず。爾來會津松平氏累代の祈願所として寺領百石を附ぜらる。

宗英寺　若松市天寧寺町。

㊀曹洞宗。
㊁瑞雲山と號す。後花園天皇永享三年八月會津城主蘆名盛政堂宇を創し、瑞雲庵と號せしを以て當寺の濫觴とす。天文年間祝融の災に罹りて堂宇、舊記等概れ灰燼に歸す。天正元年蘆名盛氏之を中興して諸堂を建立し、瑞雲山宗英寺と改む。後ち、戊辰の兵燹に罹りて僅かに一草庵を殘すのみとなりしが、現に諸堂宇再建中なり。
㊂境内約千五百坪。寺寶中、厨子入木造蘆名盛氏坐像一軀は大正九年八月國寶に列す。像の高さ八寸八分厨子の高さ一尺四寸餘、厨子背面の銘に、天正八年盛氏歿後獻詐ならずして其恩顧の僧智繁の造立せし所とあり。像の面貌、服裝に細心精寫の技を盡し、木彫背像の珍奇なる逸品なり。當寺附近に御藥園、小田山、

松平氏代々墓碑、若松城址、白虎隊墓碑等存す。
㊃六月十七日歎佛會。

長命寺　若松市西名子屋町。

㊀眞宗大谷派。
㊁慶長十年二月敎如の草創に係る。初め敎如蒲生秀行に請ひて、今の甲賀町の地に一寺を興し慈所とす。寛文年間境内狹隘の故を以て今の地に徙す。地は舊眞宗華藏院址なり。三河僧當寺の輪番たり。爾來諸國僧來り住す。寛永二十年七月保科正之此地に入るや出羽國最上泉德寺幸甫當寺に住し現號に改む。寛政年間五世孫幸寛京都本願寺より祖師等身畫像を請ひて之を安す。
㊂寺寶に祖師像其他あり。

相應寺　安達郡玉井村。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁安達太眞山遍明院と號す。大同二年德一の草創と傳ふ。初め德一奥州行脚の途、奇瑞を感じて藥師如來像を刻し、安達太眞山中、眉掖に一宇を創して之を安置す。卽ち當寺の濫觴なり。寶德四年畠山高國兄六郎持清當寺住職長勝に命じて畠山里に移さしむ。永祿年間實辨更に之を現寺地に徙す。當時十一箇寺の末寺を有せり。
㊂永祿再建の諸堂宇現存して當地有數の巨刹たり。堂内八枚の欄間彫刻は其作技頗る精巧なり。寺内に嘉元三年建立の碑あり。寺寶に傳德一作本尊藥師如來像・同使用五鈷・樫口・後小松天皇宸翰・鏡・矢根石其他を藏す。

大隣寺　安達郡樂下村大字成田。

㊀曹洞宗。
㊁巨邦山と號す。寛永四年白河藩主丹羽氏藩祖長秀の菩提の爲に草創し、福井總持寺融峯全祝を請じて住せしむ。融峯乃ち師雪山馨秀を開山に推し自ら第二世となる。初め白河町にあり。當時寺領二十五石を有し且つ一宗の僧錄たりき。同十四年九月丹羽光重寺領百石に加增す。同二十年光重二本松城に入るに及び、同年冬當寺を城の東北松溪山道光寺舊址に移して堂宇を造營し、寺領を安堵す。承應二年春向原に、更に寛文七年春現地に轉じ、堂宇再建悉く成り、且つ光重自ら釋迦如來像を刻して安す。元祿七年七世順榮性巽の時關東三僧錄司の一に列し、祖山永平寺免狀を領す。享保六年十二世默存道祿讀水の爲めに門頭に湖察を建立し、禪錄漢籍を學ばしむ。維新落城以來一時衰微せしが、明治三十二年六月二十一日丹羽長保の請に依り石城郡飯野村藏門寺高松領禪來住するや、翌年四月認可僧堂を設け寺觀を改む。
㊂境内地二萬七千餘坪にして、阿武隈川西岸に位し後背山に據り、前面開豁二本松を望む。寺寶に常信作涅槃像・光重作達磨像・響村作觀音像・心越作釋尊像・同達磨像・文泉筆寒山拾得圖・丹羽家累代肖像・一切經等あり。

長祿寺　岩瀨郡須賀川町。

㊀曹洞宗。
㊁廣福山と號す。長祿元年二階堂遠江守爲氏廣中亡魂供養のため創建して本尊慶舍那佛を安置し、月窓を請じて開山となせしを以て當寺の濫觴とす。もと本町長松院の地にありしが、天正、文祿度橫地の際、百石の寺田を得て今の地に轉し、殺生禁斷竹木勿斬の制札に預かる。往時奥羽、越後、下野に末寺百三十餘箇寺を有し、寺運頗る隆盛なりしが、屢次兵燹に罹りて漸く衰頹す。近く明治二十四年堂宇失上ぜしが、大正元年重建成れり。
㊂境内千三百坪。寺寶に後花園天皇下賜勅宗皇帝筆壽老人畫・唐龍藏天神・二階堂爲氏所持十文字槍等を藏す。

藥師堂　耶麻郡關柴村大字關柴。

㊀新義眞言宗豐山派。
㊁創建年代並に沿革詳ならず。現在同村關堂山中善寺の管理に係る。
㊂本尊木造藥師如來坐像一軀は昭和三年四月國寶に列す。藤原式手法を存するも製作年代鎌倉期と推定せらる。寺寶として木倉榮純書大般若經六百卷を藏す。
㊃藥師如來會護摩法嚴修（四月八日）、國家安穩祈禱會（四月九日）。

願成寺　耶麻郡上三宮村。

㊀淨土宗。
㊁叶山三寶院と號す。嘉祿四年長樂寺隆寛第子實成の草創たり。初め隆寛願選擇を作りて彈選擇を破ぜしにより山門の定照に讒ぜられて陸奥に遷されしが、東下の途相模に留り實成をして先づ奥州に赴かしむ。安

貞元年十二月十三日隆寛飯山の地に寂すや、寶成遺命を奉じて遺骨を陸奥に迎へ、一宇を創して隆寛を開山となし、その持佛たりし春日作阿彌陀如來像を本堂に安置す。是より當寺を以て長樂寺派の本寺とす。文祿年間蒲生氏の臣今福某等此地を領するや、隆寛影堂のみを殘して他の堂宇を毀ち、爲めに一時荒廢せしが、寛文五年水倉行攀之を再興す。次で元祿四年知恩院の末寺となり。同七年領主寺領十五石を寄す。往時奥羽二州の淨土宗僧は當寺にて得度受戒するを例とせりと云ふ。

㊁境内千七百八十餘坪。堂宇に本堂・阿彌陀堂・庫裡等を具ふ。寺寶中、阿彌陀堂に安置する木造阿彌陀如來及び兩脇侍坐像三軀は共に現に國寶にして鎌倉時代の作とす。

㊂陰曆開山會（三月十三日）、國寶阿彌陀如來法要（六月十四日、十五日）。

示現寺　耶麻郡熱塩村。

㊀寶洞宗。

㊁護法山と號す。もと慈眼寺と稱して眞言宗に屬せしが、天授元年源翁心昭當寺に入るや、寺號を示現と云ひ寶洞宗に改めたり。傳へ云ふ往昔下野奈須野に毒石ありて禽獸之に觸るれば忽ちに斃る。稱して殺生石とし近衛天皇宮女玉藻前の靈石なりと云ふ。元中七年有司、能登禪持寺大徹をして加持せしめしも驗なし。源翁時に奈須にあり、之を聞き桂杖を以て打つに石三斷して石靈去る。依りて北條氏寺領を當地に寄せて堂宇を建立すと。舊寺領五十石なり。

㊂堂宇に本堂（法王殿）・開山堂・觀音堂・鐘樓・唐門等あり。

延命寺　河沼郡日橋村大字藤倉。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁伽羅山と號す。草創年代詳ならざるも、延久元年承歷之を再興す。所謂二階堂別當職たり。天文年間賢

（延命寺地藏堂）（國寶）

眞更に之を重興せり。

㊂堂宇中、地藏堂は俗に藤倉二階堂と稱し、方三間、重層、屋根四注造、本瓦葺にして現に國寶建造物たり。建立年代確證なけれど樣式手法等に室町期の特徴を傳ふ。唐樣禪宗佛堂建築にして特異なる形構を備ふ。即ち上層斗栱下の臺輪に下層の屋根を接し、下層支柱は方五本、柱間を悉く開放して眞舍との間に廂を設く。上層格々象勾配なるも軒端の反轉及び下層の緩かなる傾斜により外觀の權衡整美なり。細部の繪樣彫刻又悉く唐樣手法に出で、當地方唐樣建築の好標本たるべき貴重なる遺構なり。

地藏堂　河沼郡日橋村大字藤倉。

延命寺の項參照。

阿彌陀堂（會津高野）　河沼郡堂島村大字廣野。

八葉寺の項參照。

八葉寺　河沼郡堂島村大字冬木澤。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁諸浚山と號し、俗に會津高野と呼ぶ。康保元年光勝の開創と傳ふ。初め光勝奥羽二州邊境にして、法化到らざるを憂へ、自ら佛像、經卷を負ひ來りて一宇を創す。阿彌陀佛を之に安じ且つ閼伽井を掘りしに中に八葉を生ず。因りて如來山八葉寺と號し、又悉地成就院と呼べりと云ふ。享德二年回祿の災に罹る。天正十七年伊達氏亂入の際、當寺住僧宥傳は蘆名氏重臣富田

美作の弟なりしを以て同氏の爲に防戰の備を爲せしに、この事伊達政宗に聞えた、其怒に觸れて一山悉く燒かる文祿年間に至りて再興成る。もと九品念佛一派の本寺

（八葉寺阿彌陀堂）（國寶）

たりしが、後ち現在の宗派に歸す。

㊂堂宇中、阿彌陀堂は方三間、單層、屋根入母屋造、茅葺にして現に國寶建造物たり。堂は文祿年間の再建に係ると雖も、樣式手法等よく室町末期唐樣建築の特徴を傳へたり。屋根に反轉あり、軒の出格々深し。内部須彌壇及び勾欄彫刻等殊に優秀なり。堂北に光勝墓碑あり。

㊃七月一日―十七日。此の地會津高野と稱へ、當期間中遠近の男女接踵し、死者の爲に其遺骸を五輪塔形の小木塔に納め阿彌堂中に納入する風習あり。ために堂内天井、柱、楣間等一面卒塔婆によりて滿され仰ぎて内部天井を觀る能はず。

勝常寺　河沼郡勝常村大字勝常。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁瑠璃光山と號す。弘仁元年德一の開基と傳ふ。初め平城天皇大同年間、空海當地に留錫し、藥師如來を刺して國内五箇所に安置せんとせしに、半ばにして歸京の勅命あり。德一乃ち之を繼ぎて完成す。即ち會津五藥師にして、當寺中央藥師と稱せらる。古來地方二百餘箇村の總鎮守佛として歷代領主の崇敬篤く、蘆名氏寺領を寄せて、堂塔伽藍壯麗を極めしが、後ち、天正の兵燹に遭ひて、本堂（藥師堂）を除く外諸堂、古文書悉く燒亡す。現に十三箇寺の本寺たり。大正十三年改修を加ふ。

㊂境内地一千二百坪あり。堂宇中、藥師堂は會津中央藥師堂と稱し、現に國寶建造物たり。堂は桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、茅葺にして草創當時の儘なりと傳ふれども、樣式手法上、室町初期の建築と推定せらる。地方稀有の大堂宇にして軒深く屋根厚く稍々權衡低倭の感なきにあらざれど、各部の手法木割頗る莊重なり。殊に蟻虹梁の樣式珍奇にして、各木端の繪樣稍々見るべく、室町初期唐樣建築中の一遺構たるを失はず。内部の須彌壇及び厨子は共に優美なる製作にして當時工藝の精粹を傳へたり。尚ほ堂内安置の佛像中國寶に列せるものを擧ぐれば、木造藥師如來及び兩脇侍像三軀・同十一面觀音立像一軀（以上明治三十六年四月指定）・同地蔵菩薩立像一軀・同聖觀音立像一軀・同四天王立像四軀（以上昭和二年四月指定）にして何れも地方稀に見る古像なりすべて樺材を用ひ、刀法殊に整美なり。

大略製作年代を一にし、天平式を遺存する弘仁期の作と思考せらる就中本尊の藥師像は面貌森嚴、體軀堂々よく天平期の風格を具へ、衲衣の襞襞殊に勁麗なり。光背又當初のものにして寶相華唐草の間に飛天を配せし優作なり。脇侍、聖觀音の面貌また端麗にして全體の權衡秀で刀法

（勝常寺藥師堂）（國寶）

頗る流麗なり。地藏は以上諸像に比し幾分穉かなる趣致を示し、四天王は破損著しく、後世の補作に尊容を傷けたるも、猶ほ堅實なる彫技と内的なる力の表出に平安初期の此種像中の優なるものと稱すべし。次に本寺觀音堂内に安置せる木造地藏菩薩立像、同天部立像の二軀又弘仁期の作にして、昭和四年四月、國寶に列せられたり。この他本堂内には十二神將立像（丈高三尺）及び地藏菩薩、德一法師坐像を安置せり。觀音堂は會津三十三所札所第十番札所たり。他に傳空海筆如意輪觀音・不動尊畫像軸物・絹織三十三體觀音像幅・十二天像幅・金胎兩部大曼荼羅圖・八頭大師像一幅・其他古文書等多數を藏す。境内北方の法幾印塔は當寺中興第十三世覺成の墓と傳ふ。又藥師堂北裏に、こうもり堂存す。

◎四月二十八日。俗に「衣裳比べ祭」と稱す。

藥師堂（中央藥師堂）

河沼郡勝常村大字勝常。

勝常寺の項參照。

淨泉寺

河沼郡廣瀬村。

❶曹洞宗。

❷寛永年間の草創と傳ふ。爾後の沿革詳ならず。

❸境内約四百坪。堂宇に本堂・開山堂・藥師堂・庫裡等を具ふ。藥師堂に安置せる木造藥師如來坐像一軀は大正九年八月國寶に列す。高さ六尺餘、一木彫成の大像にして、當地方遺品に通ずる特異なる風格を有し藤原初期地方彫刻上注目すべき遺品とす。

◎除夕三月十五日恒規大般若轉讀。

觀音堂（立木觀音）

河沼郡八幡村大字塔寺。

❶新義眞言宗豐山派。

❷石塔山と號し俗に塔寺とも云ふ。大同三年坂上田村麿、空海の勸めにより坂下組窪の地に一宇を創し惠隆寺と號す。此の地は舊高寺の址なり。弘仁、天長の頃寺内坊舍十數を以て數へ、堂塔伽藍壯麗を極めしと傳ふ。養和元年城四郎長茂義仲征討の際惠隆寺之に參ぜざりしかば其憤擊に遭ひ寺院坊舍悉はれ寺領を沒せられ、一山の寶物古文書又悉く散逸す。觀音堂は建久の頃の建立と傳へ、慶長十八年の大震に遭ひて堂宇倒壞せしが、元和三年猪苗代藩島に住せし沙門、別當覺傳之を再興し、蒲生氏に請ひて再興す。維新後荒廢殊に甚だしかりしが大正五年改修成る。

（立木觀音堂）（國寶）

❸境内地四十六坪。觀音堂は現に國寶建造物（明治三十七年二月指定）にして、桁行五間、梁間四間、前面に一間の向拜を有し、單層、屋根四注造なり。茅葺にして稍々重厚の感を與へ、全體の權衡稍々軒昂高の感あれど、一般の木割雄大なる和樣建築にして豪健なる手法を存し、鎌倉建築の特色を具へ、地方稀れに見る古建築なり。内陣天井は後世の改作甚だしく、舊態を止めず。後壁に接して安置せる本尊木造千手觀音像一軀は二丈八尺の大像にして、手法頗る簡素、堂と同時代頃の作と推定せられ、現に國寶たり（大正四年三月指定）。他に二十八部衆、雷神、風神像等多數の佛像を安置せり。寺内に三佛堂・大日堂・仁王門・靈水所等を具ふ。

❹般若會（一月二十日）、開山會（二月二十三日）、無緣供養（七月一日―七日、七月十六日―十八日）、大祭大念佛、建堂記念會（九月十七日）、御影供等（十一月一日）。

圓藏寺（柳津虛空藏）

河沼郡柳津村大字柳津。

❶臨濟宗妙心寺派。

❷靈鷲山と號し、俗に柳津虛空藏と云ふ。大同年間德一の草創と傳ふ。初め空海當地に至りて虛空藏菩薩、寶頭盧、大日及び四天の金剛像を刻みて德一に託す。依りて德一堂宇を成就し、菊光堂と號して之を安じ、編滿虛空藏菊光佛と稱ふ。元中元年當寺別當義乘、黑川興德寺大圭を招請して寺宇を再興す。爾來現宗に轉じて興德寺末に屬す。即ち大圭を以て當寺中興開山とす。この時寺内三十六坊の宗徒退散し、後ち再び服せしもの岡本、月本、柳本、櫻本、杉本、塔坊の六坊あるのみ。文明元年堂塔を增營し、永正十三年大塔燒亡す。往時本堂は別當坊と同じく獨鈷水邊にありしが後ち、現地を相して寶關五間四面の堂宇を建立す。元龜年間原源の時、本堂を再建し其柱に彩畫を刻し金銀を鏤め、堂宇壯麗を極めしを以て世人光堂と稱せり。爾來歷代領主の莊田山林を寄するもの頗る多く、織田信長赤住僧富山に歸すること深く、天正六年六月安土城に召請して饗應せしと云ふ。同十八年豐臣秀吉黑川城に入るや秀次をして當寺に參拜せしむ、次で同年秀次二百石を寄進し領主蒲生氏鄕重君て寄進狀を附す。上杉景勝亦崇信厚く同十五年越後に於て莊田二百石及び三十五佛を寄す。慶長六年蒲生秀行會津領主となるや、寺領二百石を寄せ、同十一年洪鐘一口を納め、同十六年本堂を再建す。元和二年秀行夫人寺内廚上に堂宇を建立す、同五年仕僧初めて白書院に於て秀忠に謁し時服五領、白銀三十枚を賜く。爾來五箇年毎に謁見するを例とす。寛永四年三月興德寺三十七世南宗當寺に住するに及び、堂宇を重修して今涙に歸す。寛永五年加藤嘉明寺領二百石を寄せ、將軍家實亦特に當寺を新願所と定めて金禰轅鐘打敷白綾等を寄進す。正保元年正月松平正之（保科）會津に封ぜられし以來維新に至る迄、累代寺領二百石を寄す。文政元年風雨の災に罹りて堂宇灰燼に歸せしが幾許ならずして住僧陽巖松平氏の助力を得て再建す。

（圓藏寺奥ノ院獅天堂）（國寶）

◎本堂は一に蘭光堂と稱し二重大唐破風、棟高十八間、桁行十一間半、樑間九間、四方樣二層造、四稜の大堂宇なり。當寺奥ノ院は獅天堂と稱し現に國寶建造物たり。その創建年代詳ならずと雖も、樣式上より大略應永前後の建立なりと推定せらる。堂は方三間、單層、屋根寶形造、茅葺にして全體の權衡よく、屋根勾配緩なるため外觀頗る輕快なり。樣式概ね唐樣にして外部、柱頭頭貫、頭下小壁等には寶相華文、飛龍文を極彩色にて表はし、内部來迎柱、斗栱又彩色を施す。殊に斗肘木の手法注目すべし。其他細部の手法樣式飽く迄唐樣の特徴を發揮し室町中期禪宗佛殿の特色躍如たり。寺寶には傳空海作寶頭盧尊・同大黑天像・同金胎二王像・上杉謙信・同景勝書翰・加藤嘉明書翰・狩野常信筆拈華佛・同永信筆達磨大師像・同臨濟禪師像等を藏す。

奥ノ院（獅天堂）

河沼郡柳津村大字柳津。

圓藏寺の項參照。

西光寺

河沼郡上野尻村大字梵天。

❶淨土宗。

❷草創年代沿革詳ならず。

❸境内地千百三十三坪を有し、八間に七間の本堂あり。寺寶中、紙本着色蒲生氏鄕畫像一幅は現に國寶たり。壓二尺三寸四分、幅一尺三寸の小幅にして、元和七年五月七日逸傳の贊を有す。作畫期亦其頃なるべく當時流行せる僧侶の賛を加へて供養せし肖像畫の一例として注目すべき遺作なり。

法幢寺

大沼郡高田町高田。

❶淨土宗。

❷草創年代及び沿革不詳。

❸銅造阿彌陀如來及び兩脇侍立像三軀は國寶にして（昭和四年四月指定）、中尊の背面に建治二年二月奉鑄の銘あり。

龍興寺

大沼郡高田町。

❶天台宗。

❷道樹山と號す。嘉祥年間圓仁の開基と傳ふ。應安年間惠需之を再興す。獅祭嶽幸は當寺十二世たり。天文十五年江戸寛永寺開山天海十一歳にして當寺に來り嶽幸に就て薙染せり。

❸寺寶中、紙本墨書妙法蓮華經（開結經共九卷、中卷第六缺）は大正十年四月國寶に列す。其の麗麗なる書體と經文一字毎に彩色蓮華座を加ふる所より斯種經典莊嚴法の流行せし藤原後期の寫經なるべし。寺内に嶽幸墓碑あり。

藥師堂

大沼郡新鶴村大字新屋敷。

❶新義眞言宗豐山派。

㊁俗に田子樂師堂と稱す。建久八年田子道宥の創建と傳へ、爾後沿革詳ならず。現在同村常福院の管理に係る。

㊂本堂は現に國寶建造物（明治三十七年二月指定）にして、其建築樣式に、室町中期の特色を有せり。堂は方三間、單層、屋根寶形造にして、茅葺なれど數分の反轉を持ち、軒の出亦比較的深きを以て、重厚の感なきも又よく溫雅なる姿態を表現せり。樣式は總て唐樣にして、殊に內部に於ける組物、虹梁、繪樣彫刻或は中央方一間を鏡天井となし、周圍を化粧屋根裏とする等唐樣の特色を遺憾なく發揮せり。來迎柱間板壁の前面須彌壇及び厨子等も亦優美にしてよく、此時代の特徵を示せり。此の地方に遺存する唐樣建築中の一標本と云ふべきか。

觀音堂　大沼郡新鶴村大字米田。

弘安寺の項參照。

弘安寺（中田觀音）　大沼郡新鶴村大字米田。

㊀曹洞宗。

㊁寺記に、文應元年野州福原領鷲岩寺僧最知客此地に來りて小草舍を構へ、中田庵と號せしを當寺の濫觴とすと云ふ。文永年間當郡佐布川村豪族江川常俊なる者亡女追福のために觀世音並に脇侍不動明王、地藏菩薩三軀を鑄し四間四面の堂宇を創建して之を安置し且つ彌陀、薬師、馬地藏、伊勢、八幡、春日、仁王等七堂を建立して田畑百畝及び山林を寄す。弘安二年地頭富塚盛勝深く臨濟宗に歸依して堂宇を造營し、本尊觀世音を年號に因みて普門山圓通院弘安寺と號せしむ。爾後漸く衰頽せしが、寛永十九年通巖正達來りて之を再興し、仁庵恕水を中興開山に推し自ら第二世となる。既に蒲生氏郷以下黑代藩主の祈願所となり。歴次寺領を寄せられたり。元祿、享保の頃に寺規紊れ寺領の如きも樓徒の押領する所となりしが、享保十五年之を恢正し寺法を振興す。

㊂堂宇に觀音堂・鎭天堂・子安地藏堂・仁王門等あり。觀音堂は慶安年間住僧正達の再營に係り、堂內に安置せる銅造十一面觀音及び脇侍不動、地藏立像三軀は現に國寶にして、中尊光背に「文永十一年八月八日善佛」の銘あり、鎌倉期鑄像中の優作なり。其他寺寶に天寧寺二十九世大器笙圓通院扁額・中將姫蓮糸畫茶羅一軸・洋行鷲筆觀音・野口英世博士納子育觀音畫像等あり。當地中田八景は景趣を以て聞え當寺亦その一なり。

蓮生寺　東白川郡棚倉町。

㊀眞宗大谷派。

㊁寶池山淨華齋院と號す。親鸞門侶二十四衆中の第八證性の遺跡なり。證性は島山重忠の二子にして、俗名を同小次郎重秀と云ひ、元久二年一家滅亡するや、髫髮明惠に就きて薙髮し、惠空と號す。承元四年十二月、常陸小島の地に於て親鸞に謁し、其化に歸して弟子となり、下野下都賀郡茂侯に草庵を結ぶ。其子證光同地に一宇を創し蓮生寺と號す。寛永四年、十二世宗覺の時、現寺地に移りて堂宇を修興し、以て現在に及ぶ。

（蓮生寺本堂）

㊂寺寶に親鸞筆教行信證殘缺一卷・證性所持淨土三部經・島山重忠守本尊等あり。

常瑞寺　西白河郡白河町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁平莊山と號す。文永六年大納言如信の草創に係る。初め如信當國巡化の途、白河郡北平山村法相宗西念寺潤巖の請に依り同寺に留錫し、本尊の靈告を蒙り同地東山々麓北平山の池を埋め一宇を創して奥ノ坊舍と稱す。潤巖乃ち阿彌陀佛像並に寺地を寄せて常隨す。傳に當坊建立の際佛陀の靈奇により米を以て池を埋めて敷地となすと云ひ、依りて米堂の名あり。この阿彌陀像數度の奇瑞ありしを以て寺號を常瑞寺と改むと云ふ。弘安年間亀山天皇より大綱常瑞敕寺、後陽成院より大海堂の勅號を賜ふ。延慶五年覺如其遺迹を慕ひて來錫し、宗祖遺第二十四名を定め二十四衆衆と云ふ。寛永二年丹羽長重築城の事あり、其命に依り寺を現地に徙す。本多氏舊地にも堂宇を再興せしが後年廢絶す。

㊂舊地は白河を距ること四里、善覺、如信の墳墓ありて當寺之を管す。寺寶には親鸞像・聖德太子像等あり。

阿彌陀堂　石城郡內郷村大字白水。

同村願成寺の項參照。

願成寺　石城郡內郷村大字白水。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁報創年代及び沿革不詳。

㊂本寺に屬する阿彌陀堂は、白水阿彌陀堂と云ひ、一に光堂と稱ふ。平泉中尊寺光堂の寫なりと傳ふるも以てなり。正暦元年三月、國守岩城則通の後室德尼（藤原秀衡妹といふ）の建立する所といふ。現に國寶建造物たり（明治三十五年七月指定）。堂は南面、三間三面、單層、屋根四注造、柿葺にして、規模極めて小なりと雖も、屋根に反轉あり、斗の出組稍々高きに失する感あれど外觀よく權衡を得たると共に頗る莊重優麗にして內陣折上格天井、外陣格天井その彩色文樣大部分剝落せるも阿彌陀堂の形式を完備し、樣式手法悉く藤原期の特徵を發揮す。今內陣巻柱を取巻ける丸鉋及び寶相華形の間、內陣後壁左右板壁等に佛畫の痕を遺す。當時彌遠の地尚よく斯の如き優雅華麗の建築ある を讃すべし。此堂久しく風塵に埋もれて知られざりしを關野博士初めて之を發見せしに明治三十六年一月八日の大風に倒壞し、同博士の實測圖により漸く復舊を見るに至れり。內陣黑漆の須彌壇あり、壞上藤原時代の作に係る木造阿彌陀如來及び同兩脇侍像三軀（明治三十六年四月國寶指定）、同持國天立像（寺傳廣目天像）同多聞天立像各一軀（以上昭和二年四月國寶指定）を置く。

（願成寺阿彌陀堂）（國寶）

彌陀三尊像は純然たる藤原樣に成り、何れも齋座光背に至るまで完備せり。中尊は高さ三尺に足らざる小坐像なるも、相貌豐滿、衣紋の曲線亦流麗を極め、其穩かにして淺きく迫優雅な趣きを存し、十一重の齋座、飛天光の形式の整美せると共に調和頗る優れたり。二天像もまた本尊と略ぼ同時代の作にして、四天像中の二軀なること明らかなり。

專稱寺　石城郡夏井村大字山崎。

㊀淨土宗。

㊁梅福山と號す。其就體鬱の草創にして關東十八檀林の一たり。其就年少時山城より遠く奥州に下りて當郡松峯の瓦山に投ず。一夜石蟲觀音堂に籠り夢告に感じて當寺を創すと傳ふ。延德二年第六世瓦大仰覺の時勅願所の綸旨を賜はり、奥州一宗の總本山となる。近世朱印七十石を有す。

㊂當寺に東接して松峯山如來寺あり。

如來寺（矢の目如來）　石城郡夏井村。

㊀淨土宗。

㊁松峯山と號し、矢の目如來と俗稱す。元亨二年瓦山妙觀の開創と云ふ。瓦山は石川郡の人にして鎌倉名越瓦辨の法孫に當り、元亨年間初めて當地に淨土宗を弘通し大いに宗風を揭ぐ。當寺にあるや、若干の撰述を遺し、之を一函に納めて以て永く寺鎭とす。その門弟瓦就は專稱寺を創し、瓦天は成德寺を興したり。爾來十七世に至るまで當宗名越流の檀林たりしが、其後專稱寺の漸次隆盛となるに及び本山及び檀林を之に讓りて漸く衰頽せり。舊寺領二十石なり。

㊂寺寶中、銅造阿彌陀如來及び兩脇侍立像三軀、絹本着色阿彌陀三尊像一幅は共に現に國寶たり。銅像は所謂善光寺三尊にして中尊の丈高一尺九寸、背部に銘あり て嘉元二年四月八日於鎌倉修復と記せり。畫像は三尊とも金色の立像にして鎌倉中期の作に係れるものゝ如く、中尊は上品下生の來迎印をなし、觀音は風腰して蓮臺を捧げ、勢至は合掌せる當時流行の來迎圖形式を存す。技巧精緻なるも鎌倉末期に見るが如き軟弱な風を有せず、優秀作といふべし。他に傳源信筆彌陀大曼荼羅・陸忠信筆十王十幅・瓦山撰述三十餘卷を納めたる月形函一合等を藏す。

長福寺　石城郡下小川村。

㊀眞言律宗。

㊁小川山と號す。元亨二年小川入道義綱の創建に係り、鎌倉極樂寺了俊の弟子慈濃請ぜられて開山たり。當時一山の堂宇宏壯にして境内に十二坊を有せしが、慶長八年戚風の災に罹りて一山悉く烏有に歸す幾許ならずして再建之が再建を圖り、遽て舊觀に則り七年にして工成る。然るに同十四年再び災火に遭ひて堂宇の一部を燒き、翌十五年三度回祿に遭ひて殘餘の堂宇悉く燒亡す。後ち、樂雄來りて當寺に住し復舊に努む。次で正保年間清嵐、小川隆忠の助力を得て重興す。近世寺領四十石なり、現に一宗の別格本山たり。

㊂境内地一千四百餘坪を有す。寺寶に傳春日作本尊延命地藏菩薩坐像・空海筆般若心經一卷を藏す。

長隆寺　石城郡大浦村大字長友。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁貞和年間城之越館主長隆之を開基し慧哲を請じて開山たらしめ、本尊阿彌陀佛を安置して無量山阿彌陀院安養寺と號せしを當寺の草創とす。後ち天文年間當郡玉山慧日寺雄仁の中興するに及びて現寺號に改む。

㊂本尊木造地藏菩薩立像一軀（長友地藏堂安置）は俗に鼻取地藏尊と稱し、現に國寶たり。像は安阿彌の作と傳へ、鎌倉圓覺寺長老貞享三年七月の寄進に係り艷麗なる着色を施せる大像にして鎌倉中期の佳作とす。

藥王寺　石城郡大野村大字藥王寺。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁延壽山と號す。大同年間德一草創し、自ら藥師如來像を刻みて安置す。明德年間隆忠住して眞言宗に轉す。然るに郡主岩城朝義之を怒み黜け、堂塔赤雷火に罹りて忽ち頹廢す。朝義曾孫寺宇再興の志あり。文安二年下總見德寺鏡照の上足鏡祐を請じて住せしめ、門前及び八堂村の地を寄せて中興第一世とし大いに寺觀を改め陸奥百六十餘箇寺を管せしむ。後ち佐竹氏寺領百石を寄せ、德川氏は五十石の朱印を附し、鳥居、内藤、牧野諸氏亦當寺を以て祈願所と定む。糸玉鈔著者純瑜は當寺八世たり。明治戊辰役に官軍陣營に充てられ、賊軍の兵燹に罹りて堂宇五十四宇、舊記等悉く灰燼に歸す。後ち纔かに一宇を再建して寺址を保てり。

㊂寺寶中、絹本着色彌勒菩薩像一軀（内瞻能登守寄進、傳運慶作木造女珠菩薩騎獅像一軀は共に國寶なり。彌勒像圖は鎌倉末期大和繪の畫風を傳へ、左手に五輪塔を載せたる蓮莖を執り、右手與願印を結び、金色裟衣に復雜なる瓔珞を纏ひ雲に乘じて進下する立姿を示す。

成德寺　雙葉郡廣野村大字折木。

㊀淨土宗。

㊁知機山と號す。元德二年如來寺眞山高弟眞天聖觀の開基に係る。初め折木談所とも云ふ。二世眞榮は下野國大澤の地に圓通寺を創し所謂大澤派の祖たり。十三世袋中亦其名世に聞ゆ。慶長元年淺見川村高倉山城守猪狩下野守伊達氏へ隨化の時、寺僧之に隨ひて信夫郡に去り當寺廢絶す。其後邑主大塚氏寺址に一寺を再興して東嶽寺と號す。敷藏後十五世眞蓮寺名を再興して堂宇を重建せしが、寺觀遠く舊に及ばず。

㊂附近に久川、折木川、淺見川の三名溪あり。

原町別院　相馬郡原町南新田。

㊀眞宗大谷派。

㊁明治十一年の創設に係る。初め眞宗說教場と稱せしが、同十五年仙臺別院の支院となり同二十二年更に淺草別院の支院となる。同三十五年獨立して原町別院と公稱す。

㊂境内地一千二百六十坪、堂宇に十一間四面の本堂・鐘樓・山門・庫裡・書院等あり。

岩手縣

報恩寺　盛岡市大字三ッ割。

㊀曹洞宗。

㊁鳩峯山と號す。後村上天皇正平年間、領主南部守行、陸奥國三戸郡三戸に創建し、遠山長啟を請じて之が開山たらしむ。後陽成天皇慶長六年、現在の地に移轉す。舊時は二百八箇寺の總錄所にして末寺二十九を有し、寺祿二百石を領して堂宇輪奐たりき。

㊂境内五千五百餘坪ありて、本堂・庫裡・客殿・羅漢堂等の堂宇具はれり。羅漢堂は方七間、堂内の五百羅漢像は當寺第十七世益樹一華佛師飼野丹下をして、享保十七年より四箇年の日時を費して彫刻せしめたるものなり。一時佛燈落剝せしも、先年堂宇と共に修理せられたり。廣舍部佛丈六の木坐像は大和國中善寺（へ橋寺）の古佛なりしを一華行脚中、洛陽より購ひ來りたるものなりと云ふ。天井の龍圖は狩野林泉の筆なり。堂前なる菩提樹は高さ五十尺餘、周圍三十尺餘、信州に存する菩提樹に次ぎ日本三大古木の一なりと言ふ。維新の際、故ありて當寺に於いて自刎せる南部藩家老檜山佐渡の遺跡あり。寺境に光明塔、千人塚等あり。什寶としては後柏原天皇の小倉山莊の色紙・空海筆と稱する俱利加羅不動明王像・唐繪十五圖等あり。

本誓寺　盛岡市大字三ッ割。

㊀眞宗大谷派。

㊁石森山と號す。親鸞門侶二十四衆の第十和賀是信の遺跡なり。是信、師命により奥州に下向し、當國和賀郡の地を遊化す。亀山天皇文永三年示寂し、紫波郡彦部村石ケ森千本松に葬らる。正親町天皇天正二年、本誓寺（現在正養寺と云ふ。その項參照）第十六世賢勝、故ありて是信の墓ある紫波郡郡山の地に移し、同名の寺を該地に建立して、實弟教勝に附す。これ本寺の草創なり。同十八年現在の地に移轉す。而して郡山の舊址卽ち古館村二日町新田にも亦一寺を建つ。同じく本誓寺と號して大谷派に屬せり。孝明天皇安政二年、藩主歷代霊廟に準す。子院の光照寺は是信在俗中の家臣千原長左衛門（法名信圓）の後なりといふ。

㊂境内三千三百餘坪にして本堂・經藏・庫裡・鐘樓等を具ふ。什寶としては親鸞聖人木像一軀（一に蓮冠り眞影と云ふ）眞影阿彌陀如來像一幅・親鸞筆唯信文意一帖・同光明本尊一幅等あり。寺境に法橋養心齋、藤原公政、岡井尙綱等の墓碑及び證明寺、專立寺の二坊あり。

㊃十月十四日（開基會）。

願敎寺　盛岡市大字上田北山。

㊀眞宗本願寺派。

㊁北峯山無量殿と號す。後光明天皇、慶安年間、親鸞聖人の弟子是心坊の末裔なる羽前國六郷善證寺十五世淨信坊（一に第十三世と云ふ）、南岩手郡淺岸村に一宇を創建し無量殿願敎寺と號せるを以て本寺草創の緣由となす。霊元天皇寛文十年六月北上、中津兩川の氷厄に遭ひ、堂宇悉く流失す。依つて領主南部重信その父重直の靈場二千三百餘坪の地を寄せ、此地に移轉再興せしむ。これ現在の寺域なり。光格天皇文化十三年十月十一日、寺中より出火して堂宇燒失し古記錄等又悉く灰燼に歸す。仁孝天皇弘化二年、領主南部利濟これを再興して本堂二百十餘坪、庫裡百三十餘坪の伽藍を造營す。維新後荒廢に歸せんとせしが、島地默雷請ぜられて專ら復興に努めたる結果、漸く舊態に復す。

㊂境内約三千坪あり、寺内に妙誓寺、眞行寺の二坊を存す。又鈴木含定の碑あり。什寶には、聖德太子南無佛尊像・傳見眞大師直作木像・傳見眞大師筆十二光明佛・慧燈大師自畫自讚彩像・傳覺如上人筆三方正面阿彌陀佛（一に名號不二の御彩と稱す）・黃金釋迦誕生佛等を有す。

正養寺　紫波郡彦部村大字彦部。

㊀眞宗大谷派。

㊁親鸞聖人の門弟和賀是信の開基に係る。是信はもと吉田信明と云ひ、聖人門侶二十四衆の一なり。順德天皇建保三年、師の命を蒙けて常陸より奥州に入り、當地に來りて石ケ森山に一寺を創建し、本誓寺と號す。これ本寺の草創なり。東本願寺第十三世宣如の時、本寺號を現在の如くに改む。

㊂寺域の附近、石ケ森山に是信の墳墓と傳ふるものあり。

勝行院　稗貫郡花卷町里川口。

㊀淨土宗。

㊁東山天皇元祿年間當町清水左兵衛の開基に係ると傳ふ。爾後の沿革不詳なり。

㊂本尊木造阿彌陀如來は現に國寶にして、元祿年間

西念庵佛講信徒保存の開本尊を清水左兵衛に勤め、左兵衛之を京都の佛師法橋益田左近に修理せしめたるものと傳ふ。丈高五尺三寸の坐像にして鎌倉時代の作、輪光に五智如來を附す。尊附近に花巻城址あり。

光林寺（ヒカリ・リン）　稗貫郡八幡村大字中寺林。

㊀時宗。

㊁林長山蓮花院と號す。宿阿遵道の開基に係る。初め、後宇多天皇弘安二年、邑主河野伊豫守通重の子左近遵次京都在番の時、一遍上人に歸依し、遂に剃髪して宿阿遵道と改名し、翌三年歸來して居所寺林館に就いて本寺を創建せるなり。後陽成天皇天正十八年冬、和賀、稗貫に蜂起せる土一揆のために堂宇悉く燒かる慶長六年、幕府岸田伯耆守を此地に派遣してその後を經營せしむ。元禄十六年東山天皇より勅願を賜はる。近世は寺領百十五石を有し、志波郡赤石明神の別當職を兼ねたり。

㊂境内七千二百四十四坪。

毘沙門堂（ビシャ・モン）　和賀郡十二鍋村大字北成島。

㊀眞言宗醍醐派。

㊁仁明天皇嘉祥三年、圓仁の開創と傳ふ。順德天皇建暦年間、和賀領主多田氏、寺領七十石を寄進す。應永の頃には境内に熊野神社神（現今毘沙門堂の東隅に存す）及び慶海、大千、霍野の三坊ありて之が別當たり。後花園天皇嘉吉年間、寺號を熊野山成島寺と定め寺運隆盛なりき。後水尾天皇元和四年、藩主南部利直寺領二十三石を寄せ、崇敬多田氏に劣らず。後光明天皇正保二年、風雨の災に遭ひ、古記錄等多く燒失す。當堂は此の成島寺の境内佛堂にして、成島寺の廢絶後獨立して今に存す。

㊂毘沙門堂は二間三面寶形造にして、堂内に安置せる木造毘沙門天立像（身丈三尺三寸、像高二尺）一軀・木造傳吉祥天立像一軀は現に國寶に列す。毘沙門天像は聖徳毘沙門の形相を示し、高さ一丈三尺餘の巨像にして主尊として一木彫なるに、しかも藤原時代特有の整美なる形態を保有する珍奇なる遺品なり。二鬼の像も亦同時代の作と推定せらる。傳吉祥天像は形相頗る特異にして、何像とも判別し難く毘沙門天像に比すれば稍々古式を帶び技巧亦精妙なり。

（毘沙門堂）

毘沙門堂（ビシャ・モン）　和賀郡立花村大字立花。

㊀天台宗寺門派。

㊁仁明天皇嘉祥三年、圓仁當地に一宇を創して助國山萬福寺と號すと傳ふ。慶長五年、當地兵亂の災當寺に及び、寺寶の大半燒亡す。慶安年間、萬壽山大德院と改め聖護院門跡の末寺となり、以て維新に至る。明治三年、大德院廢せられその境内佛堂たりし當堂は獨立して今に存す。

㊂堂宇は毘沙門堂の外に坊舍一棟あり。堂内に安置せる本尊木造毘沙門天立像一軀（丈三尺三寸七分）及び木造二天王立像二軀（丈五尺一寸及び五尺三寸）は現に國寶に指定せらる。共に藤原期の作と推考せらる。

㊃毘沙門天開眼法華會護摩供修行（陰暦四月三日、九月十六日）。

正法寺（シャウ・ホウ）　江刺郡黒石村。

㊀曹洞宗。

㊁大梅祐華山圓通正法禪寺と號す。北朝康永三年（一説に貞和四年）、領主永部清秀、黒石正瑞入道の二人協力して創建し、大本山總持寺二祖峩山紹碩二十五哲中の上足無底良甫を請じて開山とす。康安二年、峩山紹碩より奥羽兩國曹洞の本寺たるべき置狀を附せられ爾來奥羽に於ける獨立本山として一派統制の權を執る。

襲應元年、崇光院より、嘉吉元年、寛正三年、後花園天皇より、永正四年、後柏原天皇より各綸旨を賜はり、奥羽二州に於ける僧侶轉衣出世の事を掌り、能登總持寺、越前永平寺と相並びて曹洞宗三本山の擬稱あり。寺運隆盛にして殿堂莊嚴輪奐の美を盡したり。後陽成天皇慶長八年前述の制度悉く廢せられしも、尚ほ寺門衰ふる事なし。仙臺侯此地を領するに及びて歴代の歸崇甚だ厚く七十石の寺領を寄せられ以て維新に至る。

㊂境域二萬四千餘坪を有し、堂宇に本堂・開山堂・鐘樓・庫裡・表裏門等十六棟あり。總て中世奥上後の再建に係れり。本尊如意輪觀世音像は春日作と傳ふ。寺寶として六代傳衣と稱する宗門の重寶を初め兜鍬司軍十六羅漢像・雪舟・雪村筆畫幅・金毛摺子等を藏す。

㊃儀法會（陰暦五月十八日、十一月十八日）其他。

中尊寺（チュウ・ソン）　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。

㊁關山弘齋壽院と號す。松島瑞巌寺と共に東北屈指の古名刹たり。寺傳に、初め仁明天皇嘉祥三年、圓仁奥州遊化の際、當地に一宇を創して弘齋壽院と號し、如法經を寫して自刻の佛像と共に之を安置し、また日吉、白山兩社を勧請して鎮守とす。陸奥守藤原興世、貴財を投じて堂宇を造營す。後ち、下野大慈寺住僧榮信、當寺に來りて化を遠近に布き、大いに寺基を擴張す。貞觀元年、清和天皇勅して中尊寺の號を賜ふ。後冷泉天皇、天喜、康平の頃、源頼義、安倍貞任を征せんとし當寺日吉、白山兩社に戰捷を祈願、依つて凱旋の際、瑪瑙、小袖澤兩邑の地を寄進すと見ゆ。後ち堀河天皇長治二年、藤原清衡勅を奉じて堂宇を再興す。即ち同年二月最初院を建立し、ついで嘉承二年、大長壽院成り、天仁元年には金堂、塔婆、鐘樓、經藏、大門、皆金色堂以下の諸院及び鎮守の諸社竣成し、洪基整ひ盛業なり、朱樓碧殿輪奐として雲に接し巍然として嶺を壓す。同三年、堂宇落慶供養の法會を修す。以上清衡再興の事蹟を考ふるに、再興と稱するも蓋し史實的には創建なり。圓仁草創説は恐らく緣起莊嚴の假託なるべし。崇德天皇、天治三年、勅使按察使中納言顯隆參向して御願文を納む。其後、開基衡、同秀衡、また相次で寺基を擴張し、遂に堂塔四十餘宇、僧房三百餘宇に達し、一大伽藍を形成するに至る。後鳥羽天皇、本寺を以て勅願の御所祈所に充て給ひ、僧慶源別當となり平泉藤原氏の滅亡後、源頼朝寺領を安堵し、又堂宇を修理せるも、爾後寺門次第に衰頽に向へり。加之、後醍醐天皇建武四年、野火に罹り堂舍の大半灰燼に歸し、金色堂及び經藏のみ幸うじて燒滅を免れたり。正應元年鎌倉將軍惟康親王金色堂の常に雨露に晒れ金裝の剥脱せん事を惜み給ひ、保存の爲に覆堂を造立せしめ給ふ。文明年間、葛西滿信、寺領十二箇村を七箇村に減ず。天正年間、豊臣秀吉又寺領を安堵し、朱印地七箇村を附す。寛永の初め後水尾天皇勅して金色堂を修覆せしめ給ふ。同七年、伊達政宗寺領若干を寄せその子忠宗は寺境を定め、且つ若干の寺領を附與す。其後、衆徒堂宇の再興を企劃し、伊達氏の援助を求めて經營修理せしも、爾後寺門次第に衰頽に向へり。

（中尊寺金色堂覆堂）（國寶）

（中尊寺金色堂本堂）（國寶）

㊄寺境は東西十七町三十間、南北十三間餘あり。堂宇は金色堂及び經藏のみ、再建堂舍十九宇、僧坊十八箇寺を存す。其中、現に國寶建造物に指定せらるゝものは金色堂本堂、同覆堂、經藏の三宇なり。金色堂本堂は大金堂址の南に東面し、清衡、基衡、秀衡の廟所にして、崇德天皇天治元年、清衡及び其室の本願により、大工、物部清國の建立に係り、現に山内金色院に

管理せらる。三間四方（中ノ間七尺二寸、兩脇の間五尺五寸、柱高一丈九寸）、單層、屋根寶形造の堂にして、一に光堂と呼ばれ、平泉三代藤原氏榮華の名殘を今に留む。佛聖芭蕉の「五月雨の降り殘してや光堂」の句は人口に膾炙する所なり。今は覆堂に被まれて外形を見る能はず。其規模は小にして、構造手法上斗栱間に我國最古のものといふべき本蟇股を設けたる外は特に留意すべきものなしと雖も、其内外の裝飾に至りては、當時工藝の粋を蒐めたるものと云ふべし。卽ち堂の内外上下四面に悉く紗布を掛け、黑漆を塗りて其地を重厚にし、その上に金箔を施し、また内部中壇の四隅に一に七寶柱と稱せらるゝ柱を立て、柱身に十二光佛を蒔繪にてあらはし、金銅の光背を附し、間地に蒔繪の七寶文、螺鈿の寶相華、唐草を嵌入し、柱脚は金銅の逆蓮華を覆とす。内陣中央と左右兩隅に須彌壇各一基あり。中央須彌壇下に清衡、左に基衡、右に秀衡の棺ありと傳へ、また秀衡の棺側に忠衡（秀衡の子）の首桶ありと云ふ。而してこれ等三基の須彌壇中、中央のもの最もその結構優秀なり。壇は方形をなし、側面には香狹間形を造り、孔雀、草花、胡蝶等を金銅にて打出せり。壇上には螺鈿の華文を嵌入せる紫檀張りの勾欄を繞らし、地覆下には金銅の蓮座を設く。壇上に安置せる彌陀三尊二天像は後世の修補により、大いに尊容を損傷せり。尙ほ此壇に國寶の木造經案を置く。その製作年代は堂と同時代と思はる。當初は漆塗に螺鈿を嵌め、透金具を裝したりしも、今は破損著し。以上記くが如く、堂宇裝飾の絢爛華麗なること、宇治平等院を凌駕し、其規模は小なりと雖も、藤原後期裝飾工藝の精粋と云ふべく、同時に平泉三代の廟堂建築として、特に注目すべき遺構なりとす。次に金色堂覆堂（方五間、單層、屋根寶形造、茅葺「現今棧瓦葺」）は本堂の頓損を防ぐため、伏見天皇正應元年、將軍惟康親王、北條貞時及び宣時に命じて造立せしめ給ひしものにして、何れも表紙には寶相華、唐草を金泥にてあらはし、見返しにも金銀泥にて主として佛畫を白描畫風に描く。此種の經卷は他にも類例あれど、此の一切經の如く金銀泥を用ひたるものは他に例なく、珍奇なる遺品と云ふべきなり。今完全に殘れるものは金銀泥經十六卷、金泥經は約二千五百卷なり。箱と共に國寶に指定せらる。此の他、唐櫃中に秀衡奉納と稱する黃紙宋版一切經の一部を藏す。堂の中央には螺鈿八角須彌壇一基を置く。これは高漆塗にして、三鈷、金剛鈴、草花、孔雀等をあらはし、側面は香狹間形に剳り、中に銅板にて迦陵頻伽を打出せり。その手法頗る優秀にして、金色堂の須彌壇と共に美術史上の逸品なり。現に國寶なり。法具類（卓一脚、燈臺一基、禮盤一基、木造磬架一基「附、銅磬（孔雀文様）一面」）、また國寶なり。以上大長壽院の所藏品なれど、今は堂内に置かる。何れも藤原時代の特徴を具へ、就中、卓は形態優美なる佳品なるも、もとその全面に施されたる黑漆塗螺鈿嵌入の文様は殆んど剝落す。燈臺、また卓の如く、黑漆塗にて螺鈿を嵌め、唐草、胡蝶の文様施さる。禮盤は方形にして、側面の香狹間には孔雀文様を銅板にて打ち出せり。もと卓、燈臺と等しく黑漆塗にして、螺鈿を施されたるも今は剝脫甚だし。されど猶經快優雅の趣致に富む。金色堂の東方に寶物館ありて、中尊寺一山の什寶を陳列す。その内、國寶指定のものは銅製華鬘六面（三面は金色堂他の三面は金色院の所有）、木造經案及び木造磬架各一基・法具類（木造天蓋二面、銅造塗頭三枚（以上、金色堂所有）・紙本墨書北島國家筆中尊寺建立供養願文一卷（附、同願文寫暦四年八月

（中尊寺經藏）（國寶）

二十五日藤原補方奥書一卷）・木造阿彌陀如來坐像一軀（以上、中尊寺所有）・木造一字金輪坐像一軀（中尊寺外十七箇院所有）、木造大日如來坐像一軀（瑠璃光院所有）・木造大日如來坐像一軀（金剛院所有）の八點なり。有の中、華鬘六面はもと金色堂の長押に懸けありしものにして、略ぼ堂と同時代の作と推定せらる。中央に掲げられしもの製作稍に優秀にして、圓桃せる透彫の唐草文樣の間に相對する迦陵頻伽をあらはし、藤原後期特有の雅致に富む。天蓋の中、一面は形狀略ぼ完全にして、透彫の精巧なる唐草文樣を施さる。有名なる一字金輪坐像はもと金色堂の南方の山王社の脇侍たりしもの面貌豐麗優美にして、刀法亦流麗なり。よく藤原末期の趣致を具へ、當代稀有の傑作なり。本像の浮彫式なること及び我國現存佛像中、最古の遺例と目さるる玉眼を嵌入しある事等看過す可らざる點なりとす。

大日如來像は高さ二尺に滿たざる小像なれど、よく藤原時代の作風を存す。金色堂の西北に神財天堂ありて、大長壽院所有の國寶最勝王經十界寶塔曼荼羅紺紙金泥板裝十幀を保管す。こは經藏の金銀泥經と共に本寺の重寶にして、竪四尺六寸、幅一尺八寸の寸法に纖ぎ合せたる紺紙に金泥を以て十重の塔形に經文を寫し、一卷一塔、總て十塔さし、塔の左右に經意を金銀及び彩色を併用して描きたるものなり。其意匠、手法に在來の寫經と異なれるものあるは注目に値す。尙ほ神慶堂は地藏院所有の國寶銅磬（孔雀文樣、建長二年正月日施入の銘あり）一面を、千手堂は觀音院所有の國寶木造千手觀音立像一軀を保管し、藥師堂、岡伽堂は各々國寶木造藥師如來坐像一軀づゝを所有す。其他之に類する重寶珍器古文書等數多く、擧げて數ふべからず眞に當寺、藤原後期美術の淵叢にして、我國文化史上美術史上不動の地位を保持する所なり。其絢爛たる諸遺品はそゝる往古の盛觀を物語る。曾て大槻磐溪賦して曰く。

三世榮華擬帝京　朱樓碧殿接雪長
唯今唯有東山月　來照當年金色堂

關伽堂　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の塔頭にして往古光明院と稱し、中尊寺山麓岡伽水の傍に造立されしが、中古現在の地に移る。元祿二年再建成れり。別當は金色院なり。
㊂境内地六十五坪を有し、堂は四間四面寶形造なり。本尊は不動尊にして、堂内に安置せる丈六木造藥師如來坐像一軀は現に國寶たり。
㊃正月八日修正新禱を厳修し、鎭護國家を祈念す。

觀音院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の項參照。
㊂中尊寺の項參照。

金剛院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の項參照。
㊂中尊寺の項參照。

金色院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の項參照。
㊂中尊寺の項參照。

大長壽院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の項參照。
㊂中尊寺の項參照。

地藏院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の項參照。
㊂中尊寺の項參照。

藥師堂　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。
㊁中尊寺の塔頭にして藤原清衡、堀河、鳥羽兩帝の勅願を奉じて建立せし堂塔四十餘宇の一にして、藥師堂と稱す。元祿二年現在地に移れり。別當は願成就院

（藥師如來坐像本尊釋迦如來）（國寶）

なり。

㊁境内五百餘坪あり。堂は三間四面にして本尊水遠藥師如來坐像一軀は運慶作と傳へ現に國寶に列格されたり。

瑠璃光院　西磐井郡平泉村大字中尊寺。

㊀天台宗。

㊁中尊寺の項參照。

㊂中尊寺の項參照。

毛越寺　西磐井郡平泉村、

㊀天台宗。

㊁醫王山と號す。毛越寺とは平泉村高屋の山谷金堂圓隆寺を中心に、藥王、寶樹、壽德等々の僧坊聳立する醫王一山の總稱なり。寺傳によれば仁明天皇嘉祥三年、慈覺大師圓仁、此地が適に帝都の鬼門に當るを以て、特に一宇を建立し、鎮護國家皇統無窮の祈願所となし、藥師如來の尊像を手刻して之を安置し、嘉祥寺と號す。而して醫王山とは藥師如來の示現により、毛越寺とは、白鹿の毛を求め山路を越えたるに因むと云ふ。其後、清和天皇貞觀十一年十月、北門鎮護の御願寺たるべき勅詔あり。四境を正置し寺領設定のため、特に倉印の鶴駕を賜へり。爾後兵亂のため堂塔坊舍全く荒廢せしも、長治、天仁年間、堀河、鳥羽天皇の勅願により、藤原清衡、基衡之を再興す。即ち七堂伽藍完成し、當寺の寺基こゝに定まる。蓋し之れ再興と稱するも尚創建と考ふべし。基衡の妻、觀自在王院を建立し、後ち秀衡に至り坊舍の增築成り、堂塔四十餘宇、禪坊五百有餘、山谷の美と相俟らて豪壯稱奚たりき。後鳥羽天皇文治五年泰衡沒落後、源頼朝當寺を武門祈願寺と定め、葛西清重、伊澤家景に命じ大いに寺塔の修理を行はしめしが、後堀河天皇嘉祿年間、山火に類燒し、爾來幾星霜、明治八年住職を置き、一山の學寮を假本坊とせしが、同九年聖駕御東巡の砌、長くも義經堂に臨幸あり、當山傳ふる所の佛像を天覽に供し奉り、又古樂などを供奏し當山永遠保存の勅旨を賜ひたり。

（毛越寺本堂）

㊂現在境内南北三十六町餘、東西二十七町餘、塔山、鐘ケ嶽、船若峯の連陵を背景とする盆地に位し、東西南北夫々平泉館、遠谷ノ窟、鬼面梅山は中尊寺境に延び其壯大、國中に比なし。現今一山の僧坊は、藥王、寶樹、壽德、感神、壽命、普賢、福昌、覺性、白王、正善、金剛、大乘、隆藏、慈光、光圓、蓮乘、妙禪、千手の諸院なり。堂塔舊跡は常行堂、義經堂等を始め數多あり。常行堂は嘉祥三年、圓仁の創建に係り、本尊は寶冠阿彌陀如來、脇士は四菩薩にして摩多羅神奥殿に鎮座す。承和年間圓仁、唐土清涼山にて文殊大師より常行三昧法を傳へて歸來し當堂にありて其の修法を傳ふ。後ち清衡之を再建せしも頽廢せしにより享保十三年、伊達吉村により舊規に襲して改築せらる。之に隣りて法華修法の道場たりし法華堂址あり。義經堂は景勝の地を占む。此の地源義經の館址と傳へ判官館の稱あり。現堂は天和三年伊達綱村の再建にかゝる。此の他小阿彌陀堂址、千手堂址、大日堂址、妙理堂址、文殊諸堂址、嘉祥寺址、圓隆寺址、講堂址、南大門址、文殊樓門址、新熊野社址、無量光院址、觀自在王院址、伽羅館址、平泉館址等の舊址あり。附近金鶏山、八花形の勝景あり、又獨鈷水、大泉池、舞鶴池等は固伽に用ふるため圓仁の鑿ちたるなりと傳ふ。總て指定史蹟なり。その他芭蕉自筆の句碑『夏艸やつはものどもかゆめのあと』及び基衡室墓等あり。什寶としての主要なるものは、彌陀三尊畫（傳惠心筆）・十三佛畫・不動畫（巨勢金岡筆）・文殊經・私記箱（基衡納）・最勝王經・大般若經（秀衡納）・不動尊畫（圓珍筆）・法華經（清衡納）・柄香爐・五鈷・獨鈷六器（圓仁所持）・淺野彈正遺書・私記筥（灌頂用、黄金）・篇架・宣綱經（紺紙金泥）・法華經・般若經（紺紙金銀泥問行）・文殊菩薩畫像（圓仁入唐將來）・天台大師畫像・傳教大師畫像・弘法大師畫像（傳大師自筆）・藥師如來畫像（法橋・廣信筆）・最勝王經（秀衡筆）・輪王寺宮御令旨二通・輪王寺宮條制・毛越寺緣起・豐臣家寺祿寄附狀・豐臣家遺書・南部信直書翰・神角助書翰・大崎義高書翰・棧札・伊達家紋生苔蹟・下知狀・義經堂扁額・鎧兜・舞樂圖二卷・山水畫（狩野常信筆）・出山釋迦圖（俱舎舞面二面・風空・龍笛・篳篥・太鼓・羯鼓・正觀音像・不動尊畫（圓仁筆）・三社神託（最明寺北條時賴筆）・十二天畫（雪舟筆）・古笛（田村將軍所持）・千手觀音畫（兎殿司筆）・山王畫・釋迦涅槃像（神田隆信筆）其他秀衡木像等あり。

㊃常行堂に於て毎年正月二十日祭式あり。觀自在王院に於て毎年舊四月二十日行はるゝ泣祭は基衡夫人靜儀に擬したるものと言へり。

大慈寺　上閉伊郡遠野町。

㊀曹洞宗。

㊁福聚山と號す。加賀國石川郡宗德寺末寺にして、後小松天皇應永十八年、左近衛將監長經の開基に係り龍傳惠金之が開山たり。初め、惠金諸國行脚の途、秋田より鹿角を過ぐ。適々長經、宗家南部守行を援け、秋田を攻む。禪師、長經に一策を授け、大捷を博せしむ。依つて長經、これが報謝として、八戸城主の領内に松月庵を建て惠金に附す。これ本寺草創の緣由なり。後ち之を一大伽藍とし大慈寺と改め、寺領若干を寄せ奥羽二州玉窓派の派頭たらしむ。寛永四年、大檀越南部直義當地に轉領するに當り、第九世遠叟之に隨ひて移り、駒木氏別舍に寺基を定む。然して城主より寺領七十五石を附ぜらる。後ち更に梅田村に移轉す。中御門天皇享保九年、第十六世榮禪の代に、戚融の災に罹り一山悉く烏有に歸す。數年ならずして南部氏堂宇を再建し、同家菩提所として崇敬舊に異ならざりき。維新以後寺運稍々傾けるも、近時漸く舊に復す。

㊂南部氏累代の墓碑を存す。近時漸く舊に復す。

實相寺　二戸郡一戸町。

㊀淨土宗。

㊁二條天皇永暦元年、源信の法弟圓證の門葉圓忍（俗名京極有忠）當郡金田一村に來りて一宇を創建し、實相寺と號し不斷念佛の道場とす。これ本寺の草創にして、以後二十七代迄は天台宗に屬せしが、後土御門天皇、明應二年、良滿京都知恩院より來りて二十八世住職となり、堂宇を再建せる時より淨土宗に轉ず。天文年中、同郡濱打山麓に移り、天正年間、三轉して現在の地に寺基を定む。明治十四年颱風の災に遭ふ。

㊂境内九百餘坪を有し、九間八面の假本堂及び庫裡等あり。

天台寺（桂泉觀音堂）　二戸郡淨法寺村大字御山。

㊀天台宗。

㊁八葉山桂壽院と號し、桂泉觀音堂と俗稱す。天平年間聖武天皇の勅願により行基の開創する所と傳ふ。初め一院七供坊を置きて全山を分掌管守す。平城天皇大同二年、坂上田村麿堂宇を修理し、また圓仁、當山に留錫して藥師如來其他佛像を安置すと云ふ。中世領主南部氏の歸仰を受け寺門大いに榮ゆ。後ち覺鉄住持たりし時一代毎に杉苗二百本を植ゆべく規定し、爾來世々之を遵守して、植林に努めたる結果、附近遂に鬱蒼たる森林を爲すに至る。後西院天皇明暦三年、領主南部重直堂宇修理に着手し、翌萬治元年、その工を竣ふ。近世境内五坊ありて寺領三十石、衆坊免租地八十餘石、月山別當三光院領十三石を有せしが、明治初年寺域縮小され、寺領またその大半を没收せらる。加之、觀音堂を除く外藥師堂、仁王門以下四十餘宇及び佛像等悉く破壞され、寺運甚だ退轉す。閲三十五年、境外上地一等國有林を境内に編入し、稍々舊觀に復す。現に堂宇修築中なり。

㊁境内地十數町歩に達し、老杉古松蒼茫たる閑雅幽邃の靈地なり。堂宇に本堂・地藏堂・仁王門・鐘樓・常燈堂・香堂等あり。本堂に安置せる木造聖觀音立像一軀、木造十一面觀音立像一軀は何れも國寶に指定せられ、共に藤原初期の作と推考せらる。その手法は鉈彫と稱せらるゝ一木彫の一種にして、圓鑿を使用せる痕跡歴然たり。他に毘沙門天像・藥師如來立像・阿彌陀如來立像・舞樂面十面・鰐口（銘正平十八年）・梵鐘（銘元中八年）等を藏す。寺前老桂樹下に清泉あり、桂泉と呼ぶ。

㊂月山會（四月十八日、六月十一日より十五日迄）當日は境内にて漆器を賣さ、一に御山御器と稱して一般に用ひらる。

青森縣

長勝寺　弘前市西茂森町。

㊀曹洞宗。

㊁太平山と號す。享祿元年津輕盛信先考光信追編の爲に創建せし所にして、遠幻派菊仙禁嚴請ぜられて之が開山たり。寺號は光信の法諡長勝寺殿隆榮に因む。初め大浦種里村にありて寺領二百石（後ち百石加增）を有し津輕氏菩提所たりしが、文龜二年吉田村に移り、慶長十六年弘前築城に際し更に現地に轉ず。中興開山は鐵牛藏印にして當時境内に耕春、常源以下三十餘院を有し、藩主累代の菩提所として歸敬他に異り、且つ藩内各宗の僧錄所たりき。

（長勝寺山門）

㊂境内二萬四千坪。總門より山門に至る參道十町、左右に同宗三十三箇寺あり。堂宇に本堂・御影堂・僧堂・庫裡・廻廊等を具へ、寺寶に嘉元四年鑄造梵鐘・津輕爲信佩用太刀（銘備前長船倉光）・五百羅漢像・千體地藏等を藏す。

㊃二祖三佛忌（三月十五日）、開山忌等。

滿願寺　弘前市西茂森町。

㊀曹洞宗。

㊁當寺草創に關し、可足記に戾燒跡大頼秀の草創と云ひ、津輕一統誌には藤崎の平堂教院を繼ぎたるものと云ふ。案するに後說眞に近かるべし。平堂教院は往時常陸阿闍梨住し堂宇壯麗にして中世殊に寺運隆盛なりしが、次第に衰頽し、後ち靈臺寺、護國寺等の禪刹再興せられしも、近世皆亡ぶ。當寺卽ち故院の後を繼ぎて復興するものなりと。

海藏寺　弘前市西茂森町。

㊀曹洞宗。

㊁明應年間津輕光信之を草創して江山智水を以て開山とす。もと種里村にあり。大永年間光信更に長勝寺を創建して當寺を之に屬せしむ。天文七年光信弟盛信殁するや碑を二寺に建つ。曾孫爲信に至り寺領三十石を寄せ其菩提院となす。慶長年間現寺地に轉じて堂宇悉く再建せらる。

㊂境内八百餘坪。

貞昌寺　弘前市新寺町。

㊀淨土宗。

㊁月窓山と號す。永祿年間大光寺村に草創せられ岩城專修寺寛禎之が開基たり。慶長年間藩主津輕信枚現地に移して先考爲信室月窓尼廟所となし、寺領三十石を附す。信枚妹卒するや初め當地長勝寺に歛りしが、慶長八年當寺に移し且つ寺領三十石を加ふ。元和九年信義亡母を當寺に歛る。當時國内一宗の僧錄所準檀林格に定められ、寺内に六院十三堂を有して寺觀宏壯を極めしが、明治二十三年回祿の災に罹りて一山概れ灰燼に歸す。近年住持建導堂宇を再興して稍々舊觀を復す。

㊂本尊釋迦如來銅像は井家喜兵衛能聖作と云ふ。

報恩寺　弘前市新寺町。

㊀天台宗。

㊁一輪山と號す。明暦元年津輕三代信義卒するや、其遺言により、同二年四代信政天台教院を創建す。寺領三百石を附し、東都寛永寺僧本好を招請して開山となし、且つ輪王寺公澄法親王より一輪山桂光院報恩寺の號を賜ふ。爾來舊津輕藩主代々の菩提所たり。尙ほ信政舍弟二人出家し、一は慈天と云ひて後ち京都養源寺に住し、他は文幸と云ひて當城下藥王院に住持たりき。維新後衰頽して僅かに寺堂一宇を存するのみなりしが明治四十二年信政二百年忌に際し住持道詢復舊す。規模往時に及ばずと雖も、なほ地方有數の巨刹たるを失はず。

㊂彫堂に信明、寧親の靈像を安置し、且つ靈廟には信義及來累代藩主の墳塋あり、當寺後庭永樂亭の逸り楓樹多く秋季頗る美觀を呈す。

眞教寺　弘前市新寺町。

㊀眞宗大谷派。

㊁法輪山と號す。天正十九年、賀田城主大浦爲則の開基にして、僧淨理を開山とす。慶長五年、藩内一宗の總錄となる。後ち藩主津輕信枚東寺町に移し、寛永六年、同信義寺領三十石を寄す。慶安三年、現地に轉す。

㊂現本堂は賀田時代の舊材を使用せしもの、梵鐘は大光寺塔の鐘にして、著名なりしが、火災にて損ぜしにより、改鑄して古銘を遺すといふ。庭園の池水、築山は何れも古人の趣好に成り、賞推掬すべきものを存す。

本立寺　弘前市新寺町。

㊀日蓮宗。

㊁法輪山と號す。天文二年、藩主津輕盛信の開基にして、京都本滿寺の衆徒たりし日尋上人を開山とす。初め賀田の地に在りしが、慶長五年、藩主爲信、三世日建に歸依し、法働山と改め、寺領三十石を寄せ、藩内一宗の總錄所となす。然るに日建の當山に請ぜらるるや、本山本圓寺より一山の寺號を附與せられしより別に一寺創建の志ありしも、成らずして寂せり。四世日敎其遺志を繼ぎ、號を妙法山妙覺本行寺と稱せしも本行寺を創建す。而して、寺領亦之に移されしかど本寺從ひて衰頽す。後ち寺僧日運、國主津輕信義に請ひて更に五十石を給ふといふ。

最勝院　弘前市銅屋町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁金剛山光明寺と號す。天文年間堀越館外北方の地に創建せられ、當國本宗の主院たり。弘前築城の後、弘田町鳥和八幡宮別當となり。中津輕郡内百餘箇所の社人を統轄す。寺祿二百石を領し、四院八坊山内に連りて寺運頗る隆盛なりしが維新後次第に衰頽す。後年現地に移る。

㊂當地は舊紙閣社別當大圓寺址にして、市南端の高地を占む。堂宇中、五重塔は寛文八年四代藩主津輕信政が天正、文祿、慶長年間の亂に於ける敵味方戰死忌招魂祠堂として大圓寺境内に建立せし所にして安政六年、文久元年の改修に係り、現に國寶建造物たり。塔は方三間、五層塔婆、屋根柿葺（但し今第五層は銅板葺、他は銅板、柿混用）にして高さ十七間二尺、金剛界大日を安じ露盤及び九輪寶珠は渡邊近江大掾作と云ふ。冗頌なる装飾を避け、全體の均衡整美にして形狀頗る簡雅なり。出羽神社塔婆と共に東北地方稀有の美塔にして德川初期有數の塔婆建築たり。尙ほ斗東に鰭を附せる知き異形の蟇股は注目に値す。他に西南役戰殁者碑、日露戰役忠魂碑並に藩諸名士碑あり。寺寶に舊大圓寺所藏五智如來像・大善院稲突不動像等を有す。

㊃陰曆三月二十五日天神祭。

大慈寺　八戸市。

㊀曹洞宗。

㊁もと福聚山と號す。寛永六年九月南部利直之を開基し虎山玄龍を以て開山とす。爾來小本寺格として、寺運盛なりき。現に堂宇の完備せること當郡第一なりと稱せらる。

㊂境内五千二百五十坪。

南宗寺　八戸市糠塚。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁月溪山と號す。寛文六年八戸藩主南部直房の開基に係り、東廳宗弗を以て開山とす。舊寺領百石にして小本寺格なり。明治年間風融の災に遭ひて堂宇悉く失上せしが、續いて再建成る。

㊂境内地九千餘坪あり。

圓覺寺　西津輕郡深浦町深浦。

㊀眞言宗醍醐派。

㊁春光山と號す。眞觀年中、僧圓覺の開創する所なり。康正三年、藤原氏家、永正十五年、葛西木庭袋伊豫守頼清各々之を再建す。

㊂殿宇宏壯にして、國内屈指の巨刹なり。本堂内殿は方五尺餘、奇巧目を駭す。飛騨工の作といふ、本尊は乘師如來なり。觀音堂本尊觀世音菩薩立像は聖德太子の作と傳ふ。寺寶の大涅槃像は八萬四千人の毛髮を以て刺繍すといふ。他に西南役戰殁者碑、日露戰役忠魂碑並に藩諸名士碑あり。寺寶に舊大圓寺所藏五智如來像・大善院稲突不動像等を有す。

久渡寺　中津輕郡清水村大字坂本。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁護國山觀音院と號す。往古は南津輕郡大鰐村阿闍羅山中に在りて興福寺と稱せしが、後世圓智之を小澤の地に移して小澤山觀音院救度寺と改むと傳ふ。慶長年間寛海中興して堂宇を改修し、次で元和元年津輕爲信寺領百石を寄せ小澤興福寺の圓智坊寛榮をして寺務を掌らしむ。寺門興隆漸く地方の名刹となる。寛政四年疫疫の災に罹りて一山悉く焦土と化せしが、津輕侯寺祿五十石を贈與して堂宇を再興せしむ。然るに文久三年正月警鐘の爲め山中鳴動し堂宇傾轉す。後ち再建成り引續き寺領百五十石及び數百町歩の山林を有せしが維新後上地の事ありて寺運漸く衰ふ。

㊂寺前に二百餘級の石階あり、境内池を繞らして櫻樹多し。本堂・庫裡等其中に連なる。之より東に二三十級の石階を登りて奥ノ院に達す。圓仁作と傳ふる觀音像を安置せり。又白山堂、熊野社あり。社背に清泉を湛へ、老杉蟠々として景趣國内に冠たり。奥ノ院北方一町餘久渡山上に觀國瘞或は國見山と稱するあり。慶長五年津輕爲信近臣に命じて功臣森岡信元を殺害せしめし遺蹟にして、津輕沃野一眸の中に收まるによりその名あり。尚寺寶に圓山應擧筆幽靈畫を藏す。

革秀寺　中津輕郡藤代村。

㊀曹洞宗。

㊁津輕山と號す。慶長十三年領主津輕信枚、父爲信追福のため草創せし所にして、その遺骨を京都より移して當寺に斂る。長勝寺八世格翁之が開山たり。爾來寺領百五十石を有して國内三箇寺の一に數へられ、寺門大いに振ひ堂塔亦莊麗を極めしが、維新廢藩後次第に衰微し僅かに本堂一宇を存するのみとなれり。明治三十九年爲信三百年祭に當り再建し稍々舊觀に復す。

㊂當山景趣に富み境地幽邃、門前に池泉ありて清水を湛ふ。池頭の一小社は草彦稲荷と稱し、津輕家祖公郡内巡定に際し靈感あり、藩主代々の崇敬後からず。寺内爲信霊廟は松杉蔭萎たる間にあり、古色蒼然として往時を追想せしむるに足る。

橋雲寺　中津輕郡大浦村大字植田。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁愛宕山勝蔭院と號す。慶長六年の創建にして、眼尊の開基に係る。津輕爲信の祈願所にして代々藩主の敬信厚し。舊植田愛宕權現の別當寺なり。津輕藩内眞言宗五山の一として衆徒寺六坊を有し、寺門大いに振ひたり。明治維新神佛分離の後も、歸敬昔日に勝り、修驗たりし六衆徒また當宗に屬す。現本堂は弘前桑商武田甚左衛門の再興に係り、明治十四年聖駕東巡の際、行在所に充てらる。

㊂境内地約三千九百坪、堂宇に本堂・護摩堂・庫裡・鐘樓・稲荷堂・地藏堂・天滿宮あり。地藏堂は俗に愛宕と呼ばれ、今當寺奥ノ院たり。是卽ち舊愛宕權現本社にして内外總て丹朱を施し、馬上將軍地藏尊を安予寺内老樓古松多く、境外三方巨杉に圍繞せられ、東南の一方纔かに展けて水田萬頃の眺望あり。東方遠かに八甲田、梵珠の連峰を望み、南方に久渡寺、北方權現崎に接す。

法眼寺　南津輕郡石町山形町。

㊀黄檗宗。

㊁寶巖山と號す。元祿五年、加藤勘兵衛之を開基し上州黒瀧不動寺南宗元頴を開山となす。領主石黒氏の歸依厚く、寺領を附して菩提所となす。寛保二年四月回祿に罹り、寶暦九年正月大地震にて諸堂破却せしが明和六年本堂を再建す。梵鐘は享和八年江戸にて鑄造し、當地へ運搬の途中過つて海中に顚落し、五十七年にして常陸鹿島灘に上りし名鐘なりしが、明治初年取毀さる。

㊂境内千餘坪、本堂・庫裡・鐘樓堂・不動堂・開山塔あり。

大圓寺（大鰐大日堂）　南津輕郡藏館村大字藏館。

㊀古義眞言宗。

㊁連光山と號し、金剛峯寺の末寺なり。寺傳に、延暦年間坂上田村麿東夷征討の爲め當地に來り、阿闍羅山に詣で大日如來を拜して祈誓せしに無事平定するを得以來當地一帶の鎮守となれりと云ふ。降りて建久年間唐僧觀智來りて大日如來を藏館村に移す。之れ當寺の濫觴なりといふ。寛永年間藩主南部信枚之を種里村に修興す。正保四年更に弘前に移り、寺祿百俵を寄せられたり。堂塔完備して寺運盛んなりしが、維新後、衰運に向ひ、現地に轉ず。現弘前市最勝院は卽ち其址に建つる所なり。

㊂境内地南北三十二間、東西三十間。金比羅堂・地藏堂・鎮天堂・奥院等の堂宇あり。本堂は三間三面にして、奥院堂は鐵筋混凝土建二間二面なり。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は現に國寶にして、丈高七尺四寸寺傳に大日如來像と云ひ、藤原期の樣式を傳へたる鎌倉時代の丈六佛なり。蓋し當地方に見る斯種遺品中の大作と云ふべし。他に後柏原天皇宸筆畫幅等あり。門前の古木萩樹、高十餘丈、風曲せる枝狀恰も桂樹に似たるより萩桂の名あり。銘木として著聞す。

㊃大日如來緣日（四月七日、八日）、丑湯祭土用丑日。

國上寺　南津輕郡碇ケ關村大字古懸。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁古懸山と號す。推古天皇御宇僧圓智阿闍羅山中に不動堂を建立せしを其後此地に移すと云へど尚詳ならず。後世津輕氏の崇敬を得、二代信枚田地山林を寄せ規格を定めたり。後ち寺領二百石を寄せられ、領内眞言宗五山の一として寺外に五坊を有し堂宇壯麗を極めしが、明治三十年親鸞の災に罹りて本堂灰燼に歸す。殘存の堂宇また近年次第に荒廢せり。

㊂堂宇は護摩堂一宇のみ。本尊は木金土三種三體不動明王像にして丈各六尺餘、共に脇侍二童子あり。中央木像は圓智作、右方土像は春日作、左方銅像は空海作と傳ふ。當寺三ッ森山に圍繞せられ、附近の波不寄八幡宮嗣に田村麿の自刻像を傳へて名あり。又近境に大鰐温泉あり。

㊃恒例法會除夕（正月元日、四月八日）。

圓通寺　下北郡田名部町。

㊀曹洞宗。

㊁吉祥山と號す。寺傳に貞觀年間圓仁の草創と稱す新撰國誌に據れば、永祿年間八戸薩摩守政榮建立して聚覺之が開山たりと云ふ。舊藩時黒印五十石を寄せられ、寺格藩高地格に處りし名刹なり。當時堂宇二十餘棟を連ね、奥羽第一の靈場たりき。

㊂恐山火口湖なる宇曾利湖の北岸に位置し、潮水清く澄みて太古の如き靜寂境なり。境内地千八百餘坪、堂宇に本堂・不動堂・無緣塔・慈覺堂・藥師堂・五智如來堂・佛殿・納骨堂・塔婆納堂等存す。東南釜臥山上なる奥ノ院は大永二年創建と傳へ寮路頗る困難なり當地は現に恐山靈地と呼ばれて廣く信仰され、宿坊には數百人を宿泊せしめ得。寺内到る所に温泉湧出して所謂恐山温泉として聞え、鶴の湯、藥師湯、冷拔湯、新鶴湯、花染湯等あり。又附近には西ノ池、極樂ノ濱、胎内くゞり、耆生道、賽ノ河原、八大地獄、劍山等と稱するありて恐山地獄の謂あり。

㊃七月十八日より一週間執行せらるゝ緣日は。大祭典と稱して有名なり。當日地藏を祈れば亡者の苦惱を救ふと傳へ、賽者四方より接踵す。

常念寺　下北郡田名部町田名部。

㊀淨土宗。

㊁不退山と號す。僧眞翁地人の歸依を受けて此地に一宇を創建せしを當寺の草創なりといふ。慶長三年本山石城專稱寺より不退山常念寺號を寫く。延寶三年田名部町大火に類燒して、古記錄、寺寶概れ灰燼に歸せしが、幾許ならずして四世眞法堂宇を再建す。

㊂堂宇に本堂・庫裡等を具ふ。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は大正四年三月國寶に指定せらる。護倉初期の作なり。他に寺寶として八島合戰圖・金屏風一双等を藏す。

㊃御忌法會（三月二十五日）、救會日（毎月二十五日）。

對泉寺　三戸郡大館村。

㊀曹洞宗。

㊁貴福山と號す。建武年間、新田左馬介行親漂落して居を當地の南館に構ふ。依つて其子孫祖先の追福のため天文二年、用室存心を開山として、其館跡に一小庵を建つ。是れ當山の濫觴なり。元亀年間に至り南館住新田氏八代の裔左馬介源盛政、寺田百石を寄與せしが、後ち、堂宇を廢す。慶長九年、親歴存心之を中興す。寛永元年、根城主八戸二十三代彌六郎直義、遠野横田へ轉寺。時に結緣ある寺院僧侶伴隨して還る。當山亦其一なり。承歴三年、林南儀道當地に之を重興し南部山城守源重直寺領百石を寄す。卽ち稱して林南を中興開基とす。

㊂寺域二千六百八十三坪。小本寺格にして伽藍善美なり。

法光寺　三戸郡名久井村。

㊀曹洞宗。

㊁述長年間の草創にして糠部第一の舊刹と傳へらるも詳記なし。或は北條時頼の開基に係るとも傳ふ。古く白花山と號す。永正年間越後柏崎香積寺遠山長徹之を中興す。南部東家の位牌所たり。明治八年四月本山より常恒會地の免許に預かる。小本寺格にして末寺二十餘箇寺あり。

㊂境内五千七百三十餘坪。

三光寺　三戸郡向村大字小向。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁正平十六年三光國濟の開基に係る。文祿二年南部信直關山派の僧石門を松島瑞巖寺より請して中興せしむ。寺號は南部二代實光の法名に因むと云へど、果して然るや。

㊂境内に信直墓碑あり。

山形縣

專稱寺（センショウジ） 山形市七日町。

㊀眞宗大谷派。

㊁蓮如の弟子願正の開基に係る。初め文明五年夏、願正師命を奉けて奥州に在り、同十五年當國村山郡高瑜（今高瑞と作る）の邊りに草庵を結び、一向專念の宗義を弘通して土民教化に努む。これ本寺の濫觴にして天文六年四世教證の時證如上人より專稱寺號を許さる、文祿年中五世乘念の時當山の教化最も盛となり、別に一寺を山形に建立し、之より專稱寺二所に分る。同四年領主最上義光の一女豐臣秀次に事へて侍女たりしが秀次罪を得て死を賜はるに及び、女亦從ひて六條河原に刑さる。因つて義光當時山形の二王堂小路なる惠稱寺に命じ、其冥福を弔ぜしむ。爾來當寺に歸依すること深く、更に小白川村北部に宏地を寄せて堂宇を建立せしめ、供養料十四石を附し、領主本宗一派の錄司たるべき掟書を寄せ、且つ專稱寺號をして專ら山形の新寺にのみ用ひしむることゝす。維新前は村山、最上二郡九十六箇寺の中本寺にして出羽五山の一たり。

㊂現今の本堂は元祿三年、大廣間、表門は九世晴瑞の再建にして、書院・庫裡・鐘樓等は慶長年間の建立なり。寺寶に願如說親鸞眞影・親鸞繪傳四軸・同聖德大師眞影・同七高僧影・同願正影・親鸞筆六字名號・教如筆九字名號・義光筆三箇條掟書・同書軸其他古文書多數を藏す。

法音寺（ホウオンジ） 米澤市御廏町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁八海山と號す。開創年代詳ならざるも、初め越後國魚沼郡長森藤原にありて繁城山と號し、長尾氏累代の所願所たり。天正年間同國春日山に移り、次で慶長三年會津に轉ず。更に上杉景勝米澤移封の際、當寺亦隨ひて當地に轉じ以後上杉家菩提所たり。能海之を中興して寺領五十石を附せらる。正保二年三世照海の時大覺寺尊性法親王より菩提心院の稱號を賜ひ且つ院家兼帶並に米澤領内法中上座の令旨あり。爾來當國領主累代の菩提所となり又總錄司に定めらる。寛文三年頁運の時より四季法論を執行するに至る。明治維新後米澤城二ノ丸より現寺地に移る。

㊂寺内に上杉家廟所あり、地名之に因る。

常念寺（ジョウネンジ） 鶴岡市南町。

㊀淨土宗。

㊁鶴岡山と號す。大永三年寂譽上人の開基に係る。初め一日市町に創建せられ圓通院天翁寺と號せしが、最上義光入國するに及び、現寺號に改めて菩提所となし、寺領百三十八石餘を寄せたり。後ち、元和九年酒井忠勝現地に移して再興す。慶應二年六月堂宇再建成る。

㊂伽藍頗る宏壯にして地方有數の名刹たり。寺寶に義光寄進梵鐘・志津三郎金氏作薙刀等を藏す。

佛向寺（ブッカウジ） 東村山郡天童町。

㊀時宗。

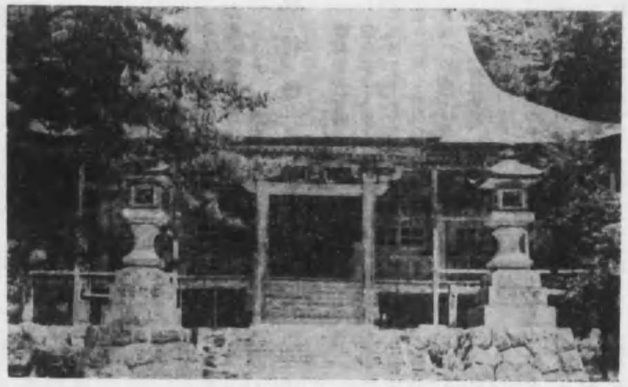
㊁弘安元年出羽按察使有章大夫源頼直の開基に係り一遍上人高弟一向俊聖之が開山たり。頼直後裔頼房天童城に據り、山形城主最上義光と戰ふや、當寺住僧觀阿彌背力ありし故を以て頼房を援けて義光を苦めしも及ばず、その軍勢寺内に亂入して諸堂悉く灰燼に歸し寺祿又沒收せらる。後ち再建せられ、近年に至る迄時宗十二派中天童派の本山たりしが、今一向派に合してその中本寺たり。

㊂境内に詠歌「鳥の號の御世の光はいまもまたいて羽の山の麓にそしる」を刻せる碑の建てるは、萬延元年寺内にて白雉を獲たれば領主織田氏之を天聖に供せんとせしにその途に斃れしを以て、陸奥出羽按察使前權大納言有長懇みて贈りしものと云ふ。

立石寺（リッシャクジ） 東山村郡山寺村大字山寺。

㊀天台宗。

㊁寶珠山阿所川院と號し、俗に山寺或は岩屋と稱す東北屈指の靈場たり。寺傳に、清和天皇貞觀二年勅を奉じて圓仁の草創せし所と云ふ。初め圓仁東北遊化の途、此地を過り、その奇巖に松柏の繁茂せる絶景を愛し遂に勅許を奉りて一大道場を創建せしもの卽ち當寺なり。先づ本院を興し數年ならずして如法堂、五大堂、根本中堂、山王大宮等を營む。工竣るや、比叡山根本中堂の常燈明を頒ちて、こゝに點ず。清和天皇勅して眞觀寺と號せしめ給ひき。當時村山四郡の地、藻が湖と稱し沮洳卑濕にして、增水あれば一帶湖水と化す、而して當寺は湖中の高地を占めしを以て一に松島眞觀寺の稱ありき。圓仁當山に留錫するや、先づ大いに心を殖産興業に用ひ、麻布製造の業を教へ最上川筋御殿の岩石を穿ち疏水の便を圖れるより古來不毛の地變じて沃野となる。爾來土民其德を崇め毎年初穂を當山に納めて一寺を興す。（安養院卽ち是なり（安養院は後ち正平年間南村山郡楢下に轉じ元和年間牛郷村に移る）。圓仁之を上聞に達し且つ麻布三千反、砂金一千兩を上獻せしに上之を嘉し給ひ方三百八十町の免租地並びに立石倉印の綸旨を賜ふ。當寺の寺領東は國境より西は酢川を限り、南は兩子塚より北は六道辻に至れり。其後戰亂に況されて資頼に傾きしが、正平十一年八月斯波兼頼大崎より山形に移るや、當山その鬼門に當りしより深く之に歸依し保護を加へしを以て稍々舊觀に復せり。然るに享祿年間に至り近郷爭亂の爲め寺境再び荒廢す當時の院主圓海大いに之を慨き最上義光の歸依を得て天文十二年大いに寺坊を再興す。義光寺領八百五十石を寄せ且つ臣本間作右衛門をして堂宇の修覆を監せしむ。然るに元亀二年織田信長延暦寺焚毀の事ありて一山廢墟に歸すること數年、後ち延暦寺中堂の再建成るや、當山如法堂の常燈明を再び延暦寺中堂に分移す。最上氏改易後、山形城主鳥井忠政の寺領内を侵すあり圓海よく之と爭ひて謝罪せしむ。寛永元年幕府東叡山中堂を建立するや、當寺中堂に安置せる日光月光十二神將を之に移し、當寺には新佛並に中堂修繕料百二十兩を寄す。慶安元年七月十七日德川家光千四百二十石の朱印地を寄せ、深く之に歸依せしを以て、土俗崇めて奥の高野と稱す。當時一山に十四院二十坊あり。爾後數度の災禍に遭ひ轉住の弊に因り諸堂宇破頽せしが享保年間山王宮其他堂宇を改修す。維新の際神佛分離の事ありて寺内山王權現は村社日枝神社となる。明治四十一年九月東宮殿下、大正七年八月秩父、高松兩宮殿下當寺に御成あり。現住に至る迄法燈の輝くこと實に六十七世、一千六百有餘年に亘り、東北第一の名刹たり。



（立石寺本堂）（國寶）

㊂現在境内地二十五萬八千餘坪あり。立谷川に臨みて無數の奇巖怪石縱横に起伏し、大小四十八の飛湯瀑を成して夏日の美熱をも一洗す。其間に介在する寺塔の配置頗る比叡山延暦寺に類せり。一山東中西の三門に分れ參道は中門にあり。山腹に仁王門あり、東門に釋迦堂、西門に五大堂ありて一山の翼を張り、山麓より頂上なる奥ノ院如法堂に至る間約八町なり。堂宇中、中堂（根本中堂）は、立谷川より石階を登りたる平地に建ち、現に國寶建造物にして、方五間、單層、屋根入母屋造、柿葺、前面に一間の向拜を附し、前面と左右兩側の一部に廻縁を設く。軒には木割雄大なる繁垂木を用ひ、斗栱の制莊重なる三斗なり。柱間に櫺唐戸を設けて内外兩陣を割し、内部は床張拭板敷とす。卽ち延暦寺根本中堂、同轉法輪堂の樣式より稍々日本化せる大和室生寺本堂、近江西明寺本堂（共に鎌倉時代の建築）と同趣に出づ。内陣後方中央に秘師像を安じ左右に毘沙門天、文殊像並に日光、月光、不動明王、十二神將像を置く。堂の組物、裝飾の繪樣彫刻等の手法に桃山時代の特色を明示し、天正年間中興の際の建立と推定せらる。中堂の左上方如堂より登ること數百階にして、如法經所碑一基あり。現に國寶にして、もと開山堂の東、入定靈窟頭にありしが、後ち雪崩の爲め轉落せしを近時更に開山堂前の現地に移せり。天養元年八月第八世圓眞の刻して建立せるものにして史的價値高し。他に本堂・常行念佛堂・胎内堂・釋迦堂・準提寺・納骨堂・納經堂・表門・仁王門・鐘樓・三重塔・清和天皇御寶塔・一切經藏等ありて甍を連ね、更に觀明院、性相院、金乘院、中性院、華藏院等所謂寶珠山十二院中の五院今に存す。寺境に、熊野權現宮、三輪稲荷社、八王子宮、十二明神、聖女宮、十禪師宮、早尾權現社、王子宮、二宮、三宮、日枝神社、白山祠、磐司祠、由利橋觀音等の摂祠を存す。もと當山佛閣の一部は今各小字に保存せられ、主なるものに上蔓谷觀音堂（傳圓仁作千安觀音菩薩像安置、最上百番中第四

十五番札所で、道分地蔵堂（傳圓仁作地蔵菩薩像安置、最上四十八地蔵尊中第三番）等あり。寺寶亦頗る多く本院に立石寺縁起・傳圓仁作彌陀如來像・同藥師如來像・同釋迦如來像・源信作彌陀如來像・圓仁入唐將來金胎兩部曼荼羅・其他經典古文書等數十部、如法堂に清和天皇下賜南蠻鐵製立石倉印並に古鏡古鈴等、中堂に圓仁作本尊藥師如來像等多數を蔵し、外古佛像古文書等枚擧に遑あらず。又寺内に赤石・産橫・硯石・對面石、姫岩・炷香岩、四寸路・彌陀洞・琵琶石、出羽國司島居氏石碑・義光靈屋・把架亭、入定巖等の古址奇蹟及び附近に山寺八景、同三奇景、同七木七石等の勝迹あり、秋季滿山錦を織るの時絶景茲に極まる。表門侈なる芭蕉翁蟬塚には「閑さや岩にしみ入る蟬の聲」と刻す。

㊃三月二十五日。當日は中堂法祭にして明治二年迄燕舞、太平樂、喜綠、二の舞、神儺還城樂拔頭、陵王、納蘇利、大回向の舞樂を行ひ、後ち中絶せしが同三十六年之を再興す。

吉祥院（キツシヤウ）　東村山郡出羽村大字千手堂。

㊀天台宗。

㊁守國山圓滿寺と號し、一に出羽一佛千手堂と稱す寺傳に聖武天皇天平九年勅を奉じて行基草創し、自作千手觀音を安置すと云ふ。當時國内惡疫流行し、行基拔除祈願して驗あり、茲に於て堂塔建立成り、數百町歩の寺領を附せられ國家鎭護の道場となる。爾來歷朝の叡信浅からず。久安二年藤原基衡、日月輪碑を境内に建立す。延文五年斯波覺賴本堂を改修す。爾來最上氏黒代の歸依篤く屢々寺領を寄せ、寺運隆盛なりしも維新後漸く衰頽せり。

㊂境内地一千九百七十六坪を有し、堂宇に本堂、庫裡等あり。本尊木造觀世音菩薩像安置、最上四十八地蔵尊中第三番）等あり。寺寶亦頗る多く本院に立石寺縁起・傳圓仁作彌陀如來像・同藥師如來像・同釋迦如來像・源信作彌陀如來像・圓仁入唐將來金胎兩部曼荼羅・其他經典古文書等數十部、如法堂に清和天皇下賜南蠻鐵製立石倉印並に古鏡古鈴等、中堂に圓仁作本尊藥師如來像等多數を蔵し、外古佛像古文書等枚擧に遑あらず。又寺内に赤石、産橫、硯石、對面石、姫岩、炷香岩、四寸路、彌陀洞、琵琶石、出羽國司島居氏石碑、義光靈屋、把架亭、入定巖等の古址奇蹟及び附近に山寺八景、同三奇景、同七木七石等の勝迹あり、秋季滿山錦を織るの時絶景茲に極まる。表門侈なる芭蕉翁蟬塚には「閑さや岩にしみ入る蟬の聲」と刻す。

㊃三月二十五日。當日は中堂法祭にして明治二年迄燕舞、太平樂、喜綠、二の舞、神儺還城樂拔頭、陵王、納蘇利、大回向の舞樂を行ひ、後ち中絶せしが同三十六年之を再興す。

願行寺（グワンギヤウ）　東村山郡高擶村大字高擶。

㊀眞宗大谷派。

㊁蓮如上人弟子菅生願正の開基と傳ふ。初め文明五年夏蓮如願正を伴ひて奥州に下り願正を殿して越前に遷る。願正出羽に赴く途、彌陀木像を感得し高擶（今の高擶）の邊りに草庵を結びて化導す。歸するもの甚だ多し。二世願正、俗名佐藤孫右衛門と云ひ深く一世願正に歸依し、その主中山市郎の命に隨ひて剃髮せしものなり。數度の戰役に足を傷め歩行奇なりしより反願正の名あり。天文六年證如より專稱寺號を寄せらる。文禄二年當寺五世乘念山形に專稱寺を開創す。六世なる照榮の時西樋南隅の寄地より現寺地に移す。領主最上氏專ら山形專稱寺を庇護し當寺をして專稱寺號を用ひざらしむ。茲に於て本山より改めて龍池山願行寺の號を賜け以て今日に至る。

㊂境内地七百九十六坪、信徒五百と稱す。本堂は觀音堂の上方山林中にあり。本尊藥師如來を安す。寺寶に兩界曼荼羅・沙門祐藤筆三千佛圖三幅・法橋桑運筆涅槃像圖等あり。

㊃舊時毎年三月十八日入峯の作法を修し一山大衆行列して觀音堂を三匝し、堂前に大幣を樹立して數番の田樂を行ひ、この日より五月五日に至る間諸國の行者群集して本堂に籠居せりと云ふ。

注連寺（チユウレン）　東田川郡東村大字大網。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁湯殿山と號す。湯殿山舊別當職の僧坊にして、空海の草創に係り、百日百座の梵燈を修せし遺跡なりと云ふ。文和四年兵燹に罹りて一山焦土と化せしが慶長六年領主最上出羽守義光寺領三百石を寄せ、且つ湯殿山表口執行別當寺となり寺運隆盛を極めしが、天和八年最上氏没落し本寺又寺領を失へり。同十二年酒井宮内大輔忠勝の新願所となり、寺領五十石を寄せらる。維新後神佛分離の際、湯殿山は國幣小社に列し、當寺々領悉く上地せられ、一山僧徒概れ還俗せしが次第に衰頽に傾き、加ふるに明治二十一年五月颱風の災に遭ひて堂塔悉く烏有に歸したり。

㊂現今十二間四面の本堂一宇を存するのみなれど、尚ほ奥羽風指の靈場として巡教者四時に絶えず。寺寶に寛平法皇寶軸等を存す。

安國寺（アンコクジ）　東村山郡大寺村。

㊀曹洞宗。

㊁大平山と號す。曆應二年六月、足利直義尊氏の志を繼ぎて疎石の説に隨ひ、諸國に令して六十餘州悉く一國一寺の國家安穩所祈道場を置く。當寺はその一なりと云ふ。初め臨濟宗なり奉じて長松山と號せしが、中興後改宗して現號に改む。

慈恩寺（ジオン）（寶蔵院）　西村山郡醍醐村。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁瑞寶山と號し、學頭の院名をとりて通稱寶蔵院と云ふ。開創年代詳ならず。寺傳には聖武天皇神龜年間行基勅を奉じて草創し彌勒像を安置すと云ふ。一説に遠羅門僧正開創して、寒江山大慈恩律寺と號すとあり風土略記には六國史著名の瑜伽寺、長安寺なるかと推定す。もと天台、眞言兼學たりき。鳥羽天皇天仁年間順西勅を奉じて之を再興せしも、後再び衰頽す。保元元年弘後院宣を奉じて瑞鳳山慈恩寺と改號して堂宇を修し、文治二年更に院宣に依りて往古の法式に則り法會を興すや以後寺運次第に隆盛に向ふ。以て本寺の中興となす。爾後歷代寺領寄進あり。慶長年間最上氏入るや、義光、家親、義俊等の歸依深く、元和四年義俊本堂を再建し、又幕府より朱印二千八百八十九石を附せらる。當寺一山妻帶の衆徒四十四坊を存し寒河江第一の大伽藍と稱せられたり。維新後稍々衰頽す。

㊂南寒河江川の清流に臨み、村山の平野を瞰下して遠かに白鷹の秀麗に指し、眺望頗る絶佳なる景勝の地を占む。境内地三千六百六十坪、堂宇中、本堂（彌勒堂）は現に國寶建造物なり。桁行七間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、茅葺にして、當地方稀に見る大建築たり。元和四年の再建と傳へ、眞言道場の形式に成る。組物、蟇股、木鼻等の繪樣彫刻に桃山時代特有の雄壯なる氣魄を存せり。他に講堂・藥師堂・阿彌陀堂・不動堂・釋迦堂・鑁羅門堂・大黒天堂・寶蔵・開山堂・樓門・三層塔・僧院數宇（學頭華蔵院、寶蔵院）あり。末寺三十餘箇寺を有す。寺寶中、木造阿彌陀如來坐像一軀（阿彌陀堂安置）は現に國寶にして鎌倉時代初期の作なり。他に彌勒菩薩像・釋迦如來像・阿彌陀如來像（以上絹地大軸物千佛繪傳源信作）・圓仁筆天台大師像・柳原大納言寫空海像・英有榮筆出山釋迦如來像等を蔵す。寺境に十勝あり。白山曉月、新山紅葉、岩清水納涼、櫻澤落花、鶴定殘雪、陽持院晚鐘、陳畔牧童、雷淵暮雨、酒醐落雁、寒河江川渡船之なり。寺内東部に八千代公園あり。

㊃法會は自一月一日至十一月二十四日五十八箇度。四月八日は例祭にして當日一山衆徒種々の田樂を行ふ。又御身洗と稱するあり。老年男女二人精進齋戒して夜半丑刻本堂に入り閻中秘佛彌勒佛像を淨む。

龍頭寺（リユウトウ）　飽海郡蔵岡村大字上蔵岡。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁鳥海山と號す。初め慈照此地に一寺を開きて、觀音寺と稱し、往古は三寶院門跡の末にして、出羽一ノ宮鳥海山大物忌神社の表に別當學頭職をつとめ、寺領百八十餘石を有したり。當寺は大泉、住泉、北野、岡伽井、玉泉、清水等三十餘坊と共に其一坊にして、上首を光岩院と稱し、村の上なりしを以て一に上寺と云ふ。明暦元年以後當寺號を以て一山總號とす。元禄年間深海之を中興す。寶永年間常談林所に列す。維新の際神佛分離のため、別當學頭職をやめ、寺運漸く衰頽す。

㊂境内地七百九十六坪、信徒五百と稱す。本堂は觀音堂の上方山林中にあり。本尊藥師如來を安す。寺寶に兩界曼荼羅・沙門祐藤筆三千佛圖三幅・法橋桑運筆涅槃像圖等あり。

㊃舊時毎年三月十八日入峯の作法を修し一山大衆行列して觀音堂を三匝し、堂前に大幣を樹立して數番の田樂を行ひ、この日より五月五日に至る間諸國の行者群集して本堂に籠居せりと云ふ。

黄金堂（オウゴン）　東田川郡手向村。

㊀天台宗。

㊁草創沿革詳ならず。或は文治五年源頼朝藤原泰衡

（黄金堂）（國寶）

立すと云ふ。文祿五年直江山城守、甘粕備後守之を修復す。現在同村荒澤寺の管理に係る。

㊂堂は現に國寶建造物にして、桁行五間、梁間四間、單層、屋根四注造、茅葺の純唐樣建築なり。堂の形態略ぼ寶形造に近く、屋蓋の流れ頗る急にして僅かに反轉を認む。頂上一種大形の露盤を冠し、軒の繁桷は枘々雄大なり。四方廻椽を繞らし、床下幾分高くして壇組石段上に立つ。内部床總拭板敷にして内外陣を劃せり。斗栱、虹梁、繪樣彫刻等悉く唐樣手法に據る。堂の權衡必すしも美ならざれど細部の手法明に鎌倉期の特徴を存し、奥羽地方に存する堂宇中大規模にして古きものゝ一として擧ぐるに足る。寺寶には本尊三十三體聖觀世音菩薩像・運慶作仁王像等あり。

善寶寺（ゼンポウジ）　西田川郡西郷村大字下川。

㊀曹洞宗。

㊁龍澤山と號し、總持寺末なり。縣内有數の名刹にして、三州豐川妙嚴寺、相州小田原最乘寺と共に洞宗三所禪所と稱せらる。天慶、天曆の頃羽州田川郡黄金邑の妙達、龍華寺を創して之に居る。延慶年間羽州大守藤原義範、總持寺二世峨山紹碩を請じて龍華寺の遺址に居らしむ。後ち百三十年、七世法孫太年淨椿舊址を再興して、改めて善寶寺と號す。即ち當寺の開山にして、峨山を以て崇敬開山とす。龍澤の山號は淨椿の二龍授戒の故事に出づと傳ふ。今寺内龍王殿は即ちこの二龍、龍王龍女の二神を祀る。天明六年有栖川宮澤く、峨山、淨椿の靈感に感じ給ひ、當寺を永く祈願所と定められ、特に御紋附紫幕並に御提燈等を賜ふ。文化二年更に同宮家より善寶寺の扁額を下賜せらる。爾來堂上貴尊の崇敬厚し。古來殊に海上生活者の渇仰厚く、遠く北海道及び奥羽各地より來參するもの今に絶えず大漁滿足、海上安穩の祈願札を授け靈驗著しと云ふ。明治十五年二月有栖川宮より龍王殿の扁額を賜ふ。同二十六年五重寶塔成り、同三十四年堂宇を再建す。大正十一年庫裡を改修す。

㊂全境の堂塔二十一宇、本堂・龍王殿・秋葉堂・羅漢堂・運佛塔・龍華堂・彌勒堂・五重塔・靈牌堂・書院・庫裡・山門・總門等之なり。龍王殿には今有栖川宮家御歷代の尊牌を奉安す。之より山中に入ること約三町にして老樹鬱蒼たるあたり、二龍藏身の池に達す。貝喰池と稱し深水澄碧の靈池たり。寺寶に後水尾院宸筆・光明皇后御染筆・空海筆植物等あり。附近に湯野濱温泉、袖ケ浦、七窪の景勝ありて遊覽地として名あり。

（善寶寺本堂）

㊃春秋二回龍王講社法會。

遍照寺（ヘンジョウジ）　西置賜郡長井町宮。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁金剛山胎藏院と號す。一說に柿木紀僧正草創の地と云ふも詳ならず。往古は奥ノ高野山と稱せられ、高雄山寶性院末にして、堂宇莊嚴を極めしが、後ち次第に衰頽す。降りて應永二十九年、僧宥日、高野山永遍の法流を傳へて當寺を中興せしが、次で宮の城代片倉小十郎當寺に歸依すること深くして、遂に仙臺に一宇を創建して遍照寺と號し、以て其祈願所とす。萬治元年、上杉公德當寺を祈願所と定め、墨印若干を附す。爾來下長井四十餘郷の檀那寺となり、末寺三十三箇寺を擁して法威頗る盛んなりき。

㊂境内一千三百餘坪。古杉蓊鬱たる靈地なり。堂宇に本堂・庫裡・山門等を具ふ。寺寶として舍利塔二基・傳空海作不動明王畫像・宥日筆不動明王像・同三社書等を藏せり。

稱名寺（ショウミョウジ）　西置賜郡十王村。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁光明山と號す。天平二年、行基の開創に係ると傳ふ。初め金戒光明山無量壽院と號して法相宗に屬し、境内に子院六坊を存せしが、元中年間、現宗に改む。子院六坊次第に廢絶す。

㊂堂宇に本堂・十王堂・阿彌陀堂・岩崎辯天祠等を具へ、十王堂安置の十王像は行基作と傳ふ。

㊃阿彌陀堂法會一月十三日及び十二月十五日。

金藏寺（コンゾウジ）　東置賜郡高畠町糠森。

㊀曹洞宗。

㊁鹽森山と號し、俗に壇垣馬頭觀音と稱す。中古、若柳城主鹽盛兵庫守、深く當寺に歸依して堂宇を建立せしが、後ち、次第に衰廢す。近世戒融の災に罹りて堂宇、古記、寺寶等概ね烏有に歸せり。往古は境内に千院數多ありて亀岡大聖寺と共に當國の名刹と稱せられたり。

㊂境内地八百二十坪、堂宇に本堂・觀音堂等を具ふ。

㊃緣日三月、七月、九月の各十九日。

陽源寺（ヨウゲンジ）　東置賜郡小松町。

㊀曹洞宗。

㊁日吉山と號す。文安年間、無著妙融の開創に係る。爾來屢次戒融の災に罹りて、其沿革を詳にせず。

㊂境内地一萬五百坪。

大聖寺（ダイショウジ）（亀岡文殊堂）東置賜郡亀岡村大字亀岡。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁松高山と號し、俗に亀岡文殊堂と稱す。大同二年德一の開創と傳へられ、當地方屈指の靈場たり。延喜式出羽國の條に「文殊會料二千束」と特載せられ、月山物忌の神祭料、四天王五大尊等の供料と並び見えたるは當寺の事なるべし。降りて伊達政宗、仙臺移城の際、當寺に梵鐘を寄進す。天正十六年五月、加賀國大乘寺住職月舟、當山文殊堂にて百日參籠ありて山門扁額を寄せ、元祿七年四月、京都智積院主泊如運敞、仁王門扁額を寄進す。次で同十一年、德川綱吉百石の朱印地を附す。更に同家茂の時に至りて院家に列し、後ち檀林となる。慶應元年、四十九世宥英、大炊御門家の猶子となりて權僧正に任じ、且つ境内筋屏を免許され、同時に孝明天皇勅願所となる。明治二十四年五月、戒融の災に罹りて山門及び仁王門を失ふ。

㊂境内地千六十坪。四圍老杉古松鬱蒼として、千歲の古色を傳へ、堂宇に本堂（文殊堂）・庫裡・山門・鐘樓等を具ふ。文殊堂は大同二年、德一草創の時、飛騨工匠の建立に係ると傳ふ。本尊文殊菩薩像は、寺傳に宣化天皇御宇、伊勢國度會郡神乳山に出現し、後ち之を當山に移せるものと云ひ、古來、大和國安倍寺、丹後國知恩寺に安置せるものと併せて日本三文殊と稱す脇侍傳德一作寶頭盧尊者像は夙に本堂無護の佛像とせられ、當堂創建以來未だ火難に遭はずと云ふ。本堂の傍に存する櫻樹は曾て暴風に遭ひて倒れ、其幹の外皮に蟲蝕の痕を止め、其狀恰も文殊菩薩の青獅子に駕せる姿に似たるより、俗に之を蟲喰文殊と稱す。鐘堂前に銅盤（徑九尺餘）古石碑等を存す。寺寶として傳空海作四社明神像・源信筆彌陀三尊像・上杉景勝室清光院寄進箏・金剛界曼荼羅圖等を藏せり。

珍藏寺（チンゾウジ）　東置賜郡漆山村大字漆山。

㊀曹洞宗。

㊁亀布山と號す。寛正元年の開創にして、もと金藏寺と號せり。金藏寺の號は此地の樵夫金藏の故事に起ると云ふ。山號亦之に因る。

㊂境内地三千坪。堂宇に本堂・庫裡・僧堂・觀音堂・慮空藏堂・經藏・寶藏・山門等を具ふ。寺寶として源信作聖觀世音像・亀の毛織等を藏せり。尙ほ境内に「仙亀留毛傳秋事、古經存寺是珍藏」の碑文を存せる古石碑あり。

高德寺（コウトク）　東置賜郡大塚村。

㊀曹洞宗。

㊁稻荷寶山と號す。享德年間、谷監物義國の創建に係り、寶光智證を以て開山とす。天正年間、高橋備後守の歸依を得て堂宇を改修す。明治十八年、大塵文惠當地常光院より移りて當寺に住するや、新に寶藏を建立し諸堂を修營す。爾來當國屈指の大刹となれり。

㊂境地甚だ宏壯にして堂宇に本堂・庫裡・寶藏・山門等を具ふ。

洞昌寺（トウショウジ）　南置賜郡南原村大字關。

㊀曹洞宗。

㊁岩木山と號す。初め越後國にあり。時に當寺住職上杉輝虎の下にて屢次戰功あり、依りて天正十六年、景勝越後に於て郡司不入の寺領を寄進す。慶長三年、當國に移りて照陽寺脇地に堂宇を建立せしが、次で元和四年、當村大白部の地に再轉すと云ふ。

阿彌陀寺（アミダ）　南置賜郡窪田村。

㊀淨土寺。

㊁金光山と號す。草創年代、沿革共に詳ならず。近世寺領五十石を有せりと云ふ。

秋田縣

誓願寺　秋田市寺町。

㊀浄土宗。
㊁慶長十年八月領主佐竹義宣の創建に係り、僧文閑を以て開山とす。麟勝院、龍泉寺と共に佐竹氏菩提寺の一たり。
㊂境内地三千七百餘坪。堂宇に本堂・庫裡・客殿・観音堂・経蔵・鐘楼・山門等あり。境域老樹鬱蒼たる幽地をなす。寺宝に圓仁作脫衣鬼像・琢磨法眼筆軸物阿彌陀佛像等を蔵す。

龍泉寺　秋田市寺町。

㊀時宗。
㊁遊行四代天海の弟子輪長の開基に係り、後醍醐天皇御宇常磐村に創建し、阿彌陀佛を安置して藤澤道場蔵泉寺と號し、後に至りて龍泉寺と改む。慶長年間國主佐竹氏の移封と共に現地に轉じ、寺領五十石を附せられ、當地誓願寺、麟勝院と共に佐竹氏三菩提寺の一たり。

麟勝院　秋田市寺町。

㊀曹洞宗。
㊁義峯山と號す。慶長七年佐竹氏常陸水戸より當地に移封せらるゝに當り隨伴せし鎌山樹淵の開創に係る本尊に釋迦牟尼佛、阿彌陀如來、御物佛三尊を安置す。當地誓願寺、龍泉寺と共に佐竹氏三菩提所の一たり。寺領五十石七斗餘ありて寺觀頗る莊嚴なりしが、後ち回祿の災に罹りて舊觀を失ふ。舊藩政時の定書に、正洞院、閻信寺及び當寺は諸士上席辭酌可致事と見え以て當寺の崇敬他に異りしを知るべし。
㊂寺内に奥山榕齋の撰に係る序銘を有する舊藩評定奉行伊藤萬年の墓碑を存す。

蒼龍寺　南秋田郡土崎港町。

㊀曹洞宗。
㊁應永三年四月安倍康秀の開創なりと傳ふ。初め康秀、弟康季と共に北海夷狄の征討將軍に任ぜられて大功あり。以て神佛の加護となし、當寺及び一社を建立す。社には羽黒山權現他三社を勸請せりと云ふ。
㊃應永三年四月朔日唐秀刻例願書は、中野大龍寺より移して現今當寺に蔵ぜり。

補陀寺　南秋田郡旭川村大字山内。

㊀曹洞宗。
㊁亀像山と號す。總持寺に屬し、正平四年秋田郡司安倍守季の創建に係り、月泉良印之が開山たり。二世無等良雄は萬里小路中納言藤原藤房の後身と傳へ初めて越後に到り良印を禮して弟子となり、之藤房抖擻して越後に到り良印の正法寺に移るに及び、法席なに隨ふこと多年、良印の正法寺に移るに及び、法席なを繼ぎて當寺に住すと云ふ。當寺は遠く北海道布教の先驅として、古くは奥羽、北海道に末寺一百五十餘を有せり。慶長年間秋田實季第二子出家して當寺に住し第十二世たり。近世寺領二十石を有す。
㊄一山古松老杉繁茂して境内地約四千坪あり。堂宇に本堂・庫裡・山門等を存し、寺宝に傳源義家持佛觀世音菩薩（本尊）・月泉筆書畫・藤房着用笈・袈裟・傳運慶作普賢像其他古佛畫等を蔵す。
㊅開山忌（五月二十四日）、二代祖忌（二月十日）。

天德寺　南秋田郡旭川村大字泉。

㊀曹洞宗。
㊁萬古山と號す。寛政年間水戸城主佐竹義人、夫人の菩提の爲めに其城下に創建し、獨黨を請じて開山とせしも當寺の創めなりと云ふ。後久しく荒廢せしが、佐竹義睿の代に至り、上野國緑野郡御旅村永源寺四世幻室伊達に帰依し、之を當寺に請じて、以て中興開山とせり。然るに慶長七年佐竹義宣出羽國秋田に移封さるゝに及び、當寺亦隨ひて同地檜山に轉じ、寺領三百石を附せらる。第七世瑞嵐代には藩内三百箇寺の錄所たり。寛永元年十二月二十七日祝融の災に遭ひて諸堂宇悉く烏上す。依りて同地字泉の郷に轉じて再建す。之れ現寺地なり。延寶四年十二月八日再び回祿に罹り寶永五年再建成る。舊藩政時の定書に「一、天德寺、寶鏡院、一乘院右三箇寺諸士敷居外可致事」とあり。以て當時の尊崇厚かりしを察すべく、一宗の寺格現に常恒會地たり。
㊂境内地二千六百九十餘坪あり、寺境は頗る風致に富み、幽閑寂淨の靈地たり。堂宇に本堂・開山堂・靈廟・書院・佛院・接客寮・茶室・庫裡・山門・總門・廊下・土蔵・鎮守堂等を存するも、維新後その規模を縮小せし爲め、本堂、山門、廊所のみ僅かに舊觀を保てり寺宝に傳空海刻天女像・光明皇后御筆併祇金泥法華經八軸・土佐光信筆菅原大臣像・一休筆遺歴像・光殿司筆十六羅漢像等あり。
㊆大法會（舊八月朔日）。

全良寺　南秋田郡寺内村大字八橋。

㊀臨濟宗妙心寺派。
㊁大智山と號す。後光明天皇承應三年遠江宇齋門隆光の草創にして、新し洲疇猶を以て開山とし、初め河北山大龍寺と號す。元禄九年遠江内勝政光之を現號に改む。藩政時寺領五十石たり。戊辰役に際し官軍墳墓の地となり、明治九年東北巡幸の砌、勅使御差遣あり。爾來官修墳墓の地と稱せらる。同十九年祝融の災に罹りて堂宇灰燼に歸し、再建未だ成らず。

（全良寺参道）

㊂境内地千二百四十九坪。
㊃涅槃會（四月十五日）、佛式招魂祭（十月十七日）。

淨明寺　山本郡檜山町檜山。

㊀眞宗大谷派。
㊁秋田安東氏の菩提所にして、西道（安倍氏）の開創に係る。以後の潛革知る能はず。
㊂安東家に因む古證文書紛なからず。其中に安東實季より當寺四代成就に寄せたる永代當寺檀那たるべきの證等あり。

永泉寺　由利郡本庄町。

㊀曹洞宗。
㊁龍洞山と號す。僧道叟開創に係り、舊領主六郷家の菩提所なり。陸中國永德寺末にして元和九年、仙北郡六郷村より移轉す。もと伽藍頗る壯麗なりしが、明治二十七年燒失す。
㊂境内二千坪。寺に實弘法大師筆般若心經・唐沈德熙の畫等を蔵す。境内には六郷氏家老金澤權太夫の墓あり。

喬慶寺　由利郡矢島町。

㊀本門法華宗。
㊁尼崎本興寺の末寺なり。元禄十六年生嗣主殿頭親興の開基に係り、好善院日行之が開山たり。爾來代々生嗣氏菩提所となる。其後戊辰役に際し、庄内藩の賊兵、矢島藩守兵と當寺に戰ひて堂宇毀損せられ、寺宝の散逸せしもの多かりしが、後ち再建せられて今に至る。

龍源寺　由利郡矢島町城。

㊀曹洞宗。
㊁金嶺山と號す。元和九年十月、領主打越左近の開基にして、水戸長國寺八世卽瞬琴廣を開山とす。打越氏斷絶後は生嗣家の菩提所となる。末寺に正覚、慈音の二寺あり。
㊂境内千三百四十坪、本堂は十六間に七間なり。本寺並に隣接の祥雲寺境内に、明治戊辰の役戰死の矢島藩士の墓あり。

蜘滿寺　由利郡象潟町。

㊀曹洞宗。
㊁皇宮山と號し、古くは皇后山と云ふ。桓武天皇延暦年間圓仁の草創に係り、もと天台宗に屬せしが後世眞言宗に轉じ梵字カンマンを寺號とすと傳ふ。寺號につきては、又神功皇后三韓より干滿兩珠を携へ給ひし故事により干滿珠寺と號せりとも云ひ、或は地名蜘方の文字を取り方を万に更むとも傳ふ。正嘉年間、北條時頼諸國遊歩の途、當寺に來りて堂塔を修復し田園を寄す。後ち祝融の災に罹り諸堂概れ烏有に帰せしが、本尊三體外諸佛像等僅かにその難を免れて今に傳ふ。文禄元年、今野和泉、潟田筑後等有志と謀りて堂宇を再興し現宗に改む。文化九年三月閑院宮家祈願所となり御紋附提燈等御寄進あり。且つ同十二年四月、本堂再建に就き白銀三十枚を賜ふ。天明四年堂宇を再建せしが、類許ならずして文化元年の大震に遭ひ地蔵堂を餘すの外悉く倒壞す。天保六年第二十八世活山之を再建し現在に及ぶ。
㊄境内六千九百三十餘坪。堂宇に本堂・開山堂・経

藏・神功皇后殿・祠堂・開寛堂・地藏堂・辨天堂・大悲堂・納骨堂・無上門・仁王門・庫裡・鐘樓・稲荷社等を具ふ。寺内に親鸞腰掛石、蟬丸姿見井戸、菅秀才開種梅、時頼手植御踐、皇后禊掛松、開山傳法松、芭蕉句碑、西行櫻等あり。當地は陸前松島にも似て、その景趣幽寂を極む。南に鳥海天を支へてその影江上にうつり、西むや〳〵の關路の跡遙かなり。

㊁大布薩會（六月一日）、地藏會（七月二十三日）。

天寧寺　仙北郡角館町。

㊀曹洞宗。

㊁萬松山と號す。初め北會津郡東山村の地にありしが、慶長七年、蘆名氏角館移封の際、共に移されて此地に興立さる。當時寺領百石を領したり、後ち天明年間、明治十八年の再度に亘り戒融の異に罹りて堂宇を失ひ未だ舊觀を復するに至らず。

㊂境内地一千五百坪を有し、堂宇に山門・庫裡あり寺寶に開山木像・觀音木像・大佛等を藏す。

㊃恒規大般若會（舊五月十七日）。

善證寺　仙北郡六郷町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁寛喜院と號す。親鸞二十四聚中の第十是信の遺跡なり。寛喜年間の草創に係り、初め本淨寺と稱して子孫相續せしが、第九世明言の時に至り、之を重修し蓮如より善證寺の號を賜へり。盛岡市三ッ割なる本誓寺は當寺とその緣起を等しくす。又一說に、當寺ももと宮城縣刈田郡圓田村平澤に在りしを中世の頃現地に移るとも云ふ。

㊂寺寶に親鸞筆十字名號一幅・善如筆十字名號一幅・蓮如筆六字名號三幅・同正信偈文六幅等を藏す。

臺蓮寺　仙北郡六郷町六郷。

㊀淨土宗。

㊁池中山と號す。圓譽智貞（應永六年八月寂）を開山とす。もと藤田派に屬し、同派衰滅後は本山なかりしが、國主佐竹家の遷封と共に增上寺末となる。現今の本堂は當寺二十世乘譽の建立に係り、庫裡及び觀音堂等は明治二十九年の大震にて悉く潰滅せしを、其後再建す。

㊂堂宇宏壯、境内雅趣に富むを以て近郷に鳴る。本尊阿彌陀佛像は運慶作、聖觀音像は悲覺大師作と傳ふ地藏菩薩像は弘法大師作と傳へ、もと當町熊野神社の神體なりしを後ち當寺に遷す。

寶藏寺　仙北郡神宮寺町。

㊀曹洞宗。

㊁白宮山と號す。文和三年三月、當櫻左衛門の開基に係り、寶山宗玲を開山とす。もと越中永安寺の末寺なりしが、同寺廢寺後十一世に至り、加賀大乘寺末となれり。初め當櫻左衛門一向宗徒の軍に敗るゝや、主從十七騎と共に郷國加賀を逃れ、當國神宮寺の里に住す。文和三年、氏神白山權現を勸請し、加賀より其著提寺寶藏寺を移せしが、永安寺二世宗玲亦當櫻氏を慕ひて下向し、其開山となれりと傳ふ。明治元年九月、兵燹に罹りしが、同三年六月、假本堂を建設し、同四十一年現在の堂宇成る。

㊂境内の地藏堂は、當山十二世潛巖、深く地藏菩薩を信仰し、享保十三年の頃自ら千體の地藏菩薩を刻し、當堂を建立して納めしものなりと。寺寶として親鸞自畫像・悟堂筆楊柳觀音像・顛輝筆羅漢像等を所藏す。

高善寺　仙北郡峯吉川村。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁高寺山と號す。元正天皇養老二年の開創と傳へ、桓武天皇延曆十六年將軍坂上田村麿堂宇を興して國家鎭護の靈佛を安置すと云ふ。明治十六年堂宇を再建して今日に及ぶ。

㊂現在堂宇は四間四面の本堂一宇にして、寺寶に高寺山緣起其他を藏す。

正平寺　平鹿郡横手町。

㊀曹洞宗。

㊁長祿年間小野寺泰道の創建に係り、宗鶯を以て開基とす。本尊に傳圓仁作釋迦牟尼佛を安置せり。

㊂境内地一千七百餘坪あり。堂宇に本堂・羅漢堂・庫裡・經藏・鐘樓堂・鎭守堂等を存し、寺寶に泰道持佛黃金十一面觀世音像あり。附近上野塚と稱する地は本多上野介正純の居跡なり。寺内に正純、正勝父子の墓碑あり。

淨蓮寺　平鹿郡角間川町。

㊀淨土宗。

㊁寛永年間の草創に係ると傳ふ。

㊂寺寶中、絹本着色當麻曼荼羅圖一幅は現に國寶にして（大正十二年三月指定）鎌倉末期製作の淨土變相の一例なり。描法彩色孰れも巧緻を極め、地方に稀に見る精筆たり。其の背書に因りて京都透玄寺舊藏なりしを知る。

㊃法然上人忌會（陰曆正月二十五日）。

中部地方

愛知縣

聖德寺　名古屋市東區宮澤町。

㊀眞宗大谷派。

㊁七寶山と號す。もと美濃國大浦郷にあり。寛喜年中、親鸞の命により、其弟子關善之を建立す。永正の頃木曾川洪水の爲め流失し、尾張中島郡苅安賀村、同宮田村等に移る。織田、淺井兩氏相爭ひし時、淺井側に與して遂に兵燹に罹る。慶長四年、美濃羽栗郡三ッ屋村に移り、同七年洪水に流失し、同八年清洲に移る。同十五年名古屋東寺町に移り、寛永十五年更に同松本町に移る。正保四年賴元、美濃加茂郡稻口村に寺地山林免除の朱印を賜はりて一寺を建立し、當寺を兼帶となす。慶安元年十二月、院家を許さる。萬治三年の大火に燒失し、寛文年中、再建されしも、安永八年、再び喪上、文化八年、再建成る。明治二年、稻口村聖德寺を本寺となし、當寺を兼帶所とす。從來小笠原聖德寺と號せしを、明治五年、單に聖德寺と改稱す。

㊂本堂・庫裡・玄關・書院・座敷・鐘樓・土藏・門・經藏等あり。本尊木造阿彌陀佛立像は安阿彌或は開基の作と傳へらる。經藏には黃檗版一切經を納む。寺寶として開基自作木像・土佐光茂筆宗祖繪傳・家光以下朱印・賴元筆出山釋迦・十六羅漢畫像・同觀音圖・同楊柳觀音昇鯉降龍圖・蓮如筆六字名號・月僧筆鐵墨畫像・賴元作觀音木像・同阿彌陀木像・同赤柏檀阿彌陀立像・友松筆墨繪人物六曲屏風等・其外記錄數百册等を藏す。

長久寺　名古屋市東區長久寺町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁東岳山一乘院と號す。慶長六年、德川忠吉、武藏忍より尾張清洲に移封の時、忍の長久寺住職重歡之に從ひて同地に到り一宇を創して長久寺と號す。慶長十五年、德川義直、名古屋移城の時、實翁、寺基を現地に移し、以來德川家代々の祈願所となる。延寶年中、再建の事ありしも、天明五年大災に惱る。寛政六年、之を再興す。尾州智山方の談林所にして、智山の運敞、義山、覺遠、實因、豐山の快誓、卓玄、英岳、亮貞、隆慶等の諸僧も本寺に一時住せしことあり。

㊂本堂・客殿・庫裡・寶藏・御影堂・所化寮・鐘樓・中門・總門・八幡社・鎭天堂等の諸堂宇あり。寺寶に德川光友・松平勝長等の畫像を藏す。

高岳院　名古屋市東區高岳町一丁目。

㊀淨土宗。

㊁持名山と號す。開山は照蓮社寂譽なり。初め敎安寺と號し、甲斐國新府に在りしが、慶長十三年、平岩主計親吉、清須に移して持名山高岳院と改む。慶長十六年、遷府の際、今の地に移る。相應院夫人及び藩主德川義直大いに修營し、又正保二年、明治十五年、同四十一年各增修す。

㊂本堂・本門・方丈・書院・鐘樓・地藏堂・山門等あり。就中、本門（三間一戸門、屋根切妻造、本瓦葺）は性高院の表門と同じく、清須城門を移建せしものなりと傳へられ、桃山時代の氣魄を示せる稀構なり。現に國寶建造物に列す。開山上人木像・德川秀忠文書・平岩親吉黑印等を藏す。

（高岳院本堂）

建中寺　名古屋市東區筒井町一丁目。

㊀淨土宗。

㊁德興山と號す。慶安三年、藩主德川光友の開創に係り、成瀧郎脊を以て開山となす。同五年、綸旨を賜はり、瀧來、常紫衣地無本寺格となる。中興到譽獅及大いに寺運の興隆に努む。天明五年炎上、後ち三年にして再建成る。明治五年、知恩院末となり、現に同宗中本寺たり。

㊁境内三萬五千餘坪、本堂・總門・山門・經藏・鐘樓等あり。

日蓮寺　名古屋市東區千種町。

㊀なし。

㊁覺王山と號す。明治三十一年一月、英領北印度ピプラーヴに於て、英人ウイリアム、ペッペ、釋尊の眞骨を發掘し、之を英國政府に獻ぜしが、英國政府之を更に遷羅國政府に寄贈す。同三十三年一月、遷國政府、獻骨の一部を我國に配與すべき旨を通牒し來りしを以て、各宗管長に協議會を開き、同年六月、奉迎の使節を遣して佛舍利及び遷羅國王贈呈に係る釋迦牟尼如來像を京都に迎へ、妙法院に假奉安す。次で各宗聯合の大菩提會を組織し、會の議決を以て、靈骨來安の地を名古屋市東郊なる東山村（當時の名稱）と定め、同三十六年、同地に假本堂を建て、之を奉遷す。是より着々工を起して本建築を進め、遂に今日の盛觀を見るに至れり。昭和二年、遷羅國々王、更に内緯佛なる圓浮檀金の釋迦像を寄せ給ふ。本寺は宗派に屬せず、從つて末寺、檀家等無く、各宗交互に之を管理す。

（日蓮寺全景）

㊂境内十二萬坪（内三萬坪墓地）、本堂・遺形來安塔・拜殿・寶庫・大書院・小書院・玄關等あり。古代佛鉢・遷羅國王親打の金鐘、降魔古佛像等遷羅國傳來の寺寶多々藏す。

㊃涅槃會、降誕會、當寺奉遷記念法會（十一月十五日）には遠近より賽者群集す。

長母寺　名古屋市東區矢田町。

㊀臨濟宗東福寺派。

㊁靈鷲山と號す。治承三年の創建に係る。開基は山田次郎源重忠、開山は僧親勝なりと。初め龜鏡山桃屋寺と號し、天台宗に屬す。後ち火災に罹り一時衰退せしが、山田道圓坊再興し、臨濟宗に改めて無住國師を開山とす。文祿以後、再び衰へ、慶安年中、是餘之を舊に復す。天和二年、雪溪惠恭、藩主光友の命によりて再興せしが、明和四年七月、矢田川に大水あり。河道變じて寺域二分せらる。

㊂本堂・庫裡・書院・玄關・鐘樓・開山堂・觀音堂・門・鎮守五社明神社・熱田社・山神社・辯財天社等あり。開山堂に安置せらるゝ無住和尚（木造）一軀は總體極彩色、玉眼嵌入、高さ三尺六寸八分、右手に拂子を持ち、椅子に倚る像なり。無住（正和元年十月寂）自作と傳へらるゝも、室町初期の作と推定せられ、現に國寶たり。其他、無住和尚筆六羅漢・足利尊氏騎馬畫像・蕣蟲箱遺品等を藏す。

㊃土用入りには、無住和尚の因緣により、足洗ひの行事を營む。

愛知別院（高田本坊）　名古屋市西區譽地町。

㊀眞宗高田派。

㊁正保四年三月、專修寺十六世覺圓の時、專修院義越玄超、皆戸町に之を創建し、臨江山信行院と號す。明暦三年、現地に移る。享保九年五月の大火に燒失し、元文三年、松溪鴻堂再興し、同四年、高田山高田本坊と改む。後ち退轉せしが、萬延年中、專忠義宗堂宇を新築して面目を改め以て今日に至る。

㊂本尊は惠心僧都作と傳ふる木造阿彌陀如來立像なり。堂宇には本堂・庫裡・書院・座敷・玄關・鐘樓・鼓樓・水屋・會所・布教所・表門等を具ふ。

興善寺　名古屋市中區白山町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁延暦二年、桓武天皇の勅建に係るといふ。もと海部郡市江島の内荷上村にありて天台宗に屬す。後ち兵燹の災あり。室町中期、寺僧圓正、本願寺蓮如に歸依して改宗再興す。慶長十五年、名古屋に移る。正保四年大谷派より現派に轉ず。明治三十五年、現地に移る。

㊂本堂・庫裡・玄關・鐘樓・門等あり。本尊木造阿彌陀如來立像は惠心僧都作と傳ふ。寺寶には蓮如筆六字名號・同筆御傳鈔等を藏す。

總見寺　名古屋市中區裏門前町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁景陽山と號し、初め伊勢國大鳥村にありて安國寺と稱す。天正十一年、織田信雄、父信長追善の爲め尾張國西春日井郡清洲に移し、寺號を總見寺と改め、忠臣樂なして住せしむ。勅請開山は虎關國師なり。豐臣秀吉朱印を授く。慶長遷府の際、現地に移る。當時寺域一萬餘坪、光勝、陽岌、東林、指月の塔頭寺院衆を逸れ寺運隆盛を極めたり。三世國山、堂宇の美上中、泰然打坐して「天宗火災三四更、忽然行可開生、惟時個個把茅漏」と高唱するや、沛然として降雨あり、猛火忽ちにして消滅せしかば、乃ち結句を「烈焰堆中夜雨聲」と頌すとは有名なる逸話なり。正保元年、城主、其臣成瀬隼人正正虎に命じ、白銀三百枚、瓦材若干を寄進して再建せしむ。明治五年、寺錢返還以來堂宇大いに頹廢せしが、同十六年復興し、現今の輪奐を成せり。

㊁境内面積五千七百餘坪。信長の墓碑を存す。寺寶には織田信長木像・信雄筆信長畫像・信長書蹟・信忠、信雄肖像・狩野元信筆清洲城壁畝・豐臣秀吉作安土竹三重切花生・唐禪月大師筆十六羅漢等多數を藏す。

萬松寺　名古屋市中區裏門前町。

㊀曹洞宗。

㊁龜岳山と號す。天文九年、織田信秀、愛知郡名古屋村に當寺を創し、大雲永瑞（信秀の叔父）を以て開山となす。慶長十五年、八世明谷文察、藩命により現地に轉ず。爾來、領主歴代の信仰厚く、堂坊整ひ、寺運隆盛を極めしが、後ち一時衰頽す。元文四年、百津吾拙之を再興して現在に至る。

㊂境内一萬九千餘坪、本堂・庫裡・禪堂・稲荷堂・不動堂等を具へ、本尊木造千手觀世音菩薩坐像・脇侍同善財・龍女立像を安置す。寺寶には豪湖筆釋迦文殊普賢像・八越禪師、玲牛和尚筆木額・信秀、福島正則の制札等を藏す。

東泉院　名古屋市中區小林町。

㊀曹洞宗。

㊁鷲王山と號す。創建年代詳ならず。往昔、三論宗なりしが、南北朝の中頃、現宗に轉ず。應仁の頃、尾張國知多郡星崎村なる鹽積街道に在りしが、偶々當村の一馬子、當寺に雨宿りをなし、本堂の屋根の廬を以て馬に覆へり。馬子、歸宅して見れば、その廬より靈光を發せりと。爾來今日に至るまで當寺を廬の御堂といひ、本尊を廬の藥師如來と稱す。其後那古野山に移り。那古野山七御堂の一となる。寛政年間、善來師賢之を中興す。

㊂境内六百坪を有す。創建以來喪上すること數度、古記寺寶等燒失して記すべきものなし。

名古屋別院　名古屋市中區下茶屋町。

㊀眞宗大谷派。

㊁天正九年八月、京都二條泉龍寺の祐賢、尾張國海部郡蟹江村に自院の支坊を建立し、慶長十年、名古屋袋町に移す。卽ち當寺の濫觴たり。元祿三年七月、泉龍寺支坊を改めて掛所となし、開唱寺某を輪番たらしめ、安阿彌作阿彌陀如來木像を本山より受けて本尊とせり。同年十月、藩主德川光友、古渡村に東西百八間、南北九十三間の地を寄せ、別に南側表に幅二間、長二十間餘、門前に東西十二間餘、南北六十二間餘を加へて除地となす。翌年十一月、本堂を起工す。同九年、更に其改造を企て、十五年八月上棟式を擧ぐ、享保六年、鐘樓成り、爾來鼓樓、庫裡、玄關、大門、總門、經藏等漸次營工せり。文政五年十一月再び本堂を改築す。現在の本堂之なり。天保七年對面所、同十四年玄關成る。明治十一年十一月、同十三年六月、同二十年二月、明治天皇の御座所にあてられ、同二十三年、陸軍大演習の大本營に供せられたり。

（名古屋別院本堂）

㊁境内一萬七千百六十四坪、本堂は本山大師堂を模し、總行二十三間五尺七寸七分、桁行二十五間二尺二寸八分、重層、屋根本瓦葺の大伽藍にして、文政五年の再建に係る。大門の樓上に鼎知上人彫刻の釋迦、彌勒、

阿彌の三尊を安置し、正面に同上人筆「大悲往還」の額を掲ぐ。經藏には明版一切經を藏し、其他鼓樓・新古御殿・波ノ間・杉ノ間・書院・書齋・網ノ間・蓮ノ間・小廣間・新書院・對面所等十餘棟あり。

興正寺（コウシヤウ）　名古屋市中區廣路町。

㊀古義眞言宗。

㊁八事山と號す。元祿元年、國主德川光友、當地元瑞寺の旧に頽廢せるを移して諸堂宇を建立し、興正寺と號し、元瑞圓照をして住せしむ。圓照乃ち弘法大師を開山となし、自らを中興に擬して眞言律宗の道場となす。次で東西兩山の地を給せられ、東山を遍照院、西山を普門院と稱す。兩山の中、東山先づ開け、高野山奥ノ院に模して、路の左右に石造の寶篋卵塔を並立し、女人門よりは女人結界としたれど、西山は之を免じたれば常に參詣者多かりき。十一世勝月、澄道と爭ひて追放せられ、一寺は揭寺となり、以後、一山漸く衰運に向ひしが、幕末維新の頃、海如光雲復舊に努めたれば次第に寺觀を改め、遂に現今の繁榮に至る。因りて世に光雲を維新の中興と稱す。總本尊は大日如來坐像にして、東山の本尊は惠心僧都作木造阿彌陀如來坐像、西山の本尊は慈覺大師作木造阿彌陀如來坐像なり。現に同宗高野山金剛峯寺に屬す。

㊂寺地八事山の高丘に位置し、風光に富み、又尾張高野と稱せられて四時櫻者雜沓す。東山には納骨堂・女人堂・大日堂・奥ノ院・錦守八幡社・護摩堂・阿彌陀堂・山門等あり。西山には觀音堂・虚空藏堂・鐘堂・經藏・念佛堂・五重塔・總門・七觀音・七地藏・弘法堂・地藏堂・錦守社・書院・庫裡・合棟等あり。寺寶には大日、釋迦、藥師三尊木像・開山、二祖、五世等の木像・張思恭筆釋迦畫像・雪舟筆羅漢畫像・兎殿司筆白衣觀音像等を初め佛像・古書畫・古器等多數を藏す。

性高院（シヤウカウ）　名古屋市中區門前町一丁目。

㊀淨土宗。

㊁大雄山と號す。天正十七年、松平忠吉、其母寶臺院菩提の爲め武藏國埼玉郡忍庄持田村に一宇を創して滿譽玄道を開山となし、攝受院正覺寺と號せり。是れ當寺の濫觴たり。慶長五年忠吉、當國清洲に移封さるるや、當寺亦これに從ひて同八年、清洲外町に移る。同十五年、德川義直名古屋移城の時、現地に轉じ、忠吉の法諱を以て、大雄山性高院と改む。安政元年及び明治二十四年、震災に罹りしも、現に修復せられて輪奐の美を示せり。

㊂本堂・庫裡・書院・玄關・鐘樓・地藏堂・表門等あり。就中、表門（四脚門、屋根切妻造、本瓦葺）は慶長十五年、清洲城より移建せしものなりといふ。中央唐戸上の大蟇股及び拳鼻の手法の如き、豪放且つ重厚にして、よく桃山時代の特色を表はせり。現に國寶建造物に指定せらる。本尊は源信作と傳ふる阿彌陀如來立像なり。寺寶には開基忠吉畫像・開山像・日縫作涅槃像・忠吉關原功名次第・元信筆金屏風等を藏す。

名古屋別院　名古屋市中區門前町七丁目。

㊀眞宗本願寺派。

㊁明應年中、蓮如の息蓮淨、伊勢國長島杉江に一宇を興し、願證寺と號す。これ當寺の濫觴なり。四世證意の代、石山本願寺の檄に接し、證意以下宗徒協力して織田信長に抗す。所謂長島一向一揆にして信長、元龜二年より屢次來攻すと雖も、拔く能はず。遂に天正二年十月、僞りて和を講じ、宗徒二萬人を虐殺せり。本寺從ひて茲に敗亡す。信長歿後、豐臣秀吉、織田信雄に伊賀、伊勢、尾張三國を與へ、長島城に居らしむ。天正十二年三月、信雄、秀吉と隙を生ずるや、長島より移りて清洲城に住す。此時、當寺清洲に再興せられ寺領九十三貫を寡く其後幾許もなく、長島、桑名の門徒等請ひて伊勢國桑名郡本願寺村に願證寺を建立す。初め約十年餘、清洲願證寺本所たりしが、後ち桑名願證寺之に代り、清洲は其遥所となる。文祿四年八月、豐臣秀吉丹羽郡赤見村の地にて百三十九石九斗五升の朱印を附す。慶長十五年、名古屋城成るや、清洲の寺院概ね此地に移る。清洲願證寺も之に從ひて現地に轉じ、爾來、看坊を以て留主にあて、法務を行はしむ。寛永元年五月、國主德川義直、倉領を黒印となして安堵す。正德五年七月、桑名願證寺琢智、高田派に轉ぜしを動機として宗門に動搖あり。享保二年四月、幕府琢智を追放に處せしが、同年五月、高田專修寺より幕府に對し抗議をなす。同三年、幕府改めて決を下し、長島、名古屋を本山へ、松坂、桑名を高田に返附し、事件漸く落着す。是より名古屋願證寺は本山兼帶所となりて名古屋御坊と改稱し、輪番制に改めらる。寛政三年、本堂を再建、寛永四年、中門建立の上棟式を擧げ、明治三年、大谷佛殿落成す。同九年六月、名古屋別院と改稱して現在に至る。

㊂境内七千坪餘、本堂・庫裡・書院・玄關・輪番所・古御殿・新御殿・鐘樓・太鼓堂・經藏・表門・中門・說教所等三十餘字の建築を具ふ。寺寶として親鸞等身彫像・親鸞緣起四幅・各歷代宗主畫像及び書軸・其他名號・藏經・古器・古文書、梅昌院遺品等多數を藏せり。

七寺（ナナテラ）（長福寺）　名古屋市中區門前町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁稻園山長福寺と號す。天平七年、僧行基、尾張國中島郡賀津里に一宇を創し、正覺院と號す。これ當寺の濫觴なりと傳ふ。後ち延曆六年、秋田城介河内權守維廣の男光慶父を慕ひ、當地に來りて遂に夭死す。時に年七歳、維廣卽ち其冥福を祈らん爲に七堂伽藍を建立す。七寺の稱茲に始まると云ふ。仁和年間水災に罹り、天慶年間兵亂に遭ひ堂宇の損壞著しかりしが、六條天皇の朝、尾張權守大中臣朝臣安長、之を修興して長福寺と改む。且つ安長、天下に能筆の人を求めて大藏經五千餘卷を寫さしめ、經函を作り轉法輪藏を建てて之を納む。天正十九年、鬼頭左衛門尉吉久、豐臣秀吉の命を受けて清洲に移せしが、德川義直、名古屋移城の時、更に現地に轉移せしめたり。爾來、尾張侯歷代の所願所となり、年々營繕費、所禄料及び靈屋回向料を寄せ、又同國春日井郡小松寺三百石をも兼帶せしめたり。元祿二年□主瑞龍院殿に依りて三層大塔建立さる。これ現存の塔婆なり。

（七寺本堂）（國寶）

㊂境内廣濶にして、本堂・太子堂・聖天堂・十王堂・影堂・轉法輪藏・吒枳尼天堂・辯天堂・庫裡・三重塔等を具ふ。本堂（方五間、單層、屋根四注造、本瓦葺）は前面一間の向拜を附し、軒二重繁垂、唐樓の二手先斗栱を組む。斗栱の間には蟇股を入れ、内部は唐樓捧肘木三ツ斗を以て天井の桁を支ふ。裝飾繪樓等によく室町末期より桃山時代の特色を示す。現に國寶建造物なり。本尊阿彌陀如來及び觀音勢至兩脇侍坐像（木造）三軀は漆箔を施し、本尊高さ八尺五寸、脇侍高さ五尺五寸、總て定朝風を繼承するも、玉眼嵌入の手法及び全體に見る强健なる刀法等は明かに鎌倉初期の作を思はしむ。蓋し藤原より鎌倉に至る過渡期の貴重なる遺品なり。なほ本堂には、持國天及び毘沙門天立像（木造）二軀を安置す。寺傳に運慶湛慶の合作と云ひ、本尊と同時代の作と推定せらる。寺寶中、辛櫃入一切經（紙本墨書）は前記安長の寄進にして總卷數四千九百七十卷なり。其辛櫃、總體黑漆塗、角朱塗にして、組子には銀を以て波に蓮華の文樣を描く。殊に大般若經の篇の蓋表には、朱漆と黃漆を以て、大般若十六善神を描き裏に安元元年書寫發工の銘を記す。當時に於ける髹漆の技の好資料たると同時に、我國經典美術として又貴重なる遺品たり。本尊亟に兩脇侍、持國天毘沙門天兩像と共に現に國寶に指定せらる。其他、明畫地藏說法圖一幅・涅槃像一幅・空海作不動明王一體等を藏す。

寶生院（ホウシヤウ）（大須觀音）　名古屋市中區門前町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊀北野山眞福寺と號し、南北朝の頃、能信和尚の開創に係る。もと中島郡長岡庄大須郷にありしに依り、大須觀音と俗稱せられ古來靈名高し。正平五年、後村上天皇の勅願所となり、文和元年、攝津天王寺より觀音像を移して本尊となし、住僧法親王入りて第三世を襲ひ給ふ。當時院房寺家十五箇寺、寺領三千石に及び寺運隆盛を極め、歴朝の御歸依亦いと厚かりしも、中古兵亂に遭ひて堂宇いたく廢頽す。後ち織田信長同地に於て知行五百石を寄せしが、水難年々に到り、堂宇腐廢に瀕す。慶長十七年、巡遊の時、國主德川義直命じて現地に移さしめ大いに工事を輔く。元禄、享保頃、漸く舊觀に復し、次で文政、天保年間、五重塔を建立す。明治初年、本堂を再建せしが、同二十五年三月、類焼の厄に遇ひ、本堂、五重塔、仁王門、鄰迦堂等の諸堂悉く灰燼に歸す。

（寶生院本堂）

其後再建成り、漸次舊觀に復す。

㊁寺域市中に於ける歓樂郷を占め、塗諸を衆れし遊覧者常に雑沓せり。堂宇には本堂（觀音堂）・庫裡・山門等存す。當寺開基能信は、伊勢外宮、度會家より出で家傳及び自ら蒐むる所の内外の書籍數多く、加ふるに政觀、宗信、任慶等の諸學匠輩出せしにより收藏せる古典書數百に上れり。世に大須本、眞福寺本と稱せらるゝもの之にして、近世尾州家に於て之が保存を監せしな以て、よく散逸せずして傳へられたりし。就中國寶に列せらるゝもの次の如し。漢書（食貨誌）一卷・唱玉集二卷（天平十九年奥書）・古事記三帖（賢瑜筆）・將門記（殘缺）一卷（承德三年正月奥書）・尾張國解文一卷・七大寺年表（殘缺）二卷（永萬元年十月奥書）・日本靈異記（上卷缺）二卷、口遊（源爲憲撰）一册（弘長三年二月奥書）・本朝文粹（卷第十二・第十四）二卷・同（上卷第十四一册・懷名類聚鈔（殘缺）三十三葉・空也上人誄（源爲憲作）一卷（天治二年奥書）・熊野三所權現御記文一卷（延久二年八月奥書）・熊野權現藏王殿造工日記二卷・續本朝往生傳（大江匡房撰）一册（建長五年十二月）・拾遺往生傳（三善爲康撰）三帖（正嘉二年七月奥書）・三外往生記（沙門蓮禪撰）一帖（正嘉二年六月奥書）・本朝新修往生傳（藤原宗友撰）一帖（正嘉二年正月奥書）・弘法大師傳二卷（元暦元年五月奥書）・弘法大師傳記一卷（貞和二年七月奥書）・弘法大師傳一册（應安八年正月廿六日奥書）・弘法大師傳記一卷（貞和二年七月奥書）・高野大師傳一帖・弘法大師御入定勘決抄一册・高野口決一卷・輪林學士詩集（零本）一卷・以上全部紙本墨書。この他國寶に指定せらるゝ繪畫に佛涅槃圖（絹本着色）一卷・以上全部紙本墨書。一幅あり。

圓通寺（ヱン・ツウ）

名古屋市南區熱田新宮坂町。

㊀曹洞宗。

㊁秋葉山或は羽休山と號す。此地もと秋葉三尺坊垂迹の靈地として一宇あり。弘仁年中、弘法大師一寺を創建して自刻の十一面觀音を安置す。世に松下の觀音と言ふ。永享年間、田島某之を再興して警海義本禪師を開山となす。明治二十四年震災に罹り、同三十年小松宮殿下より「秋葉出現道場」の額を賜ふ。現今の堂宇は同四十三年に完成す。

㊂本堂・庫院・玄關・禪堂・坐龍堂・茶所・書院・鐘樓・總門・神殿・奥ノ院等を具ふ。現に曹洞宗の盟可僧堂にして雲衲一百人に餘る。

地藏院（ヂ・ザウ）

名古屋市南區熱田田中町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁金寶山と號す。花園天皇御宇、熱田祭主牧氏の室内旗屋町の地に之を創立し、全海法印を開山となす。亀命寺また歸命寺とも云ふ。正中元年、地藏安置の故を以て寺號を改めて地藏院と號す。元德二年七月、足利尊氏當寺に宿泊し、後に自畫自贊の地藏尊を納む。天正二年、政禪法印、現地に移して再興す。明治二十四年震災に遭ひ、同三十六年、本堂其他の諸堂宇を修築す。

㊂本尊は悲覺大師作と傳ふる地藏菩薩坐像なり。寺寶中、駒馬武者像（絹本着色）一幅は足利尊氏像と傳へ筆と傳ふるも、製作年代凡そ室町期に流遷るべし。

㊃初觀音縁日（一月十八日）、節分會（二月）、盆大盤籠會（七月八日）。

られ、其紋所及び服裝等より推し、足利將軍の一人なるは疑ひなし。作風には室町末期の特色を具へたり。現に國寶に指定せらる。其他、勝佛力士畫像・天文年間作星愛荼羅等を藏す。

本遠寺（ホン・ヲン）

名古屋市南區熱田田中町。

㊀日蓮宗。

㊁妙光山と號す。熱田神宮境内に存せし法華堂を以て當寺濫觴とす。堂は阿福長者創建なりと云ひ、或は最澄建立と傳ふ。日蓮、此堂に參籠し、立宗の願を成せりといふ。日澄當地巡錫の砌、堂を本堂となして當寺を創す。正保年間、回祿に罹り、後ち再建成る。

㊂本堂・庫裡・客殿・鐘樓・祖師堂・總門・法華堂・妙見堂等あり。總門（三間一戸總門、屋根入母屋造、棧瓦葺）は元龜天正頃の再建と推定せらる。形態手法共に整美にして墓殿の形に變化あり、内部の彫刻又一一意匠を異にす。繪樓彫刻等によく室町末期建築の特色を表はせり。現に國寶に指定せらる。

笠覆寺（リフ・ヲン）（笠寺觀音）

名古屋市南區笠寺町、

㊀新義眞言宗智山派。

㊁天林山と號す。俗に笠寺觀音と稱し、尾張四觀音の一なり。聖武天皇の朝、天平五年、善光上人靈木を呼續浦に感得して十一面觀世音を彫刻し、同八年、坂野の北原に佛堂を建て、天林山小松寺と號せしを以て當寺の濫觴となす。後ち約二百年、寺宇全く破壞せしが醍醐天皇延長八年、藤原堂平朝臣佛殿坊舎を營み、寺號を笠覆寺と改む。爾來眞言の道場として寺運振ひしも、次第に衰頽す。四條天皇嘉禎四年、宣陽門院勅願文ありて、二位房阿願上人、現地に堂塔十二坊を再興し、笠覆寺を以て本坊なす。以て當山中興とす。天文十六年、類焼の厄に罹り、同十九年再建せしが、爾後僧坊漸次衰頽して六坊となり、本堂亦破壞す。現堂は寶暦十二年の再建に係る。

㊂境内九千坪、堂宇十五棟あり。寺寶中妙法蓮華經第五（色紙墨書）一卷は國寶にして、藤原期特有の優婉なる趣を示せる寫經なり。一卷完結せるに依り金剛峯寺の藏本と共に稀覯として珍重せらる。

㊃八年毎に本尊祕佛の開扉會を行ふ。又例年の初觀音には參詣者殊に多し。

願興寺（グワン・コウ）

名古屋市南區野立町。

㊀眞宗大谷派。

㊁尾頭山と號す。もと天台宗に屬し、七堂伽藍を具へしも、後ち衰微す。延德年間、住持正林、蓮如に歸依して現宗に改む。初め古渡村にありしも、織田信秀、同地に築城するに及び、當寺を現地に移す。

㊂境内約八百坪あり。

觀音寺（クワン・オン）（荒子觀音）

名古屋市南區荒子町。

㊀天台宗。

㊁淨海山圓龍院と號し、俗に荒子觀音と稱す。天平年間、泰澄法師の草創と傳へ、自性上人を以て開山となす。本尊は法師一刀三禮の作と傳ふる聖觀音なり。永祿年中、智音院全運法印之を再興し、天正四年、前田利家本堂を再建す。爾來、尾張四觀音の一として俗間の崇敬厚し。現在當國三十三所第十七番札所たり。

（觀音寺多寶塔）（國寶）

㊂境内三千二百六十四坪、本堂・多寶塔・樓門・護摩堂・經堂・鐘樓・辨天堂・講堂・庫裡・客殿等を具ふ。就中、多寶塔（三間二層塔婆、屋根銅板葺）は天文五年、興部貴四郎吉定の造工に係り、現に國寶建造物に指定せらる。什寶には亀山天皇並に伏見天皇宸翰・豐臣秀次、伊達政宗、福島正則等の書狀・其他佛像佛畫古文書等多數を藏す。

悟眞寺（ゴ・シン）

豐橋市關屋町。

㊀淨土宗。

㊁孤峯山淨業院と號し、眞和五年、善忠の開創する所なり。もと舊城地にありしを、永正二年、今川氏親吉田城を築くに際し、現地に移す。本尊は惠心僧都作と傳ふる彌陀三尊なりしが、三十世崩壞、彌陀の大像を造り、惠心作を其胎中に安置すと云ふ。明治十一年、明治天皇の行在所となる。

㊂境内四千二百九十餘坪、堂宇には本堂・書院・庫裡・鐘樓・中門・總門等あり。尚ほ當寺の造る納豆を八橋納豆と言ひ古來有名なり。

豐橋別院　豐橋市花園町。

㊀眞宗大谷派。

㊁西竺山暫念寺と號す。天文初年、本願寺十世證如當地今橋郡川毛に一字を創し、當國の總道場となす。卽ち當寺の濫觴なり。後ち寛永の初め吉田城主、川毛の西南十餘町に存せし眞言宗の古刹西竺寺の廢址及び梵鐘を本願寺實如に寄せて道場擴張の業を助く。實如仍つて川毛の道場を此地に移し、新に堂宇を營みて本山の掛所となし、舊寺號に因みて西竺山暫念寺と號す。時人呼びて吉田御坊と云ふ。寛永二十一年、空正、梵鐘を改鑄す。天保初年、改築を企てしも、數年の凶荒に遭ひて一時工事を中止す。安政五年六月、本山の表上するや、其用材を悉く本山に獻ず。明治四年十月十一日、火災に罹りて鐘樓、大門及び土藏を除くの外、悉く燒失す。同六年、無緣無檀の故を以て廢止の命を受けたりしが、講究場の許可を得て、漸く斷絶を免れ假堂を設けて辛じて法燈を繼續す。同十二年二月十日豐橋別院と改稱し、同十四年、堂宇の再建成る。

㊂境内二千二十七坪餘、本堂・廣間・御殿・書院・庫裡・鐘樓・大門・眞宗會館・土藏等を具ふ。本堂には運慶作と傳へらるゝ阿彌陀如來を安置す。渥美郡田原町波瀬に支院、同郡野田村大字藏に說教所ありて何れも本寺に屬す。

赤岩寺　豐橋市多米。

㊀古義眞言宗。

㊁神龜三年、聖武天皇の勅願により、僧行基之を開創すと傳ふ。天安元年、文德天皇の勅を奉じて、空海十大弟子の一人なる杲隣之を中興し、眞言宗となす。永祿十一年三月、大垣城主戸田左門佐政成、本堂を再建す。爾後の沿革不明なれども、三河七御堂の一と稱せられて現在に至る。現に同宗高野末なり。

㊂境内二千七百三十四坪、本堂・庫裡・藥師堂・中門・觀音堂・仁王門・鐘樓・經藏・愛染堂等を具ふ。愛染堂の本尊愛染明王坐像（木造）一軀は鎌倉末期の作にして現に國寶に指定せらる。

三河別院　岡崎市中町。

㊀眞宗大谷派。

㊁天明八年、當國の道俗、碧海郡暮戸に說教所を創して會所と稱せしが、後ち東本願寺殿知、明治二十二年會所を廢し、岡崎市三河教校内に別院を假設す。翌二十三年之を現地に移し、假堂を建つ。同三十六年、東本願寺現知本山の假大師堂を下附して本建築に着手せしめしが、同四十二年十二月落成す。

㊂境内九千八百坪、本堂・對面所・居間・新書院・蓮ノ間・輪番所・鐘樓等あり。

松應寺　岡崎市松本町。

㊀淨土宗。

㊁能見山瑞雲院と號し、三河三箇寺の一なり。天文十八年三月、岡崎城主松平廣忠陣中に沒するや、遺骸を能見原に密葬す。後ち慶長十六年、能見原の葬地に一字を建立し、廣忠の法諱に因みて瑞雲院松應寺と號す。開山は聖譽真把なり。近世寺領百石を有す。

㊂寺寶には廣忠の遺物を多數藏す。

大林寺　岡崎市魚町。

㊀淨土宗西山派。

㊁拾玉山と號し、三州深草義十二本山の一なり。曆應元年、後村上天皇の勅建にして初め光林寺と號すと寺傳す。嘉吉二年、岡崎城主松平信眞、當寺を先公賴嗣の墓址に移して堂宇を造營し、同國妙心寺の天盈を請じて開山となす。三世照翁、國守松平廣忠を能見原に葬り當寺に道場法會を修ぜり。當時は能見一面の地を境内となし、坊舍二十五院を有し、寺運隆盛を極めたり。十六世貞翁は高僧の譽高く、寶永七年七月特に常紫衣の勅許を蒙れり。近世寺領百石を有す。

㊂寺域岡崎市の西方、矢作川に沿ひ、境内に賴嗣、信眞、廣忠の墓あり。

本宗寺　岡崎市美合町。

㊀眞宗本願寺派。

㊁龍登山と號し、平地御坊と稱す。文明年中、本願寺蓮如、三河國土呂の郷に本寺を創せしを以て孤鳩となす。蓮如歸落後、同實圓入りて初代住職に任す。永祿六年、當國一向一揆の徒、德川家康の兵火に燒かる。爾後二十年、一山荒廢に委ねられしが、天正十一年十二月に至り家康、大樓越芳春院妙西尼公（德川家康の伯母）の懇請を容れて寺門の再興を許す。因りて寺基を現地に移し、光顏寺と號して復舊す。是より本願寺使僧所となり、御坊に編入せらる。後ち寺號を現在の如く改めたり。

㊂境内地一萬二千坪、境外地一萬二千坪、本堂・庫裡・玄關・書院・御殿・鐘樓・水屋・茶所等あり。寺

寶には念佛停止の制札（永元元年、京都御所建禮門に立ちしもの）・蓮如自畫像・同筆六字名號・同三帖和讃版木・德川家康の再興敕免狀並に朱印等を藏す。

龍海院（是字寺）　岡崎市明大寺町。

㊀曹洞宗。

㊁瑞珠山と號し、一に興國塲是字寺と稱す。享祿三年七月、岡崎城主松平清康の開基に係り、開山は機外惟俊和尙なり。寺傳に、初め清康、正月元日夢に是の字を左掌に握る。惟俊判じて曰く、是、天下を掌握する吉瑞なりと。清康大いに喜び師の爲に卽ち本寺を創し以て寺號となすと云ふ。清康の孫家康又深く崇敬して朱印を寄す。以來德川氏との因緣深し。尙當寺德川家臣酒井家の菩提所たり。近世寺領三十五石を有せり。

（龍海院本堂）

勝髮寺　岡崎市針崎町。

㊀眞宗大谷派。

㊁寂光山と號す。もと天台宗に屬せしが、親鸞の矢作柳堂に於ける說法の聞、當寺住持聽聞して遂に其弟子となり、名を信願房了海と改む。三河一揆の際、上宮寺、本證寺と共に德川軍に抗す。近世寺領五十石を有せり。

㊂寺寶に落款の彌陀・親鸞筆九字名號・同十字名號各々一幅蓮如、實如、證如各筆六字名號三幅等を藏す。

福壽院　一宮市花園町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁神龜年間、僧行基の草創に係ると傳ふ。弘仁年中、僧空海、伽藍を造營し、寺運頗る隆昌を極めしが、中古、火災に遭ひて衰微し、文永年中、僧空圓之を再興して今日に及ぶ。

㊂境内の一隅、疎松の間に多寶塔（三間二層塔婆、

（福壽院多寶塔）

㊂本堂・庫裡・書院・表門・觀音堂・白山社・地藏堂・浴室等あり。

屋根柿皮葺）あり。屋根の勾配頗る緩かにして輕快なる感を與へ、全體の形構頗る瀟洒優美たり。明治四十三年國寶に指定せられしも、昭和八年一月燒失す。

正眼寺　東春日井郡小牧町三淵。

㊀曹洞宗。

㊁青松山と號す。應永元年、國主青生直政、勅許を得て同國中島郡下津郷金剛山傳法寺の廢れたるを中興して正眼寺と號し、通幻寂靈禪師を開山とす。同四年、宇福寺、北島、三井の地を寄せて寺領となす。後ち織田信長、同信雄、田中吉政、豐臣秀吉、德川忠吉等より寺領を寄進す。慶長、元和の頃、諸堂を修理し山門を建つ。元和六年、德川義直寺領を寄せしが、元祿二年、水害を避けて現地に轉ず。歷代皇室及び武門の崇敬淺からず。維新前は當宗近國總錄所たりき。

㊂境内五千四十七坪、本堂・彫像・開山堂・玄關・廻廊・庫裡・山門等を具ふ。寺寶に閻浮檀金色の誕生佛・唐畫涅槃像等を藏す。

定光寺　東春日井郡品野町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁應夢山と號す。曆應元年、僧覺源、之を開創す。中古衰退せしが、元和年中、藩主德川義直堂宇を再興す。慶安二年、曇堂全用入りて中興し、大いに寺基を固む。もと建長寺派なりしが、これより妙心寺派となる。現に德川家の菩提所なり。

㊂本堂（方五間、重層、上層假屋根切妻造、檜葺）は明曆二年の再建に係り、永正七年、震災に大破、天文

三年、修理再建せられしものにして、後世、上層の斗栱以上を撤却し、假屋根を架せしを以て、外觀の美を損せしも、其他は當初のまゝにして室町中期の優秀なる樓式を示す。殊に須彌壇勾欄の端に、鯱形を刻めるは注目すべき手法なり。現に國寶建造物たり。什寶中に太刀二口あり。一は德川綱誠の寄進に係り、銘助重、拵絲卷、他は德川家宗の寄附、銘守家、拵絲卷なり。共に現に國寶たり。

宝藏院（藥師寺）　東春日井郡篠木村大字熊野。

㊀天台宗。

㊁藥師寺と稱す。嘉曆三年、慈妙上人之を草創し、七堂伽藍を營むと傳ふ。當時末寺數百箇寺を統べ、近代名古屋東照宮の別當職を兼ねたり。當寺の傳法は古來篠木派と稱し、別に一派をなす。

㊂境内三千五百坪、客殿・開山堂・鐘樓・觀音堂・多寶塔・大師堂・鎮守堂・庫裡・實庫等あり。就中、多寶塔（三間二層、屋根柿葺）は國寶建造物に列し形狀温雅にして手法樸純、室町初期の傑作なり。又本尊藥師如來立像（木造）一軀は鎌倉中期の作にして、兩者何れも現に國寶たり。寺寶として後伏見天皇宮綸等を藏す。

龍泉寺　東春日井郡志段味村大字吉根。

㊀天台宗。

㊁松洞山大行院と號し、尾張四觀音の一なり。延曆年間、僧最澄の開創に係る。古來、熱田神宮の奥ノ院と稱せられ、熱田八劍中の三劍は當寺の地中に埋められしと傳ふ。創建以來屢々興上し、天正十二年四月、長久手の役、秀吉、陣を當山に構へしかば、兵燹至りて遂に燒亡す。慶長三年、僧秀純、入りて本寺に住するや、自費を投じて復興を圖り、本堂、仁王門、山門、多寶塔、鎮守堂、鐘樓、庫裡等を造營し、寺運稍々隆昌に向ひたり。明治三十九年、本堂、鎮守堂及び庫裡、又復燒失、同四十四年、復舊成る。本尊は山中の舊蹟多羅々池より出現せし開浮檀金馬頭觀世音菩薩立像なりと傳へらる。

㊂堂宇中、仁王門（三間一戸樓門、入母屋造、檜瓦葺）は慶長三年、秀純再建堂宇唯一の遺構なり。寺寶地藏菩薩立像（木造）一軀は背面に「嘉元元年卯歲長母大圓無住刻作」の刻銘を有し、右仁王門と共に現に國寶に列せらる。

㊃節分會、初觀音、初午、二ノ午、合宿祭等あり。合宿祭は十年に一度、又は豐年に執行せらるゝものにして山南に大森合宿十一箇村、山北に篠木合宿三十三箇村より數百頭の馬を曳出し、武者行列をなす。

高田寺（妻藥師）　西春日井郡師勝村大字高田寺。

㊀天台宗。

㊁養老年間の開創と傳ふるも其後の沿革詳ならず。近世享保年中、住僧性見、本堂を修理す。

㊂境内四百二十九坪、本堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。本堂（方五間、單層、屋根四注造、茅葺）は其形構殊に莊重雄麗にして、木割亦堅牢、手法樸式よく鎌倉の特色を傳へ、地方稀有の遺構なり。本尊藥師如來坐像（木造）一軀は古調を存する鎌倉期の作にして、稍々前風ぜる其姿態に見る巧緻なる刀法によく時代の特質を表はせり。本堂と共に現に國寶に指定せらる。

藥師寺　丹羽郡犬山町。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁青海山寶光院と號し、天平年間、行基の草創に係ると傳ふ。中興は其喩法印なり。

㊂堂宇には大師堂・聖天堂等あり。前者には弘法大師像を安置し、後者には法性房尊意僧正の持念佛歌喜天を祀る。本尊藥師如來（木像）一軀は現に國寶に指定せらる。境内に芭蕉の句碑あり、「麻汁も食へは食へよ菊の酒」と刻す。

禪林寺　丹羽郡西成村大字淺野。

㊀曹洞宗。

㊁仙境山と號す。圓融天皇の朝、天祿元年五月、尾張公藤原實賴の奏するや、追福のため藥師佛の大像を彫み、所領尾張國丹羽郡小野鄕に大伽藍を創建し、小野院楠樂寺と號して之を安置す。以て本寺の濫觴と傳ふ。後ち小野鄕小淵、淺野の兩莊に分れしが、一條天

（禪林寺藥師如來坐像（木造）寶）

皇寛仁三年、藤原賴通後野井を領するや、深く此保を尊崇し、洛北比叡山に擬し、門前に日吉山王を勸請し、之を鎮守と崇む。爾來豐百の星霜共に盛衰ありしも、明應六年、領主の所願により尊像を修理し、堂宇改築せらる。大永五年、宣叟曇周和尚曹洞宗に改め、之を再興す。正保五年、寺號を現在の如く改む。

㊂境内一千餘坪、本堂・庫裡・玄關・藥師堂・位牌堂・山門・土藏・浴室等あり。藥師堂の本尊藥師如來坐像一軀は高さ四尺一寸二分にして寄木造なり。藤原末期の樣式を具へ、現に國寶に指定せらる。腰裏に明應六年並に元祿九年の修理銘を存す。

運善寺　葉栗郡後井町大日比野。

㊀眞宗大谷派。

㊁壽命山と號し、瀬部七門徒如來堂と俗稱せらる。創建年代不詳なれど、僧最澄の開創に係ると傳ふ。後ち嘉祿元年、親鸞、東國より歸洛の途次、當寺に入るや、時の住僧、之に歸依して改宗し、法名を眞養と改む。爾來、法統連綿として二十四世、現に瀬部七箇寺の一なり。

㊂境内九百七十坪、本堂・庫裡・書院・門・鐘樓・玄關・井戸屋形等あり。寺寶として法使法身影像一幅・光明晶一幅・蓮如之文切（五結目第六通目上の切）・宣如筆十字名號一幅及び入信房木像を藏す。入信は親鸞二十四衆の隨一にして、瀬部七門徒の導師なり。入信の寂後、親鸞、佛師宮方に命じて其像を作らしめ、之を瀬部七門徒に授けたるものにして、後世、七門徒離散するに及び當寺に安置せらるゝに至る。

曼陀羅寺　葉栗郡宮田町飛保。

㊀淨土宗西山派。

㊁日輪山と號す。元德元年、天眞乘巡、之を開創し後醍醐天皇の勅願寺となる。初め圓福寺と號せしが、寛正三年、現寺號に改む。織田、德川兩氏、各々之を修營し、墨印を付す。近世寺領三百六十石を有せり。現に同派光明寺派に屬す。

㊂境内一萬三千六百九十二坪、本坊に本堂・曼荼羅堂・方丈・玄關・大書院・小書院・庫裡・地藏堂、塔頭に慈光院・靈鷲院・光明院・寛音院・常照院・世尊院・本誓院・修造院等あり。境内は公園となり、歐洲大戰内外戰死者忠靈塔あり。寺寶中、淨土五祖像（絹本著色）五幅は淨土五祖の像を一幅づゝに描き、各幅上部に贊を記したるものにして、其箱に享祿四年の寄進銘あり。製作亦、室町時代なるを思ほしむ。其圓樓よりも見て、京都二尊院の淨土五祖像を五幅に書き分けしものなるべし。寺寶銅鐘一口と共に現に國寶に列す。

榮泉寺　葉栗郡葉栗村大字大毛。

㊀眞宗大谷派。

㊁王家院庵入山河野榮泉寺と號す。開基敎海坊了海は俗姓葉本源太夫國政、景行天皇の后、庵入姫の苗裔なり。初め國政、法輪坊寂大と號し天台宗に屬せしが、嘉祿年間、親鸞尾張國河野化導の御、其弟子となりて敎海坊了海と改む。時に了海と共に親鸞の弟子となる者九人あり。所謂河野九門徒之なり。後ち慶長年間、大谷派本願寺分立の時、之に從ひしものを河野六坊と云ふ。當寺は其一なり。

㊂本堂・庫裡・門・裏門・鐘樓・手洗鉢・屋形等を具ふ。寺寶には蓮如、最如筆六字名號各一幅・庭内大納言重嗣筆王家院扁額一面・同筆庵入山扁額一面・最如筆王家院扁額一面等を藏す。

性海寺　中島郡稻澤町大塚。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁大塚山禪定院性海寺と號す。弘仁年中、空海、熱田神廟參詣の御、靈像を感得して草創する所と傳ふ。建長年間、其敏之を中興し、郡主長谷部民部大輔源政大檀越となりて本堂、多寶塔、灌頂堂、護摩堂、鐘樓、山門等を營建す。弘安の役に際し、勅を奉じて、住持淨嵐、大いに異國降伏の修法を行ふ。當時の綸旨今に存す。建武年間足利尊氏、同直義之に歸依し、寺領若干を寄す。天正年中兵燹に罹りしが、慶安元年、堂宇を修興す。

㊂境内三千百七十三坪、本堂・客殿・多寶塔・鐘樓・茶所・護摩堂・表門・裏門・唐門・寶藏・庫裡・書院等あり。就中、多寶塔（三間二層塔婆、屋根銅葺）は國寶たり。古く本尊愛染明王を移安せしを以て、又愛染堂とも稱せらる。前面に拜殿、中殿を附す。外面は木造

（性海寺塔婆）（國寶）

なるも内部に佛菩薩天部等彩畫ぜらる。塔形輕快にして且つ、優美地方稀有の美塔なり。寺傳建長五年建立とあるも、細部手法より室町時代の造營と推定ぜらる。寺寶として長祿二年、文明十八年、天文七年の譜文・淺野長政、福島正則の書翰等の古文書を藏す。

萬德寺　中島郡稻澤町長野。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁長岩山と號す。神護景雲二年、稱德天皇の勅願により、僧慈眼の創建する所なりと傳ふ。僧空海、之を再興して眞言宗の道場となす。天暦年間、回祿の厄に罹り、弘長年中、僧常圓、堂塔伽藍を再建す。時に亀山天皇、勅願所の綸旨を賜はる。

（萬德寺德塔婆）（國寶）

㊂諸堂宇中、多寶塔（三間二層塔婆、屋根檜皮葺）は國寶建造物なり。下層は軒纖細なる二重繁垂を分布し、斗栱方柱又木割極めて纖麗にして四方廻縁を繞らす。上層は亀腹を作り、内に十二本の圓柱を立て、四手先斗栱を組み尾垂を出せり。其樓式手法、明かに室町中期の特質を表せり。寺寶中、國寶に指定ぜらるゝもの に墨漆毛繪經筒一合あり。長方形合蓋にして、骨狹間を入れ金覆輪をつけ毛繪にて輪寶、鳳凰、獅丹牡、子の文樣あり。内に檀紙金泥の法華經を納む。同經には金銅寶相華透彫經筒一箇附屬す。作技優婉巧緻なるのみならず經卷の裝飾として經筒を用ひたる唯一の遺品として貴重視ぜらる。室町初期の作品なり。

國分寺　中島郡明治村大字矢合。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁聖武天皇の勅建に係る諸國國分寺の一なり。開山は覺山、中興を伯庵とす。

㊂寺寶中、釋迦如來坐像（木造）二軀・傳覺山和尚坐像（木造）一軀・傳熱田大宮司夫妻像（木造）二軀は共に鎌倉末期作にして、現に國寶たり。

安樂寺　中島郡明治村大字船橋。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁當地に創建ぜられし聖武天皇勅願國分寺の一支院なりと傳ふ。往昔、觀音寺と號して天台宗に屬せしが、至德元年、當郡大和村妙興寺開山圓光大照、入りて當寺を中興し、大いに堂宇を修め、禪宗に轉じて現寺號に改む。明治二十四年十月、濃尾大地震に堂宇潰滅、同三十四年、復舊の工成る。

㊂本堂に安置ぜらるゝ十一面觀音立像（木造）一軀は丈高さ三尺八分、藤原前期作、阿彌陀如來坐像（木造）一軀は高さ四尺八寸三分、藤原末期作、釋迦如來坐像（木造）一軀は高四尺七寸二分、藤原末期作にして、何れも現に國寶に指定ぜらる。當寺の近接地大字矢合に國分寺本坊の舊跡あり、礎石、古瓦等發掘さる。

㊃本尊十一面觀音は秘佛にして、往昔、三十三年目毎に開扉せしが、中古以來、之を大開帳と稱し、別に十七年目毎に中開帳を行ひて今日に至る。最近は大正十年三月十五日より同四月十五日まで大開帳會を執行せり。

法華寺　中島郡明治村大字法花寺。

㊀曹洞宗。

㊁大鈴山と號す。聖武天皇の勅建に係る國分尼寺なりしを、後ち僧才叙、現宗となして之を再興す。中興開山は越前高瀬寶圓寺の龍獄なり。もと法花寺に作り寺領五十町餘を有せりといふ。

㊂境内に藥師堂あり。本尊藥師如來坐像（木造）一軀は、鎌倉初期の古像にして、現に國寶に列ぜらる。

妙興寺　中島郡大和村大字妙興寺。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁長島山妙興報恩禪寺と號し、略して妙興寺と稱す。眞和四年、僧滅宗（圓光大照禪師）の創立に係り、貞治四年、七堂伽藍營成す。時に後光嚴天皇、勅願所の綸旨並に國中無雙禪刹の勅額を賜ふ。又久我通相公の歸依を受け、三十三町の地を寄ぜらる。應永七年三月、同十二年三月、同二十四年三月、三度の兵燹に罹り、勅使門、山門を除き、殆ど伽藍全部を燒燼ぜしも、同二十九年四月、經營五年にして再建成る。後ち修築すること再三、明治十一年、山門建立、同十四年、書院を建て、一山の建造物其完整を見たり。然るに同二十三年二月、卒然回祿の災に罹り、僅かに總門、山門、勅使門、鐘樓等を殘せしが、更に同二十四年十月、濃尾大震災に殘存せる諸堂宇盡く倒壞破損す。因りて直ちに再建の業に着手、層來方丈、庫裏、衆寮、玄關、唐門、開山門次第に成り、大正八年には覺王殿の竣成を見、大正十三年遂に圓境景觀を整へたり。近世寺領二百石、松林二町五段を有し、現に同派別格寺にして塔頭、末寺各々九院あり。尚ほ寺内に大正三年久しく中絶せし專門道場妙興禪林を開設し以て學徒を教養し來れり。

㊃境内五千四十四坪、境外田畑約四町歩、總門（四間、一間半、應永三十四年建立）・勅使門・山門・本堂（覺王殿）・唐門・開山門・客殿・鐘樓（文明二年再建）・庫裡・寶藏・開山堂・禪堂・講堂等あり。就中、勅使門（四脚門・屋根切妻造・檜瓦葺）は國寶建造物に指定ぜらる、貞治五年建立と傳へ、意匠奇巧、樓式手法亦大略當時の風を存せり。開山堂本尊大應國師坐像（木造）は高さ三尺八寸五分にして、玉眼嵌入、室町初期の作に係る雄作なり。寺寶中、佛涅槃圖（絹本着色）一幅は七幅一雙、圖樣遒行なるも、顏面の描寫に異色あり。顏輝筆にして僧俊芿の宋より將來せるものなりと傳ふるも、明かに鎌倉時代の邦畫なり。足利義政像（紙本着色）一幅は衣冠束帶の像にして竪四尺六寸、幅七寸四分、上に長祿二年鹿苑環谿周鳳の賛あり、下に同義政の花押を存す。大應國師像、佛涅槃圖と共に國寶に指定ぜらる。其他、後光嚴天皇、後奈良天皇、後西院天皇の綸旨及び宸筆・足利歴代將軍御教書・桑道士筆文殊大士圖・張士達筆仙人圖・雪屋筆墨梅・夏明遠筆山水・雪舟筆三聖人・周文筆山水・兎殿司筆蛙蹲圖・永徳筆藤芥子屏風・太閤秀吉肖像畫・十六羅漢圖等其他古畫・古文書・古器等數十點を藏す。

長光寺（六角堂）　中島郡大里村大字六角堂。

㊀臨濟宗妙心寺派。

（長光寺地藏堂）（國寶）

㊁尾張六地藏の一にして、俗に六角堂と稱す。往古の沿革不詳なるも、明應八年、中興ぜられ、元祿四年、寛山長老再建す。

㊂地藏堂（本堂）（六角圓堂、單層、屋根檜瓦葺）は一に六角堂とも稱し、應保元年の創建にして、永享七年の再建なりといふ。堂の構造、軒は二重繁垂、斗栱及び細部の手法等總て唐樓なり。柱間を悉く開放して内陣は六角形とし、須彌壇を設け本尊を安置す。風趣淸にして外觀整美、我國六角圓堂中唯一無二の構造なりとす。現に國寶建造物に指定ぜらる。本尊は地藏尊にして因事ある毎に膝め汗を流すと傳へらる。

虛空藏堂　中島郡大里村大字北市場。

㊀曹洞宗。

㊁創建年代並に沿革不詳。

㊂境内二百四十坪、本堂（間口四間、奥行四間半）に安置する本尊虛空藏菩薩坐像（木造）一軀は彩箔にして透彫の光背を負ひ、蓮華座上に趺坐す。刀法、裝飾等よく鎌倉時代の特色を發揮し、現に國寶に列ぜらる。

㊃虛空藏菩薩初供養會（一月十三日）。

寶壽院　海部郡津島町向島。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁承和元年三月、僧淨圓當寺を創建し、智證大師作阿閦羅尊を安置す。爾來、牛頭天王別當職を奉ぜり。

㊂境内四百九十六坪、本堂は縱三間横六間なり。寺寶佛涅槃圖（絹本着色）一幅は、世に陸信忠風の涅槃圖と稱ぜられ、涅槃に入れる佛の形相大きく、之を圍繞する群衆、前面の香爐臺を圍みて抃舞する等他に其比を見ざる珍幅なり。「慶元府車橋不拔菩薩信忠筆」と銘し、現に國寶に指定ぜらる。

龍照院　海部郡蟹江町須成。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁蟹江山と號し、天平年間、僧行基の開創と傳ふ。諸水年間、木曾義仲、堂宇を建立す。天正十二年、兵火に罹り、僅に本堂一宇を殘せしも、明治二十四年、美濃大震災に倒壞す。後5六十八世政覺、現今の堂宇を再建す。

㊂境内千五百坪、本堂・天滿宮・大日堂・辨天堂・地藏堂・秋葉堂・鐘樓・經堂等あり。本尊十一面觀音立像（木造）一軀は現に國寶に指定せらる。寺寶には大日如來・不動明王等の諸佛像・其他繪畫・古文書等多數を藏す。

㊃舊十一月十六日、秋葉大祭を徹夜修行す。

甚目寺　海部郡甚目寺町。

㊀新義眞言宗智山派。

㊁鳳凰山と號す。推古天皇五年、伊勢の住人甚目龍麿、海中より閻浮檀金の聖觀音を感得して當寺を創建すと傳ふ。天智天皇の朝、勅願寺となり、次で白鳳八年、勅して堂宇を造營せしめ、勅額を給ふ。文德天皇仁壽三年八月重修し、齊衡元年成る。堀河天皇康和五年、僧智能、藤原速長、大江重房等又之を再營す。天治元年二月、震災に堂宇倒壞せしが、大治元年大江爲通、長谷部某等再建す。建久七年、聖觀上人、廣く募緣して諸伽藍を新營す。天正十一年、織田信雄田園三十町を寄せ、文祿四年、豐臣秀吉寺領三百石を納む。元和六年、國主德川義直又同じく寺領三百石を付す。

㊂境内三千餘坪、本堂・釋迦堂・准胝堂・三重塔・樓門・入母屋・柿葺）は一に南大門と稱し、寺傳には建久七年度の再建になり、上層を慶長年間に改修すといふ。樓式手法上凡そ寺傳を認め得べし。現に國寶建造物たり。寺寶中不動尊像（絹本着色）一幅及び佛涅槃圖（絹本着色）一幅は共に現に國寶に指定せらるる。前者は絹本六幅一鋪八尺四方の大幅にして兆殿司筆と傳ふるも、筆法に鎌倉末期の特徴を有せり。左方下部の加入檀那の文字特に注意すべし。

（甚目寺南大門）（國寶）

圓成寺　海部郡永和村大字中一色。

㊀淨土宗。

㊁開創年代不詳なり。慶安年中、品譽上人再興す。關通上人之に嗣ぎ淨業專修、化他度衆の令譽あり。允許を得て關通派の本寺となす。もと西方寺と號せしが元文元年、圓成寺と改稱す。

㊂寺域内に應安五年の古碑あり。

常樂寺（知多本山）　知多郡成岩町。

㊀淨土宗西山派。

㊁天龍山と號す。後土御門天皇の御宇、文明十六年空譽榮覺、之を開創し、知多一郡に初めて西山教義を弘通す。德川家康、桶狹間合戰の御、難を當山に避けしが、家康と當寺の關係は當時の住職八世典空願創と俗緣ありし爲、特に深きものありしといふ。慶長八年寺領五十石を寄す。爾來、德川家の崇仰厚く、尾州藩の保護格別なり。維新前、寺領六十三石七斗餘を有す。大正十三年十月、本堂、書院、玄關、庫裡等失火に歸上せしも、既に第一期工事たる庫裡及び附屬建造物の再建を終へ、第二期本堂再建の工事進捗す。現に西山光明寺派に屬し、郡内末寺二十一箇寺、法類寺院六十有餘、檀信徒一千八百戸を數へ、寺運頗る隆盛にして世人稱して知多本山と言へり。

㊂境内五千坪、庫裡・山門・書院・玄關等あり。山門前には超世院、遣淨院、眞知院、來迎院の四塔頭營を連ぬ。本尊阿彌陀如來立像（木造）一軀は弘長三年七月、法橋圓覺の作に係ると傳へ鎌倉時代遺像の逸品たり。現に國寶に指定せらる。其他寺寶として筆者未詳毘沙門天畫像・法然筆住蓮血流れの名號・家康寄進鞍、鐙等を藏す。

齋年寺（大野不動堂）　知多郡大野町。

㊀曹洞宗。

㊁後柏原天皇の朝、永正十二年三月、宮山城主佐治駿河守宗貞、亡父宗安菩提の爲、城内に一寺を創し、華雲和尚を請じて開山となす。宗貞の法名齋年壽山に因み、後ち寺號を齋年寺と稱し、佐治家歷代の位牌所となれり。天正十二年、宮山城回祿に罹りしかば、同十六年、家臣粟津九眞兵衛、寺基を現地に移して再建す。往時、少林寮、直芳軒、一陽軒、覺翁軒の四塔頭ありしが、然新の際、何れも廢寺となる。慶應三年、諸堂美上、現在は假堂なり。

㊂境内五百八十六坪、本堂・庫裡・鐘樓堂・經藏・山門・總門・開山堂・書院等あり。寺寶中、惠可斷臂圖一幅（紙本淡彩）は雪舟筆の大作にして現に國寶なり。其他、浮牡丹青磁香爐等を藏す。共に佐治上野介の寄進に係ると傳ふ。

㊃例年舊二月二十八日、同八月二十八日の兩日、大野不動尊の大祭會執行す。

慈雲寺　知多郡岡田町。

㊀臨濟宗妙心寺派。

㊁白華山と號す。觀應元年、宮山城主一色範光の開基に係り、夢窓國師を開山となす。明暦三年、寺尾土佐守直龍の外護に因り虎溪元長之を中興す。

㊂觀音堂には範光の持佛と傳ふる千手觀音を安置す寺寶には範光所持釜光の太刀及び正徹和尚筆額等を藏す。

大御堂寺（野間の大坊）　知多郡野間村大字野間。

㊀新義眞言宗豐山派。

㊁鶏林山と號す。白鳳年間の草創と傳へ、後ち行基之を重興して阿彌陀寺と稱せりといふ。大同年間、空海、當寺に留錫し、一千座の大護摩供を修せり。承暦年中、白河天皇、堂宇を再建して勅願寺となし現寺號に改め給ふ。文治二年七月平判官康頼、當寺に詣で、寺緣として水田三千町を寄せ、且つ發念佛の一堂を建立して六人の僧を常住せしむ。建久年間、源頼朝、經塚を築きて自寫の經文を埋め、且つ大いに工を起して堂塔伽藍を建つ。これより先き義朝、平治亂に敗れて當地に逃れ、長田忠致の館に寄りしが、忠致父子の謀るところとなりて其浴室に刺され、當寺に葬らる。因りて頼朝、その墓前に忠致父子を誅戮し、高野一山の僧侶を請じて先考追善の大法會を營めり。初め三論法相兩宗に屬せしが、爾後、現宗となる。建長二年十一月、將軍頼嗣、梵鐘を改鑄す。今の銘鐘即ち之なり。享緣四年十月、兵燹に罹りて伽藍灰燼に歸し、僅に佛像及び大門を殘す。天文年間、住僧四方に勸進して漸く本堂、鐘樓等を再建し得たり。文緣年間、豐臣秀吉、寺緣百九十石を寄せて寺運挽回に資せしも、慶長五年、丸鬼嘉隆の兵火に再び堂塔の過半炎上す。後ち修復次第に成ると雖、未だ昔日の盛觀に及ばざりき。德川家康、遠祖の刷地なりとて崇敬厚く、同十六年四月、本寺に詣で寺領二百五十石並に附近山林數十町の朱印を附し、且つ寺格十萬石諸大名に準ぜしむ。元和年間、德川義直、大いに堂宇を修理し、且つ狩野探幽をして遠祖義朝最後之圖及び頼朝大法會之圖一對を描かしめ、自ら繪解を書して當寺に納む。もと山内六坊ありしが、明治七年、合併して三坊となる。同十九年、内務省より古刹特別保存費金を下賜せられ、昭和二年、大門を改修し、以て現在に至る。

（大御堂寺本堂）

㊃本堂・大門・鐘樓・客殿等を具へ、寺域廣大にして、その内外は舊跡に富む。境内に源義朝廟を初め、鎌田政清夫妻、平康頼、織田信孝等の墓あり。信孝は天正十一年五月、秀吉との合戰に敗れ、當山持蓮坊に於て自盡する所なり。又門前に、忠致が義朝の首級を洗ひしといふ血池、當寺より東南三町の所に頼朝が忠致を誅しその屍を埋めたる跡なりと傳ふる礫松、東十一町に義朝最後の塞所たりし御湯殿舊跡、其他内扇、旗捨場、下馬橋、櫻ケ池等あり。寺寶に平治戰亂繪圖及び傳探幽筆源義朝最後之圖等あり。尙ほ當寺本殿安

置弘法大師像（五十一番札所）・後光切阿彌陀如來・客殿安置開運地藏尊・鎮守義勇大權現等は各種驗顯著なりとて衆庶の信仰厚し。

勝蓮寺　碧海郡矢作町矢作。

㊀眞宗大谷派。

㊁御堂と號す。創建年代不詳なり。初め御堂樂師寺と稱せしが、嘉禎元年二月、親鸞關東より歸洛の途次寺内に留りて道俗を教化す。蓋し當國最初の化導なりと云ふ。後ち改めて眞宗の道場となれり。

㊂境内に戒法石あり。親鸞、この上にて戒法せしと傳ふ。寺寶として親鸞筆六字名號を藏す。

妙源寺（御堂）　碧海郡矢作町桑子。

㊀眞宗高田派。

㊁桑子山と號す。正嘉二年、親鸞の弟子念信房蓮慶の創建に係り、三河國眞宗最初の道場たり。蓮慶はもと安藝薩摩守信平と稱し、碧海郡の領主たり。文暦二年、親鸞關東より歸洛の途、信平、聖人を城内太子堂に請して聽法し、大いに淨心を發して遂に其弟子となる。正嘉二年城地を割きて一字を創し、號して明眼寺といひ、惠心僧都作と傳ふる阿彌陀如來像を安置して本尊とす。これ卽ち所謂黑本尊にして後ち德川家康の念持佛となり、遂には增上寺に奉安せられたり。永祿年中、當國一向一揆に德川家康難を當寺に避く。慶長八年、朱印三十石を附し妙眼寺と改めしむ。後ち又妙源寺と書するに至れり。元和元年、夏に自像を寄す。其他讃代諸侯の歸仰頗る厚かりき。

（妙源寺御堂）（國寶）

㊂境内二千坪、諸堂宇中、太子堂（方三間、單層、屋根四注造、銅板葺）は一に御堂と稱し、國寶建造物なり。寺傳に、往古、安藝氏河内國安部野より當地へ移建て、須彌壇を設く。總じて木割大きく、古調あり。現存棟札には正和三年とあるも樓式手法より室町時代再建と認めらる。因みに御堂と稱するは、往昔、堂前に一株の大なる柳樹ありしによるといふ。藏する所の寺寶數多く無慮數十點に上る。就中、善光寺如來繪傳（絹本着色）三幅・法然上人繪傳（同）・親鸞上人繪傳（同）三幅の三點は共に南北朝初期の作品にして現に國寶に列す。其他選擇相傳眞影・聖德太子木像・親鸞木像・巨勢金岡筆聖德太子繪傳三幅・親鸞筆十重・八重各御影・六字、九字、十字各名號・春日作二尊佛木像・傳行基、惠心、思恭、宅磨各筆阿彌陀如來畫像・織田信長、今川義元各書狀・諸侯寄進狀六十三通等を藏す。例年八月七日、八日寶物虫干を行ふ。

上宮寺　碧海郡矢作町上佐々木。

㊀眞宗大谷派。

㊁太子山聖德皇院と號し、推古天皇二十九年の草創にして聖德太子の御願になると傳ふ。三河三院家の隨一にして、親鸞の門弟蓮行の遺跡なり。蓮行もと安藝右衛門尉祐綱と云ひ、出家して當寺に住す。當時天台宗たり。親鸞關東より歸洛の途次、矢作柳堂にて戒法せしが、祐綱之を聽聞して遂に改宗し、其門弟となりて法名を蓮行と改む。後ち佐々木氏武門を去りて當寺に入る。爾來佐々木上宮寺と稱す。本願寺三世覺如の時より住僧に如字の偏諱を許さる。同八世蓮如の時、住持佐々木如光、京都に在りて蓮如に從ふ。寛正六年山門の大衆大谷坊舍を襲撃せし時、蓮如を援けて功あり、蓮如、暫く如光の館に在りしが、後年近江、伊勢に轉じ、次で當寺に入りて三年間弘教す。永祿六年九月、德川家康の家臣、寨を當地に築きて權食を當寺に徵するや、住持信祐、野寺の本證寺、針崎の勝鬘寺等と謀り、僧俗數千人を集めて家康の軍に抗す。これ所謂三河一揆なり。近世寺領七十石を有せり。

㊂本堂・玄關・書院・庫裡・方丈・茶所・太鼓堂・總樓・鐘樓・山門等を具へ、本尊阿彌陀如來は聖德太子作と傳ふ。寺寶には狩野元信筆太子傳・親鸞筆十字名號一幅・同往還回向文類一卷・同淨土和讃一卷・蓮如奥書法然自畫像一幅・法然筆安心附屬名號一幅・同選擇集延書二卷・三河念佛相承日記等を藏す。

願照寺　碧海郡矢作町軸越。

㊀眞宗本願寺派。

㊁卽鸞の弟子關東六老僧の隨一、桑畑專海房の開創する所なり。もと天台宗にして榮光院と號せしが、親鸞關東より歸洛の際、專海房聖人に歸して改宗すと云ふ。尙寺傳に依れば、專海は俗姓結城氏、七郎朝光の長男靜治郎朝定なり。嘉禎二年、親鸞常陸の弟子眞佛の門に入りしが、眞佛老するに及び、之に代りて給仕す。建長五年三月、聖人の命に由り三河に來りて當寺に住すと。專海の歿後ち照心房之を繼ぎしが、文和年間、本願寺存覺の懇望に由り、寺傳安靜の御影を携へて上洛す。而して後ち幾許もなく之を本山に上納せり。現に本派本願寺に藏するもの卽ち之なり。

㊂寺寶には阿彌陀如來木像一軀・慈覺大師作阿彌陀如來木像一軀・親鸞作聖德太子木像一軀・同筆畫像一幅・同六字名號一幅・蓮如筆親鸞畫像一幅・同六字名號一幅・覺如作親鸞傳繪三幅・七尊佛（銘覺如筆）等を藏す。

稱名寺　碧海郡大濱町。

㊀時宗。

㊁東照山松樹院と號す。もと天台宗に屬せしが、暦應二年、和田前遠江守源親平、大いに伽藍を造營して時宗に改め、聲阿之が開山たり。康暦年中、畠山氏寺領七百石を寄せしが、豐臣秀吉之を沒收す。爾來寺運漸く衰微に向ひしが、天保十三年、德川幕府寺領七十石を寄せ、寶永年中、二十二世禪定、天文年中、二十三世鷗全、何れも堂宇を造營して寺觀を整へたり。文政八年及び弘化元年に朱印增加並に修繕料を受く。萬治三年妙法院門跡、山門の筋築地（俗に筋塀とも云ふ）を寄進す。三十一世說閑、維新の變革に方り、萬難と戰ひて苦心經營、今日の隆盛を致す。

㊂寺域、大濱町字築山にありて千四百五十三坪、本堂・方丈・庫裡・東門・西門・山門・天滿宮社・辨財天宮・松平氏廟墓等あり。寺寶には山越阿彌陀如來畫像一幅・傳惠心作聖觀音像一軀を藏す。

願隨寺　碧海郡旭村大字鷲塚。

㊀眞宗本願寺派。

㊁雨松山と號し、親鸞の弟子信淨の開基に係る。親鸞關東より歸洛の途、信淨を此地に留め弘法せしむ。應仁二年、蓮如當國巡化の時、舊跡の住僧惠性、其弟子となり、一字を建て、鷲塚御坊といひ、本願寺寶如の四男寶圓を請じて住せしむ。其後三河一揆の時、御坊退轉に及び、御坊職暫く他方に移る。天正年中、舊跡を再興して願隨寺と號す。

㊂寺寶には酒番月割之記錄一冊・蓮如自畫像一幅等を藏す。

淨妙寺　碧海郡六ッ美村大字中ノ郷。

㊀眞宗大谷派。

㊁稻荷山と號す。親鸞東國より歸洛の途次、弟子信願供奉して相模に來り、鎌倉に當寺を創す。後ち三河國碧海郡糟海村赤渡に移り、更に今の地に轉ず。

㊂親鸞自畫像一幅・聖德太子畫像一幅・蓮如筆九字六字名號二幅等を藏す。

本證寺　碧海郡櫻井村大字野寺。

㊀眞宗大谷派。

㊁雲龍山と號し、親鸞の弟子慶圓の開基に係る。慶圓は小山判官行重の子にして、初め當國矢作川の沿岸小島の龍宮に居城を構へしが、故ありて出家し、家を淨捨して天台宗の佛寺となす。之れ本寺の濫觴なり。然るに其後、矢作の柳堂にて、關東より歸洛中の親鸞の化に浴し、遂に弟子となりて慶圓と號し、寺を改めて眞宗の道場となす。中古、寺基を現地に移す。永祿年中、住持空譽、佐々木上宮寺に加勢して、三河一向一揆に活躍せしは史上に著聞せり。舊寺領七十二石なりと。

㊂寺寶善光寺如來繪傳（絹本着色）五幅は竪五尺二寸八分、幅三尺一寸八分、聖德太子繪傳（絹本着色）九幅は竪五尺二寸九分、幅三尺一寸二分、太子誕生より薨去、葬送迄を描く。兩者共に其意匠に新味橫溢し、筆法亦巧妙なり。凡そ鎌倉末期の作と推定せられ、現に

國寶に指定せらる。其他、上宮太子木像一軀・同太子傳十一幅・法然上人御影・傳親鸞筆名體不離本尊一幅・蓮如筆六字名號・慶圓自畫像各一幅等を藏す。

赤羽別院（あかばべついん）　幡豆郡一色町赤羽。

㊀眞宗大谷派。

㊁元祿十三年、幕府の旗本本目勝左衛門尉源親宣、同國西尾城主土井利忠に請ひて、當地に一寺を創す。翌十四年九月、本願寺眞如、本目山親宣寺の寺號を與ふ。これ卽ち本院の起原なり。寛政十年正月九日、本山命じて掛所となし、輪番を派して法務を司らしむ。文政初年より本堂再建の業を起し、同七年十一月二日落成す。これ現在の本堂なり。

㊂境内は往古高橋彈正の城址にして、三千八百坪あり。本堂・對面所・車寄・古御殿・新御殿・客殿・輪番所・書部屋・茶所・鐘樓等を具ふ。

金蓮寺（細朝寺）　幡豆郡横須賀村大字饗庭。

㊀曹洞宗。

㊁清鶴山と號し、偖に細朝寺と稱す。草創年代及び沿革不詳なるも、三河七彌陀七堂の隨一にして、創立以來七百餘年を經たりといふ。

㊂阿彌陀堂（方三間、屋根四注造、檜瓦葺）は寺傳に文治二年、源細朝の建立に係ると云ふ。其軸部の柱舟肘木及び丸桁に見る手法、緩漫なる肅の化粧勾配、内部の小組格天井等、何れも鎌倉初期の樣式を示し、寺傳の年代大略肯定し得べく、實に當地方最古の建造物なり。現に國寶建造物に指定せらる。傳運慶作本尊阿彌陀如來像・空海作不動尊立像・大般若經寫經（文治年中書）等を藏す。

專光寺（せんこうじ）　幡豆郡豐坂村大字野場。

㊀眞宗本願寺派。

㊁親鸞の弟子專慧の開基に係る。專慧は初め加藤左衛門唯重と稱し、次で將軍頼家赤誡せらるゝや、其冥福を祈らんが爲、靈地巡拜を企てゝ當國野場の法谷院に到る。偶々親鸞の御堂に於ける化導にあひ、歸して其弟子となり、當寺を創して念佛門を弘む。織田信長、石山本願寺を攻むるや、住持念西聽せ參じて之が防禦に功あり。依りて國知より名號並に袈裟を授けらる。

惠驗寺　幡豆郡福地村大字上道目記。

㊀淨土宗西山派。

㊁冨光山明台院と號す。聖武天皇の朝、僧行基の草創に係ると傳ふ。後ち弘仁二年、七堂伽藍を建立す。當時所領七千七百餘石、寺域東西十五町、南北二十六町にして寺運隆盛を極めしが、其後兵火に罹り、殊に源平の亂には堂宇悉く殘失して、僅に本尊のみ無事なるを得たり。應永年間、高砂十輪寺光樂善芳、偶々當地に來り、堂宇を再興す。爾來、法燈絶ゆることなく西山教法を宣揚せり。

㊂境内五百五十坪、本堂・十王堂・地藏堂・庫裡等を具ふ。尙ほ本尊阿彌陀如來は行基作と傳へ、靈佛として秘佛なり。

㊃古來より十月十四日の十夜會殊に盛なり。

正光寺（しょうこうじ）　幡豆郡三和村大字東淺井。

㊀眞宗大谷派。

㊁蓮如當國行化の際、嘱七加藤源左衛門、上人を請じて化導を蒙り、一子赤弟子となりて法名を了遵と稱し、當地に草庵を結びて專ら念佛を弘通す。これ卽ち當寺の起原なり。蓮如上人御一代聞書に三河國淺井の後室云々と云へるは了遵の母之なり。

㊂蓮如筆對の名號及び蓮如所持の袈裟等を藏す。境内に淺泉あり、蓮如井と稱す。

信光明寺（しんこうみょうじ）（芭蕉天神）　額田郡岩津町岩津。

㊀淨土宗。

㊁岩津山と號す。寶德三年、松平信光の開基に係り、釋聲存閑之が開山たり。寶永三年、紫衣の永宣旨を賜はる。寶曆年間、二十二世一譽、天神の像を刻み、十一面觀音と共に之を別堂に祀る。世に之を芭蕉天神と云ふ。德川氏の世、寺領百二十八石を受け、鴨田の大樹寺、松平の高月院と併せて、三河の三箇寺と稱せらる。明治九年、神佛混淆の禁ぜらるゝや、合體の像を寺内に移し、秘佛となせしが、同十五年、之を本殿に遷して公開す。

㊂境内二千二百五十坪、本堂・觀音堂・開山堂・倉庫・寶藏等あり。就中、觀音堂（方三間、單層、入母屋造、茅葺）は文明十年の建立と傳へ、現に國寶建造物に指定せらる。内外素木造にして、軒二重扇垂榧、斗栱唐樣二手先詰組なり。内部は化粧屋根裏、板違天井にして内陣の斗栱は鎌倉圓覺寺舍利殿に同じ。構造樣式及び細部の手法等大略寺傳と合致す。

㊃舊正月二十五日は菅天神にして、蟹祭へ神事を執行す。

圓福寺（えんぷく）　額田郡岩津町岩津。

㊀淨土宗西山派。

㊁本派四箇本山の一にして、深草流の本寺なり。建長三年、西山上人の弟子圓空立信、山城國紀伊郡深草に深草山眞宗院を創して一流を成す。時に後深草天皇栄邑三百石を賜ひ、且つ佛閣坊舍三門經藏等を建立し給ふ。永仁元年、雷火に遭ひて諸堂類上し、二世道教願意、大和國十市郡に移して再興す。正安四年、再び類上せしかば、三世道意殘空、再興の志を起し、德治元年、京都猪熊綾小路に之を再興す。正和五年、花園天皇、圓福寺の勅號並に勅願所の綸旨を賜はる。文明六年、兵火に類燒し、足利義政、水上永福寺（蟾樂師寺にして圓福寺の兼帶所）の隣地を寄せて再興に資す。天文十四年、勅請に應じて十一世賢習傳空の入寺するや、同十五年、佛殿庫院等成る。天正七年、更に四條坊門に移轉す。慶安二年、三十世徹霸眞清入寺して、堂宇修葺、弊習の改革等を圖り、大いに寺運を振興す。天明八年の大火に罹り、諸堂宇烏有に歸せしも、後ち數世を經て漸次再建成る。然るに元治元年再び類上、明治六年、境内の七分上地となる。六十三世厳空、再建せんとするも寺域狹隘にして成す能はず。明治十六年、遂に末寺妙心寺と名稱の交換をなし現地に移る。

㊂寺寶に圓空作自像・柑紙金泥利劍名號等を藏す。

大樹寺（だいじゅじ）（鳳恭寺）　額田郡岩津町鴨田。

㊀淨土宗。

㊁成道山松安院と號す。後土御門天皇文明七年、松平左京進親忠、勢譽愚底上人の奇瑞に感じて當寺を創建し、上人を請じて開山とす。上人自ら成道山松安院大樹寺と號し、親忠に五重の奥義を結緣相承す。爾來八世寶譽愚珍の代、松平清康、大いに伽藍を修す。寛永十五年より同十八年に亘り德川家光、諸堂宇を再建せしも、安政二年、颱風の災に罹り多寶塔山門、鐘樓、四脚門を除く外悉く烏有に歸す。同三年二月再建の工を起し、同四年九月、落成す。

（大樹寺全景）

㊂本堂・開山堂・庫裡・多寶塔・鐘樓・大方丈・小方丈・廚所・御貸木神・山門・總門等あり。多寶塔（方丈・廚所・御貸木神・山門・總門等あり。多寶塔（方三間、二層、屋根本瓦葺）は天文四年の建立と傳へ、内外素木造、上層圓胴格々細なるも、上重下重の間隔遠

（大樹寺多寶塔（國寶））

當にして、屋頂の相輪との權衡美なり。其他細部の手法等大略寺傳を肯定し得べし。現に國寶建造物に指定せらる。大方丈の襖壁畫は冷泉爲恭の筆に成り、爲恭寺の名こゝに出づ。尙ほ御貸木神は永祿三年五月、德川家康當寺にありて信長の兵に圍まれし時、寺僧祇洞貸木を以て敵兵を打擲ひ、危く死地を脱せしめたり。天下一統の後ち家康同貸木を神と崇めて奉祀せしむと云ふ。寺寶には後奈良天皇勅額・後陽成天皇勅願所綸旨・同常紫衣綸旨・傳惠心僧都筆三尊彌陀畫像・其他の古書・古文書・佛像等寺寶多數あり。毎年八月十六日、十七日、十八日虫十展覽をなす。

法藏寺（ほうぞう）　額田郡本宿村大字本宿。

㊀淨土宗西山派。

㊁大神光二村山國寶院と號す。大寶元年、僧行基、此地に一宇を創し、自刻の聖觀音像を安置す。時に皇后御産の御願あり。勅を拜して行基所願し、程なく太子御誕生あらせらる。因りて出生寺の寺號を賜り、勅願寺となれりと傳ふ。後ち空海、當寺に來りて六角堂を建立す。初め法相宗に屬せしが、貞治元年、敎空龍藝、淨土宗西山派に改め、深草流念佛を弘通す。家康